２０２５年度

植物防疫年報

２０２６年１１月

福島県病害虫防除所

（福島県農業総合センター）

新たに発生が確認された病害虫・雑草

1　スイカ黒点根腐病

（1）学　　名：*Monosporascus cannonballus* Pollack & Uecker
（2）発 生 作 物：スイカ
（3）発生確認時期：2025 年 7 月
（4）発 生 地 域：県北地方
（5）被害の概要等

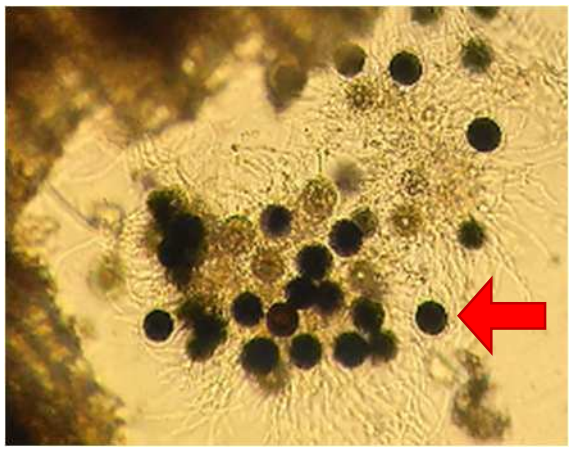
2025 年 7 月、県北地方のスイカ栽培ほ場で、株の萎凋及び枯死症状を確認した（写真 1、2）。福島県農業総合センター生産環境部において、同植物体の根部を観察したところ、根の褐変と表面に多数の小黒点の形成を確認し、子のう胞子が多数確認された（写真 3、4）。スイカの症状や子のう胞子の形態的特徴から、スイカ黒点根腐病であることが判明した。本病は県北地方の複数のスイカほ場で発生が確認されたが、ほ場外に持ち出し適切に処分されている。発生したほ場では、5 割程度減収となっている。

本病原菌は、1979 年に山形県でメロン黒点根腐病として初めて確認され、1992 年に千葉県でスイカ黒点根腐病として初めて確認された。スイカ黒点根腐病については、長野県、神奈川県、新潟県から特殊報が発表されている。


写真 1　スイカ黒点根腐病の発病株


写真 2　地上部の枯死（拡大）


写真 3　スイカ根上に形成された小黒点


写真 4　スイカ黒点根腐病菌の子のう胞子

２　ブドウリーフロール病（ブドウ葉巻病）

（１）学　　名：病原は未確認であるが、*Grapevine leafroll-associated virus* (GLRaV) が関係するとされている。

（２）発 生 作 物：ブドウ

（３）発生確認時期：2025 年 11 月

（４）発 生 地 域：浜通り地方

（５）被害の概要等

2025 年 11 月上旬、浜通り地方のブドウほ場で、葉に紅葉症状が見られ、葉縁が葉裏側に巻いている症状（葉巻症状）が認められた（写真 1）。2025 年 11 月中旬に紅葉・葉巻症状を呈している葉を採取し、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、PCR 法により GLRaV-1、3 が検出されたため、本県未発生のブドウリーフロール病と判断した。

品種による差はあるが、成葉が裏側に巻き、葉柄からほぼ直角に下向きとなる（写真 2）。また、葉の主脈の支脈部分に緑色を残して紅葉する（写真 3）。特に赤色品種、黒色品種では、晩夏から秋にかけて葉巻症状ともに紅葉が目立つ。

果実の被害への影響は顕著な場合と比較的軽度な場合がある。影響が顕著な場合、糖度は無毒樹にくらべて屈折糖度計示度で 3～4 度低く、食味や着色が劣り、成熟も 7～10 日遅れがちとなる。



写真 1　採取したサンプル（2025 年 11 月）
（横浜植物防疫所より提供）



写真 2　葉裏側への葉巻症状（2018 年 9 月）
（愛知県農業総合試験場より提供）



写真 3　葉の紅葉症状（2018 年 9 月）
（愛知県農業総合試験場より提供）

掲載写真の無断転載を禁じます。

目　次

第１　植物防疫事業の推進組織体制
１　病害虫防除所の設置及び活動状況 1
（１）　設置状況 1
（２）　運営状況 2
２　病害虫防除員の設置及び活動状況 3
（１）　設置状況 3
（２）　活動状況 3
（３）　市町村別病害虫防除員委託者数 4
第２　侵入調査事業
１　国内検疫 5
（１）　侵入警戒調査 5
（２）　緊急防除等対象病害虫調査 10
（３）　種苗検疫 11
２　輸出検疫 12
（１）　ベトナム向け輸出なし検疫 12
第３　農作物有害動植物発生予察事業
１　事業実施状況 13
（１）　対象病害虫 13
（２）　病害虫発生予察調査ほ場等の設置 15
２　病害虫発生予察情報等の提供 18
（１）　発生予報の発表状況 18
（２）　防除情報の発表状況 18
（３）　注意報・警報・特殊報の発表状況 19
（４）　病害虫防除所ホームページによる病害虫情報、農薬情報等の発表状況 20
（５）　農薬登録変更情報 22
（６）　ホームページの利用状況 22
３　気象経過及び生育経過の概要 23
（１）　気象経過の概要（福島地方気象台資料に基づき作成） 23
（２）　農作物の生育経過 25
４　主要病害虫の発生経過及び原因解析 28
（１）　普通作物 28
（２）　果樹 46
（３）　野菜・花き 67
５　発生面積及び防除面積 84
６　病害虫診断同定 87
（１）　依頼元及び依頼作物 87
（２）　診断同定の結果 87
７　鳥獣類による農作物の被害状況 88
（１）　鳥類による被害 88
（２）　獣類による被害 89
（３）　鳥獣合計 90
第４　病害虫防除指導の実施状況
１　農薬取締業務及び農薬安全使用指導 91
（１）　農薬中毒事故の発生 91
（２）　農薬危被害防止指導 91
（３）　農薬管理指導士の育成 91
（４）　農薬適正使用アドバイザーの育成 91
（５）　農薬適正・安全使用指導 91
（６）　農薬販売者の届出及び指導 92
（７）　農薬流通量調査 94
（８）　ゴルフ場の農薬安全使用指導 94

２ 農林水産航空事業 95
（１） 無人ヘリコプターによる空中散布 95
（２） 無人マルチローターによる空中散布（殺虫剤の計画のみ） 96
（３） 指導事項の概要 97
第５ 研究成果等
１ 調査研究 98
（１） 斑点米カメムシ類の発生状況の年次間変動の把握 99
（２） 福島県におけるイネカメムシの発生と被害状況の把握 106
（３） モモにおける２種のシロカイガラムシの県内における発生実態調査 108
（４） ウメシロカイガラムシの第１世代の発生予測の精度と年間の発生回数の検証 111
（５） リンゴにおけるナシマルカイガラムシ成虫の発生消長と「カイガラなび（仮称）」
を用いた発生予測 113
（６） トマトキバガの発生状況調査 117
（７） 福島県の夏秋露地きゅうりのウイルス優占種調査 121
（８） 資材消毒の有無によるトマト褐色輪紋病菌の胞子量及び発病の傾向 123
（９） ハスモンヨトウ発生状況の解析 126
２ 成果の公表 129
（１） 研究会等発表 129
（２） 研究会誌等投稿 129

本文中で使用する「地方」「地域」の範囲は、次のとおりです。

中通り北部	福島市、伊達市、伊達郡、二本松市、本宮市、安達郡
中通り南部	郡山市、田村市、田村郡、須賀川市、岩瀬郡、石川郡、白河市、西白河郡、東白川郡
会　　津	会津若松市、喜多方市、耶麻郡、河沼郡、大沼郡、南会津郡
浜　通　り	相馬市、南相馬市、相馬郡、双葉郡、いわき市

第１　植物防疫事業の推進組織体制

１　病害虫防除所の設置及び活動状況

（１）設置状況

所在地　〒963-0531　福島県郡山市日和田町高倉字下中道 116 番地
（福島県農業総合センター安全農業推進部）
電　話　024-958-1707～1709
ＦＡＸ　024-958-1727
e-mail　boujyo@pref.fukushima.lg.jp
yosatsu@pref.fukushima.lg.jp
nougyou.anzen@pref.fukushima.lg.jp
ホームページ　https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/

ア　管轄区域　福島県全域

イ　2024 年耕地面積及び農作物作付（栽培）面積

（2025 年９月「福島県　農業・農村の動向等に関する年次報告」より）

耕地面積（農林水産省「耕地面積及び作付面積統計」）

田	94.800 ha	（令和２年度）
畑	38,900 ha	（　〃　）

作付（栽培）面積

主要普通作物（農林水産省「作物統計」より）

稲	62,700 ha
小麦	551 ha
大豆	1,490 ha
そば	3,980 ha

主要野菜（農林水産省「野菜生産出荷統計」より）

きゅうり	647 ha
トマト	318 ha

主要果樹（農林水産省「果樹生産出荷統計」より）

もも	1,750 ha
日本なし	790 ha
りんご	1,170 ha
ぶどう	301 ha

主要花き（県園芸課調べ）

きく	86 ha
宿根かすみそう	56 ha
りんどう	22 ha
トルコギキョウ	17 ha
鉢物	24 ha

主要工芸作物

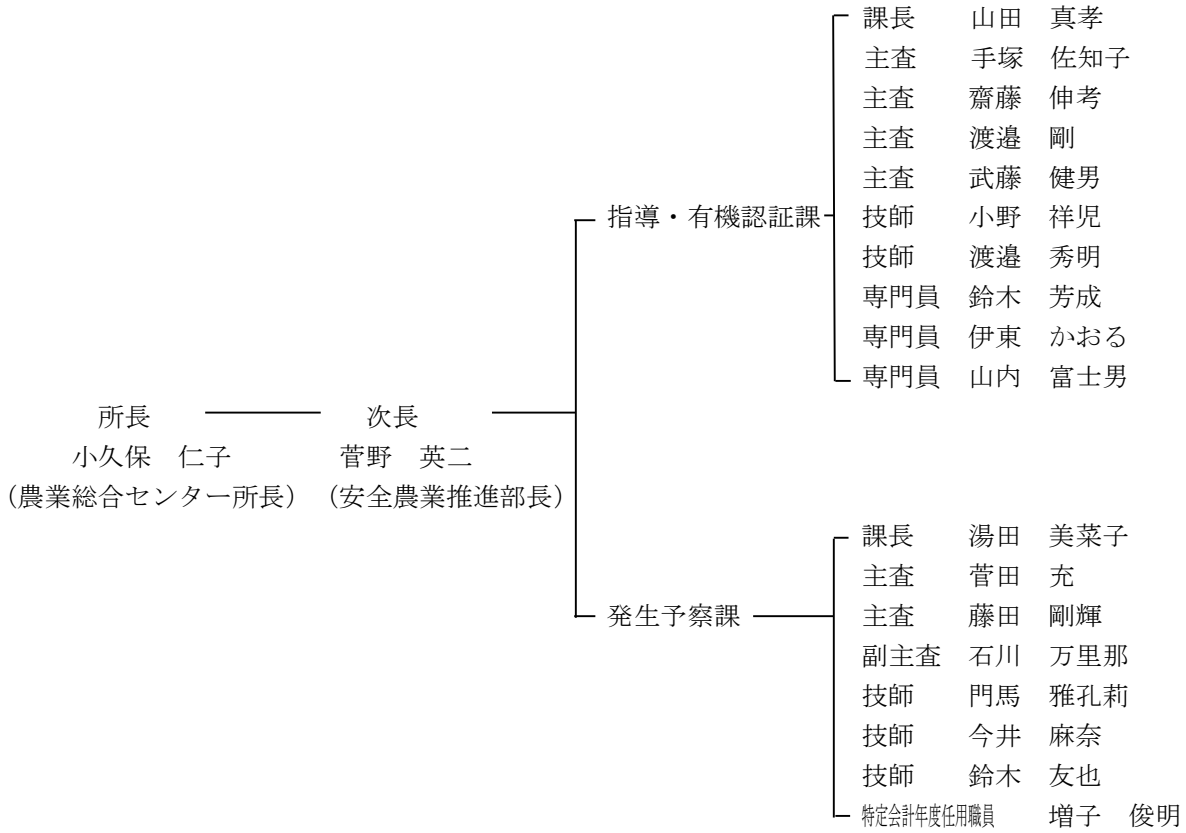
葉たばこ	103 ha
こんにゃくいも	4 ha

ウ　主な設備、備品等の概要

事務室、害虫診断室、病害診断室、農薬分析室
公有自動車（6）、冷蔵庫（5）、クリーンベンチ（1）、予察灯（3）、実体顕微鏡（1）
生物顕微鏡（1）、恒温装置（3）、純水製造装置（1）、高圧蒸気滅菌器（1）、人工気象機（1）

（2）運営状況

ア　組織体制



イ　病害虫防除所の分掌事務

（ア）指導・有機認証課の業務に関すること

a　農薬適正使用の推進及び危被害防止対策に関すること
b　農薬管理指導士及び農薬適正使用アドバイザーに関すること
c　農薬販売者の届出に関すること
d　農薬販売者立入検査に関すること
e　農薬流通量調査に関すること
f　ゴルフ場の農薬使用に関すること
g　航空防除に関すること
h　病害虫防除指針に関すること
i　野生鳥獣による農作物被害調査に関すること
j　肥飼料の届出及び検査業務に関すること
k　有機認証業務に関すること

（イ）発生予察課の業務に関すること

a　病害虫発生予察事業に関すること
b　病害虫発生予察情報及び防除情報、その他病害虫情報（ホームページ等）作成･提供に関すること
c　病害虫発生状況・発生面積報告、発生予察現況報告に関すること
d　病害虫診断同定に関すること
e　病害虫防除員に関すること
f　病害虫検疫業務（国内・輸出）に関すること

2　病害虫防除員の設置及び活動状況

（1）設置状況

植物防疫法（第 33 条第 1 項）及び福島県出先機関設置条例（第 7 条第 2 項）の規定に基づき、発生予察事業その他防除に関する業務遂行のため、市町村の区域ごとに非常勤の病害虫防除員を置く。

ア　設置期間

2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

イ　設置員数

表 1-1　設置員数（職業別）

職業別	員数（名）	交付金対象人員	県費のみ支給	無支給
農業協同組合職員	41	0	0	41
農家	79	79	0	0
計	120	79	0	41

表 1-2　設置員数（地方別）

地方	農業協同組合職員	農家			合計
		A※1	B※2	計	
中通り	24	0	44	44	68
会津	10	1	18	19	29
浜通り	7	0	16	16	23
計	41	1	78	79	120
勤務時間/月	－	38 時間以内	15 時間以内	－	－

※1 農家防除員 A は、水稲の予察灯等調査機器の保守管理又は特殊調査とトラップ等による対象病害虫の発生消長調査を行う。作業の実施期間は 6～9 月の 4 か月間。

※2 農家防除員 B は、トラップ等による対象病害虫の発生消長調査を行う。作業の実施期間は、ホウレンソウは 2 か月間、バレイショは 3 か月間、それ以外は 4 か月間。

（2）活動状況

表 1-3　一人当たりの平均活動状況　（月当たり時間数）

	予察灯保守管理	予察灯調査及び報告	トラップ等調査及び報告	ほ場の発生病害虫達観調査	周辺（担当管内）農業者への聞き取り調査	計
農家Ａ	11	9	6	10	2	38
農家Ｂ	－	－	9	4	2	15
農協職員※	－	－	－	－	(12)	(12)

※農協職員は無報酬

ア　講習会の開催

（ア）病害虫防除員研修会

開 催 日：2026 年 2 月 25 日（水）13:00～15:40

場　　所：福島県農業総合センター多目的ホール

出 席 者：126 名（病害虫防除員、農業者、農業共済組合、農業協同組合、市町村、農林事務所等）

講　　演：ア「近年の斑点米カメムシ類の被害状況と防除対策～再興害虫イネカメムシ対策を含む」

農研機構植物防疫研究部門　作物病害虫防除研究領域

病害虫防除支援技術グループ長補佐　髙篠　賢二　氏

イ「トマト黄化葉巻病の防除対策」

福島県農業総合センター生産環境部　作物保護科長　堀越　紀夫　氏

情 報 提 供：「令和 7 年度福島県で問題となった病害虫について」

情報提供者：病害虫防除所職員

（3）市町村別病害虫防除員委託者数

市町村名	農協防除員数（人）	農業協同組合名	農家防除員数（人）	農家防除員数 内訳（人）			防除員合計（人）
				作物	果樹	野菜花き	
福島市	3	ＪＡふくしま未来	8	1	6	1	11
伊達市	3	ＪＡふくしま未来	5	0	3	2	8
国見町	0	ＪＡふくしま未来	3	1	2	0	3
二本松市	0	ＪＡふくしま未来	7	1	0	6	7
本宮市	2	ＪＡふくしま未来	1	0	0	1	3
大玉村	0	ＪＡふくしま未来	1	1	0	0	1
郡山市	3	ＪＡ福島さくら	3	0	1	2	6
田村市	1	ＪＡ福島さくら	3	1	0	2	4
三春町	1	ＪＡ福島さくら	1	0	0	1	2
小野町	1	ＪＡ福島さくら	0	0	0	0	1
須賀川市	2	ＪＡ夢みなみ	4	0	2	2	6
鏡石町	0	ＪＡ夢みなみ	1	0	1	0	1
石川町	1	ＪＡ夢みなみ	0	0	0	0	1
平田村	1	ＪＡ夢みなみ	0	0	0	0	1
白河市	1	ＪＡ夢みなみ	0	0	0	0	1
白河市(表郷)	0	ＪＡ東西しらかわ	1	1	0	0	1
中島村	1	ＪＡ夢みなみ	2	0	0	2	3
矢吹町	1	ＪＡ夢みなみ	1	0	0	1	2
西郷村	1	ＪＡ夢みなみ	0	0	0	0	1
棚倉町	1	ＪＡ東西しらかわ	2	1	0	1	3
矢祭町	1	ＪＡ東西しらかわ	1	1	0	0	2
会津若松市	1	ＪＡ会津よつば	2	0	0	2	3
磐梯町	0	ＪＡ会津よつば	1	0	0	1	1
猪苗代町	1	ＪＡ会津よつば	2	1	0	1	3
喜多方市	2	ＪＡ会津よつば	4	3	0	1	6
会津坂下町	1	ＪＡ会津よつば	4	2	2	0	5
湯川村	0	ＪＡ会津よつば	1	0	0	1	1
会津美里町	2	ＪＡ会津よつば	4	1	1	2	6
南会津町	3	ＪＡ会津よつば	3	1	0	2	6
相馬市	0	ＪＡふくしま未来	3	1	1	1	3
南相馬市	2	ＪＡふくしま未来	2	1	0	1	4
新地町	0	ＪＡふくしま未来	1	0	0	1	1
広野町	0	ＪＡ福島さくら	1	1	0	0	1
楢葉町	0	ＪＡ福島さくら	1	0	0	1	1
いわき市	5	ＪＡ福島さくら	6	3	1	2	11
合計	41		79	22	20	37	120

※JA 職員は基幹事務所の住所地を市町村名とした。

第１　侵入調査事業

１　国内検疫

（１）侵入警戒調査

ア　イネミイラ穂病等発生状況調査

（ア）目的

イネミイラ穂病等について、目視により侵入状況を調査することで、早期に発見するとともに発生拡大を防止する。

（イ）調査方法

水稲の予察ほ場（伊達郡国見町、東白川郡矢祭町、河沼郡会津坂下町、いわき市瀬戸町）において、国内では未発生のイネミイラ穂等病の発生の有無を 9 月に 1 回調査した。

（ウ）結果

イネミイラ穂病等は、いずれの調査地点においても認められなかった。

イ　火傷病発生状況調査

（ア）目的

ミバエ類や火傷病等の諸外国より侵入の危険性が高い病害虫について、フェロモントラップや目視により侵入状況を調査することで、早期に発見するとともに発生拡大を防止する。

（イ）調査方法

果樹（リンゴ、ナシ）の予察ほ場、定点調査ほ場（調査ほ場）において、国内では未発生の火傷病の有無を 5 月、10 月に調査した。

（ウ）調査結果

火傷病は、いずれの調査地点においても認められなかった。

表 2- 1　調査ほ場設置状況

調査対象 / 調査場所	火傷病	*Xylella fastigiosa*	設置トラップ		
			チチュウカイミバエ	ミカンコミバエ種群 クインスランドミバエ ウリミバエ セグロウリミバエ	コドリンガ
福島市飯坂町平野（予察）	○		○	○	○
福島市飯坂町平野（定点）		○			
福島市飯坂町東湯野		○			
伊達市梁川町		○			
伊達郡国見町					○
郡山市日和田町	○		○	○	○
岩瀬郡鏡石町	○		○	○	○
河沼郡会津坂下町束松					○
河沼郡会津坂下町塔寺					○
相馬市磯部	○		○	○	○
いわき市小川町西小川	○	○	○	○	○
調査ほ場数	5	4	5	5	8

ウ　チチュウカイミバエ発生状況調査

（ア）目的

イ（ア）に同じ。

（イ）調査方法

誘引剤（トリメドルア剤）をスタイナー型トラップ（設置ほ場は表 2-1）に入れ、4～10 月まで月 1 回誘殺数を調査した。

（ウ）調査結果

チチュウカイミバエは、いずれの調査地点においても誘殺されなかった。

エ　コドリンガ発生状況調査

（ア）目的

イ（ア）に同じ。

（イ）調査方法

誘引剤（コドレルア剤）をジャクソン型トラップ（設置ほ場は表 2-1）に入れ、4～10 月まで月 1 回誘殺数を調査した。

（ウ）調査結果

コドリンガは、いずれの調査地点においても誘殺されなかった。

オ　ミカンコミバエ種群発生状況調査

（ア）目的

イ（ア）に同じ。

（イ）調査方法

誘引剤（メチルオイゲノール及びキュウルア混合剤）をスタイナー型トラップ（設置ほ場は表 2-1）に入れ、4～10 月まで月 1 回誘殺数を調査した。

（ウ）調査結果

ミカンコミバエ種群は、いずれの調査地点においても誘殺されなかった。

カ　クインスランドミバエ発生状況調査

（ア）目的

イ（ア）に同じ。

（イ）調査方法

誘引剤（メチルオイゲノール及びキュウルア混合剤）をスタイナー型トラップ（設置ほ場は表 2-1）に入れ、4～10 月まで月 1 回誘殺数を調査した。

（ウ）調査結果

クインスランドミバエは、いずれの調査地点においても誘殺されなかった。

キ　ウリミバエ発生状況調査

（ア）目的

イ（ア）に同じ。

（イ）調査方法

誘引剤（メチルオイゲノール及びキュウルア混合剤）をスタイナー型トラップ（設置ほ場は表 2-1）に入れ、4～10 月まで月 1 回誘殺数を調査した。

（ウ）調査結果

ウリミバエは、いずれの調査地点においても誘殺されなかった。

ク　セグロウリミバエ発生状況調査

（ア）目的

主にウリ科、ナス科植物の果実に甚大な被害を与えるセグロウリミバエは、令和6年に国内で初めて寄生果実が確認された。本県は夏秋キュウリの産地となっており、誘殺数等を調査し、発生拡大や被害を未然に防ぐことが重要である。

（イ）調査方法

誘引剤（メチルオイゲノール及びキュウルア混合剤）をスタイナー型トラップ（設置ほ場は表2-1）に入れ、4～10月まで月1回誘殺数を調査した。

（ウ）調査結果

セグロウリミバエの誘殺は確認されなかった。

ケ　ウメ輪紋ウイルス（*Plum pox virus*, PPV）の発生状況調査

（ア）目的

東京都のウメにおいて国内初確認されたPPVによる病害(2009年4月8日、東京都病害虫防除所発表）について、本県で生産されている核果類での発生の有無を調査することで、早期発見するとともに発生拡大を防止する。

（イ）調査方法

調査地点は県内4か所とし、苗生産園（母樹園）2か所（福島市、伊達市）と本病が国内ではほぼウメでのみの発生であることから、ウメ生産地のある県中農林事務所農業振興普及部及び会津農林事務所会津坂下農業普及所管内にそれぞれ1か所を設定した。

苗生産園（母樹園）の調査は、ほ場で目視による病徴確認を行った後、病徴の有無によらず1か所当たり5樹を選定し、1樹から成葉5枚以上を採取し、横浜植物防疫所に検体を送付し、検定を依頼した。

生産園地の調査は、苗生産園（母樹園）と同様に目視調査及び試料採取後、イムノクロマト法によるウイルス検定を行った。

調査は、苗木生産業者、県中農林事務所農業振興普及部及び会津農林事務所会津坂下農業普及所の協力を得て行った。

（ウ）調査結果

目視調査では、いずれの調査地点でも疑似症状は認められなかった（表2-2）。ウイルス検定の結果、すべての検体が陰性であり、本県でウメ輪紋ウイルスの発生は確認されなかった。

表2-2　ウメ輪紋ウイルスの発生状況調査結果

調査地点	調査ほ場面積（a）	植栽樹数	目視調査樹数	疑似症状確認樹数	試料採取樹数	検定結果（陽性樹数）
苗生産園（福島市）	50	141	141	0	5	0
苗生産園（伊達市）	100	317	317	0	5	0
ウメ生産園（郡山市）	20	70	70	0	5	0
ウメ生産園（会津美里町）	10	14	14	0	5	0
計	180	542	542	0	20	0

コ　*Xylella fastigiosa* 発生状況調査

（ア）目的

イ（ア）に同じ。

（イ）調査方法

果樹（ブドウ、ナシ）の定点調査ほ場（調査ほ場は表 1）において、国内では未発生の *Xylella fastigiosa* による症状の有無を 7 月に調査した。

（ウ）調査結果

Xylella fastigiosa による症状は、いずれの調査地点においても認められなかった。

サ　トマトキバガ発生状況調査

（ア）目的

主にトマト、ミニトマトを加害する外来害虫のトマトキバガは、2021 年 10 月に国内で初めて発生が確認された。本県は夏秋トマトの産地となっており、誘殺数等を調査し、発生拡大や被害を未然に防ぐことが重要である。

（イ）調査方法

県内トマトほ場 2 地点において、2025 年 5 月からフェロモントラップを設置し、5 日おきに調査を行った。

（ウ）調査結果

フェロモントラップによる誘殺数は、下記のとおり（表 2- 3）。5 月下旬頃から、県内各所で誘殺が確認され、9 月から 10 月にかけて誘殺数はピークを迎えた。ほ場での被害は、春先から浜通り地方の周年栽培で確認され、5 月下旬以降、会津地方および中通り地方の複数地点でも確認された。

表 2- 3　トマトキバガフェロモントラップ誘殺数

調査地点	誘殺数（頭）																		計
	5月			6月			7月			8月			9月			10月			
	1～10日	11～20日	21～31日	1～10日	11～20日	21～30日	1～10日	11～20日	21～31日	1～10日	11～20日	21～31日	1～10日	11～20日	21～30日	1～10日	11～20日	21～31日	
猪苗代町川桁	0	0	0	1	0	3	0	6	0	2	10	21	42	113	114	181	155	0	648
南会津町水根沢	0	0	1	1	1	0	7	3	7	23	45	34	180	522	320	232	312	118	1806

※　南会津町水根沢での 10 月 16～20 日のデータは欠測

シ　トマト関連センチュウ類発生状況調査

（ア）目的

トマトにおいては、侵入警戒有害動植物であるバナナネモグリセンチュウ、コロンビアネコブセンチュウ、カンキツネモグリセンチュウの 3 種について、発生拡大を未然に防ぐため、発生状況について調査を実施する。

（イ）調査方法

定点調査 3 地点（田村市、中島村、南会津町）において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回による目視調査および農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。

（ウ）調査結果

バナナネモグリセンチュウ、コロンビアネコブセンチュウ、カンキツネモグリセンチュウの 3 種による被害は確認されなかった。

ス　トマト関連ウイロイド類発生状況調査

（ア）目的

トマトにおいては、ウイロイド類の侵入警戒有害動植物である CLVd、PCFVd、 TCDVd、TASVd、PSTVd の 5 種について、発生拡大を未然に防ぐため、発生状況について調査を実施する。

（イ）調査方法

定点調査 3 地点（田村市、中島村、南会津町）において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回による目視調査および農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。

（ウ）調査結果

CLVd、PCFVd、 TCDVd、TASVd、PSTVd の 5 種による被害は確認されなかった。

セ　トマト関連ウイルス類発生状況調査

（ア）目的

トマトにおいては、ウイルス類の侵入警戒有害動植物である PepMV、ToBRFV、ToMMV、ToLCNDV の 4 種について、発生拡大を未然に防ぐため、発生状況について調査を実施する。

（イ）調査方法

定点調査 3 地点（田村市、中島村、南会津町）において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回による目視調査および農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。

（ウ）調査結果

PepMV、ToBRFV、ToMMV、ToLCNDV の 4 種による被害は確認されなかった。

ソ　スイカ果実汚斑細菌病の発生状況調査

（ア）目的

国は、本病害を国内にまん延すると有用な植物に重大な損害を与えるおそれがある病害虫（以下「重要病害虫」）と指定しており、本県未発生病害虫の侵入を警戒する必要がある。また、当該病害虫が発生した場合、迅速に初動防除等を開始し、早期に根絶することが重要である。そこで重要病害虫であるスイカ果実汚斑細菌病の県内の発生の有無を調査する。

（イ）調査方法

県内夏秋露地キュウリほ場 5 か所（会津坂下町、伊達市、二本松市、須賀川市）を選定し、2025 年 6～9 月に月 1 回調査した。1 ほ場あたり任意の 100 果について、発病の有無を確認した。

（ウ）調査結果

スイカ果実汚斑細菌病の発生は確認されなかった。

タ　ジャガイモがんしゅ病発生状況調査

（ア）目的

ジャガイモにおいて、侵入警戒有害動植物であるジャガイモがんしゅ病の発生拡大を未然に防ぐため、発生状況について調査を実施する。

（イ）調査方法

定点調査 2 地点（いずれも二本松市）において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員による貯蔵調査を実施した。

（ウ）調査結果

ジャガイモがんしゅ病の発生は確認されなかった。

チ　*Thecaphora solani* 発生状況調査

（ア）目的

ジャガイモにおいて、侵入警戒有害動植物である *Thecaphora solani*（病害）の発生拡大を未然に防ぐため、発生状況について調査を実施する。

（イ）調査方法

定点調査 2 地点（いずれも二本松市）において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員による貯蔵調査を実施した。

（ウ）調査結果

Thecaphora solani（病害）の発生は確認されなかった。

ツ　コロラドハムシ発生状況調査

（ア）目的

ジャガイモにおいて、侵入警戒有害動植物であるコロラドハムシの発生拡大を未然に防ぐため、発生状況について調査を実施する。

（イ）調査方法

定点調査 2 地点（いずれも二本松市）において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。

（ウ）調査結果

コロラドハムシの発生は確認されなかった。

テ　ジャガイモシストセンチュウ

（ア）目的

ジャガイモにおいて、侵入警戒有害動植物であるジャガイモシストセンチュウの発生拡大を未然に防ぐため、発生状況について調査を実施する。

（イ）調査方法

定点調査 2 地点（いずれも二本松市）において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。

（ウ）調査結果

ジャガイモシストセンチュウの発生は確認されなかった。

（２）緊急防除等対象病害虫調査

ア　クビアカツヤカミキリの発生状況調査

（ア）目的

2012 年に愛知県のサクラでのクビアカツヤカミキリの国内初発生（平成 25 年 6 月 18 日、愛知県発表）を皮切りに、現在まで複数の都府県でサクラ及び核果類果樹（モモ、スモモ、ウメ）において被害が確認されている。近隣の県でも発生を確認していることから、本県においても本種の侵入を警戒するため、調査を実施する。

（イ）調査方法

調査地点は、県境に近い県内 4 地点（三崎公園（いわき市小名浜）、勿来の関公園（いわき市関田）、台上道路（西郷村台上）、南湖公園（白河市））とた。調査時期は、成虫又はフラスの確認できる夏季とした。

1 地点当たりサクラ 100 樹程度について、フラス及び成虫の有無を確認した。幹元から樹高 120cm 程度を目視で樹当たり 20 秒程度確認した。

一部の樹体にフラスが確認されたが、クビアカツヤカミキリによるものではなかった。また、本種をはじめカミキリムシ類の寄生は、確認されなかった。

イ　ジャガイモシロシストセンチュウ発生状況調査

（ア）目的

ジャガイモにおいて、侵入警戒有害動植物であるジャガイモシロシストセンチュウの発生拡大を未然に防ぐため、発生状況について調査を実施する。

（イ）調査方法

定点調査 2 地点（いずれも二本松市）において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。

（ウ）調査結果

ジャガイモシロシストセンチュウの発生は確認されなかった。

ウ　テンサイシストセンチュウ発生状況調査

（ア）目的

ホウレンソウにおいて、侵入警戒有害動植物であるテンサイシストセンチュウの発生拡大を未然に防ぐため、発生状況について調査を実施する。

（イ）調査方法

定点調査 3 地点（磐梯町、下郷町、相馬市）において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回調査および農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。

（ウ）調査結果

テンサイシストセンチュウの発生は確認されなかった。

（3）種苗検疫

ア　キウイフルーツかいよう病の Psa3 系統の苗木等検査

（ア）目的

キウイフルーツかいよう病の Psa3 系統のまん延防止のため、「キウイフルーツ苗木等検査実施要領（以下、「要領」という。）」（平成 30 年 4 月 25 日付け 30 消安第 228 号消費・安全局長通知）に基づき、清浄なキウイフルーツ苗木等（キウイフルーツ、さるなし、しまさるなし及びみやままたたびの苗木、母樹及び花粉）のみが流通するよう、検査を推進する。

（イ）調査方法

要領により、国内での販売を目的として栽培されているキウイフルーツ苗木等（以下、「検査対象苗木等」という。）の生産園地は農林水産省植物防疫所による全園地検査が必須となっている。検査対象苗木等の生産園地の把握や農林水産省横浜植物防疫所による現地での目視検査の補助を行った。

（ウ）調査結果

疑似症状は確認されなかった。

イ　種馬鈴しょ検査

（ア）目的

種馬鈴しょによる有害動植物のまん延を防止するため、種馬鈴しょの生産ほ場検査及び生産物検査を実施する。

（イ）検査方法

県内の生産ほ場において横浜植物防疫所の植物防疫官が検査を実施した。病害虫防除所は植物防疫官の事務を補助する植物防疫員に任じられており、検査の際に立ち会い、検査の補助を行った。

（ウ）対応結果

2025 年度は計 2 回の検査補助を行った(表 2- 4)。

表 2- 4　検査に立ち会ったほ場と検査月日

月　日	市町村	検査区分　等
6月4日	南相馬市北長野	春作第2期ほ場検査
11月21日	南相馬市鹿島区	春作生産物検査

2　輸出検疫

（1）ベトナム向け輸出なし検疫

ア　目的

本県より輸出されるベトナム向けなし生果実について、「植物防疫法」及び「二国間協議に係る生果実輸出検査実施要領」に基づき輸出検疫を行い、海外への病害虫の侵出を防止する。

イ　業務実績

病害虫防除所職員（4 名）が農林水産省横浜植物防疫所長より栽培地検査補助員を委嘱され、いわき農林事務所の栽培地検査補助員とともに、ベトナム向けなし生果実生産園地（いわき市）の春期及び収穫前の栽培地検査（補助員検査）を実施した。栽培地検査補助員に任命された病害虫防除所職員の業務従事は、延べ 3 日間、４名の従事であった。

表 2- 5　検査対象なし園

地域	品種	園地数	栽植本数
いわき市	豊水	8	60
	新高	6	65
	王秋	2	3

第３　農作物有害動植物発生予察事業

１　事業実施状況

（１）対象病害虫

作物名	有害動植物		侵入調査事業
	指定病害虫	県単病害虫	侵入警戒病害虫
水　稲	いもち病、稲こうじ病、ごま葉枯病、縞葉枯病、白葉枯病、苗立枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、紋枯病 イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ、スクミリンゴガイ	苗立枯細菌病、黄化萎縮病、コバネイナゴ、イチモンジセセリ（イネツトムシ）	イネミイラ穂病菌等その他国内未発生のイネの病害虫
ム　ギ	赤かび病、うどんこ病、さび病類	雪腐病類、黒穂病類	
ダイズ	紫斑病、 アブラムシ類、吸実性カメムシ類、フタスジヒメハムシ、マメシンクイガ	立枯性病害、べと病 ウコンノメイガ、ツメクサガ、サヤムシガ類、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ	
3 作物	28 種・類	13 種・類	1 種・類
リンゴ	斑点落葉病、黒星病、 ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類	うどんこ病、腐らん病、輪紋病、褐斑病、炭疽病、すす点病、すす斑病、キンモンホソガ、アブラムシ類、ギンモンハモグリガ、ヒメボクトウ	火傷病（リンゴ属、ナシ属） チチュウカイミバエ、コドリンガ（リンゴ属、ナシ属） ミカンコミバエ種群、 クインスランドミバエ、 ウリミバエ
ナ　シ	黒星病、赤星病、 ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、アブラムシ類、カイガラムシ類	輪紋病、 ヒメボクトウ、ニセナシサビダニ	
モ　モ	せん孔細菌病、 ハダニ類、シンクイムシ類	灰星病、ホモプシス腐敗病、ハマキムシ類、コスカシバ、モモハモグリガ、カイガラムシ類、アブラムシ類	ウメ輪紋ウイルス（PPV）（ウメ、モモ）、セグロウリミバエ
カ　キ	炭疽病、アザミウマ類、カイガラムシ類、ハマキムシ類、カキノヘタムシガ	円星落葉病	
ブドウ	晩腐病、灰色かび病、べと病、アザミウマ類	黒とう病	*Xylella fastidiosa*（ブドウ、ナシ）
バラ科植物	クビアカツヤカミキリ		
6 作物	25 種・類	23 種・類	9 種・類

作物名	有害動植物		侵入調査事業
	指定病害虫	県単病害虫	侵入警戒病害虫
トマト	疫病、うどんこ病、すすかび病、灰色かび病、葉かび病、黄化葉巻病、 アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類	青枯病、かいよう病、萎凋病、半身萎凋病、ウイルス病、ハモグリバエ類	トマトキバガ、*Meloidogyne enterolobii*、CLVd、PCFVd、TCDVd、TASVd、PepMV、ToBRFV、ToMMV、ToLCNDV、バナナネモグリセンチュウ、コロンビアネコブセンチュウ、PSTVd、カンキツネモグリセンチュウ
キュウリ	べと病、うどんこ病、褐斑病、炭疽病、灰色かび病、斑点細菌病、 アブラムシ類、アザミウマ類(ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)、コナジラミ類、ハダニ類	モザイク病、黒星病、つる枯病、ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)	スイカ果実汚斑細菌病、セグロウリミバエ
イチゴ	灰色かび病、うどんこ病、炭疽病、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類	萎黄病、萎凋病	
アスパラガス	アザミウマ類	茎枯病、斑点病、褐斑病、ハダニ類	
ダイコン	アブラムシ類	モザイク病、菌核病	
ナス	うどんこ病、すすかび病、灰色かび病、アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類	半身萎凋病、ホコリダニ類	
ナス科植物	【ナスミバエ】		
ネギ	黒斑病、さび病、べと病、アザミウマ類、アブラムシ類、ネギコガ、ネギハモグリバエ	葉枯病、黒腐菌核病、斑点性病害	
ピーマン	うどんこ病 アブラムシ類	モザイク病、炭疽病、疫病、斑点病	
カンショ	【基腐病】、ナカジロシタバ	つる割病、紫紋羽病	
バレイショ	疫病、 アブラムシ類、 【ジャガイモシストセンチュウ】	ニジュウヤホシテントウ類	ジャガイモがんしゅ病菌、*Thecaphora solani*、コロラドハムシ、ジャガイモシストセンチュウ、ジャガイモシロシストセンチュウ
ホウレンソウ	アブラムシ類	べと病、株腐病、萎凋病、ホウレンソウケナガコナダニ	テンサイシストセンチュウ

作物名	有害動植物		侵入調査事業
	指定病害虫	県単病害虫	侵入警戒病害虫
キク	白さび病、アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類	べと病、褐斑病、黒斑病、ハモグリバエ類	
リンドウ（県単）		葉枯病、褐斑病、花腐菌核病、黒斑病、アザミウマ類、ハダニ類、リンドウホソハマキ	
14作物	52種・類	45種・類	22種・類
作物共通	ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ヨトウガ、果樹カメムシ類、コナガ、シロイチモジヨトウ		
23作物	111種・類	81種・類	32種・類

※指定病害虫：植物防疫法第22条に基づき、農林水産大臣が指定する病害虫
※県単病害虫：指定病害虫以外で、県が独自に選定した病害虫
※侵入警戒病害虫：植物防疫法侵入調査事業で指定された病害虫
※下線の病害虫は、フェロモントラップ調査のみ実施する。
※【　】は、発生予察調査の対象外であるが、本県における侵入及びまん延を警戒する病害虫

（2）病害虫発生予察調査ほ場等の設置

ア　普通作物

（ア） 予察ほ場

表3-1　予察ほ場数（普通作物）

地　方	水稲	予察灯	備　　考
中通り	1	-	農業総合センター本部
会　津	1	1	会津地域研究所
浜通り	1	-	浜地域研究所
計	3	1	

（イ）定点調査地点

表3-2　発生状況調査地点（普通作物）

作物名	地　方	調査地点
水　稲	中通り	国見町新泉田、福島市大波、大玉村大山、二本松市太田、田村市都路町、石川町塩沢、棚倉町玉野、矢祭町中石井
	会　津	猪苗代町若宮、喜多方市塩川町、会津坂下町八日沢、会津美里町勝原、南会津町関本
	浜通り	相馬市今田、南相馬市鹿島区、楢葉町上繁岡、広野町折木、いわき市平下大越、いわき市瀬戸町
ダイズ	中通り	白河市表郷
	会　津	喜多方市慶徳町
	浜通り	いわき市三和町

表 3- 3　フェロモントラップ等調査地点数（普通作物）

地　方	ｱｶｽｼﾞｶｽﾐｶﾒ	ｱｶﾋｹﾞﾎｿﾐﾄﾞﾘｶｽﾐｶﾒ	ｸﾓﾍﾘｶﾒﾑｼ	ﾎｿﾍﾘｶﾒﾑｼ	計
中通り	2	1	4	1	8
会　津	2	―	1	1	4
浜通り	1	―	2	2	5
計	5	1	7	4	17

（ウ） 巡回調査地点

表 3- 4　巡回調査地点数（普通作物）

地　方	水稲	ム　ギ	ダイズ	計
中通り	15(113)	3(12)	3(12)	21(137)
会　津	10(73)	3(12)	3(12)	16(97)
浜通り	9(65)	3(12)	3(12)	15(89)
計	34(251)	9(36)	9(36)	52(323)

※（）内は調査ほ場数

イ　果樹

（ア） 予察ほ場

表 3- 5　予察ほ場数（果樹）

地　方	リンゴ	モ　モ	ナ　シ	
中通り	1	1	1	果樹研究所

（イ） 定点調査地点数

表 3- 6　発生状況調査地点（果樹）

作物名	地　方	調査地点
リンゴ	中通り	福島市飯坂町湯野、国見町大木戸、伊達市箱崎、須賀川市浜尾、鏡石町蒲之沢町
	会　津	会津美里町勝原、会津坂下町東松　、会津坂下町塔寺
モ　モ	中通り	福島市上鳥渡、国見町高城、伊達市箱崎、福島市下飯坂町
ナ　シ	中通り	福島市大笹生、郡山市熱海町安子島、須賀川市越久
	浜通り	いわき市小川町西小川、相馬市磯部
ブドウ	中通り	福島市飯坂町平野、福島市飯坂町東湯野、伊達市梁川町大関

表 3- 7　フェロモントラップ等調査地点数(果樹)

地　方	ｽﾓﾓﾋﾒｼﾝｸｲ	ﾓﾓﾉｺﾞﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ	ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ	ﾅｼﾋﾒｼﾝｸｲ	ﾓﾓｼﾝｸｲｶﾞ	ﾘﾝｺﾞﾓﾝﾊﾏｷ	ﾘﾝｺﾞｺｶｸﾓﾝﾊﾏｷ
中通り	1	1	1	2	―	1	1
会　津	1	―		―	1	―	―
浜通り	―	―		1	―	―	―
計	2	1	1	3	1	1	1

地　方	ﾅｼﾏﾙﾏｲｶﾞﾗﾑｼ	ﾁｬﾊﾞﾈｱｵｶﾒﾑｼ	ｸｻｷﾞｶﾒﾑｼ※	計
中通り	3	5	3	18
会　津	―	1	1	4
浜通り	―	2	1	4
計	3	8	5	26

（ウ）巡回調査地点

表 3- 8　巡回調査地点数（果樹）

地　方	リンゴ	ナシ	モモ	ブドウ	カキ	計
中通り	13(19)	8(17)	12(19)	3(3)	―	36(58)
会　津	6(8)	―	―		4(6)	10(14)
浜通り	―	4(8)	―		―	4(8)
計	19(27)	12(25)	12(19)	3(3)	4(6)	50(80)

※（）内は調査ほ場数

ウ　野菜・花き

（ア） 定点調査地点

表 3- 9　発生状況調査地点（野菜・花き）

作物名	地　方	調査地点
イチゴ	中通り	伊達市保原町京門、棚倉町堤
	会　津	会津若松市北会津町真宮
	浜通り	相馬市南飯渕、いわき市平菅波
夏秋キュウリ	中通り	二本松市新田、須賀川市大栗、中島村滑津、郡山市田村町守山
	会　津	会津美里町旭杉原
トマト	中通り	中島村二子塚、田村市大越町栗出
	会　津	喜多方市熱塩加納町加納、猪苗代町川桁、南会津町水根沢
ネ　ギ	中通り	矢吹町三城目
	会　津	いわき市平下神谷
ナ　ス	中通り	二本松市下長折、二本松市木幡
ダイコン	中通り	郡山市湖南町赤津
	会　津	北会津町蟹川
ピーマン	中通り	三春町貝山、二本松市吉倉
バレイショ	中通り	二本松市板目沢、二本松市伊佐沼町
ホウレンソウ	会　津	磐梯町更科法正尻、下郷町音金沖ノ原
	浜通り	相馬市南飯渕
カンショ	中通り	田村市船引町堀越
	浜通り	楢葉町大谷
アスパラガス	中通り	本宮市仁井田
	会　津	南会津町長野
	浜通り	南相馬市小高
キ　ク	中通り	伊達市保原町富沢、福島市小田
	会　津	会津美里町穂馬
	浜通り	新地町杉目

表 3- 10　フェロモントラップ調査地点数（野菜・花き）

地　方	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ	ｱﾒﾘｶｼﾛﾋﾄﾘ	コナガ	シロイチモジヨトウ	ヨトウガ	計
中通り	4	2	1	1	1	1	10
会　津	1	3	―	-	-	1	5
浜通り	2	1	―	-	1	1	5
計	7	6	1	1	2	3	20

（イ） 巡回調査地点

表 3- 11　巡回調査地点数（野菜・花き）

地　方	夏秋キュウリ	トマト	イチゴ	アスパラガス	ナ ス	ネ ギ
中通り	9(9)	6(6)	14(14)	-	4(4)	-
会　津	2(2)	5(5)	—	5(5)	-	-
浜通り	—	—	6(6)	-	-	4(4)
計	11(11)	11(11)	20(20)	5(5)	4(4)	4(4)

地　方	ピーマン	キク	リンドウ	計
中通り	4(4)	6(3)	3(3)	46(46)
会　津	-	3(3)	3(3)	18(18)
浜通り	-	2(2)	1(1)	13(13)
計	4(4)	11(11)	7(7)	77(77)

2　病害虫発生予察情報等の提供

（1）発生予報の発表状況

発表月日	対象作物
4 月 8 日	イチゴ
4 月 30 日	水稲、麦類、リンゴ、モモ、ナシ、イチゴ
5 月 28 日	水稲、麦類、リンゴ、モモ、ナシ、果樹共通、トマト、キク、リンドウ
6 月 30 日	水稲、リンゴ、モモ、ナシ、果樹共通、トマト、キュウリ、キク、リンドウ、野菜・花き共通
7 月 17 日	水稲（いもち病等）
7 月 30 日	リンゴ、モモ、ナシ、果樹共通、トマト、キュウリ、キク、リンドウ、野菜・花き共通
8 月 6 日	水稲（斑点米カメムシ類等）
8 月 29 日	大豆、リンゴ、モモ、ナシ、果樹共通、トマト、キュウリ、キク、リンドウ、野菜・花き共通
9 月 12 日	リンゴ、モモ、ナシ
9 月 24 日	トマト、野菜・花き共通
10 月 15 日	イチゴ、野菜・花き共通
11 月 11 日	イチゴ、野菜・花き共通
12 月 9 日	イチゴ、野菜・花き共通
1 月 14 日	イチゴ
2 月 13 日	イチゴ
3 月 6 日	リンゴ、モモ、ナシ
3 月 12 日	水稲、イチゴ

※発生予報：調査結果等に基づき病害虫の発生予報を定期的に発表する。

（2）防除情報の発表状況

発表月日	対象作物及び内容
4 月 30 日	モモ：せん孔細菌病
5 月 16 日	トマト：トマトキバガ、アブラナ科作物：コナガ
5 月 21 日	モモ：モモハモグリガ
5 月 23 日	果樹類：果樹カメムシ類
6 月 13 日	果樹類：果樹カメムシ類
6 月 25 日	トマト：トマトキバガ
6 月 30 日	リンゴ：リンゴ褐斑病、野菜花き類：オオタバコガ
7 月 10 日	果樹類：ハダニ類
7 月 22 日	トルコギキョウ：トルコギキョウ葉巻病
8 月 1 日	果樹類：ハダニ類
8 月 6 日	野菜類・花き類：ハダニ類
10 月 8 日	トマト：トマトキバガ
11 月 7 日	サツマイモ：サツマイモ基腐病
3 月 12 日	トマト：トマトキバガ

※防除情報：注意報を発表するほどではないが、調査対象病害虫の発生が多い場合、

防除措置等の対応が必要な場合に発表する。

（3）注意報・警報・特殊報の発表状況

種　類	発表月日	対象作物及び内容
注意報	7月10日	果樹類：果樹カメムシ類
	7月16日	水稲：斑点米カメムシ類
	8月28日	野菜類・花き類：ハスモンヨトウ
警　報	－	－
特殊報	8月28日	スイカ：スイカ黒点根腐病
	1月29日	ブドウ：ブドウリーフロール病

※注 意 報：警報を発表するほどではないが、重要な病害虫の多発生が予測され、かつ早急に防除措置を講じる必要が認められる場合に発表する。

※警　　報：重要な病害虫の大発生が予測され、かつ早急に防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表する。

※特 殊 報：新奇な病害虫を発見した場合、又は、重要な病害虫の生態及び発生消長に特異な現象が認められた場合に発表する。

（4） 病害虫防除所ホームページによる病害虫情報、農薬情報等の発表状況

（期間：2025年4月1日～2026年3月31日）

ア 病害虫発生状況

作物名	品目名	内容
普通作物	水稲	育苗期～5月、6月、7月、8月、9月、通年、玄米被害調査結果
	麦類	6月
	ダイズ	8月、9月、莢及び子実被害調査結果
果樹	モモ・ナシ・リンゴ共通	4月中旬、4月中下旬、5月上旬、5月下旬、6月中下旬～7月上旬、8月、1月
	リンゴ	7月中下旬
	モモ	7月、8月上旬
	ナシ	7月中下旬、10月下旬
野菜・花き	キュウリ	6月中下旬、7月中下旬、8月中下旬
	トマト	5月中下旬、6月中下旬、7月中下旬、8月中下旬、9月中下旬
	イチゴ	4月上旬、5月上旬、10月上旬、11月上旬、12月上旬、1月上旬、2月上旬、3月上旬
	キク	5月中下旬、6月中下旬、7月中下旬、8月中下旬
	リンドウ	5月中下旬、6月中下旬、7月中下旬、8月中下旬

イ 病害虫防除対策、病害虫防除情報等

作物名	発表日	内容
普通作物	4月15日	病害虫防除対策（水稲、4月）
	4月15日	病害虫防除対策（麦類、赤かび病）
	5月29日	病害虫防除対策（水稲、5・6月）
	6月24日	病害虫防除対策（水稲、7月）
	7月11日	病害虫防除対策（水稲、斑点米カメムシ類）
	7月17日	病害虫防除対策（ダイズ、7月）
	8月5日	病害虫防除対策（水稲、8月）
	8月5日	病害虫防除情報（ダイズ、8・9月）
	8月19日	病害虫防除対策（水稲、斑点米カメムシ類）
	6月～8月	BLASTAM（イネいもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況）（随時更新）
果樹	4月30日	病害虫防除対策（モモ、カイガラムシ類）
	4月30日	病害虫防除情報（モモ、せん孔細菌病）
	5月21日	病害虫防除情報（モモ、モモハモグリガ）
	5月23日	病害虫防除情報（果樹類、果樹カメムシ類）
	6月13日	病害虫防除情報（果樹類、果樹カメムシ類）
	6月30日	病害虫防除情報（リンゴ、褐斑病）
	7月10日	病害虫防除情報（果樹類、ハダニ類）
	8月1日	病害虫防除情報（果樹類、ハダニ類）
	1月14日	病害虫防除対策（モモ、ナシマルカイガラムシ・シロカイガラムシ類）

作物名	発表日	内容
野菜・花き	5月16日	病害虫防除情報（トマト、トマトキバガ）

	5 月 16 日	病害虫防除情報（アブラナ科作物、コナガ）
	6 月 25 日	病害虫防除情報（トマト、トマトキバガ）
	6 月 30 日	病害虫防除情報（野菜・花き類、オオタバコガ）
	7 月 22 日	病害虫防除情報（トルコギキョウ、トルコギキョウ葉巻病）
	8 月 6 日	病害虫防除情報（野菜類・花き類、ハダニ類）
	10 月 8 日	病害虫防除情報（トマト、トマトキバガ）
	11 月 7 日	病害虫防除情報（サツマイモ、サツマイモ基腐病）
	3 月 12 日	病害虫防除情報（トマト、トマトキバガ）

ウ　フェロモントラップ等データ、予察灯データ

（ア）フェロモントラップ等データ

a 普通作物

アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、クモヘリカメムシ、イネカメムシ、ホソヘリカメムシ

b 果樹

モモハモグリガ、シンクイムシ類、リンゴコカクモンハマキ、モモノゴマダラノメイガ、ヒメボクトウ、果樹カメムシ類

c 野菜・花き類

ヨトウガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、コナガ、アメリカシロヒトリ、トマトキバガ

（イ）予察灯データ

a 普通作物

アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ツマグロヨコバイ、セジロウンカ、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ、イネミズゾウムシ、クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ニカメイガ

エ　病害虫ライブラリ

（ア）普通作物の病害虫

a 水稲の病害虫

いもち病、紋枯病、稲こうじ病、ごま葉枯病、ばか苗病、イネミズゾウムシ、イネヒメハモグリバエ（イネミギワバエ）、イネドロオイムシ（イネクビホソハムシ）、ニカメイチュウ（ニカメイガ）、イチモンジセセリ（イネツトムシ）、フタオビコヤガ（イネアオムシ）、イナゴ類、イネヨトウ（ダイメイチュウ）、斑点米カメムシ類

b 麦の病害

赤かび病、さび病類、雪腐病

c ダイズの病害虫

紫斑病、べと病、ウコンノメイガ、フタスジヒメハムシ、マメハンミョウ、マメシンクイガ、吸実性カメムシ類

（イ） 果樹の病害虫

a モモの病害

せん孔細菌病、灰星病

b ナシの病害

黒星病

c リンゴの病害

輪紋病、炭疽病、褐斑病

d 果樹共通の害虫

カメムシ類、シンクイムシ類、ハダニ類、ヒメボクトウ、アブラムシ類、ニセナシサビダニ

（ウ）野菜・花き類の病害虫

a イチゴの病害虫

萎黄病、炭疽病、疫病、うどんこ病、灰色かび病、アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類、ホコリダニ類、アザミウマ類、チョウ目害虫

b トマトの害虫

コナジラミ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類、オオタバコガ、トマトキバガ

c トルコギキョウの病害虫

ウイルス病、青枯病、立枯病、茎腐病、青かび根腐病、灰色かび病、炭疽病、斑点病、チョウ目害虫、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類

d 野菜・花き類共通の害虫

アザミウマ類、ハダニ類、ダニ類（ハダニ類を除く）、チョウ目害虫、ハモグリバエ類、アブラムシ類、コナジラミ類

（5） 農薬登録変更情報

令和７年版(2025 年版)農作物病害虫防除指針に関する変更について､変更及び失効内容を掲載した。

（6） ホームページの使用状況

表　ホームページの利用状況（アクセス件数：2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日）

発表内容	計
トップページ	8,026
発生予察・病害虫防除に関すること	12,566
定期予報	1,468
注意報・警報	1,419
特殊報	921
BLASTAM	859
発生状況	1,789
防除対策	3,147
各種病害虫に関する注意喚起（※）	1,043
侵入調査事業	13
侵入警戒病害虫に関する通報義務について	0
総合的病害虫・雑草管理（IPM)実践指標について	84
病害虫防除員研修会公開セミナー	240
各種トラップ等調査結果（※）	1,241
病害虫ライブラリ（※）	342
農薬適正使用・鳥獣害に関すること	3,698
農薬の安全・適正使用について	363
農薬登録変更情報	322
農薬販売届について	818
農薬販売店への立入検査について	25
農薬販売数量の調査について	33
無人航空機による防除について	1,443
ゴルフ場での農薬使用実績報告等について	158
野生鳥獣による農作物への被害について	536

注1）網掛け部は項目ごとのアクセス件数の合計を示す

注2）※は該当するページのアクセス件数の合計を示す

3　気象経過及び生育経過の概要

（1）気象経過の概要（福島地方気象台資料に基づき作成）

1月

平均気温は、中通りと浜通りでは高い～かなり高く、会津では高かった。降水量は、中通りでは平年並～少なく、浜通りでは少ない～平年並、会津ではかなり多い～多かった。日照時間は、中通りではかなり多い～多く、浜通りでは平年並～多く、会津では平年並～多かった。積雪量は、少ない～平年並であった。

2月

平均気温は、中通りでは平年並～低く、浜通りでは概ね平年並、会津では低い～平年並であった。降水量は、中通りでは平年並～少なく、浜通りではかなり少ない～少なく、会津ではかなり多い～多かった。日照時間は、中通りでは平年並～多く、浜通りではかなり多い～多く、会津ではかなり少ない～少なかった。降雪量は、平年並～多かった。

3月

平均気温は、中通りと浜通りではかなり高い～高く、会津では高かった。降水量は、中通りでは少ない～平年並、浜通りでは平年並～多く、会津では少ない～かなり少なかった。日照時間は、中通りでは平年並～少なく、浜通りでは平年並～少なく、会津では平年並～多かった。降雪量は、かなり少ない～少なかった。

4月

平均気温は、中通りと浜通りではかなり高い～高く、会津では概ね高かった。降水量は、中通りでは少ない～平年並、浜通りでは平年並～多く、会津では平年並～少なかった。日照時間は、少ない～平年並であった。

5月

平均気温は、中通りでは平年並～高く、浜通りでは高い～平年並、会津では平年並であった。降水量は、中通りでは多い～かなり多く、浜通りではかなり多い～多く、会津では多い～平年並であった。日照時間は、中通りでは少ない～かなり少なく、浜通りでは少ない～平年並、会津ではかなり少ない～少なかった。

6月

平均気温は、かなり高かった。降水量は、中通りと会津では平年並～少なく、浜通りでは少ない～かなり少なかった。日照時間は、中通りと浜通りではかなり多く、会津では多い～かなり多かった。なお、東北南部の梅雨入りは、6 月 14 日ごろ（平年より 2 日遅い、昨年より 9 日早い）であった。

7月

平均気温は、かなり高かった。降水量は、かなり少ない～少なかった。日照時間は、かなり多かった。

8月

平均気温は、中通りと会津ではかなり高い～高く、浜通りではかなり高かった。降水量は、平年並～少なかった。日照時間は、中通りと浜通りでは多い～平年並、会津では平年並～多かった。東北南部の梅雨明けは 7 月 18 日ごろ（平年より 6 日早い、昨年より 14 日早い）であった。

9月

平均気温は、かなり高かった。降水量は、中通りでは平年並～少なく、浜通りでは、少ない～かなり少なく、会津ではかなり多い～多かった。日照時間は、中通りと浜通りでは多い～かなり多く、会津では多い～平年並であった。

10 月

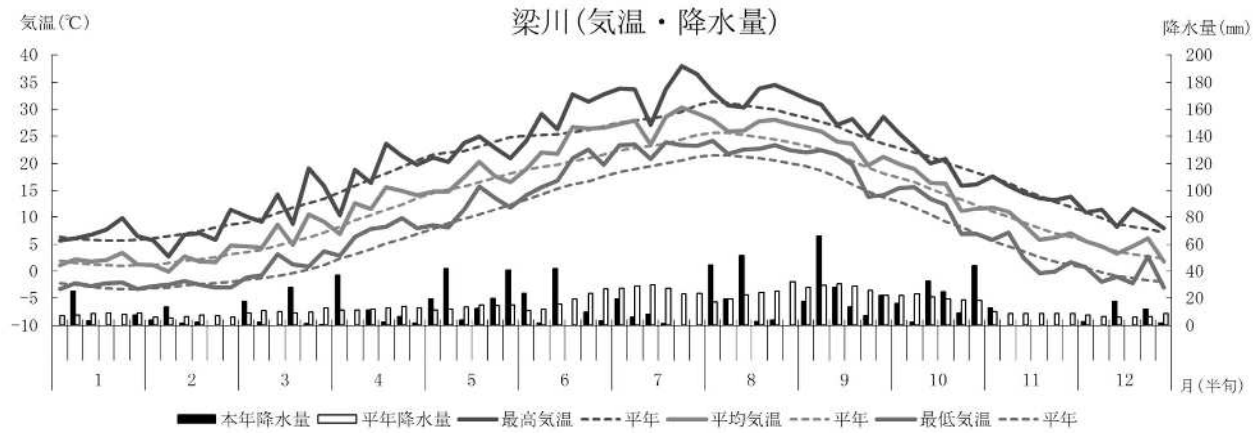
平均気温は、高かった。降水量は、中通りと会津では多い～平年並、浜通りでは平年並～多かった。日照時間は、中通りでは少なく、浜通りと会津では少ない～かなり少なかった。

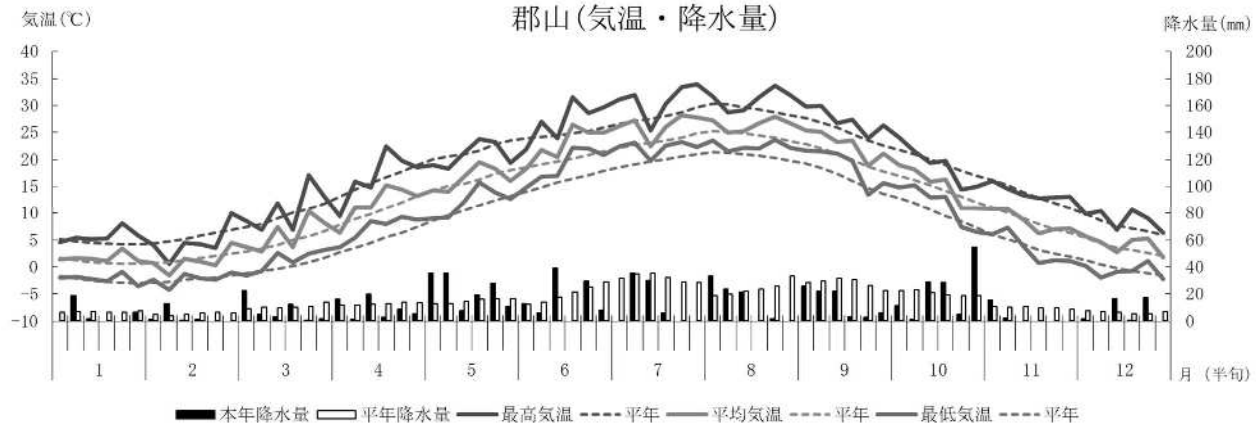
11 月

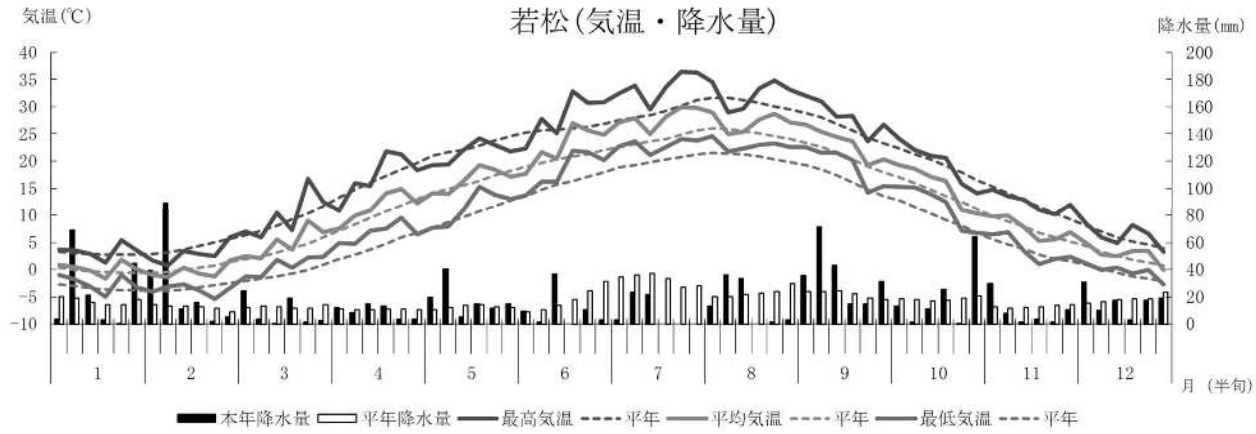
平均気温は、平年並であった。降水量は、中通りでは少ない～かなり少なく、浜通りでは少なく、会津では少ない～平年並であった。日照時間は、中通りと会津ではかなり多く、浜通りではかなり多い～多かった。降雪量は、平年並であった。

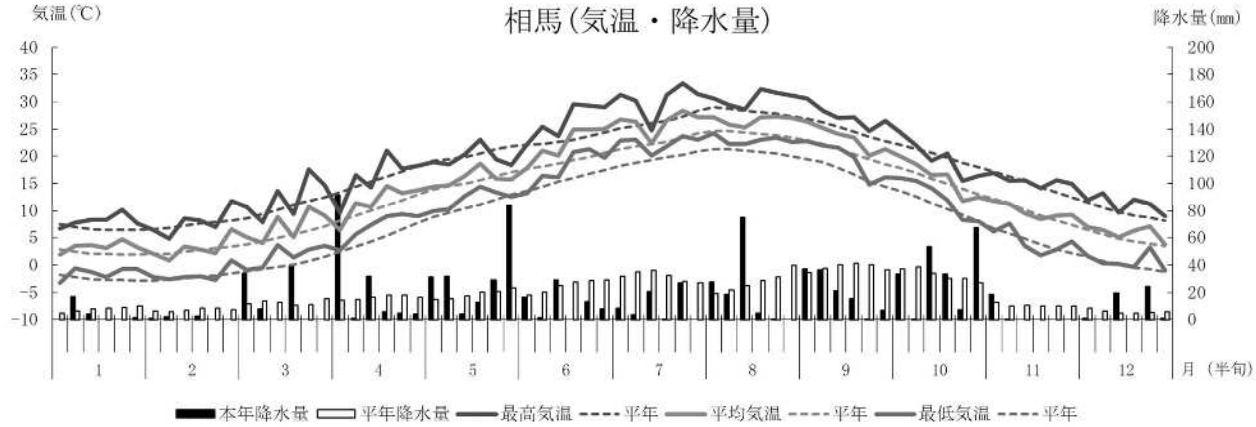
12 月

平均気温は、中通りでは高い～平年並、浜通りでは高い～かなり高く、会津では概ね平年並であった。降水量は、中通りでは平年並～多く、浜通りでは概ね多く、会津では平年並～多かった。日照時間は、中通りと会津では多い～かなり多く、浜通りでは多い～平年並であった。降雪量は、少ない～平年並であった。


梁川(気温・降水量)
気温(℃)
降水量(mm)
月(半旬)
本年降水量
平年降水量
最高気温
平年
平均気温
平年
最低気温
平年


郡山(気温・降水量)
気温(℃)
降水量(mm)
月(半旬)
本年降水量
平年降水量
最高気温
平年
平均気温
平年
最低気温
平年


若松(気温・降水量)
気温(℃)
降水量(mm)
月(半旬)
本年降水量
平年降水量
最高気温
平年
平均気温
平年
最低気温
平年


相馬(気温・降水量)
気温(℃)
降水量(mm)
月(半旬)
本年降水量
平年降水量
最高気温
平年
平均気温
平年
最低気温
平年

（2）農作物の生育経過

※以下に記述するア～ウの生育経過は、農業総合センターの作柄解析試験の結果であり、「郡山」は農業総合センター本部、「会津坂下」は会津地域研究所、「相馬」は浜地域研究所のことを示している。なお、記述している作物の品種は、水稲がすべて「コシヒカリ」、麦類が郡山と相馬は「きぬあずま」、会津坂下は「ゆきちから」、ダイズが郡山と相馬は「タチナガハ」、会津坂下は「あやこがね」であり、ダイズは標播での生育を記している。

ア　水稲

6 月 11 日の生育調査では、草丈は、郡山が平年並、会津坂下と相馬が平年よりやや短かった。茎数は、郡山が平年よりやや少なく、会津坂下が少なく、相馬が多かった。葉色は、郡山と会津坂下が平年より薄く、相馬がやや濃かった。

出穂期は、郡山が平年より 6 日早い 8 月 5 日、会津坂下が 2 日早い 8 月 3 日、相馬が 6 日早い 8 月 3 日だった。成熟期は、郡山が平年より 11 日早い 9 月 12 日、会津坂下が 7 日早い 9 月 10 日、相馬が 10 日早い 9 月 14 日だった。

12 月 10 日東北農政局発表の水稲の作況指数は、県全体で 102（中通り 103、会津 102、浜通り 104）となった。農林水産省が公表した 12 月 31 日時点での本県産うるち玄米の農産物検査結果（速報値）は、1 等が 91.3%、2 等が 7.8%、3 等が 0.7%、規格外が 0.2%だった。

イ　ムギ類（2024 年産）

越冬前調査では、草丈は、全域で平年より長かった。茎数は、郡山と相馬が平年より多く、会津坂下が平年並だった。幼穂形成始期は、郡山が平年より 12 日遅い 1 月 31 日、会津坂下が 30 日早い 2 月 13 日、相馬が 30 日早い 12 月 22 日だった。節間伸長開始期は、郡山が平年より 7 日遅い 3 月 12 日、会津坂下が 10 日早い 3 月 22 日、相馬が 22 日早い 2 月 13 日だった。

出穂期は、郡山が平年より 1 日早い 4 月 22 日、会津坂下が 9 日早い 4 月 28 日、相馬が 7 日早い 4 月 15 日だった。5 月 1 日の生育調査では、草丈は、全域で平年より長かった。茎数は、郡山が平年よりやや少なく、会津坂下が少なく、相馬が多かった。成熟期は、郡山が 2 日早い 6 月 11 日、会津坂下が 9 日早い 6 月 8 日、相馬が 3 日早い 6 月 6 日だった。精子実重は、郡山で平年並、相馬でやや高く、会津坂下で低かった。郡山、相馬は穂数が多かったが千粒重が軽く、会津坂下は穂数が少なかった。

農林水産省が公表した 2025 年 3 月 31 日時点での本県産普通小麦の農産物検査結果（速報値）は、1 等が 29.1%、2 等が 65.6%、規格外が 5.3%だった。

ウ　ダイズ

開花期は、郡山が平年より 3 日遅い 7 月 30 日、会津坂下が 1 日早い 7 月 23 日、相馬が 6 日早い 7 月 27 日だった。成熟期は、郡山は 10 月 25 日で平年並、相馬は 10 月 30 日で平年より 7 日早かった。会津坂下は開花以降の干ばつのため登熟が進まず 11 月 8 日と平年より 23 日遅かった。8 月 5 日の生育調査では、主茎長は、郡山が平年より短く、会津坂下と相馬が長かった。主茎節数は、郡山が平年並、会津坂下がやや多く、相馬が多かった。粗子実重は郡山は平年並、相馬は平年比 143%と増収した。会津は一莢内粒数が平年比 52%と少なく粗子実重は平年比 61%だった。

※以下に記述するエ～キの生育経過及び果実品質は、農業総合センター果樹研究所（福島市飯坂町平野）のデータ。

エ　リンゴ

「ふじ」の発芽は 3 月 26 日で平年より 1 日早く、満開は 4 月 24 日で平年より 6 日早かった。「ふじ」の収穫開始は 11 月 18 日で平年より 4 日遅く、収穫盛期は 11 月 24 日で平年より 7 日遅かった。平均果実重は 339g で平年（358g）よりやや小さく、糖度は 15.1 度で平年（15.5 度）並であった。

「つがる」の収穫開始は8月22日で平年より5日早く、収穫盛期は8月25日で平年より6日早かった。平均果実重は265gで平年（285g）よりやや小さく、糖度は13.6度で平年（12.4度）より高かった。

オ　モモ

「あかつき」の発芽は3月24日で平年並、満開は4月15日で平年より4日早かった。「あかつき」の収穫開始は7月25日で平年より6日早く、収穫盛期は7月29日で平年より6日早かった。平均果実重は341gで平年（269g）よりかなり大きく、糖度は14.3度で平年（13.0度）より高かった。「ゆうぞら」の収穫開始は8月19日で平年より10日早く、収穫盛期は8月22日で平年より11日早かった。平均果実重は377gで平年（339g）より大きく、糖度は14.4度で平年（13.0度）よりかなり高かった。

カ　ナシ

「幸水」の発芽は3月28日で平年より4日早く、満開は4月20日で平年より5日早かった。「幸水」の収穫開始は8月18日で平年より6日早く、収穫盛期は8月23日で平年より6日早かった。平均果実重は353gで平年（382g）よりやや小さく、糖度は13.1度で平年（12.5度）並であった。「豊水」の収穫開始は9月4日で平年より8日早く、収穫盛期は9月12日で平年より5日早かった。平均果実重は482gで平年（423g）より大きく、糖度は13.9度で平年（12.9度）よりやや高かった。

キ　ブドウ

「巨峰」の発芽は4月18日で平年より1日遅く、満開は6月8日で平年並であった。「巨峰」の収穫開始は8月28日で平年より9日早く、収穫盛期は8月30日で平年より10日早かった。糖度は17.5度で平年（16.5度）より高く、酒石酸含量は0.49g/100mlで平年（0.52g/100ml）より低かった。

ク　夏秋トマト

雨よけ施設栽培の定植は、県南地方では4月上旬頃から、南会津地方では5月下旬から6月上旬にかけて行われ、いずれも平年並であった。定植時の低温により、やや活着が遅れたが出荷は平年並に7月上旬から開始された。南会津地方では3日程度収穫が遅れ、7月中旬以降の収穫となった。

7、8月は高温、乾燥による落花、着色異常や裂果が発生した。県南地方の4月定植の作型の摘芯作業は平年並の9月中旬に終了し、南会津地方の5月下旬定植の作型の摘芯作業は平年並の9月上旬に終了した。全域的に、夏季の高温により着果量が少なく、小玉傾向となった。

ケ　夏秋キュウリ

県中地方の露地栽培は、平年並の5月中旬から定植が行われた。5月下旬の低温の影響で、一部生育の遅れが見られた。定植前後の低日照により節間が短い傾向にあり、また、6月中旬の高温乾燥により芯焼けが発生したが、その後回復した。6月下旬から収穫が始まり、順次、親づるの摘芯作業が行われた。7～8月は、高温、乾燥により芯やけや萎れ、一部曲がり果等が発生した。

コ　イチゴ（2024年定植）

高温により、普通育苗の花芽分化は平年より7日程度遅れており、定植作業は9月中下旬から行われた。促成栽培の普通育苗では、高温の影響により花芽分化が平年より1週間程度遅く、定植は9月中旬から行われた。頂花房は10月下旬から開花が始まった。促成栽培の普通育苗では、夏季の高温の影響により花芽分化が遅れたことから、平年より1週間程度遅い12月上旬より頂果房の収穫が開始された。

サ　夏秋ナス

トンネル栽培は4月下旬から定植が行われ、5月上旬の低温により活着が悪く、初期生育は遅れていたが、その後の高めの気温により生育は回復した。出荷は昨年より4～5日遅れの6月上旬より始まった。露地栽培は5月下旬から定植が行われ、定植直後の低温による活着の遅れから初期生育はやや遅れたが、その後回復した。出荷は、例年同様6月下旬頃より始まった。7月以降、気温は高めに推移したため生育は順調で、出荷量も増加したが、成り疲れと高温乾燥による花落ちが見られる。9月以降、主枝を切り戻した後の側枝での収穫が行われ、果形は良好だった。10月中旬以降の気温低下により、果実肥大の遅れや樹勢低下が見られ始め、10月中旬には収穫が終了した。

シ　夏秋ピーマン

トンネル栽培は、平年並の4月下旬から5月上旬にかけて定植が行われ、定植後の低温等によりやや活着の遅れが見られたが、その後に回復した。トンネル栽培では、平年並の6月中旬から収穫が開始された。露地栽培では5月中旬から6月上旬にかけて定植され、直後の強風等により、葉の損傷が見られたが、その後は順調に生育が進んだ。7～8月は、高温、乾燥の影響で、尻腐れ果や日やけ果が多く発生した。

ス　アスパラガス

会津地方の半促成栽培は、積雪による被覆作業の遅れから、平年よりやや遅い4月中旬頃から収穫開始となった。半促成栽培の春どりは、県北地方・会津地方ともに、平年並の4月下旬に最盛期となり、順次、立茎が開始された。9月になり気温の低下、降雨があり、収量は一時的に増加した。収穫は概ね10月中旬に終了した。

セ　秋冬ネギ

相双地方では、平年よりも半月程度遅い10月末から出荷開始。12月出荷をピークに２月前半頃まで出荷が続いた。在ほ期間が長いことや寒さ、風の影響により葉折れ、葉枯れが散見した。

いわき地方では、播種が平年並の3月下旬から6月上旬にかけて行われた。夏期の高温の影響により生育および管理作業が停滞した結果、11月下旬から収穫を開始したものの、12月中は生育が追いつかず、作業を休止した。例年より約1か月程度作業が遅れた。

ソ　キク

8月咲きは、4月中旬から下旬にかけて定植作業が行われ、4月下旬から5月上旬にかけて摘心作業が行われた。生育は順調に進んだが、一部では5月の低温により前年より草丈が短く、葉数が少ないほ場もみられた。6月中下旬の降水量が平年より低く、草丈が平年並からやや低、葉数が平年並からやや少なくなった。また、6月下旬頃から発蕾が確認されており、一部地域では発蕾が平年よりやや早い様子が見られた。9月咲きは、5月中旬から5月下旬にかけて定植作業が行われ、その後順次摘心作業が進められた。8月咲きは、高温少雨の影響により開花が平年より遅れた。9月咲きは、草丈、葉数とも概ね平年並から低い状態であった。開花時期はやや早いから平年並であった。開花時期が早い地域や品種では、出荷が8月6半旬頃から開始された。開花時期が平年並の地域では、出荷が9月2～3半旬頃から本格的に始められた。

タ　リンドウ

積雪地域では融雪の遅れにより、萌芽は平年に比べて5日～2週間程度遅く、その後の生育も遅い状態が続いたが、その他の地域では萌芽は平年並み～やや前進となった。生育は、8月盆及び9月彼岸のいずれの作型でも、概ね平年並の草丈と葉数となった。一部の融雪が遅れた地域では、草丈の短い様子が見られたが回復した。また、一部の生育の旺盛な品種を中心に葉先枯れが発生した。早い地域では、6月上旬に早生系統の品種が上位側芽発生期となり、そのほかの地域でも徐々に早生系統において上位側芽の発生が見られた。早生種の生育は、草丈が平年よりやや高く、葉数が多かった。ただし、雪解けが遅かった地域では草丈がやや短い傾向にあった。中晩生種の生育は、草丈、葉数ともに概ね平年並であった。

4　主要病害虫の発生経過及び原因解析

（1）普通作物

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
水稲	育苗期の病害（苗立枯病）	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	育苗期調査では、ピシウム菌、フザリウム菌、トリコデルマ菌による苗立枯病が確認された。発生箱率は、平年より高かった（図3- 1）。	4月の高温、催芽時の温度管理、育苗時のハウス換気等が十分に行われなかったと考えられる。	播種時の薬剤散布が慣行化している。
	育苗期の病害（ばか苗病）	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	育苗期調査での発生箱率は、平年より高かった（図3- 1）。 業務用米、自家採種種子など、県米改良協会配布以外の種子で発生が多く確認された。	配布量から算定した予想種子更新率は97.8%と平年並に高かったが、自家採種や他県産種子を使用した施設や温湯消毒を実施した施設での発病が目立った。	消毒済種子への更新が多いが、未消毒種子でも化学農薬や生物農薬、温湯消毒による防除が実施されている。 令和3年度に、プロクロラズ剤の防除効果が低下した事例が確認された。
	育苗期の病害（もみ枯細菌病・苗立枯細菌病）	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	育苗期調査での発病は確認されなかった（図3- 1）。	県米改良協会で、本病に対して効果の高い薬剤が使用されている。 配布量から算定した予想種子更新率は、97.8%と平年並に高かった。	本病に対して効果の高い薬剤で種子消毒が行われている。
	いもち病（葉いもち）	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや多	置苗での発病は確認されなかった（表3- 1）。 本田での初発確認は、中通りで7月中旬、会津、浜通りで7月下旬であった（表3- 2）。 7月下旬の発生ほ場割合は、会津で平年よりやや高かったが、発生程度は、全て「微」であった（図3- 2）。 8月上旬の発生ほ場割合は、中通り、会津で平年よりやや低く、浜通りでは、発生は確認されなかった（図3- 3）。	7月中旬に、感染好適条件日が広域で出現したが、その後高温・少雨で経過したことで感染が抑制されたと考えられる（表3- 3）。 育苗箱施薬が多くのほ場で行われており、発病が抑制されたと考えられる。	育苗箱施薬による防除が慣行化し、本田での防除は少なくなっている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
水稲	いもち病（穂いもち）	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：多	初発確認は、全域で平年並の 8 月中下旬であった（表 3- 4）。 8 月下旬の発生ほ場割合は、会津で平年より高かったが、発病程度は全て「少」であった（図 3- 4）。 9 月上旬には、中通りの一部ほ場で発生程度が「中」のほ場が確認された（図 3- 5）。	8 月上中旬に感染好適条件日が出現しており、発病の要因となったと考えられる（表 3- 3）。 その後高温で経過したため、感染の拡大が抑制されたと考えられる。	散布剤や水面施用剤による防除が実施されており、無人航空機による防除が増加している一方で、育苗箱施薬のみのほ場も増加している。
	縞葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	発生は確認されなかった。	麦類の作付面積が少ないため、本病を媒介するヒメトビウンカの越冬量が少ないと推察される。	本病を媒介するヒメトビウンカを対象とした防除は少なく、他の害虫との同時防除が行われている。
	白葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	発生は確認されなかった。	本年度は台風等による浸冠水はなかった。	本病を対象とした防除は行われていない。
	紋枯病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	初発確認は、全域で平年並の 7 月下旬であった（表 3- 5）。 8 月下旬の発生ほ場割合は平年より高く、9 月上旬の発生ほ場割合は、会津で平年より高くなった（図 3- 6 、図 3- 7）。	高温・降雨により発生が助長されたと推測される。常発地では、病斑の進展が早く、穂枯れ等の原因となったと考えられる。 窒素投入量の多い飼料用米や業務用米で発生が多かったと考えられる。	育苗箱施薬や水面施用剤による防除が実施されたが、常発ほ場以外での防除は少ない。
	黄化萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	浜通りの一部で発生が確認された。	今年度は台風等による浸冠水はなかった。	本病を対象とした防除は行われていない。 防除薬剤が製造中止となっており、有効な登録薬剤がない。
	稲こうじ病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：多	9 月上旬の発生ほ場割合は、会津で平年より高く、発生程度「中」のほ場が一部確認された（図 3- 8）。	8 月上中旬に降雨が続いたため、発生が多くなったと考えられる。	常発地域以外での防除は少ない。
	ごま葉枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	発生ほ場割合は、浜通りで平年より高かったが、穂枯れの発生は確認されなかった（図 3- 9）。	砂質土壌地帯などの常発地域を中心に発生が確認された。	いもち病との同時防除が実施された。
	イネミズゾウムシ	平年：並 前年：遅	平年：多 前年：並	成虫の本田侵入時期、防除適期は平年並であった（表 3- 6）。 発生ほ場割合は平年より高かった（図 3- 10）。	育苗箱施薬の普及により発生は少ないが、発生ほ場は漸増傾向である。	育苗箱施薬による防除が慣行化し、本田での防除は少なくなっている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
水稲	イネヒメハモグリバエ（イネミギワバエ）	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生ほ場割合は全域で平年より低く、発生程度の高いほ場は確認されなかった。	近年発生が漸減傾向である。	育苗箱施薬による防除が慣行化し、本田での防除は少なくなっている。
	イネドロオイムシ（イネクビホソハムシ）	平年：並 前年：遅	平年：多 前年：多	成虫の本田侵入時期、防除適期は平年と比べて早かった（表 3- 7）。 発生ほ場割合は、会津、浜通りで高かった（図 3- 11）。	中通りの一部多発地域ではチアメトキサム剤に対する感受性低下が確認されているが、薬剤の置き換えが進んでいる。	育苗箱施薬による防除が中心だが、発生程度の高いほ場では本田防除も実施された。
	ニカメイガ（ニカメイチュウ）（Ⅰ）	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	幼虫による被害は平年並にほとんど確認されなかった。	育苗箱施薬が普及している。 被害を受けにくい品種が作付されている。	育苗箱施薬による防除が中心である。
	ニカメイガ（ニカメイチュウ）（Ⅱ）	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	幼虫被害の発生ほ場割合は平年より低く、発生程度の高いほ場は確認されなかった。	第 1 世代成虫の発生がほとんど確認されなかったことから、第 2 世代の発生量も少なく推移したと考えられる。	本虫を対象とした防除はほとんど実施されていない。
	フタオビコヤガ（イネアオムシ）	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	会津の予察灯では、成虫の誘殺数は平年並、誘殺ピークの数は平年より少なかった（図 3- 12）。 幼虫の発生ほ場割合、すくい取り調査による幼虫、成虫の発生地点割合ともに平年より低く、発生程度も低かった。	高温少雨傾向で経過したため、発生が抑制されたと考えられる。	育苗箱施薬及び斑点米カメムシ類との同時防除が中心であり、本虫を対象とした防除はほとんど実施されていない。
	イチモンジセセリ（イネツトムシ）	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや少	幼虫の発生ほ場割合、発生程度ともに平年より低かった（図 3- 13、図 3- 14）。	高温の影響によりイネの生育が早く進み、幼虫の生育に不適な環境であったと考えられる。	常発地や発生が目立ったほ場では、薬剤による防除が実施された。
	コブノメイガ	例年：並 前年：並	例年：少 前年：並	会津、浜通りでは、発生は確認されなかった。中通りの一部で発生程度が「少」のほ場が見られたが、発生ほ場割合は例年より低かった。	飛来量が例年より少なかったと推察される。	本虫を対象とした防除はほとんど実施されていない。
	イナゴ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	本県における主要種はコバネイナゴである。 すくい取り調査による 8 月上旬、8 月下旬の発生地点割合は、会津で平年並、中通り、浜通りで平年よりやや低いから低かった（図 3- 15 図 3- 16）。	暖冬であったことで、ふ化が斉一化したと考えられる。	育苗箱施薬や斑点米カメムシ類との同時防除が中心であり、本虫を対象とした防除はほとんど実施されていない。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
水稲	セジロウンカ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	会津の予察灯には 7 月上旬から誘殺され、誘殺数は平年より少なかった（図 3- 17)。 本田におけるすくい取りでは、で 7 月下旬から発生が確認され、発生ほ場割合は平年より少なかった（図 3- 18)。 本虫による被害はほとんど確認されていない。	飛来量が少なかったと考えられる。	育苗箱施薬及び斑点米カメムシ類との同時防除が中心であり、本虫を対象とした防除はほとんど実施されていない。
	ヒメトビウンカ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	会津の予察灯には 6 月上旬から誘殺が確認された（図 3- 19)。 本田におけるすくい取りでは、発生地点割合は平年よりやや少なく、本虫により媒介される縞葉枯病の発生は確認されなかった（図 3- 20)。	麦類の作付面積が少ないため、越冬量が少ないと推察される。	育苗箱施薬及び斑点米カメムシ類との同時防除が中心であり、本虫を対象とした防除はほとんど実施されていない。
	トビイロウンカ	平年：― 前年：―	平年：並 前年：並	平年同様、発生は確認されなかった。	本県への飛来がなかったと推察される。	本虫を対象とした防除は実施されていない。
	ツマグロヨコバイ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや少	会津の予察灯では主に 7 月下旬から誘殺された（図 3- 21)。 本田における 7 月下旬のすくい取りでは、発生地点割合は平年より多かった（図 3- 22)。 本県では、本虫による被害はスス病による汚れであり、吸汁害や黄萎病、萎縮病の発生はほとんど確認されていない。	暖冬であったため、越冬量が平年より多かったと考えられる。	育苗箱施薬及び斑点米カメムシ類との同時防除が中心であり、本虫を対象とした防除はほとんど実施されていない。
	斑点米カメムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	7 月の畦畔での発生は平年よりやや多かったが、本田での発生は平年並であった（図 3- 23～図 3- 37)。 本県における主要種はアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシである（図 3- 38)。 坪刈り調査による斑点米混入率は平年並であった（図 3- 39)。	4 月から気温が高く推移したため、水田畦畔がカスミカメムシ類の増殖に適した環境となり、畦畔での発生量は多かったと推察される。	本虫に登録のある育苗箱施用剤が使用されている。 定植後、継続的に畦畔の除草を実施する生産者が増加している。 出穂後 1～2 回の薬剤防除が実施されており、無人航空機での実施面積が増加傾向にある。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ムギ類（2024年産）	雪腐病類	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：少	会津地方の麦産地での根雪期間は平年並で、枯死面積率は平年より高かった（図 3- 40）。	会津地方では、降雪が断続的にあり、根雪期間が平年並で、雪解けが遅かった。	本病を対象とした防除はほとんど実施されていない。
	赤かび病	平年：やや早 前年：並	平年：少 前年：並	発病穂率は、中通りで平年よりやや高く、会津は平年並、浜通りで平年より低かった。（図 3- 41）。	冬期間が温暖だったためムギの生育が進み出穂も平年より早かった。開花期に降雨があったが、感染好適条件は少なかった。	浜通りや中通り地方で、無人航空機や防除機による防除がなされた。
	うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	発生は確認されなかった。	例年発生が少ない。	赤かび病との同時防除がなされた。
	さび病類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	発生は確認されなかった。	例年発生が少ない。	赤かび病との同時防除がなされた。
ダイズ	立枯性病害	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	中通り、会津地方の一部で黒根腐病の発生程度が高いほ場が見られた。他の立枯性病害の発生は確認できなかった。	水田からの転換ほ場でも黒根腐病の発生を確認しており、常発地では菌密度が高まっていると考えられる。	種子消毒剤の塗沫が多くの産地で行われている。常発地では排水対策に努めている。
	紫斑病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	子実調査の被害粒率は、中通りで平年よりやや低く、会津、浜通りで高かった（図 3- 42）。	会津では 9 月以降の多雨で莢の登熟が進まず、成熟期が遅れたため紫斑粒が増えたと考えられる。	種子消毒剤の塗沫が多くの産地で行われている。常発地では無人航空機での防除が実施された。
	べと病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	感受性品種を作付けしたほ場で発生程度の高いほ場が見られた。子実調査では被害粒率が高いほ場が見られた（図 3- 43、図 3- 44）。	感受性品種（里のほほえみ）の作付けが増加しており、発病が拡大した。	感受性品種を作付けしたほ場の一部で、無人航空機での防除が実施された。
	ウコンノメイガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	全域で葉巻被害が見られたが、被害程度は低かった（図 3- 45）。	積雪量が多かったため越冬量が少なかったと考えられる。	常発地では防除が実施されたが、防除しないほ場が多い。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ダイズ	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	7～9月の巡回調査での発生は平年より少なかった。	7月中旬から9月中旬に高温であったことから増殖が抑制されたと考えられる。	本虫を対象とした防除はほとんど行われていない。
	吸実性カメムシ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	払落し調査では全域で発生の多いほ場を確認した。 主要種はホソヘリカメムシ、ブチヒゲカメムシ、イチモンジカメムシであった（図3- 46、図3- 47）。 子実調査の被害粒率は、全域で平年より高かった（図3- 48）。	7月中旬から9月中旬に高温であったことから増殖が促進されたと考えられる。	紫斑病との混合剤による防除が無人航空機で行われた。
	フタスジヒメハムシ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	払落し調査、子実被害調査ともに会津で発生の多いほ場が見られたが、中通り、浜通りでは発生程度の低いほ場が多かった（図3- 49、図3- 50）。	7月中旬から9月中旬に高温であったことから増殖が促進されたと考えられる。	吸実性カメムシ類との同時防除が行われた。
	マメシンクイガ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：やや多	子実調査では、全域で平年よりやや低いから低かった。（図3- 51）。	ほ場毎の発生量に大きな差があり、連作年数が増加するにつれて発生量も増加している。	輪作が可能なほ場では、3年を目安に水稲との輪作が実施されている。
	シロイチモジマダラメイガ	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：並	子実調査の被害粒率は、中通り、会津で平年より高く、浜通りで平年より低かった。	本虫が大きな問題となることはない。	吸実性カメムシ類やマメシンクイガとの同時防除が実施されている。
	サヤムシガ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	子実調査の被害粒率は、中通り、会津で平年並に低く、浜通りでは被害は確認されなかった。	本虫が大きな問題となることはない。	吸実性カメムシ類やマメシンクイガとの同時防除が実施されている。
	ダイズサヤタマバエ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	子実調査の被害粒率は、全域で平年並に低かった。	本虫が大きな問題となることはない。	吸実性カメムシ類やマメシンクイガとの同時防除が実施されている。
	食葉性チョウ目幼虫	例年：並 前年：並	例年：少 前年：少	払落し調査では、浜通りで例年より少なかった（図3- 52）。 主要種はツメクサガ、ハスモンヨトウ、オオタバコガであった。	7月中旬から9月中旬に高温であったことから増殖が促進されたと考えられる。	発生の多い地域では、無人航空機での防除が実施された。

ア　水稲

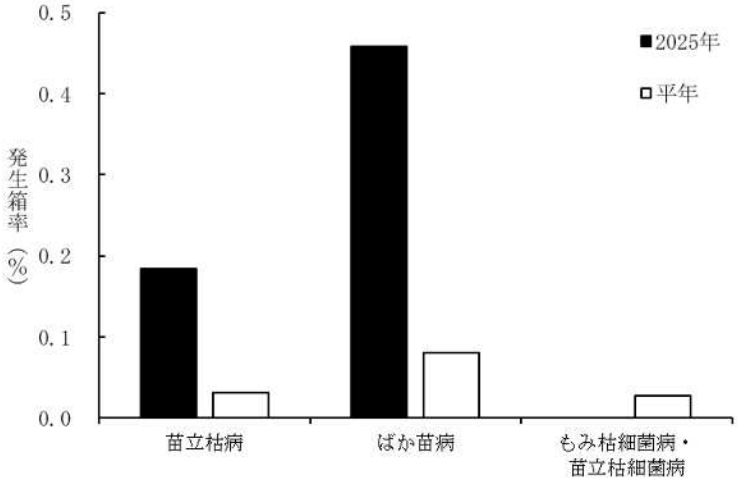


図 3- 1 育苗期病害の発生状況

表 3- 1 補植用置苗における葉いもちの初発確認日

年次	中通り	会津	浜通り
2015	6/22	6/8	-
2016	-	-	-
2017	-	6/21	-
2018	-	6/11	-
2019	-	-	-
2020	-	-	6/12
2021	-	6/17	6/15
2022	-	-	-
2023	-	-	-
2024	-	-	-
2025	-	-	-
平年	6/22	6/14	6/13

表 3- 2 本田における葉いもちの初発確認日

年次	中通り	会津	浜通り
2015	7/1	7/7	8/4
2016	7/5	7/27	7/4
2017	7/12	7/26	7/20
2018	8/2	7/11	7/6
2019	8/6	7/30	7/9
2020	7/6	7/22	7/29
2021	7/1	8/6	7/2
2022	7/20	7/7	7/21
2023	7/21	-	7/4
2024	8/5	7/29	7/25
2025	7/18	7/29	7/25
平年	7/17	7/21	7/15

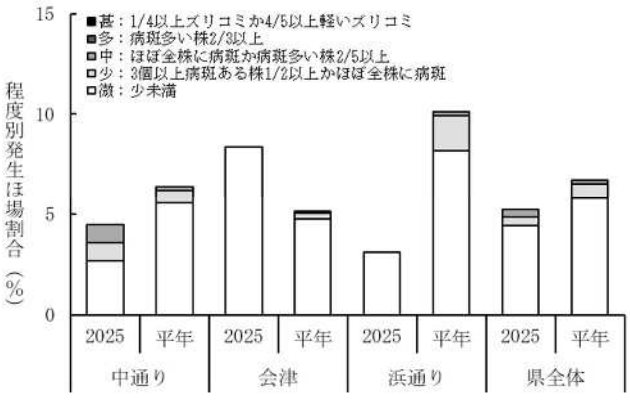


図 3- 2 葉いもちの発生状況（7 月下旬）

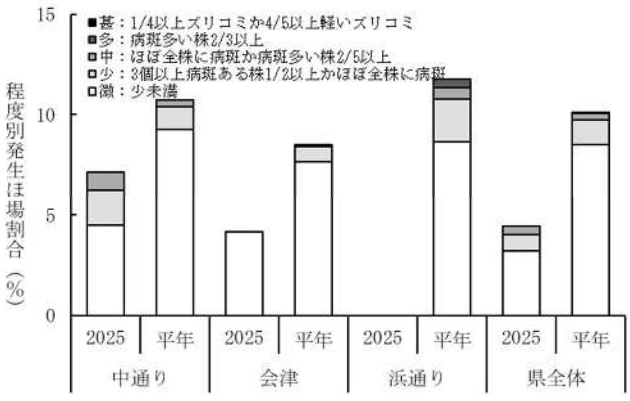


図 3- 3 葉いもちの発生状況（8 月上旬）

表 3- 3 BLASTAM による葉いもち感染好適条件の出現状況表

月日		中通り										会津								浜通り						
		梁川	福島	二本松	船引	郡山	湯本	小野	石川	白河	東白川	喜多方	西会津	猪苗代	若松	金山	只見	南郷	田島	相馬	飯舘	浪江	川内	広野	山田	小名浜
6月	1	－	－	－	△	－	△	－	△	－	－	－	－	－	－	－	△	－	－	－	△	－	－	－	－	－
	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	△	－	－	－
	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	4	－	○	○	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△	○	△	○	○	△	△	○	△	△	△	△	－
	5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	8	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	9	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	11	－	●	－	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●	○	－	○	○	●	－	●	○	●	●	○
	12	－	－	－	△	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	△	△	－
	13	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	14	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	15	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	●	－
	16	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	17	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	※	－	－	－	－	－	－	－	－
	18	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	19	－	－	－	－	－	－	●	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	20	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	21	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	22	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	23	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	●	●	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	24	－	○	○	－	○	●	●	○	●	○	○	○	－	○	●	●	－	△	○	－	○	●	●	－	－
	25	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	26	○	－	－	－	－	－	●	－	－	●	●	－	－	○	－	●	－	●	●	－	○	●	●	●	●
	27	○	○	○	－	－	●	－	－	－	－	●	●	－	－	－	－	－	－	●	●	－	●	－	－	－
	28	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	29	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	30	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
7月	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	2	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	5	－	－	－	－	－	－	●	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	●	－	－	－	－	○	－	－
	6	－	－	－	－	－	－	－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	●	●	－	－	－	－	－	－	－
	7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	8	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	9	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	10	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	○	－	○	－	○	－	○	－	－	－	－
	11	○	○	○	○	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	○	○	－	－	○	●	○	－	○	－	－
	12	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	●	－	－	－	－	－
	13	－	●	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	14	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－	－	－	－	－	－	●	－	－	●	－	－	－	－	－	－
	15	－	－	－	●	－	－	△	●	－	－	－	●	－	△	●	●	－	●	－	－	－	－	－	●	－
	16	－	－	●	－	－	－	－	－	－	－	△	●	－	－	●	●	－	－	●	－	※	－	－	－	－
	17	－	－	－	－	－	●	－	－	－	－	－	－	－	－	－	●	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	18	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	19	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	20	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	21	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	22	－	－	－	○	－	－	－	－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	△	○	○	－	○	○	－
	23	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	24	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	25	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	26	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	27	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	28	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	29	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	30	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	31	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
8月	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	2	△	△	－	－	－	●	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	●	－	●	－	－	－	－	－
	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	●	△	－	－	－	－
	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	5	－	－	－	－	－	●	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	●	－	－	－	－	－	－	－
	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	△	－	－	○	○	－	○	－	－	－	－	－	－	－
	7	△	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	○	－	○	－	－	－	－	－	－	○	○	○	－
	8	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	9	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	10	○	○	○	●	○	△	●	○	－	－	○	●	●	○	●	－	●	●	○	●	－	●	○	－	－
	11	△	－	○	●	●	●	●	●	－	●	－	－	●	○	－	●	●	●	○	●	○	●	○	○	△
	12	－	－	－	－	●	●	●	●	●	－	－	●	－	－	－	－	－	●	－	－	○	●	－	－	－
	13	－	－	－	●	●	●	－	●	－	※	－	－	－	●	●	－	●	●	－	－	○	－	－	－	－
	14	－	－	－	－	－	－	－	－	●	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	15	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	16	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	17	－	－	－	●	－	－	●	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	18	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	19	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	20	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	21	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	●	－	－	－	－	－	－	－	－
	22	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	23	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	24	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	25	△	－	－	－	△	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	△	－	－	－	－	－	－
	26	－	－	－	－	△	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	27	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	●	－	－	－	－	－	－	－
	28	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
	29	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	30	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	31	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

●：感染好適条件、○：準感染好適条件、△：感染可能条件、－：感染好適条件を満たしていない、※：判定不能

表 3- 4 穂いもちの初発確認日

年次	中通り	会津	浜通り
2015	8/18	8/19	8/21
2016	8/19	8/24	8/22
2017	8/22	8/24	9/4
2018	8/21	8/22	9/4
2019	8/21	9/13	9/10
2020	8/18	8/17	8/18
2021	8/23	8/30	8/24
2022	8/24	8/19	8/24
2023	8/22	8/24	8/21
2024	8/19	8/22	8/20
2025	8/19	8/28	8/21
平年	8/20	8/24	8/26

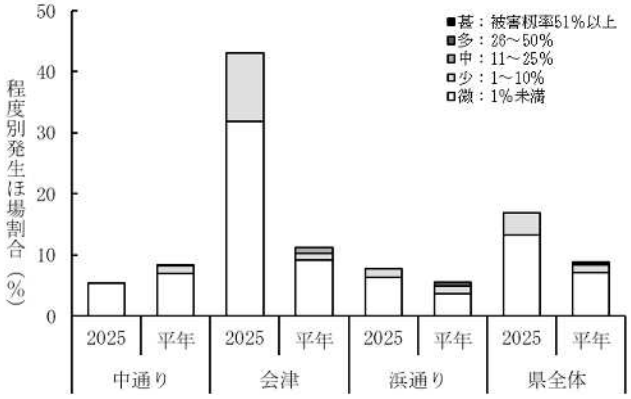


図 3- 4 穂いもちの発生状況（8 月下旬）

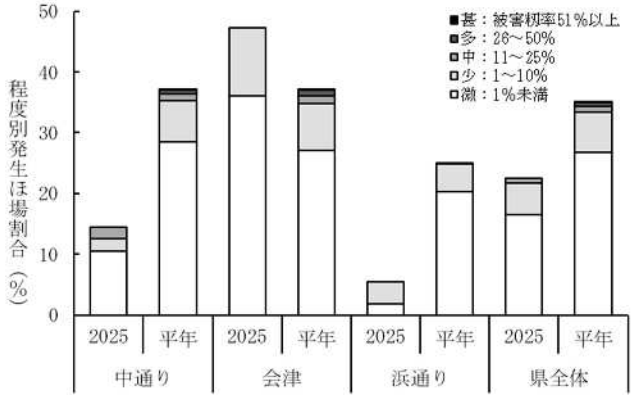


図 3- 5 穂いもちの発生状況（9 月上旬）

表 3- 5 紋枯病の初発確認日

年次	中通り	会津	浜通り
2015	7/15	7/14	7/15
2016	7/27	7/25	7/20
2017	7/26	7/20	7/21
2018	7/25	7/23	7/20
2019	7/25	8/5	7/26
2020	7/22	7/29	7/21
2021	8/6	8/4	7/20
2022	7/26	7/25	7/26
2023	7/27	7/24	7/21
2024	7/30	8/5	7/25
2025	7/29	7/24	7/28
平年	7/26	7/26	7/21

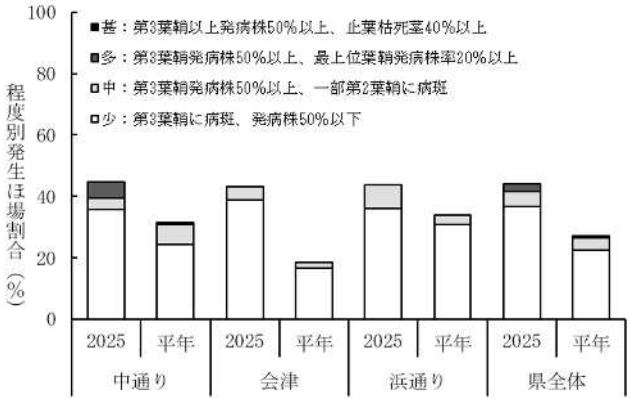


図 3- 6 紋枯病の発生状況（8 月下旬）

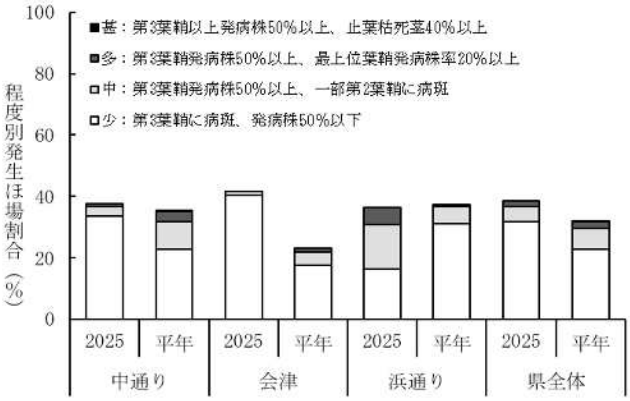


図 3- 7 紋枯病の発生状況（9 月上旬）

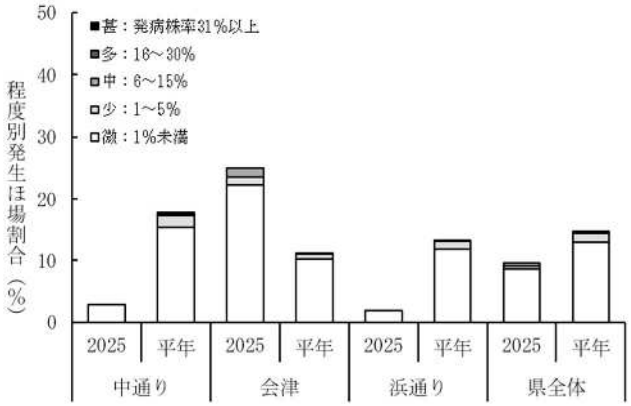


図 3- 8 稲こうじ病の発生状況（9 月上旬）

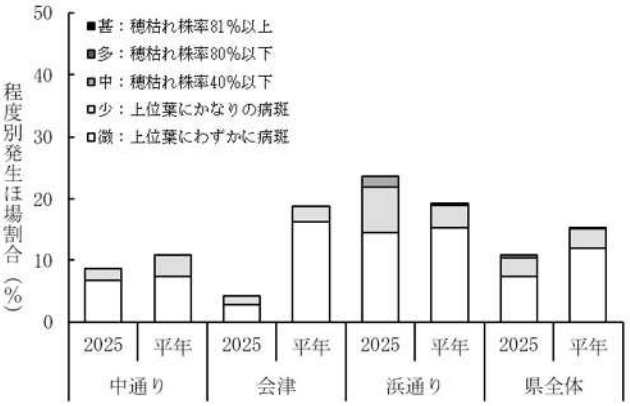


図 3- 9 ごま葉枯病の発生状況（9 月上旬）

表 3- 6 イネミズゾウムシの成虫侵入盛期、防除適期シミュレーション結果

アメダス地点		侵入盛期（月/日）			防除適期（月/日）		
		本年	平年	平年差(日)	本年	平年	平年差(日)
中通り	梁川	5/8	5/4	4	5/16	5/14	2
	福島	5/5	5/3	2	5/16	5/12	4
	二本松	5/9	5/7	2	5/17	5/17	0
	郡山	5/14	5/11	3	5/21	5/21	0
	白河	5/15	5/13	2	5/22	5/24	-2
	東白川	5/9	5/9	0	5/18	5/20	-2
会津	猪苗代	5/29	5/25	4	6/9	6/5	4
	若松	5/15	5/10	5	5/21	5/19	2
	喜多方	5/17	5/13	4	5/26	5/23	3
	西会津	5/18	5/15	3	5/28	5/25	3
	田島	5/22	5/21	1	6/7	6/2	5
浜通り	相馬	5/16	5/13	3	5/28	5/23	5
	浪江	5/11	5/9	2	5/20	5/20	0
	飯舘	5/19	5/21	-2	6/4	5/31	4
	広野	5/17	5/13	4	5/31	5/23	8
	小名浜	5/12	5/13	-1	5/21	5/24	-3

注）パラメータは、３月１日起算、毎正時気温、発育零点13.8℃とし、
有効積算温度から侵入盛期：72.8日度、防除適期：110日度とした。
注）平年は平成27～令和６年のシミュレーションの平均。

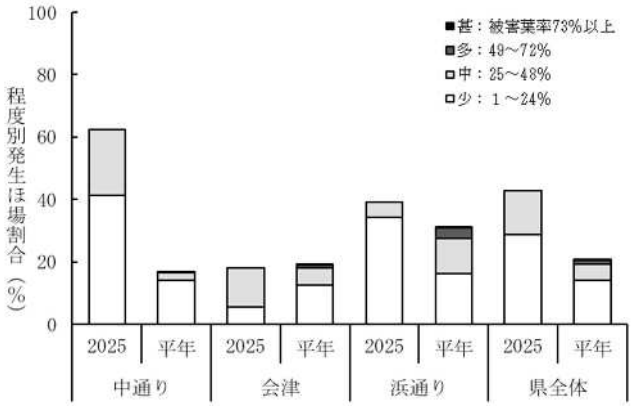


図 3- 10 イネミズゾウムシの発生状況

（6 月下旬）

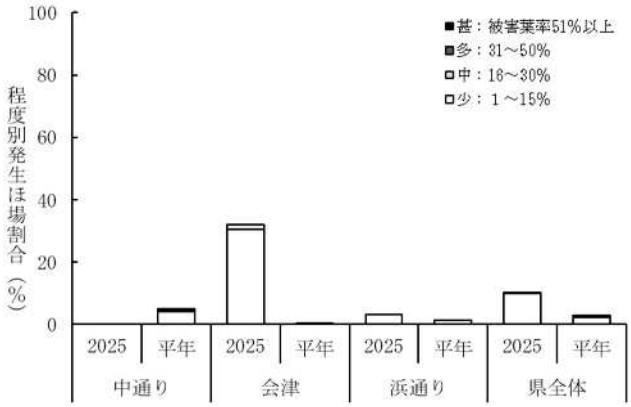


図 3- 11 イネドロオイムシの発生状況

（6 月下旬）

表 3- 7 イネドロオイムシの成虫侵入盛期、幼虫の防除適期シミュレーション結果

アメダス地点		侵入盛期（月/日）			幼虫の防除適期（月/日）		
		本年	平年	平年差（日）	本年	平年	平年差（日）
中通り	梁川	5/12	5/10	2	5/22	5/22	0
	福島	5/11	5/7	4	5/20	5/20	0
	二本松	5/14	5/11	3	5/22	5/23	-1
	郡山	5/16	5/15	1	5/27	5/27	0
	白河	5/17	5/17	0	5/29	5/29	0
	東白川	5/14	5/14	0	5/24	5/27	-3
会津	猪苗代	5/28	5/26	2	6/11	6/8	3
	若松	5/16	5/14	2	5/27	5/25	2
	喜多方	5/18	5/16	2	5/30	5/28	2
	西会津	5/20	5/18	2	6/3	5/31	3
	田島	5/25	5/24	1	6/10	6/8	2
浜通り	相馬	5/18	5/16	2	6/2	5/27	6
	浪江	5/15	5/13	2	5/27	5/25	2
	飯舘	5/21	5/23	-2	6/7	6/6	1
	広野	5/17	5/14	3	6/3	5/26	8
	小名浜	5/13	5/13	0	5/25	5/26	-1

注）パラメータは、４月１日起算、発育零点11.0℃、有効積算温度が侵入盛期：140日度、幼虫の防除適期（ふ化盛期）：220日度とした。

注）平年は平成27～令和６年のシミュレーションの平均。

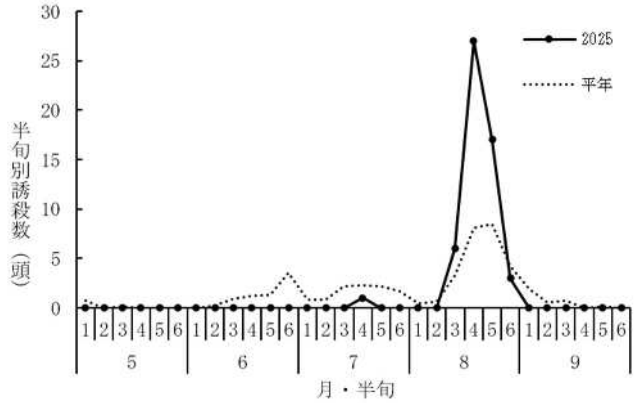


図 3- 12 予察灯によるフタオビコヤガの誘殺状況（会津坂下町）

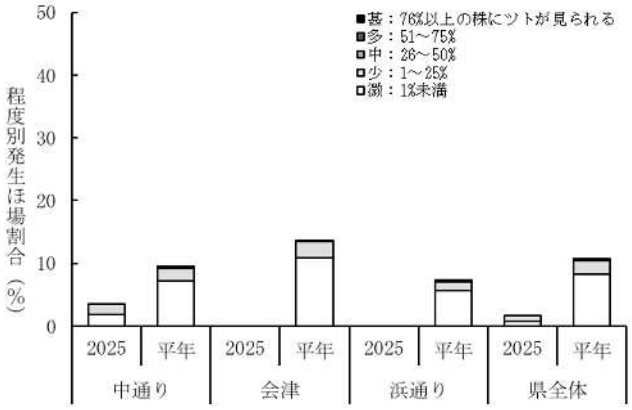


図 3- 13 水田内におけるイチモンジセセリ（イネツトムシ)の発生状況(8 月下旬)

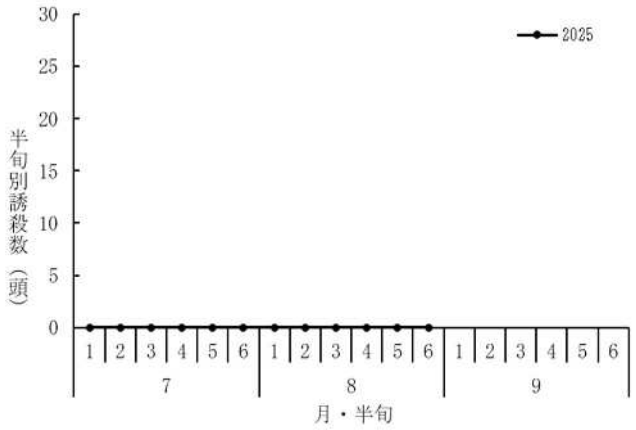


図 3- 14 青色粘着トラップにおけるイチモンジセセリの誘殺数推移

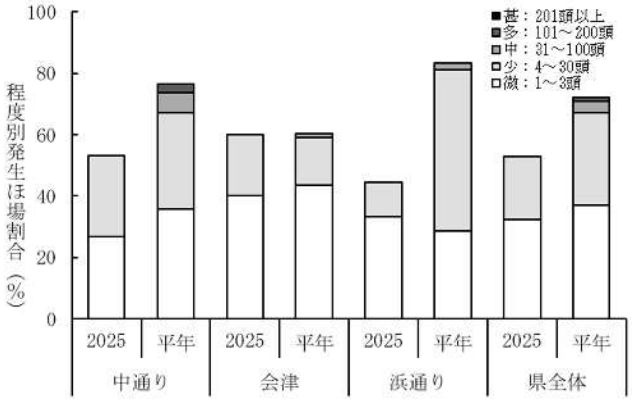


図 3- 15 イナゴの発生状況（8 月上旬）

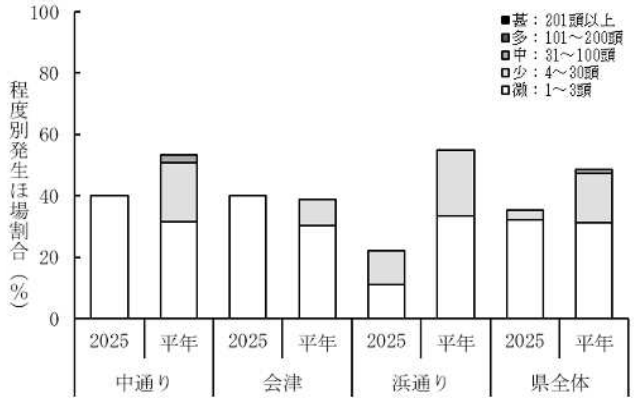


図 3- 16 イナゴの発生状況（8 月下旬）

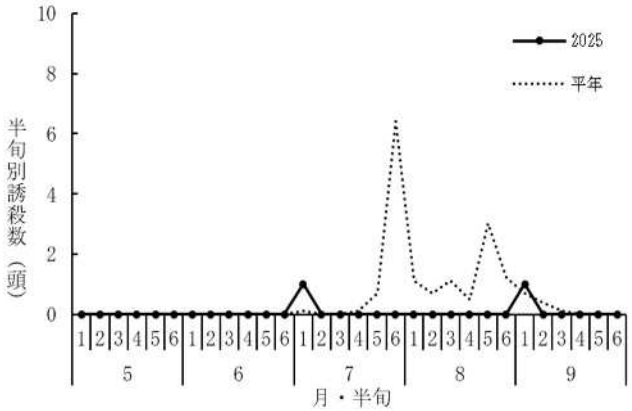


図 3- 17 予察灯によるセジロウンカの誘殺状況（会津坂下町）

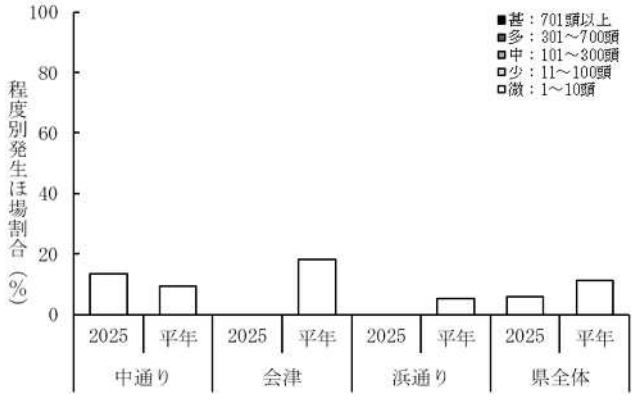


図 3- 18 水田内におけるセジロウンカの発生状況（7 月下旬・すくい取り）

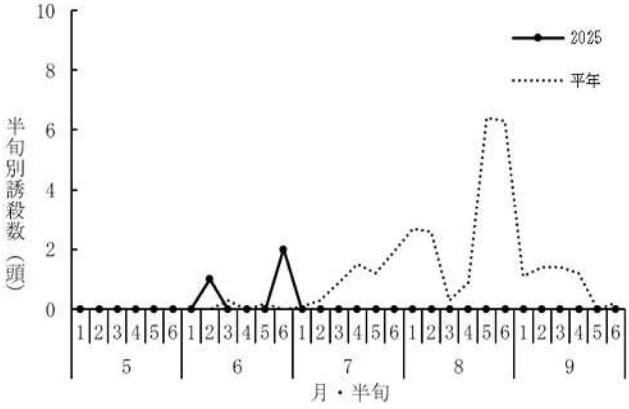


図 3- 19 予察灯によるヒメトビウンカの誘殺状況（会津坂下町）

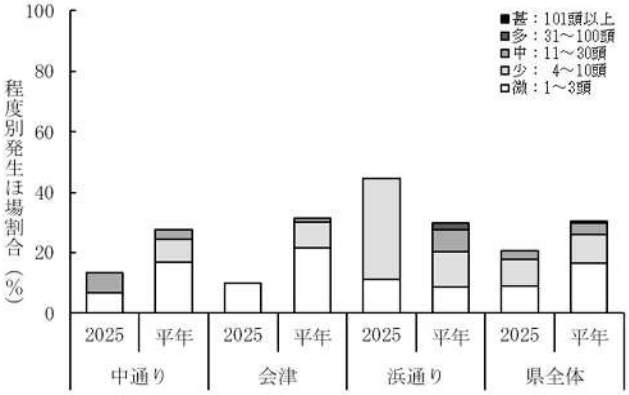


図 3- 20 水田内におけるヒメトビウンカの発生状況（7 月下旬・すくい取り）

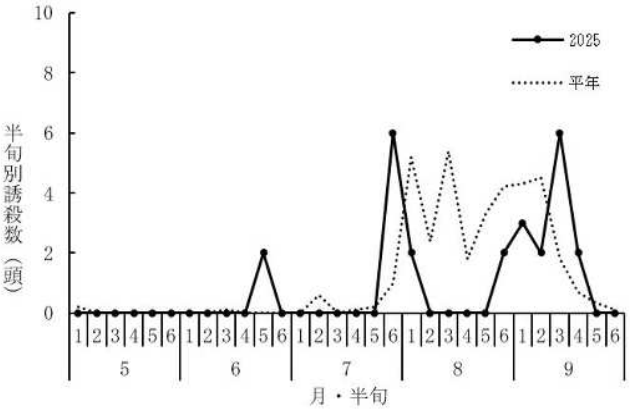


図 3- 21 予察灯によるツマグロヨコバイの誘殺状況（会津坂下町）

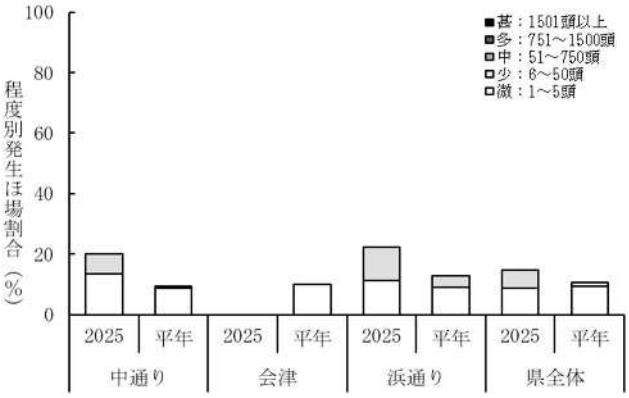


図 3- 22 水田内におけるツマグロヨコバイの発生状況（7 月下旬・すくい取り）

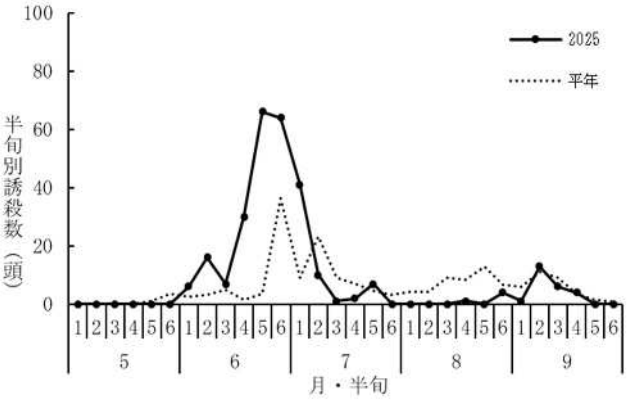


図 3- 23 予察灯によるアカスジカスミカメの誘殺状況（会津坂下町）

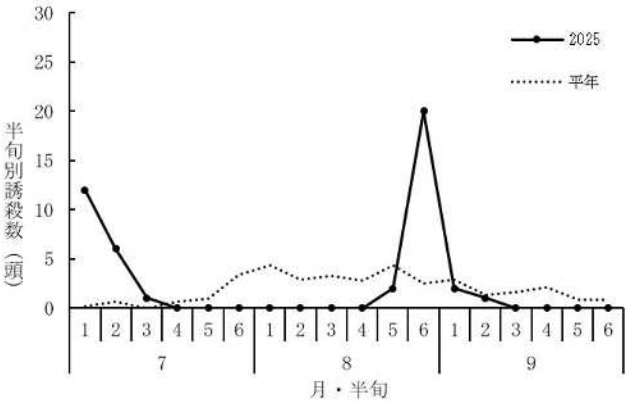


図 3- 24 フェロモントラップによるアカスジカスミカメの誘殺状況（郡山市）

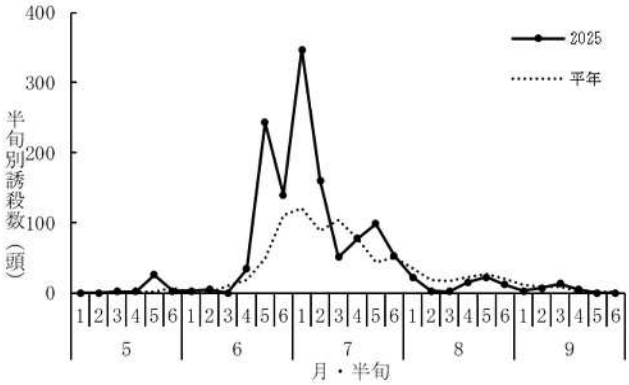


図 3- 25 予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺状況（会津坂下町）

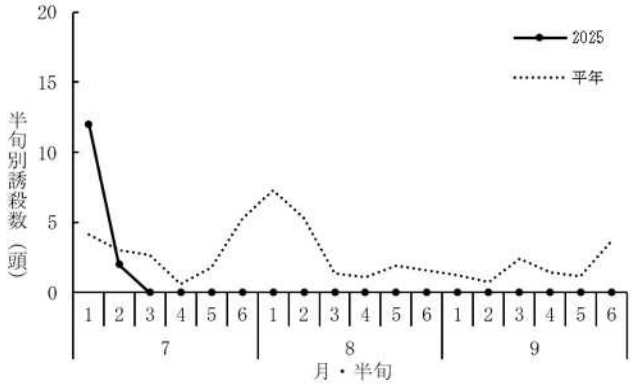


図 3- 26 フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺状況（郡山市）

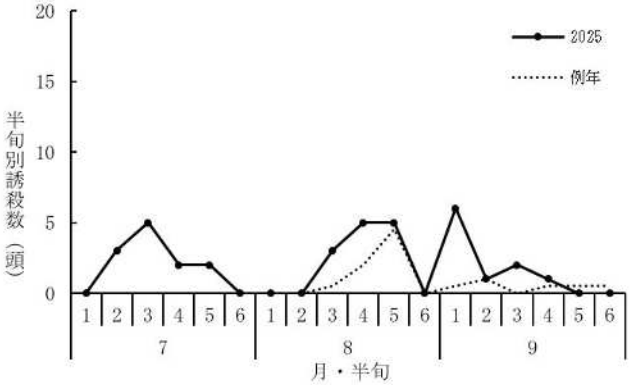


図 3- 27 フェロモントラップによるクモヘリカメムシの誘殺状況（国見町）

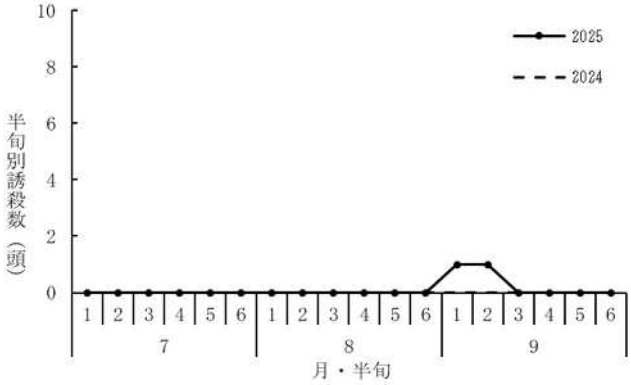


図 3- 28 フェロモントラップによるクモヘリカメムシの誘殺状況（大玉村）

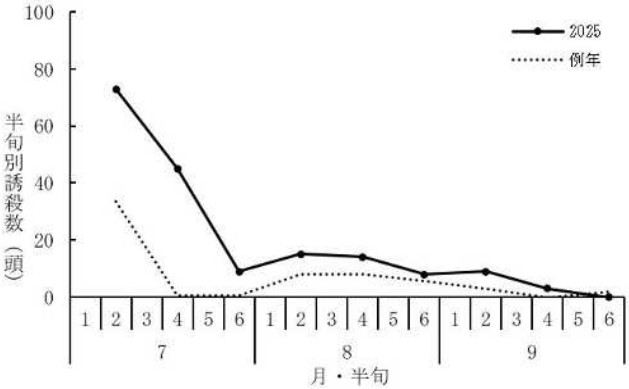


図 3- 29 フェロモントラップによるクモヘリカメムシの誘殺状況（田村市）

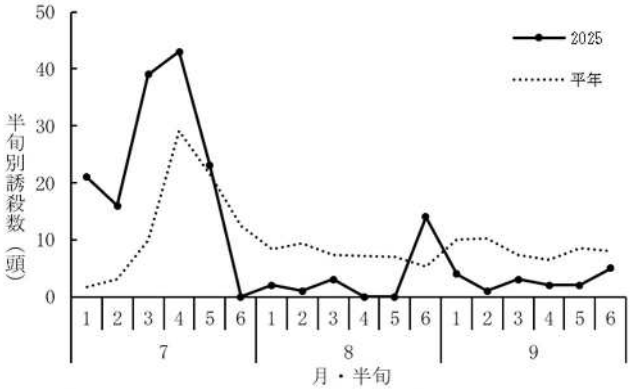


図 3- 30 フェロモントラップによるクモヘリカメムシの誘殺状況（矢祭町）

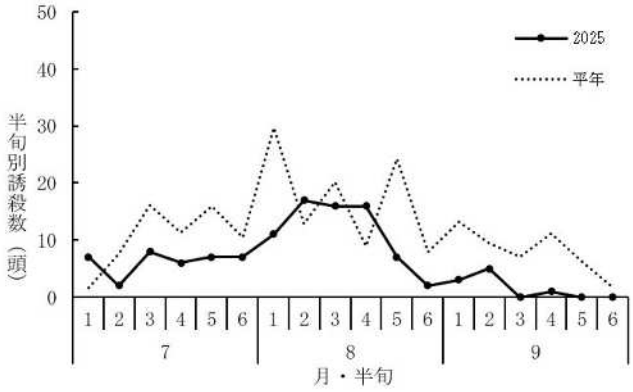


図 3- 31 フェロモントラップによるクモヘリカメムシの誘殺状況（相馬市今田）

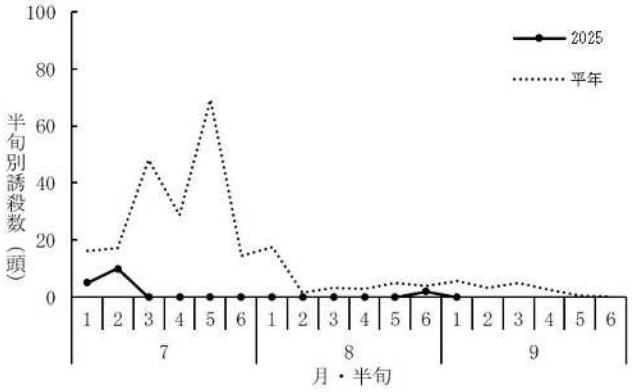


図 3- 32 フェロモントラップによるクモヘリカメムシの誘殺状況(いわき市瀬戸町)

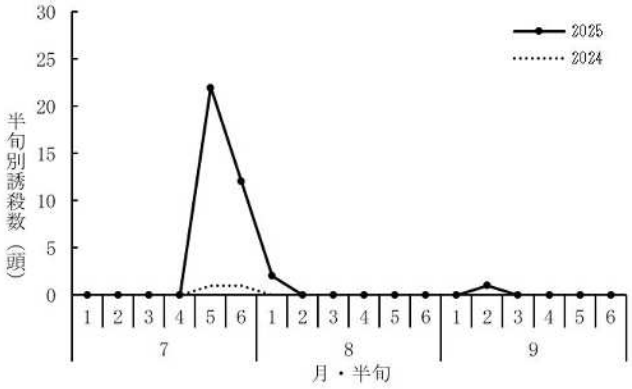


図 3- 33 白色粘着板によるイネカメムシの誘殺状況（いわき市平下大越）

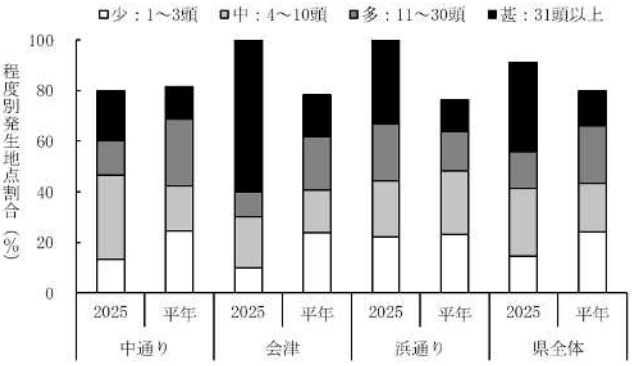


図 3- 34 水田畦畔における斑点米カメムシ類の発生状況（7 月上旬・すくい取り）

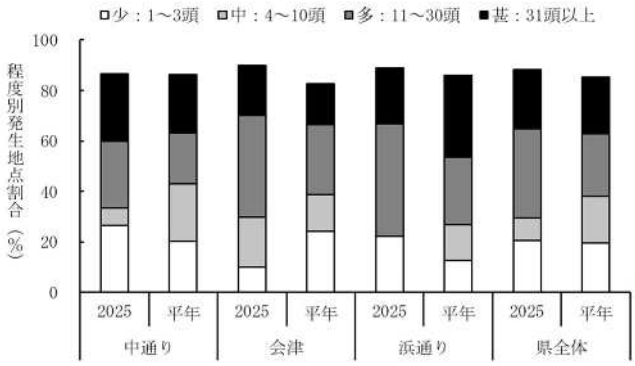


図 3- 35 水田畦畔における斑点米カメムシ類の発生状況（7 月下旬・すくい取り）

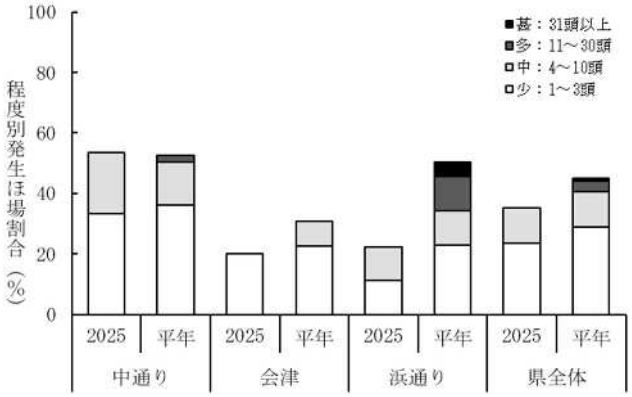


図 3- 36 水田内における斑点米カメムシ類の発生状況（8 月下旬・すくい取り）

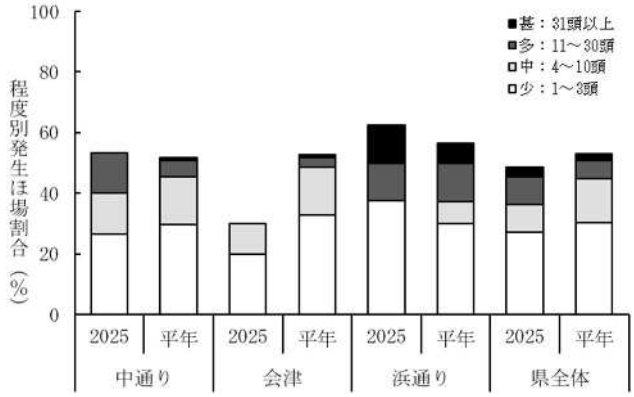


図 3- 37 水田内における斑点米カメムシ類の発生状況（9 月上旬・すくい取り）

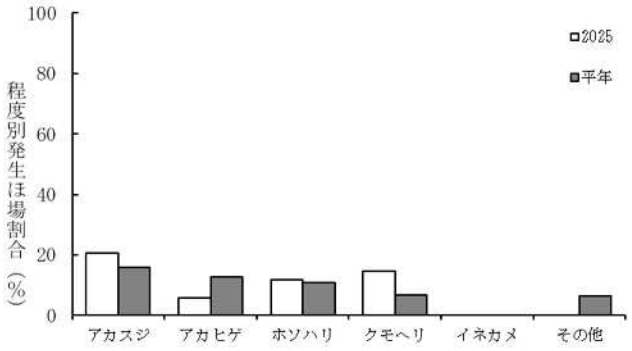


図 3- 38 水田内における斑点米カメムシ類の加害種別発生状況（8 月上旬・すくい取り）

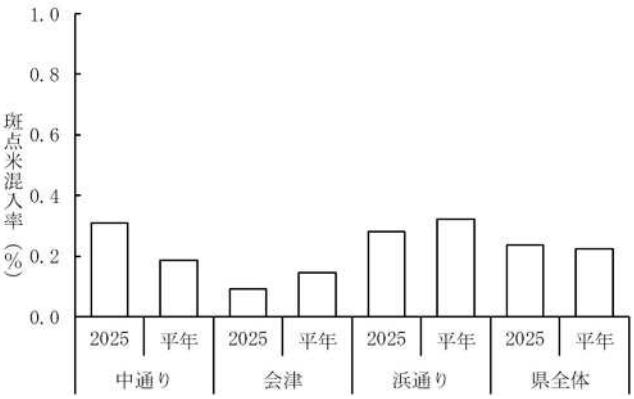


図 3- 39 斑点米調査による斑点米混入率

イ　麦類

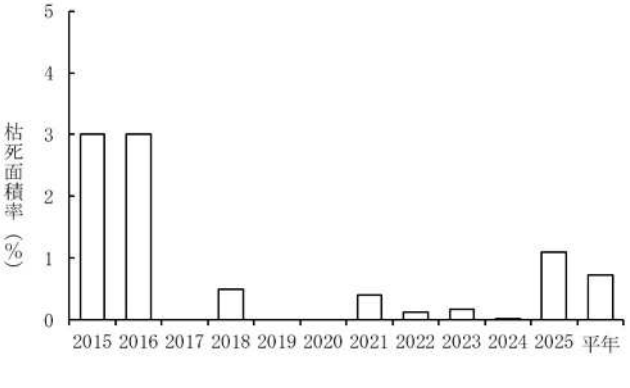


図 3- 40 雪腐病による枯死面積率の推移（3～4 月）

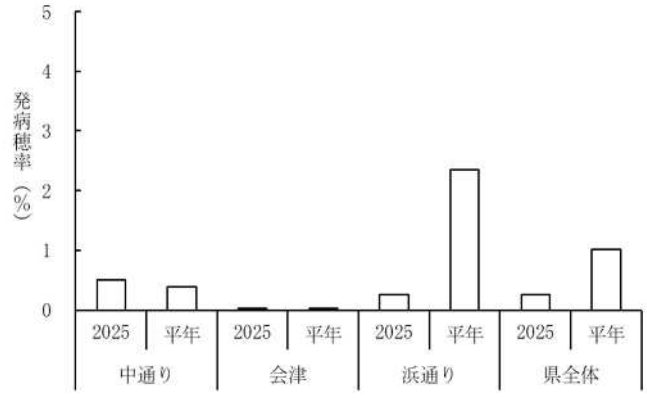


図 3- 41 赤かび病の発生状況（6 月）

ウ　ダイズ

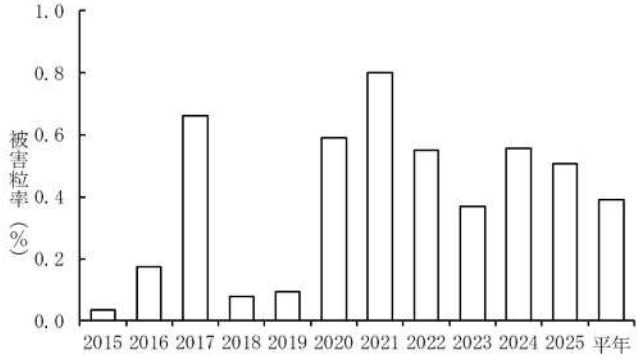


図 3- 42 紫斑病による子実被害の発生状況

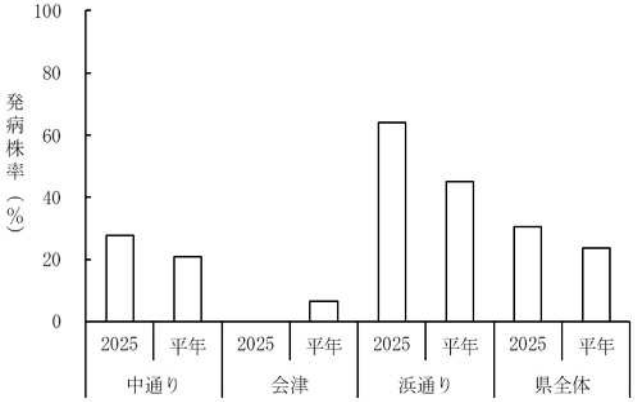


図 3- 43 べと病の発生状況（8 月）

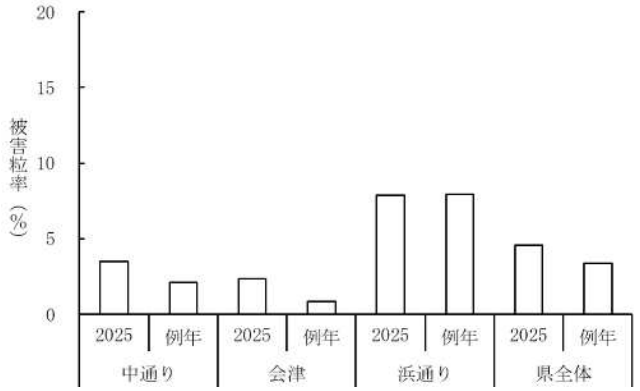


図 3- 44 べと病による子実被害の発生状況

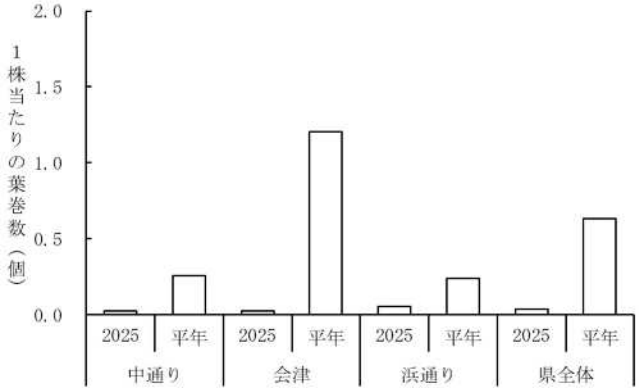


図 3- 45 ウコンノメイガ幼虫による葉巻の発生状況（8 月）

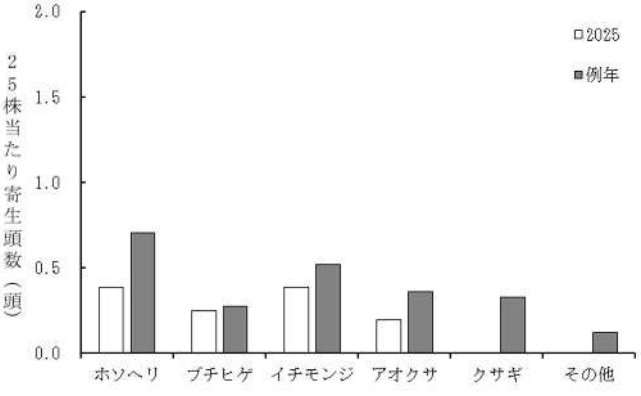


図 3- 46 吸実性カメムシ類の種別発生状況（9 月）

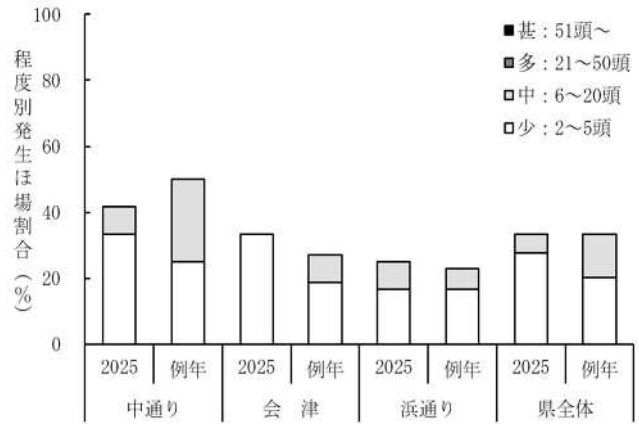


図 3- 47 払落し調査における吸実性カメムシ類の発生状況（9 月）

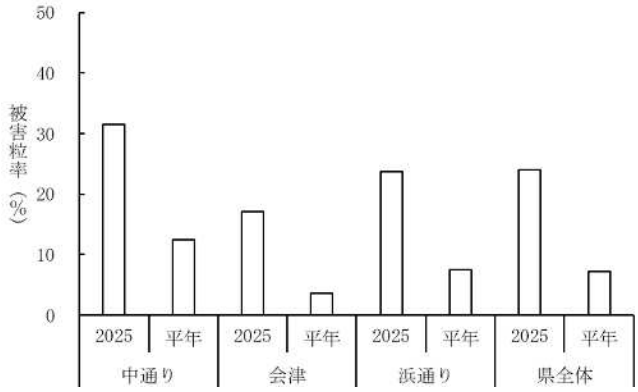


図 3- 48 吸実性カメムシ類による子実被害の発生状況

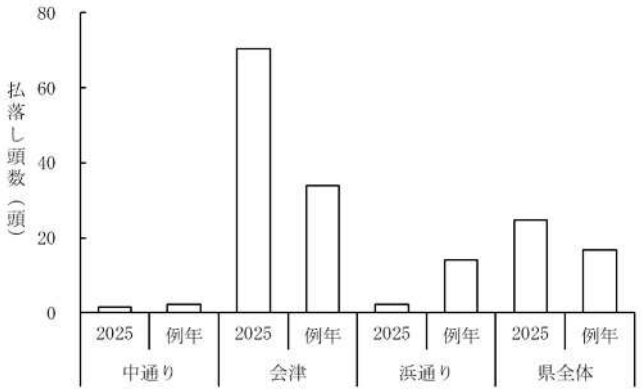


図 3- 49 フタスジヒメハムシの払落し頭数（9 月）

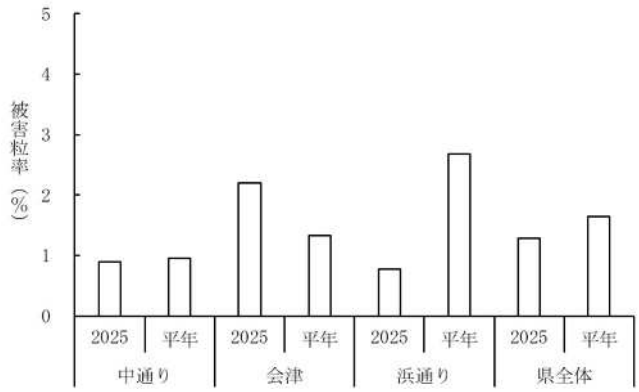


図 3- 50 フタスジヒメハムシによる子実被害の発生状況

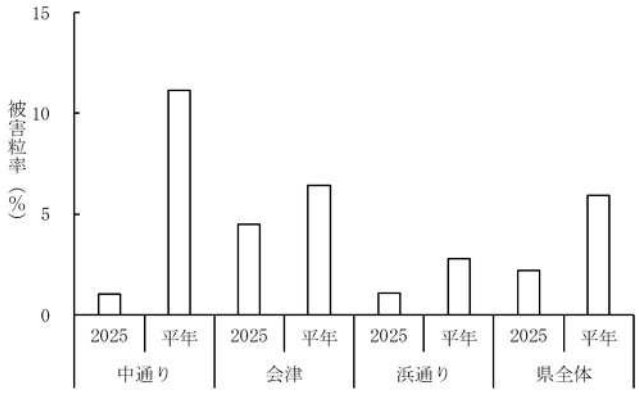


図 3- 51 マメシンクイガによる子実被害の発生状況

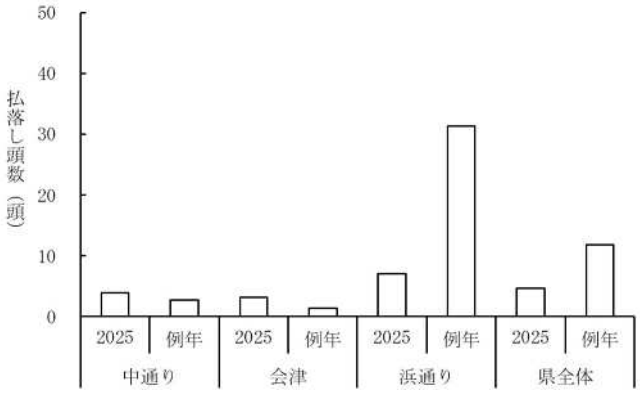


図 3- 52 食葉性チョウ目害虫の払落し頭数（8 月）

（2）果樹

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
リンゴ	斑点落葉病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	新梢葉での発生は、6 月下旬から確認され、発生ほ場割合は平年並に推移したが、10 月上旬のみ平年より少なかった（図 3- 53)。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	黒星病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	新梢葉、果実ともに発生は確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	5 月に県中・県南でのみ発生が確認され、発生ほ場割合は並であった（図 3-54)。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	腐らん病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	5 月下旬の発生ほ場割合は、平年並であった（図 3- 55)。	薬剤による防除は行われていると考えられるが、発生ほ場では発病部位が放置されているケースが見受けられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	輪紋病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	果実での発生は 9 月から確認され、発生ほ場割合は、平年よりやや高く推移した（図 3- 56)。	9 月以降の降雨によって感染が助長されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われたが、適期防除とならなかった可能性がある。
	褐斑病	平年：早 前年：並	平年：並 前年：並	果そう葉での発生は 5 月から確認され、発生ほ場割合は平年並であった（図 3-58)。 新梢葉での発生は県北および会津で 6 月から、県中・県南で 5 月から確認された。発生ほ場割合は、県北で 7 月まで、県中・県南で 9 月まで平年より高く推移した。会津では変動が見られるが、全体的に平年より低く推移した（図 3-57)。 果実での発生は確認されなかった	県中・県南では 5 月に初発が確認された。5月～6月中旬は降水量が多かったことが、9 月まで発生が多い要因と考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われたが、5 月の降雨で発生が増加した。 病害虫防除情報（6 月 30 日）を発表し、二次感染期の適切な防除などを呼び掛けた。
	炭疽病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：多	果実での発生は 9 月から確認され、9 月、10月の発生ほ場割合は平年よりも高く推移したが、11月はやや低かった（図 3- 59)。	梅雨期は高温乾燥により感染が少なかった一方、8 月の降雨により感染が助長されたと考えられた。	県防除指針の採用薬剤による防除が行われた。
	すす点病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	果実での発生は 10 月上旬から確認され、発生ほ場割合は、やや高く推移した（図 3- 60)。	9 月以降の降雨によって感染が助長されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
リンゴ	すす斑病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	果実での発生は 10 月上旬から確認され、発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した（図 3- 61）。	9 月以降の降雨によって感染が助長されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われたが、追加で防除を行う必要があった可能性がある。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：並	新梢葉の寄生は 6 月から確認され、発生ほ場割合は中通りでは平年より高く、会津では 8 月まで高く推移した（図 3-62）。 優占種は、県北と会津でリンゴハダニ、県中・県南でナミハダニが主体であった（図 3-63、64）。	7 月の日平均気温は平年より 3.9℃高く、夏季の高温乾燥によりハダニ類が多発生したと考えられた。また、急激な増加により防除が追い付かず、被害が拡大したと考えられる。	病害虫防除情報（7 月 10 日、8 月 1 日）を発表し、発生状況に応じた薬剤防除の徹底を呼びかけた。
	シンクイムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	ナシヒメシンクイのフェロモントラップへの誘殺は 4 月 3 半旬から確認され、越冬世代及び第 1 世代の誘殺数は平年より多かったが、その後は平年並に推移した（図 3-65）。 モモシンクイガ及びスモモヒメシンクイ（会津美里町、国見町）のフェロモントラップへの誘殺はそれぞれ 6 月 6 半旬、5 月 1 半旬（会津美里町）、6 月 2 半旬（国見町）から確認され、平年並に推移した（図 3-67、69、70）。 果実被害はいずれも 8 月以降に認められ、平年並であった（図 3-66、68、71）。	適期防除の実施、複合交信かく乱剤の導入により発生が抑えられていると考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	ハマキムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	リンゴコカクモンハマキ及びリンゴモンハマキの誘殺は、いずれも 5 月 2 半旬から確認された（図 3-72、73）。 ハマキムシ類の新梢被害は 6 月に、果実被害は 11 月に確認され、発生ほ場割合はいずれも平年並であった（図 3-74、75）。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	キンモンホソガ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	新梢葉被害は、7 月から確認され、発生ほ場割合は、平年よりやや高く推移した（図 3- 76）。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
リンゴ	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	新梢寄生の発生は5月から確認され、発生ほ場割合は、平年並に推移した（図3- 77）。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	ギンモンハモグリガ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	新梢被害は、確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	ヒメボクトウ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	被害は、確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
モ　モ	せん孔細菌病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	春型枝病斑の初発確認は、4月2日（参考調査「ゆうぞら」）であった。巡回調査では、5月上旬のみで発生が確認された（図3- 78）。 新梢葉での発生は、9月下旬のみ確認され、平年より低かった（図3- 80）。 果実の発生は確認されなかった（図3-79）。	次年の生産のための秋期防除も含め、適期防除が実施されたと考えられる。 また、本病は卓効を示す薬剤はなく、物理的防除や耕種的防除を組み合わせた総合的防除対策が必要であるが、生産者は本病に対する意識が高く、総合的防除対策に積極的に取り組むケースが多いと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。また、春型枝病斑や罹病部位の除去や防風ネットの設置といった総合的な防除対策が行われた。 病害虫防除情報（4月30日）を発表し、各種防除対策を行うよう注意喚起した。
	灰星病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	花腐れ及び果実の発病は確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	ホモプシス腐敗病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	果実での発生は、確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：並	新梢葉の寄生は6月から確認され、発生ほ場割合は平年より高く推移した（図3- 81）。 優占種は、6月はカンザワハダニ、7月はクワオオハダニであり、8月はカンザワハダニ及びクワオオハダニであった（図3- 82、図3- 83）。	7月の日平均気温は平年より3.9℃高く、夏季の高温乾燥によりハダニ類が多発生したと考えられた。また、急激な増加により防除が追い付かず、被害が拡大したと考えられる。	病害虫防除情報（7月10日、8月1日）を発表し、発生状況に応じた薬剤防除の徹底を呼びかけた。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
モ　モ	シンクイムシ類	平年：やや早 前年：並	平年：並 前年：並	ナシヒメシンクイ・モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺状況については、リンゴのシンクイムシ類を参照（図 3- 65、図 3- 67）。モモノゴマダラノメイガのフェロモントラップへの誘殺は、6 月 1 半旬から確認され、誘殺数は例年並であった（図 3- 84）。 ナシヒメシンクイによる新梢被害は、5 月から確認され、発生ほ場割合は福島地域では平年並に、伊達地域では平年より高く推移した（図 3- 85）。 シンクイムシ類による果実被害は確認されなかった。	適期防除の実施、複合交信かく乱剤の導入により発生が抑えられていると考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	ハマキムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	フェロモントラップ誘殺状況については、リンゴのハマキムシ類を参照（図 3- 72、図 3- 73）。 新梢及び果実被害は、確認されなかった。	適期防除の実施、複合交信撹乱剤の導入により発生が抑えられていると考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	コスカシバ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	主幹における羽化殻数は、平年よりやや少なかった（図 3- 86）。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	モモハモグリガ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	2024 年 12 月の越冬量は、平年より多かった（図 3- 87）。 フェロモントラップにおける誘殺は 4 月 2 半旬から確認され、5 月 5 半旬より第 2 世代が確認された。6 月 2 半旬以降ほぼ見られなくなった。（図 3- 88）。 新梢葉の被害は 5 月下旬から確認され、発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した（図 3- 89）。	越冬量が平年より多く、4 月の発生量が増加したことが発生量がやや多くなった要因であると考えられる。	病害虫防除情報（3 月 31 日、5 月 21 日）を発表し、発生状況に応じた薬剤防除の徹底を呼びかけた。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	新梢の寄生は 6 月に確認され、平年並であった（図 3- 90）。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	カイガラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	側枝での寄生は 5 月下旬から確認され、発生ほ場割合は 5 月下旬では平年より高かったが、10 月下旬では平年よりも	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。

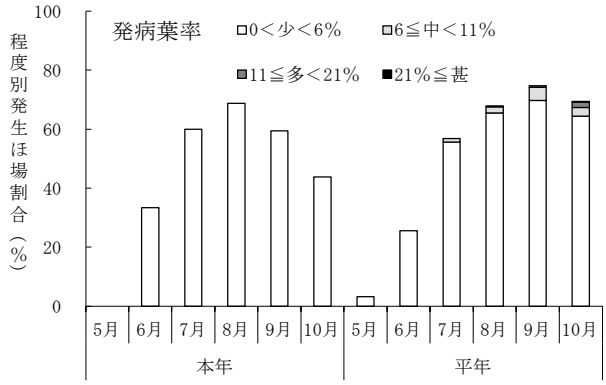
農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
モ　モ				やや低くなった（図 3- 91）。果実被害は確認されなかった。		
ナ　シ	黒星病	平年：やや早 前年：並	平年：やや少 前年：少	果そう基部での発生は 4 月中旬から確認され、5 月下旬の発生ほ場割合は平年よりやや低かった（図 3-92）。 果実での発生は 6 月下旬から確認され、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した（図 3-93）。 新梢葉での発生は 6 月下旬から確認され、県北では平年よりやや低く、県中・県南では高く、浜通りでは平年並に推移した（図 3-94）。	黒星病は秋期防除の徹底や梅雨期に降雨が少なかったことにより発生抑制できたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	輪紋病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	発生は、確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	赤星病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	新梢葉での発生は浜通りで 5 月下旬から確認され、発生ほ場割合は例年より高く推移した（図 3-95）。一方、県全域の発生ほ場割合は例年並であった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	新梢葉での発生は 6 月下旬から確認され、発生ほ場割合は各地域で平年より高く推移した。8 月の発生ほ場割合はいずれの地域でも過去 10 年間で最も高く、一部ほ場では多発生や早期落葉がみられた（図 3-96）。 優占種は、県北でナミハダニ、県中・県南および浜通りでカンザワハダニであった（図 3-97～99）。	7 月の日平均気温は平年より 3.9℃高く、夏季の高温乾燥によりハダニ類が多発生したと考えられた。また、急激な増加により防除が追い付かず、被害が拡大したと考えられる。	病害虫防除情報（7 月 10 日、8 月 1 日）を発表し、発生状況に応じた薬剤防除の徹底を呼びかけた。
	シンクイムシ類	平年：並 前年：やや遅	平年：並 前年：少	モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺状況については、リンゴのシンクイムシ類を参照（図 3- 65、図 3- 66、図 3- 67）。ナシヒメシンクイによる果実被害は 8 月下旬から確認され、平年並に推移した（図 3- 100）。	適期防除の実施、複合交信撹乱剤の導入により発生が抑えられていると考えられる。	病害虫防除情報に基づき、県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ナ　シ				モモシンクイガによる果実被害は8月下旬で確認され、平年並みであった（図3- 101）。		
	ハマキムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	フェロモントラップ誘殺状況については、リンゴのハマキムシ類を参照（図3- 72、図3- 73）。 巡回調査において新梢被害は6月に確認され、平年並であった。果実被害は、確認されなかった。	適期防除の実施、複合交信撹乱剤の導入により発生が抑えられていると考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	5月下旬から新梢寄生が確認され、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した（図3- 102）。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	カイガラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	ナシマルカイガラムシによる果実被害は確認されなかった（図3-103）。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	ヒメボクトウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	被害樹は、確認されなかった。	適期防除が実施され、発生ほ場では耕種的防除も実施されていると考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	ニセナシサビダニ	例年：並 前年：並	例年：やや少 前年：やや多	新梢の被害は、6月下旬から確認された。発生ほ場割合は、例年よりやや低かった（図3-104）。	2018年度から県防除指針に防除対策が記載されており、適切に防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
カ　キ	炭疽病	例年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	果実での発生ほ場割合は、例年並であった（図3-105）。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	円星落葉病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	新梢葉での発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（図3-106）。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	アザミウマ類	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	チャノキイロアザミウマ及びカキクダアザミウマによる果実被害は確認されず、平年よりやや低かった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
カ　キ	カイガラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	果実被害は、確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	ハマキムシ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	果実被害は、確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	カキノヘタムシガ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	果実被害は、確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
ブドウ	晩腐病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：並	収穫直前の調査で、発生が確認されたほ場があった（図 3-107）。	適期防除及び袋掛けや巻きひげ除去など耕種的対策も行われていると考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	灰色かび病	平年：－ 前年：並	平年：－ 前年：やや少	花・果房被害は確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられるが、防除剤や散布タイミングの再検討が必要と考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	べと病	平年：－ 前年：並	平年：－ 前年：やや少	新梢葉及び花・果房被害は、確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	黒とう病	平年：－ 前年：並	平年：－ 前年：並	新梢葉及び花・果房被害は、確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
	チャノキイロアザミウマ	平年：－ 前年：並	平年：－ 前年：やや少	花・果房被害は、確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われた。
果　樹 共　通	果樹カメムシ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	フェロモントラップへの誘殺は 4 月 3 半旬から確認され、県北地方、会津坂下町及び相馬市では越冬世代・当年世代とも平年より多く推移した（図 3-108～116）。また、クサギカメムシの越冬量は県北地方及び会津地方で平年より多かった（図 3-117）。 果実被害は、リンゴで 7 月下旬以降、ナシで 6 月下旬以降、モモで 5 月から確認され、いずれも平年より多く推移した	各樹種で 7 月の段階で果実被害が確認されたことから、越冬世代による被害があったと考えられる。当年世代成虫が果樹園に飛来し、秋期の被害の増加に繋がったと考えられる。	県防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われたが、追加散布やカメムシに効果のある剤への変更など対策が取られた。 病害虫防除情報（5 月 23 日、6 月 13 日）及び注意報（7 月 10 日）を発表し、注意喚起を図った。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
果　樹 共　通	果樹カメムシ類			（図 3-118～120）。また、フェロモントラップの誘殺数が多かった地域では果実被害も多い傾向がみられた。		

ア　リンゴ



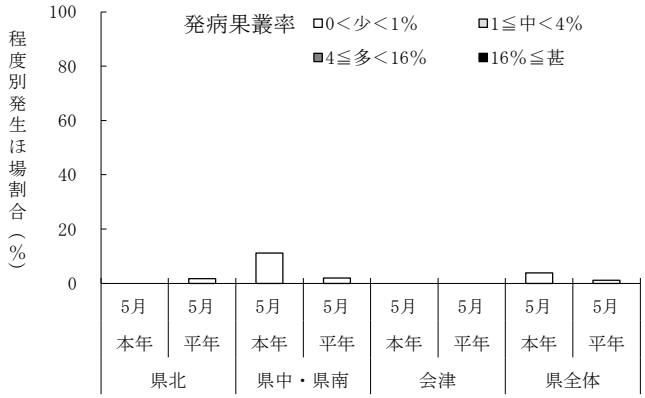


図 3- 53 斑点落葉病の新梢葉での発生状況（県全体）

図 3- 54 うどんこ病の花そうでの発生状況(県全体)

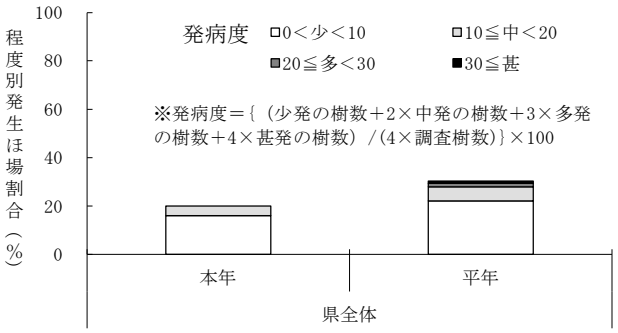


図 3- 55 腐らん病の発生状況(県全体)

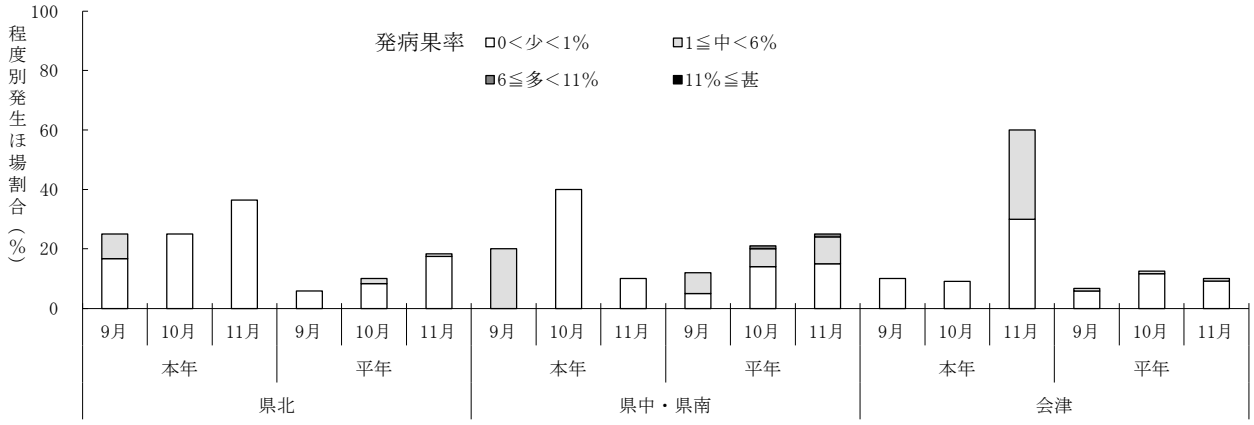


図 3- 56 輪紋病の果実での発生状況（県北・県中・県南・会津）

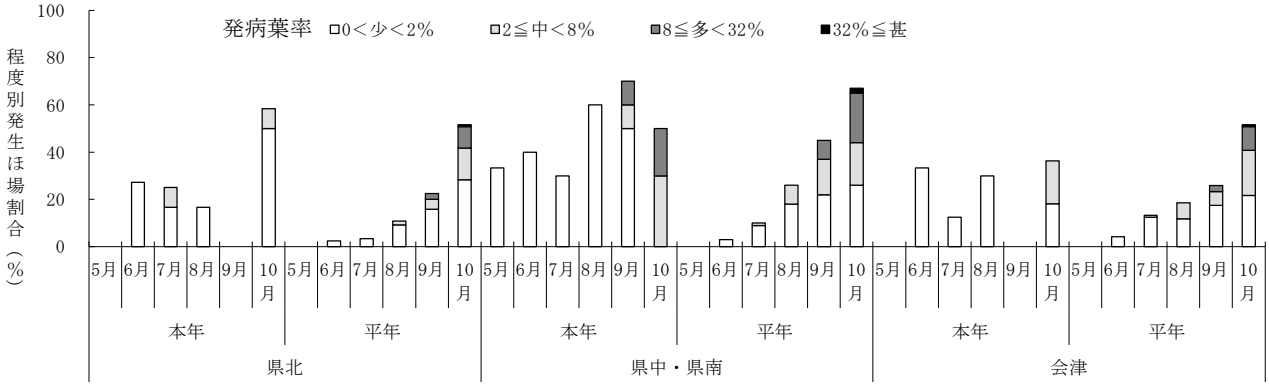


図 3- 57 褐斑病の新梢葉での発生状況（県北・県中・県南・会津）

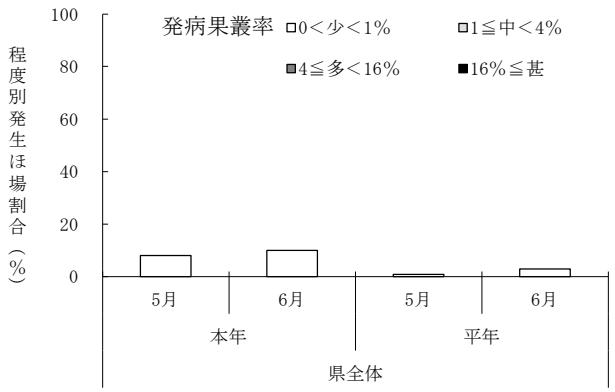


図 3- 58 褐斑病の果そう葉での発生状況(県全体)

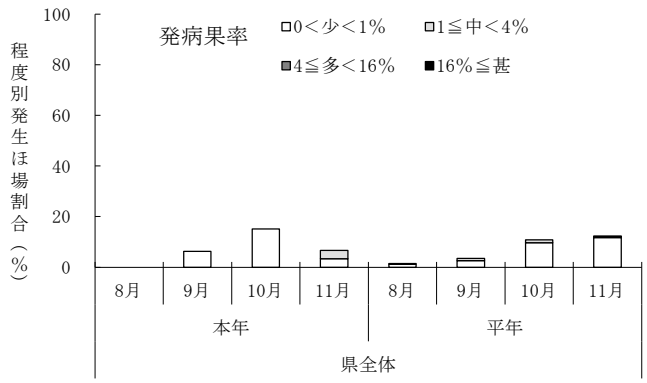


図 3- 59 炭疽病の果実での発生状況(県全体)

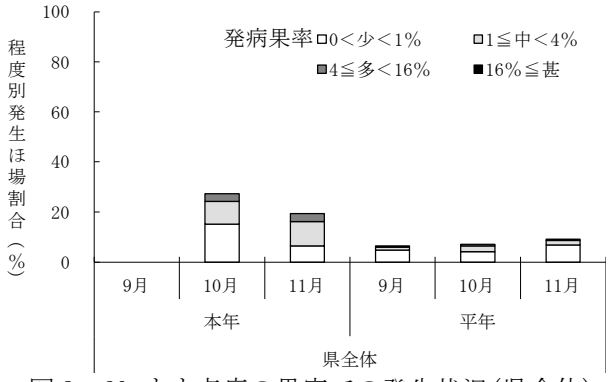


図 3- 60 すす点病の果実での発生状況(県全体)

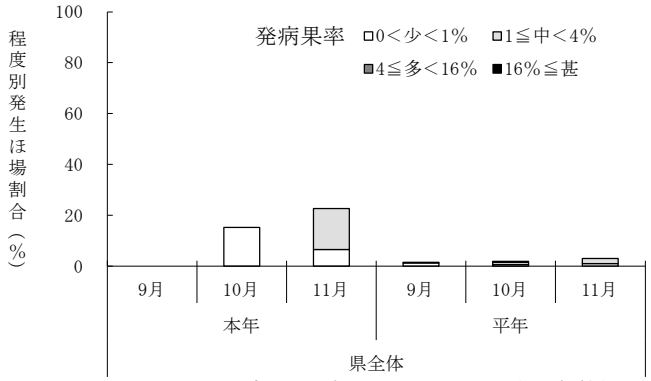


図 3- 61 すす斑病の果実での発生状況(県全体)

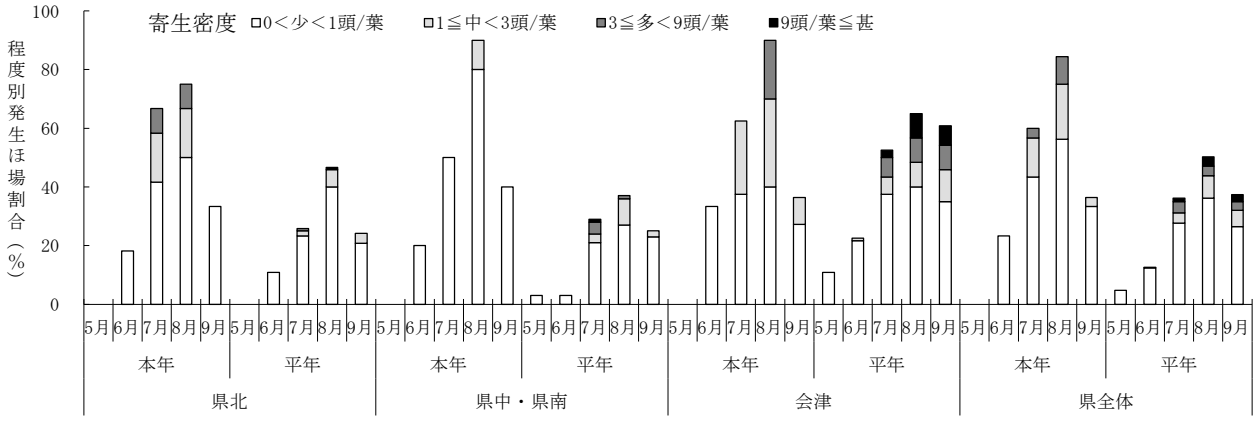


図 3- 62 ハダニ類の新梢葉の寄生状況（県全体）

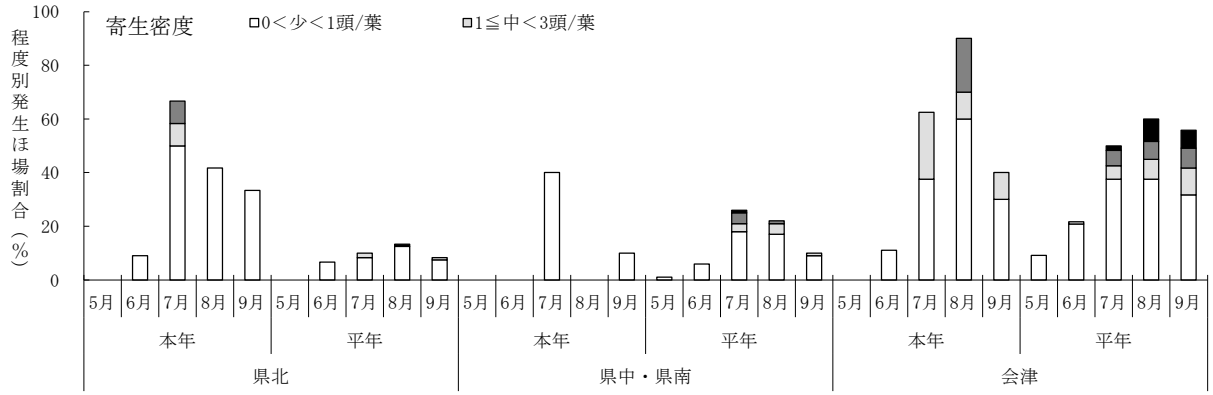


図 3- 63 リンゴハダニの新梢葉の寄生状況（県北、県中・県南、会津）

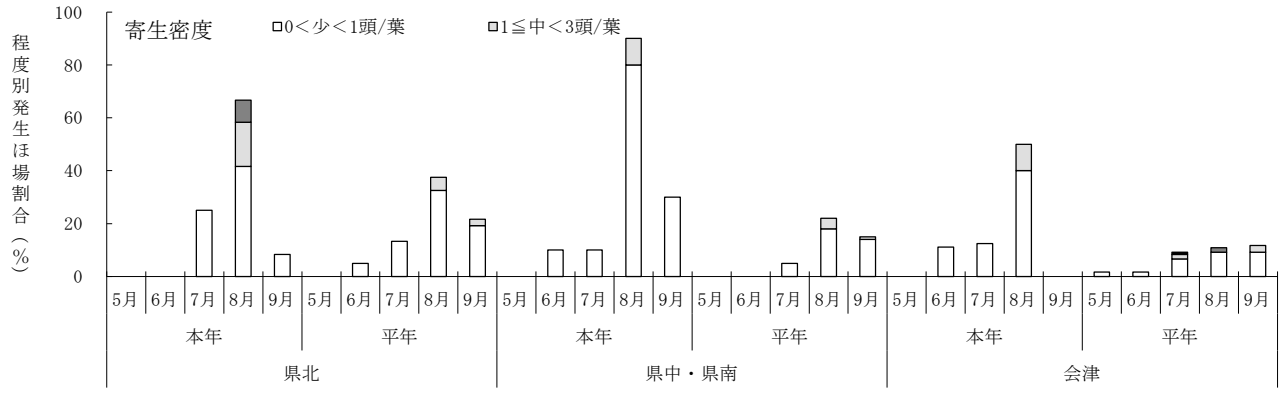


図 3- 64 ナミハダニの新梢葉の寄生状況（県北、県中・県南、会津）

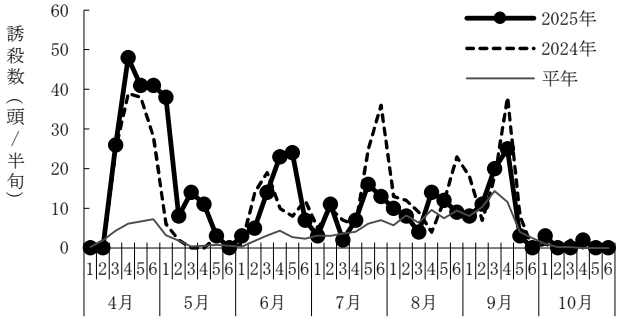


図 3- 65 フェロモントラップによるナシヒメシンクイの誘殺状況（鏡石町）

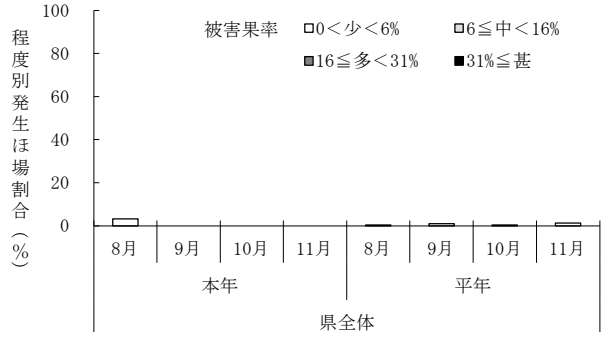


図 3- 66 ナシヒメシンクイによる果実の被害状況（県全体）

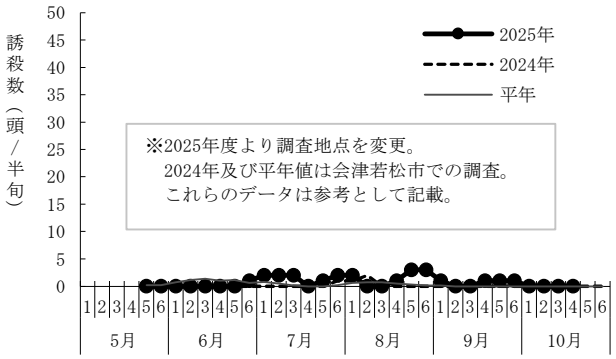


図 3- 67 フェロモントラップによるモモシンクガの誘殺状況（会津坂下町）

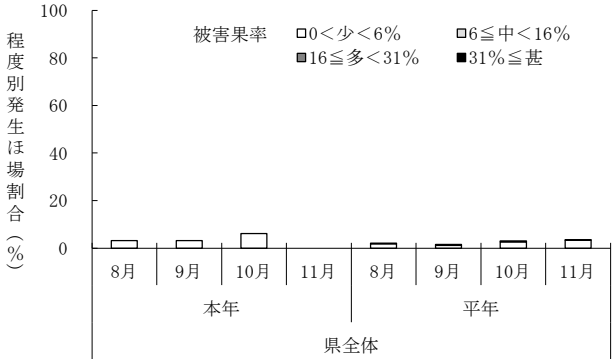


図 3- 68 モモシンクイガによる果実の被害状況（県全体）

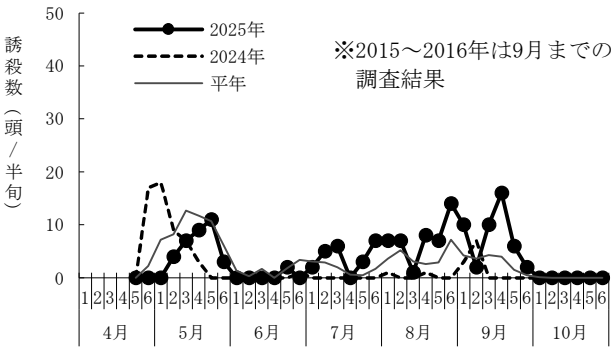


図 3- 69 フェロモントラップによるスモモヒメシンクイの誘殺状況（会津美里町）

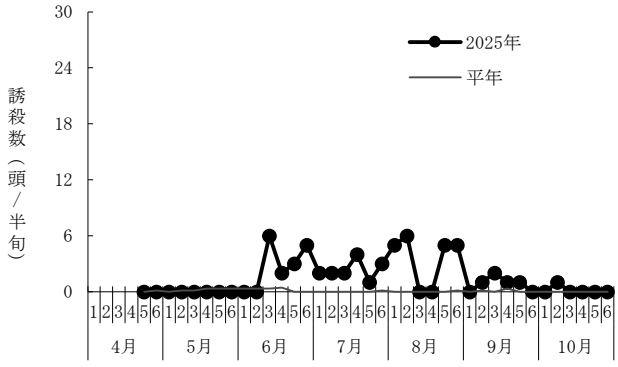


図 3- 70 フェロモントラップによるスモモヒメシンクイの誘殺状況（国見町）

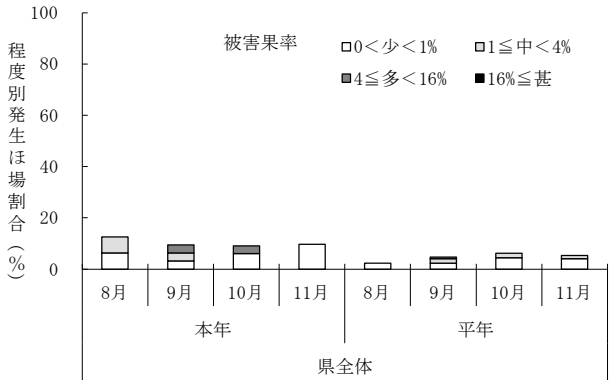


図 3- 71 スモモヒメシンクイによる果実の被害状況（県全体）

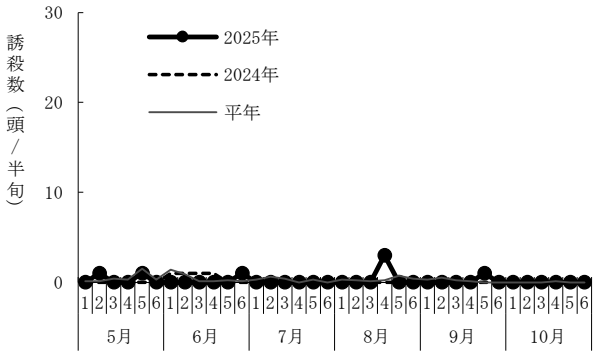


図 3- 72 フェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺状況（須賀川市）

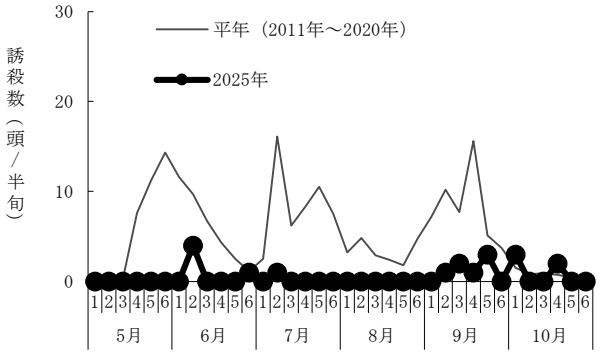


図 3- 73 フェロモントラップによるリンゴモンハマキの誘殺状況（須賀川市）

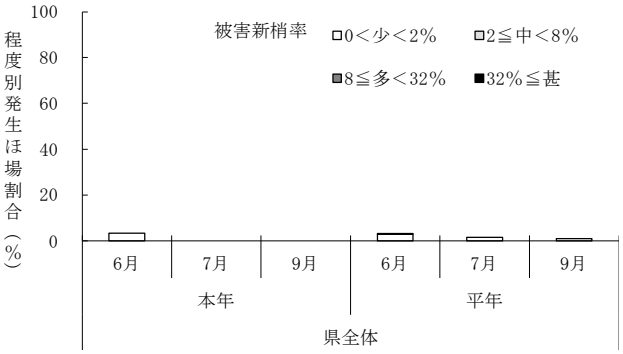


図 3- 74 ハマキムシ類による新梢での発生状況（県全体）

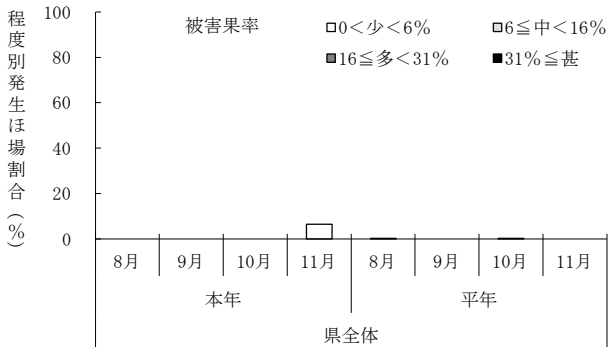


図 3- 75 ハマキムシ類による果実での発生状況（県全体）

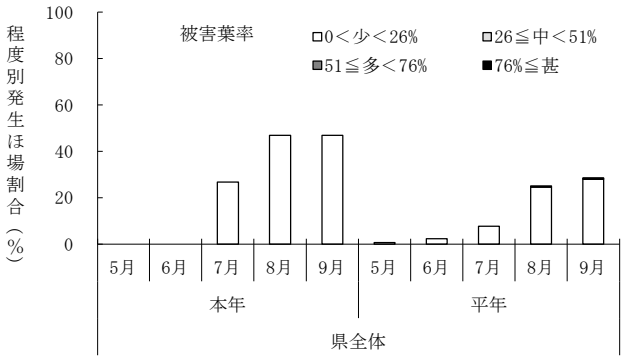


図 3- 76 キンモンホソガによる新梢での発生状況（県全体）

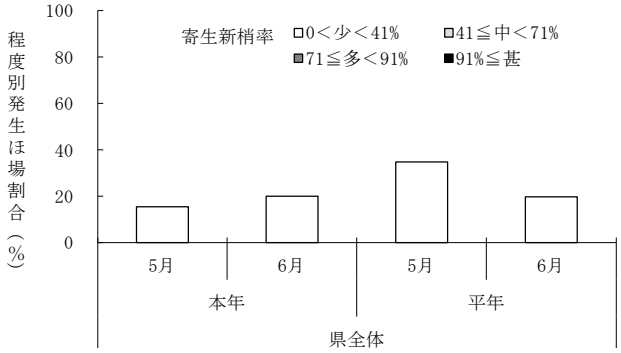


図 3- 77 アブラムシによる新梢での発生状況（県全体）

イ　モモ

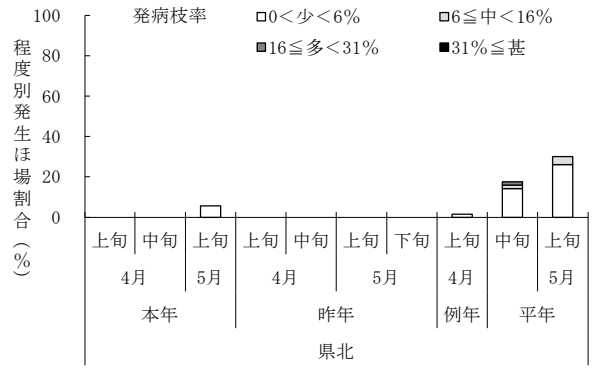


図 3- 78　せん孔細菌病の春型枝病斑の発生状況（県北）

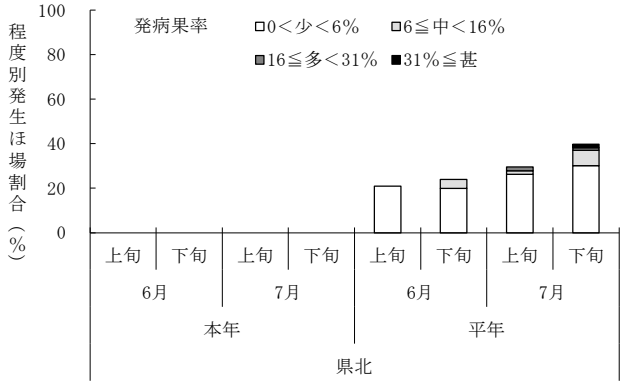


図 3- 79　せん孔細菌病の果実での発生状況（県北）

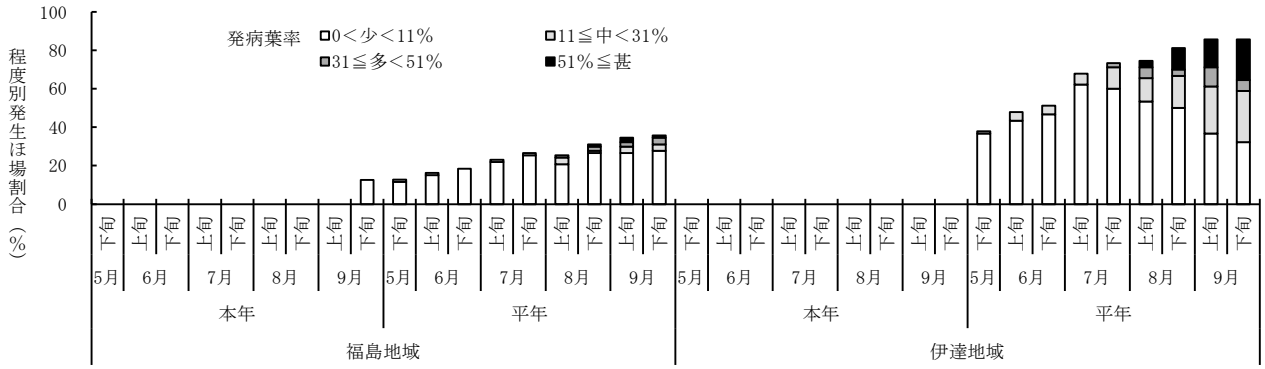


図 3- 80 せん孔細菌病の新梢葉での発生状況（福島地域・伊達地域）

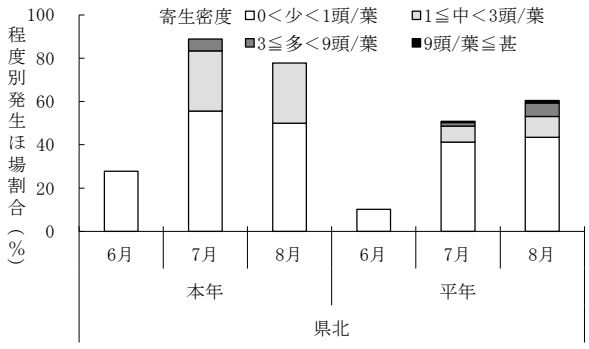


図 3- 81　ハダニ類による新梢葉の寄生状況（県北）

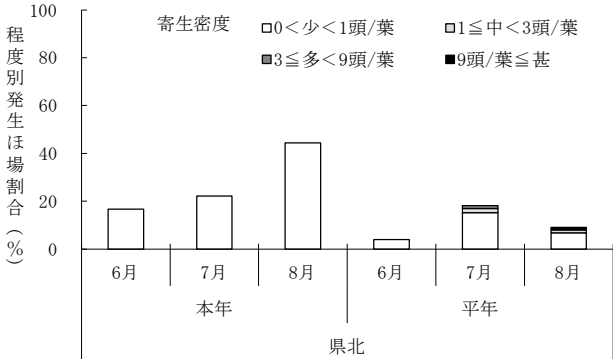


図 3- 82　カンザワハダニによる新梢葉の寄生状況（県北）

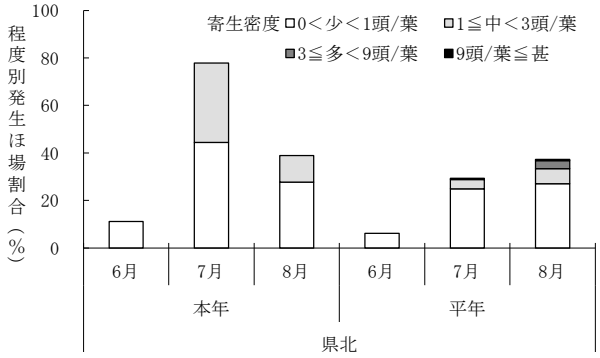


図 3- 83　クワオオハダニによる新梢葉の寄生状況（県北）

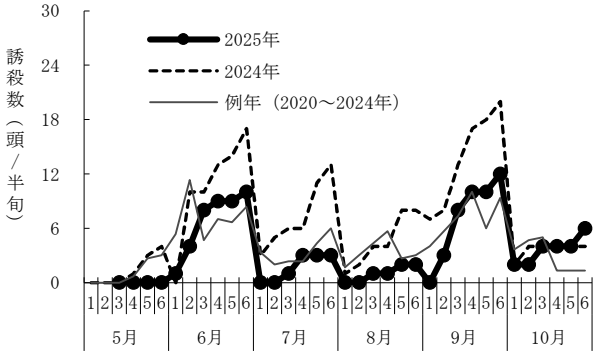


図 3- 84 フェロモントラップによるモモノゴマダラノメイガの誘殺状況（福島市）

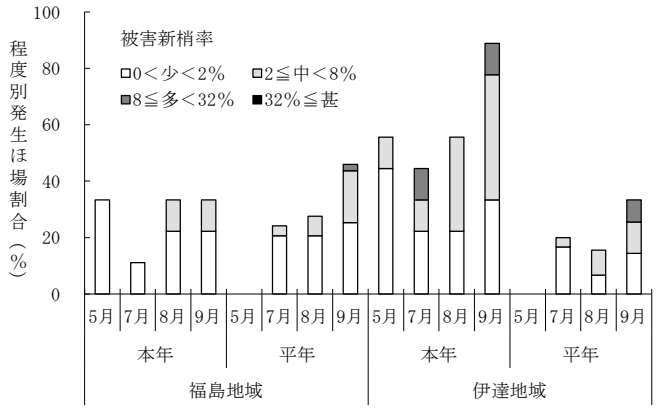


図 3- 85 ナシヒメシンクイによる新梢被害状況（福島地域・伊達地域）

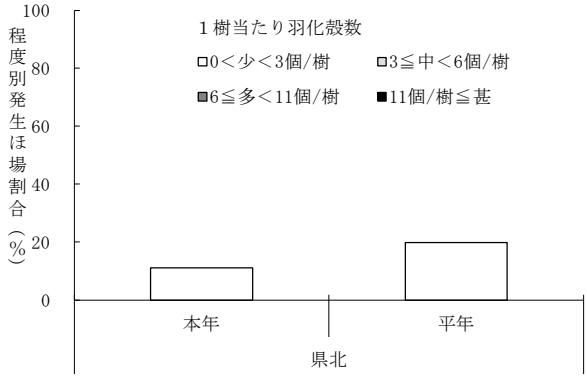


図 3- 86 コスカシバの寄生状況（県北）

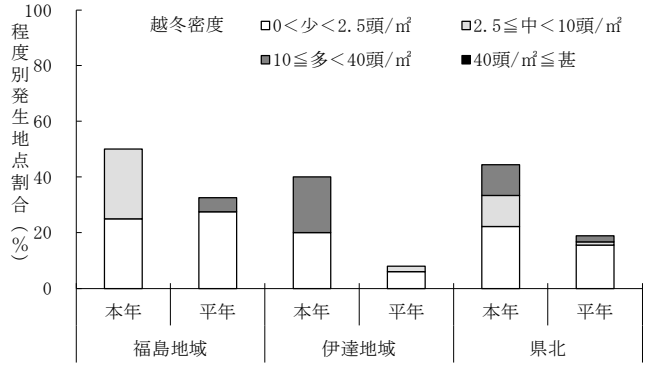


図 3- 87 モモハモグリガの越冬状況（2024 年 12 月調査、県北）

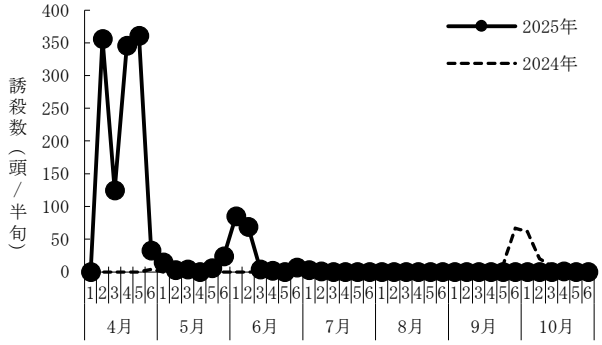


図 3- 88 フェロモントラップににによるモモハモグリガの誘殺状況（伊達市）

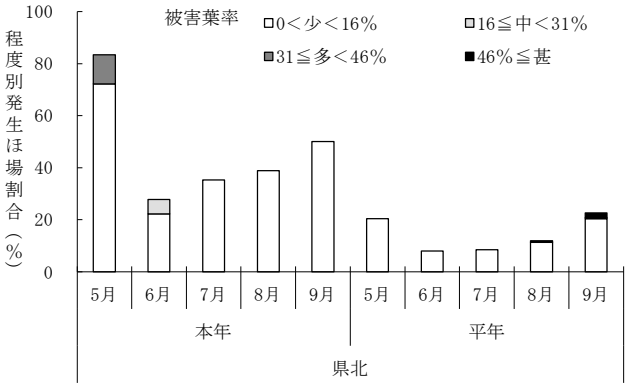


図 3- 89 モモハモグリガによる新梢葉の被害状況（県北）

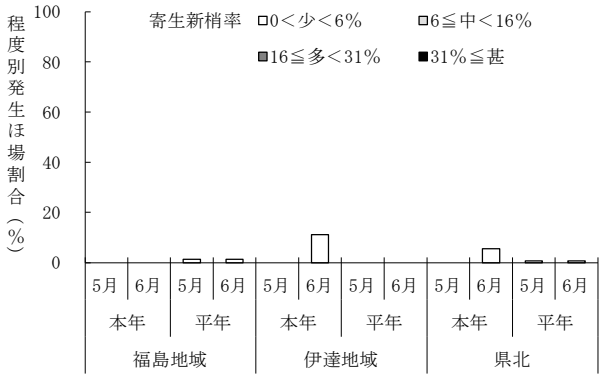


図 3- 90 アブラムシによる新梢での発生状況（県北）

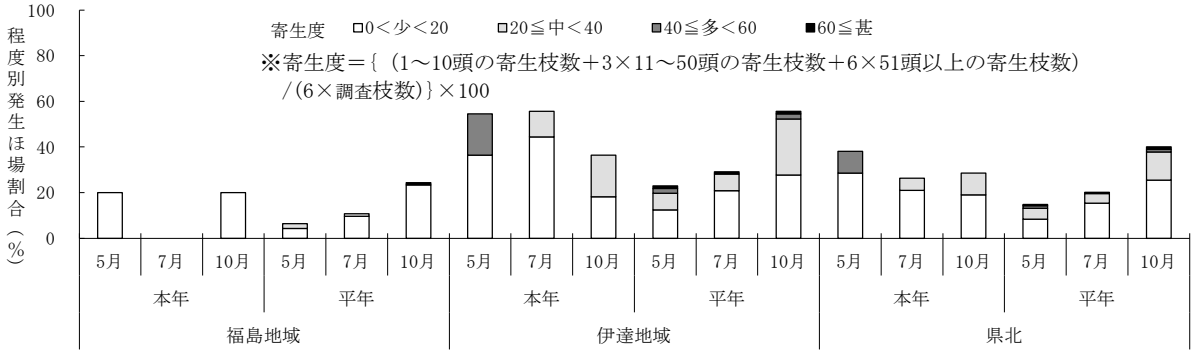


図 3- 91 シロカイガラムシ類の側枝の寄生状況（福島地域、伊達地域、県北）

ウ　ナシ

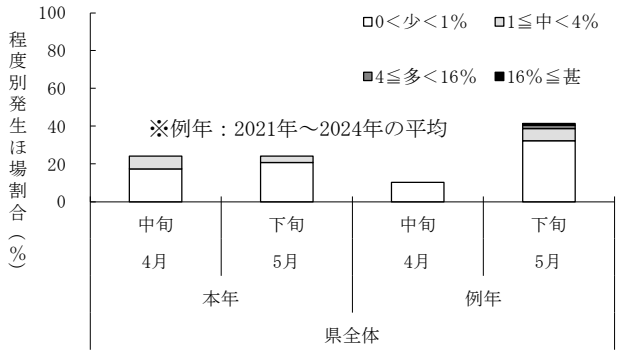


図 3- 92 黒星病の果そうでの発生状況（県全体）

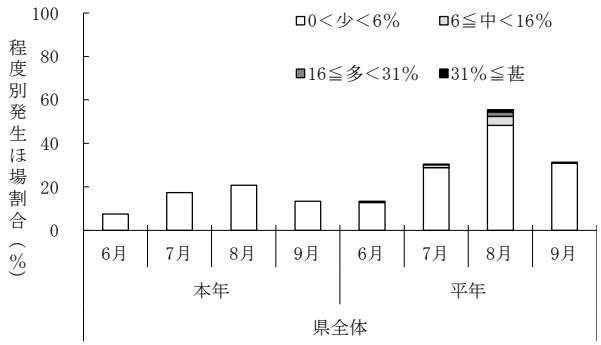


図 3- 93 黒星病の果実での発生状況（県全体）

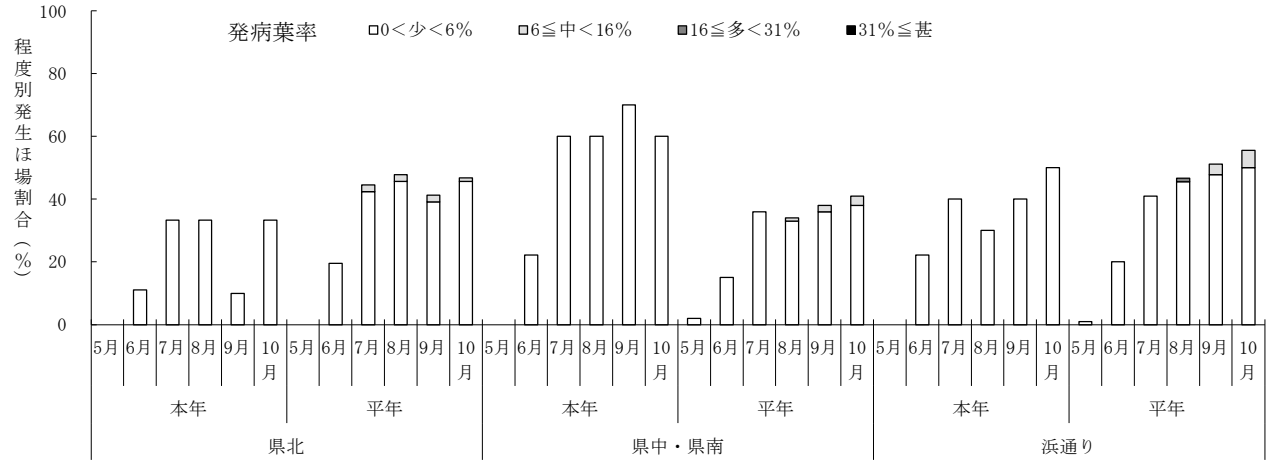


図 3- 94 黒星病の新梢葉での発生状況（県北・県中・県南・浜通り）

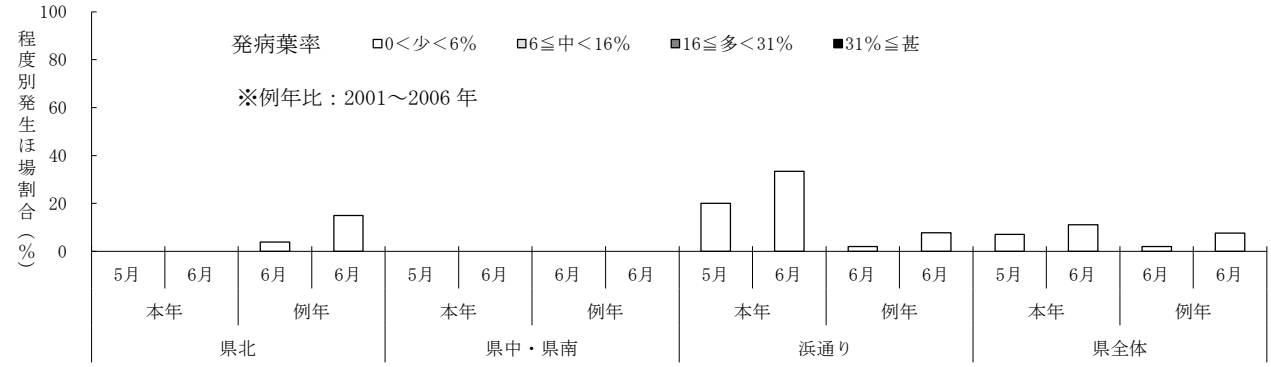


図 3- 95 赤星病の新梢葉での発生状況（県北・県中・県南・浜通り）

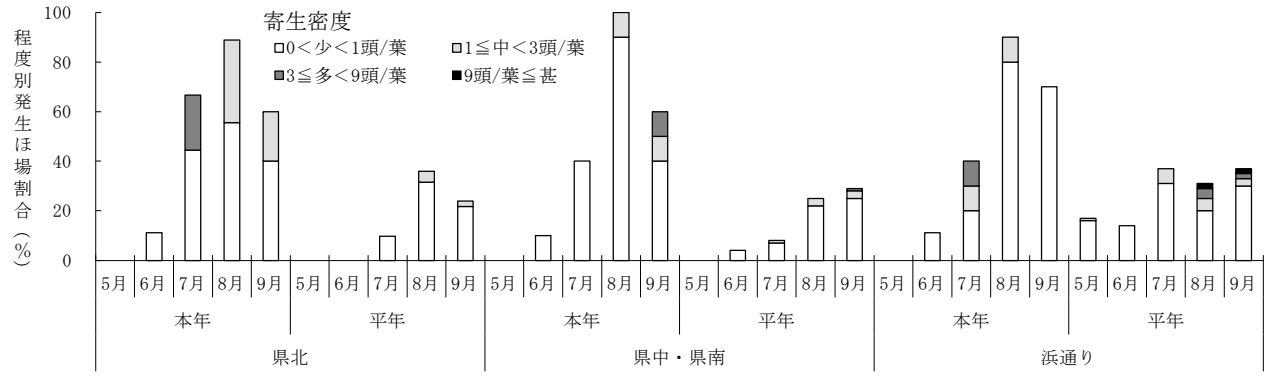


図 3- 96 ハダニ類の新梢葉の寄生状況（県北・県中・県南・浜通り）

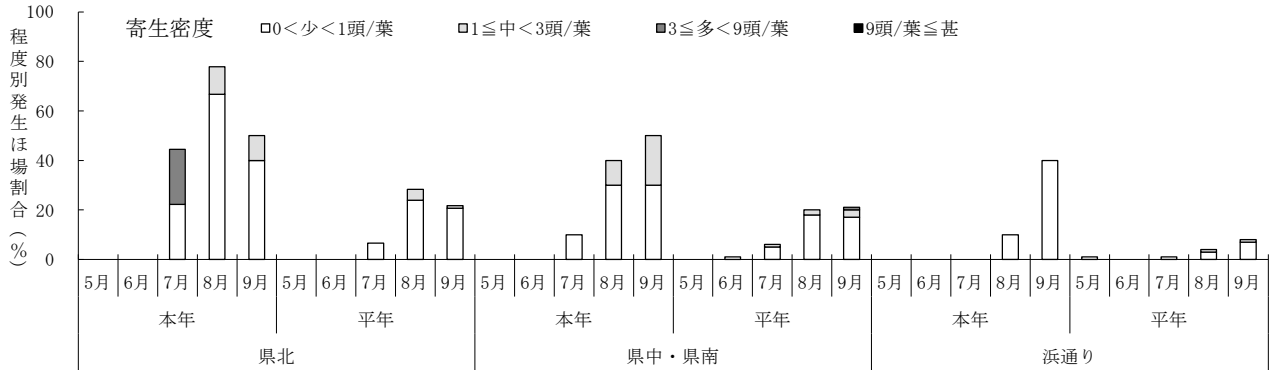


図 3- 97 ナミハダニの新梢葉の寄生状況（県北・県中・県南・浜通り）

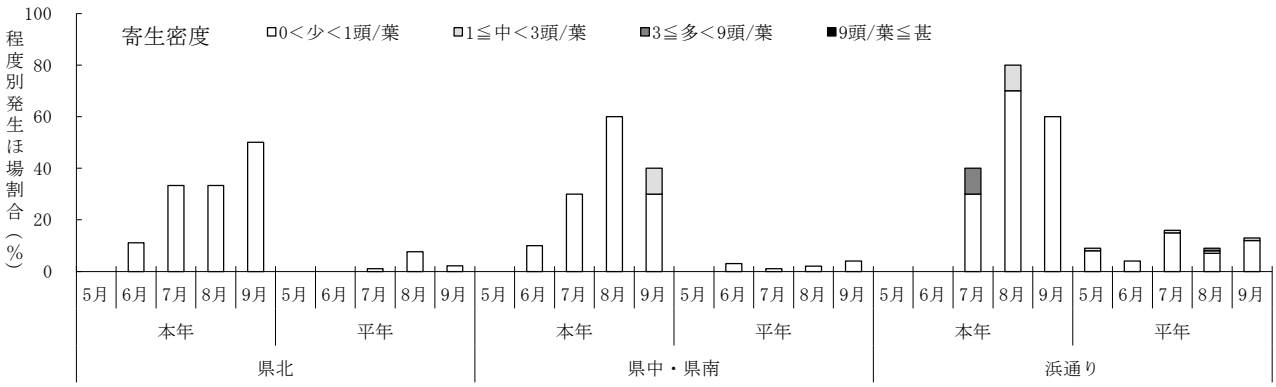


図 3- 98 カンザワハダニの新梢葉の寄生状況（県北・県中・県南・浜通り）

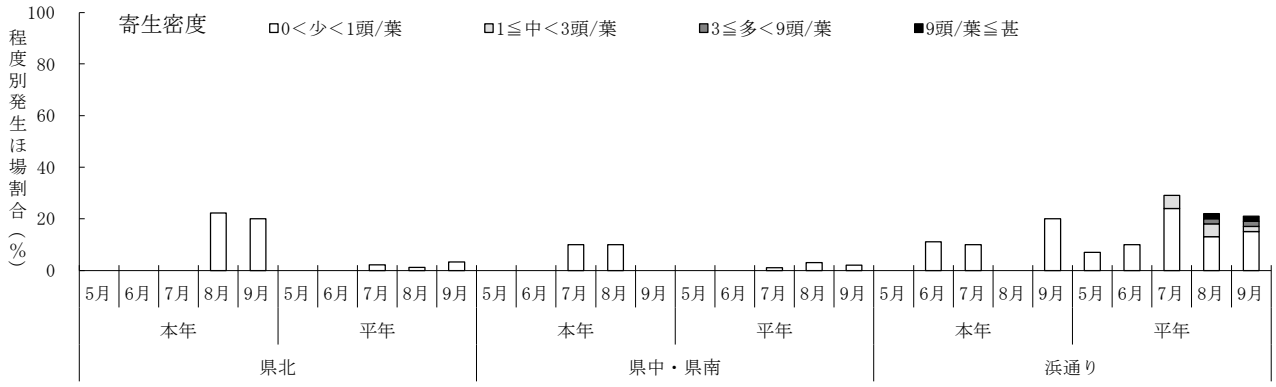


図 3- 99 クワオオハダニの新梢葉の寄生状況（県北・県中・県南・浜通り）

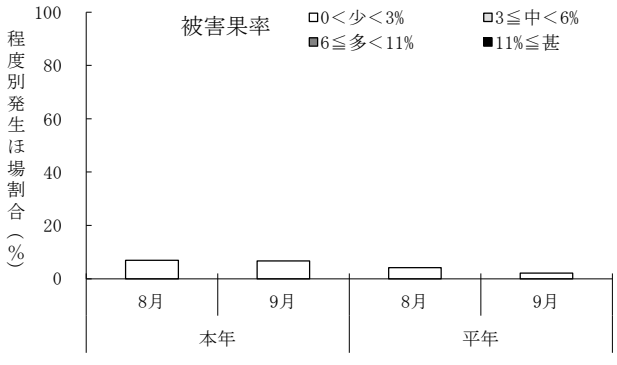


図 3-100 ナシヒメシンクイによる果実被害状況(県全体)

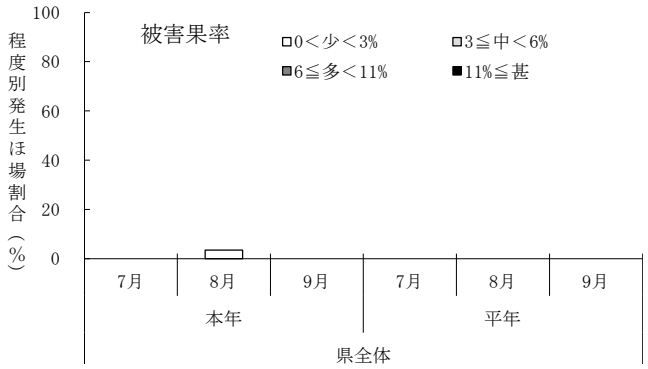


図 3-101 モモシンクイによる果実被害状況(県全体)

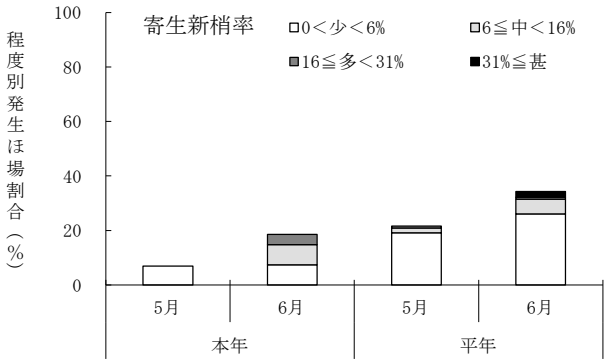


図 3-102 アブラムシ類による新梢寄生状況（県全体）

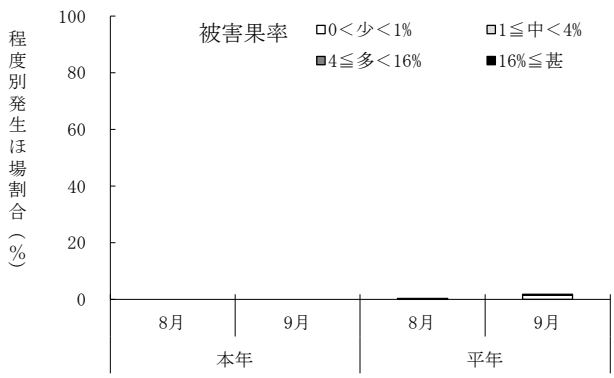


図 3-103 ナシマルカイガラムシによる果実被害状況（県全体）

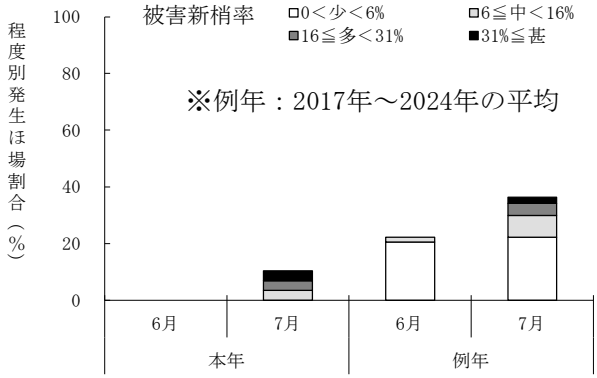


図 3-104 ニセナシサビダニによる新梢の被害状況(県全体)

エ　カキ（調査時期：10 月上旬）

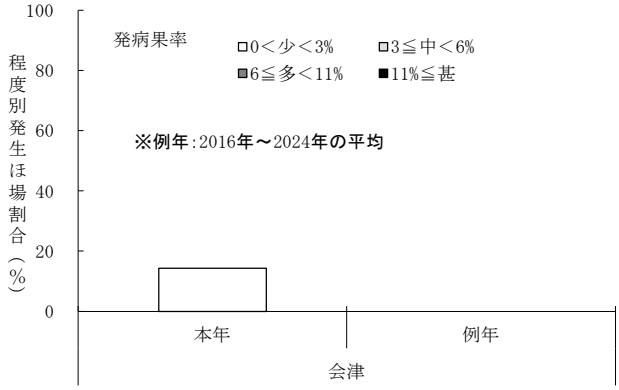


図 3-105 炭疽病の果実での発生状況(会津地域)

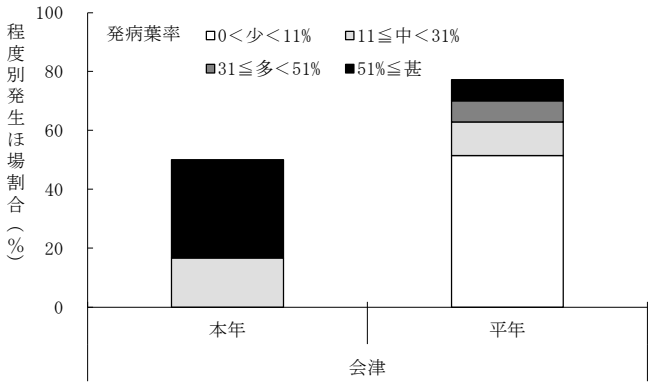


図 3-106 円星落葉病の新梢葉での発生状況(会津地域)

オ　ブドウ

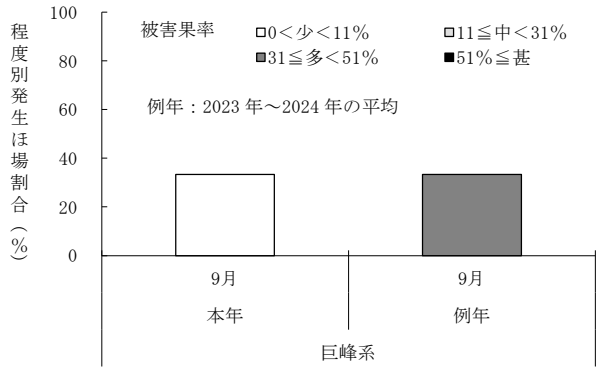


図 3-107 晩腐病の果実での発生状況(県北)

カ　果樹共通

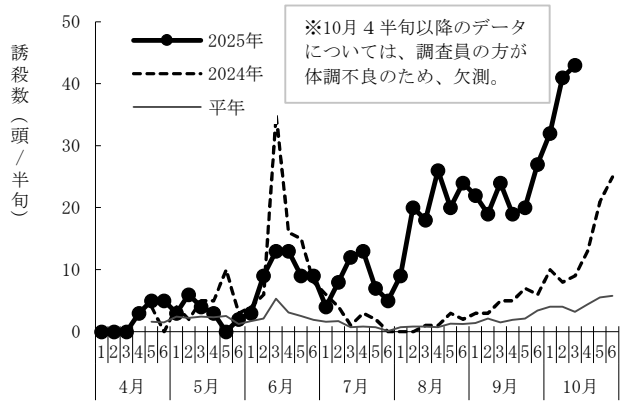


図 3-108　フェロモントラップによる果樹カメムシ類　の誘殺状況（福島市大笹

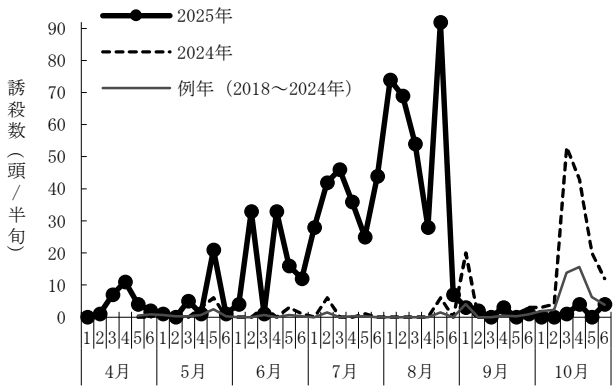


図 3-109　フェロモントラップによる果樹カメムシ類の誘殺状況（福島市飯坂

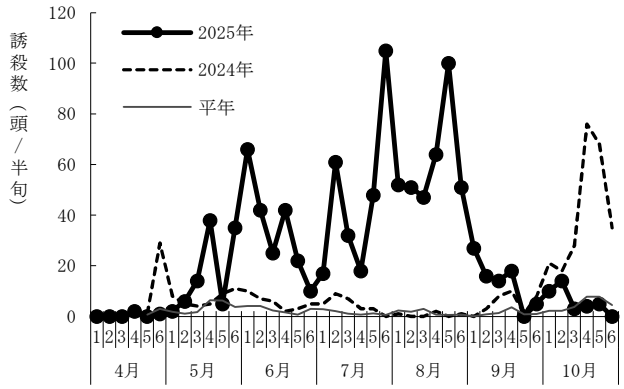


図 3-110　フェロモントラップによる果樹カメムシ類 の誘殺状況（国見町）

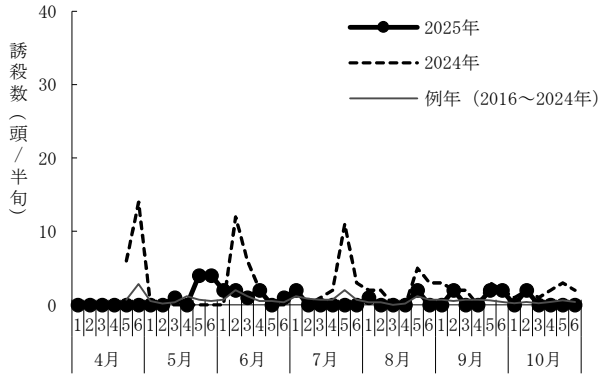


図 3-111 フェロモントラップによる果樹カメムシ類の誘殺状況（郡山市）

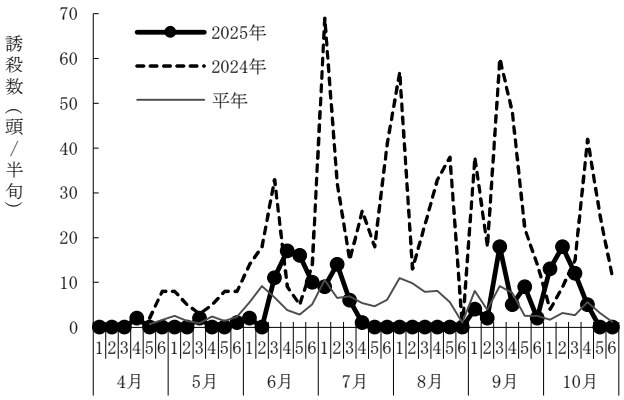


図 3-112　フェロモントラップによる果樹カメムシ類の誘殺状況（鏡石町）

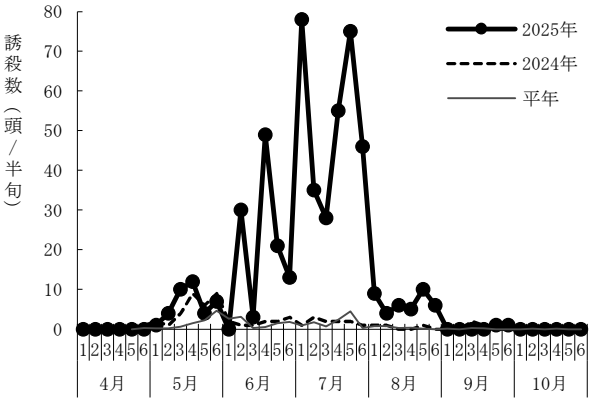


図 3-113　フェロモントラップによる果樹カメムシ類の誘殺状況（会津坂下町）

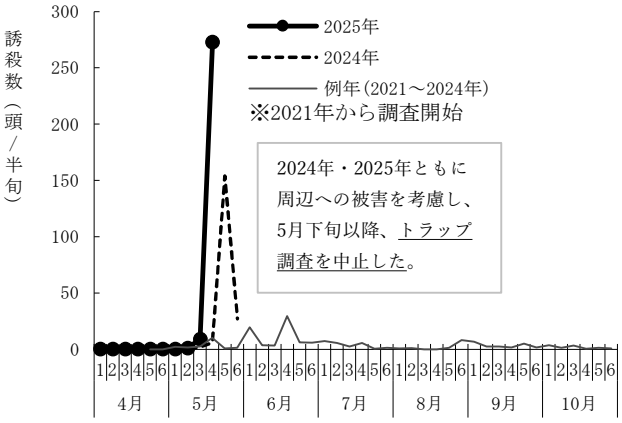


図 3-114 フェロモントラップによる果樹カメムシ類の誘殺状況（相馬市 1）

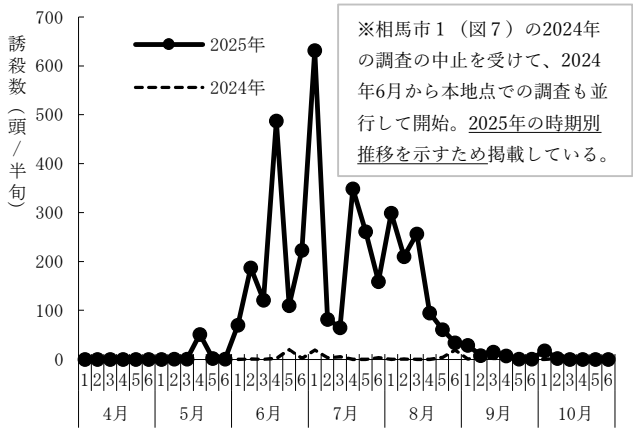


図 3-115 フェロモントラップによる果樹カメムシ類の誘殺状況（相馬市 2）

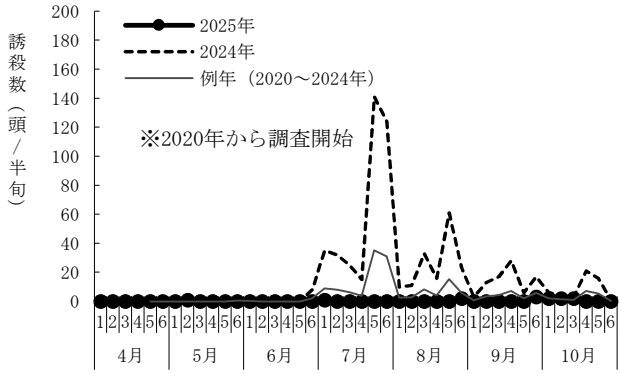


図 3-116 フェロモントラップによる果樹カメムシ類の誘殺状況（いわき市）

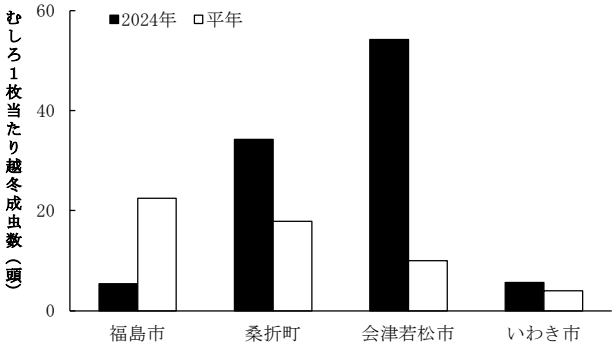


図 3-117 クサギカメムシの越冬量調査結果
（2024 年 11 月）
※福島市以外の平年値は参考
（平成 21～30 年の平均）

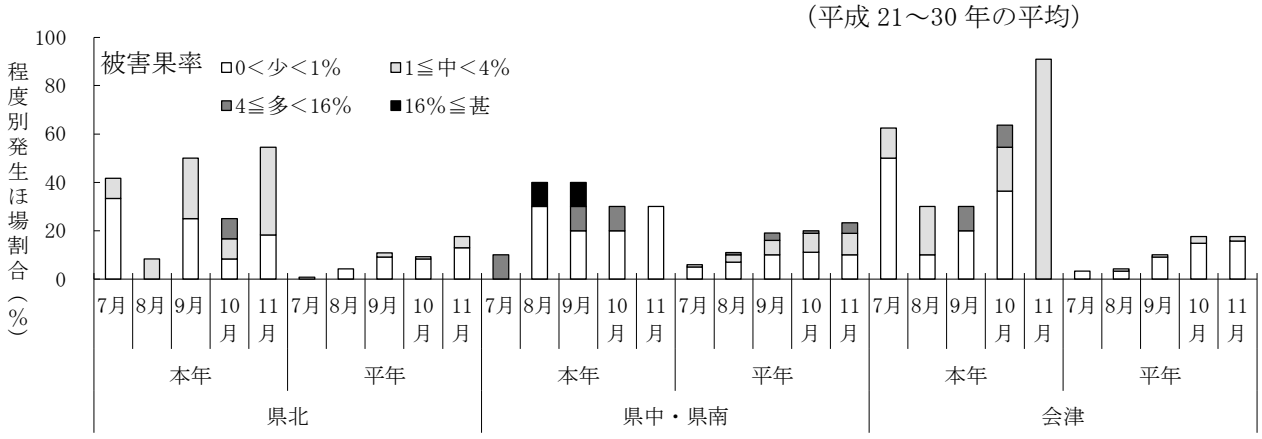


図 3-118 果樹カメムシ類による果実被害（リンゴ）

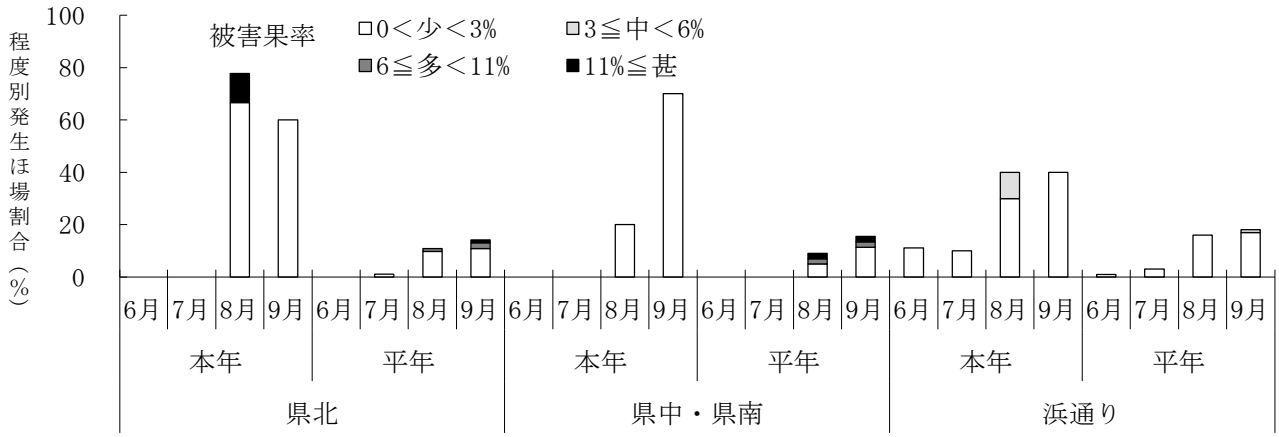


図 3-119 果樹カメムシ類による果実被害(ナシ)

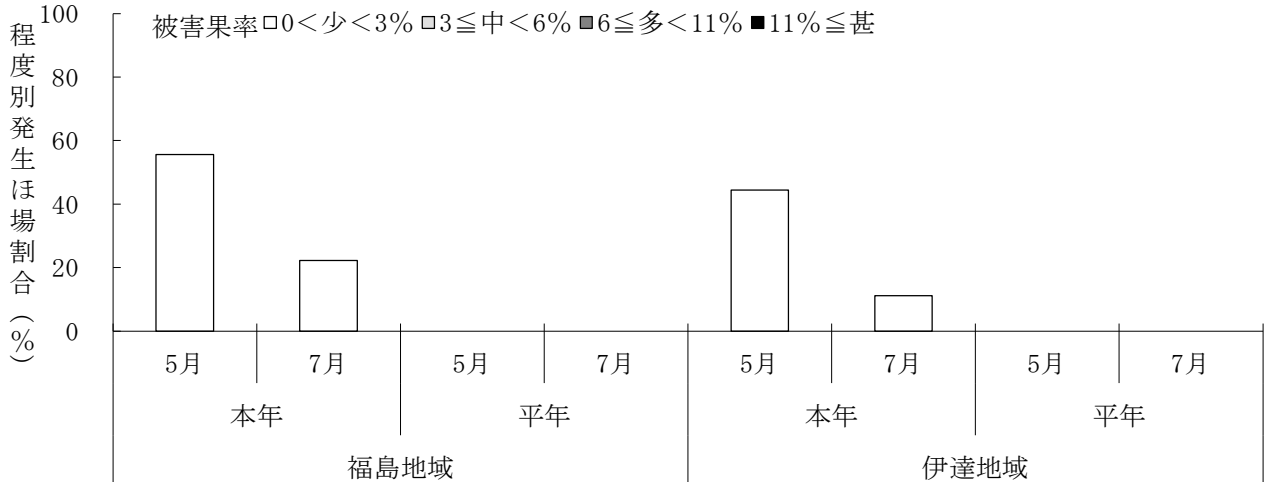


図 3-120 果樹カメムシ類による果実被害(モモ)

（3）野菜・花き

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
夏秋トマト	疫病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査ほ場での発生は確認されなかった。	本県では施設栽培により発生が低く抑えられている。	発病前から薬剤防除が徹底されている。
	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査では、6 月から発生を確認した。7 月中下旬に降水量が少なかったことから、7 月の発生ほ場割合は平年よりやや低かったが、8 月以降は平年並に推移した（図 3-121）。	8 月上旬、9 月上旬の降水量が多く、平均気温が高い日が続いたことが要因として考えられる。 また、一部地域では、高温障害による葉先枯れから灰色かび病発生が助長された。	防除指針に採用されている薬剤を中心にローテーションで散布されている。
	葉かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	巡回調査では、7 月から発生を確認した。発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した(図 3-122)。	6 月下旬から 8 月下旬にかけて、降水量が少なく、平均気温が高い日が続いたことが要因として考えられる。 一部で、すすかび病との混発も確認された。	抵抗性品種が導入されている。発病前から定期的に薬剤が散布されている。
	すすかび病	平年：並 前年：やや早	平年：並 前年：並	巡回調査では、6 月から発生を確認した。発生ほ場割合は平年並に推移した（図 3-123)。	8 月上旬、9 月上旬の降雨により発病が助長されたと推察される。	発病前から定期的に薬剤が散布されている。
	黄化えそ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査ほ場での発生は確認されなかった。	アザミウマ類の防除が徹底され、被害は低く抑えられている。	薬剤防除の他、防虫ネットの設置など、アザミウマ類の防除が徹底されている。
	青枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査ほ場での発生は確認されなかった。	抵抗性台木の導入により発生が抑えられている。	抵抗性台木が導入されている。
	かいよう病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査では 6 月から常発ほ場を中心に発生が散見された。	常発ほ場で確認されており、不十分な残さ処理や資材消毒による前作からの持ち越しが考えられる。	抵抗性台木の導入や管理作業が徹底されている。
	萎凋病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査ほ場での発生は確認されなかった。	抵抗性台木の導入により発生が抑えられているが、一部で抵抗性を打破する系統が発生している。	抵抗性台木が導入されている。
	半身萎凋病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査ほ場での発生は確認されなかった。	抵抗性台木の導入により、本県での発生は低く抑えられている。	抵抗性台木が導入されている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
夏秋トマト	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査では 5 月から寄生が確認された。栽培期間を通じて発生ほ場割合は平年並に推移した（図 3-124）。	定植時の粒剤施用や適期薬剤散布により被害を抑えられたと考えられる。	定植時の粒剤施用及び発生時に薬剤散布が行われている。
	コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査では 6 月から寄生が確認され、発生ほ場割合は、平年並に推移した。巡回調査ほ場の複数地点で、黄化葉巻病が確認され、発病株率の高いほ場では、コナジラミ類の寄生密度も高かった（図 3-125）。	調査ほ場における寄生種は、オンシツコナジラミ及びタバココナジラミの混発が確認された。一部ほ場では、タバココナジラミが優占種であった。栽培期間を通して、平均気温が高い日が続いたことが要因と考えられる。	発生初期から薬剤のローテーション散布が行われている。防虫ネットの設置、薬剤散布及びラノーテープの組み合わせで防除が行われている。
	ハモグリバエ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	巡回調査では 6 月から寄生を確認した。発生ほ場割合は平年並に推移したが、9 月に平年よりやや高かった（図 3-126）。	8 月中下旬に降雨が少なく、平均気温が高い日が続いたことが要因と考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	巡回調査では 7 月から被害果（白ぶくれ果）の発生を確認した。発生ほ場割合は、平年よりやや低く推移した。	適期防除の実施及び防虫ネットの設置が進んでいることから、発生が抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。防虫ネットの設置により成虫の侵入防止を実施する生産者が増えている。
	オオタバコガ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	フェロモントラップの発生ピークは、8 月下旬から 9 月にかけて確認され、一部では誘殺数が平年値を大きく上回った。7 月から被害果の発生を確認した（図 3-127）。	春先からの高温及び少雨による影響で多発したものと推察される。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。防虫ネットの設置により成虫の侵入防止を行っている。
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：並	巡回調査ほ場での寄生は確認されなかった。フェロモントラップの発生ピークは 9 月から 10 月にかけて確認され、誘殺頭数が平年を大きく上回った。	防虫ネットの設置が進んでいることから、被害は抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。防虫ネットの設置により成虫の侵入防止を行っている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
夏秋キュウリ	べと病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査では 6 月から発生を確認した。栽培期間を通して、発生ほ場割合は平年並に推移した（図 3-128）。	降雨による跳ね返りと多湿の影響により発生が助長された。また、降雨により防除時期を逸した場合も発生が助長されたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心にローテーションで散布されている。
	うどんこ病	平年：並 前年：やや早	平年：並 前年：やや多	巡回調査では 6 月から発生を確認した。発生ほ場割合は平年並に推移した（図 3-129）。	高温少雨で、発病が好適な気象条件下であったが、耐病性品種の作付増加に伴い発病が抑制されたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心にローテーションで散布されている。
	褐斑病	平年：並 前年：やや遅	平年：やや少 前年：並	巡回調査では 8 月から発生を確認した。発生ほ場割合はやや低く推移した（図 3-130）。	耐病性品種の作付増加に伴い、発病が抑制されたと考えられる。	予防散布を基本に薬剤散布が行われている。また、罹病葉の摘葉も行われている。
	炭疽病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	巡回調査では 6 月から発生を確認した。栽培期間を通して、発生ほ場割合は平年並に推移した（図 3-131）。	降雨による跳ね返りと多湿の影響により発生が助長されたが、適期防除により発病が抑えられたと考えられる。	予防散布を基本に薬剤散布が行われている。また、罹病葉の摘葉も行われている。
	斑点細菌病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査では 6 月に発生が確認された。その後の発生は確認されなかった。	適期防除により、発病が抑制されたと考えられる。	予防散布を基本に防除が行われている。また、罹病葉の摘除も行われている。
	黒星病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	巡回調査では 6、7 月に発生が確認された。その後の発生は確認されなかった。	生育初期の適期防除により発生は平年並に抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心にローテーション散布が行われている。
	つる枯病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	巡回調査では 6 月から発生が確認された。発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した（図 3-132）。	5 月下旬の降雨により発生が助長されたが、適期防除により発病が抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心にローテーション散布が行われている。
	モザイク病	平年：並 前年：やや遅	平年：やや多 前年：やや多	巡回調査では 6 月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した（図 3-133）。	6 月から原因となるウィルスの媒介虫であるアブラムシ類の寄生が増加したためと考えられる。	県内では、弱毒ウイルス接種苗が利用されている。また、防除指針に採用されている薬剤を中心に、アブラムシ類の防除が行われている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
夏秋キュウリ	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査では 6 月から寄生を確認した。6、7月の発生ほ場割合は、平年並に推移したが、8 月はやや高くなった（図 3-134）。	定植時の粒剤施用や適期薬剤散布により、発生を抑えられたが、7 月下旬の高温乾燥により、8 月に発生が助長されたと考えられる。	育苗期の薬剤処理や定植時の粒剤施用が励行され、発生時には薬剤散布が行われている。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	巡回調査では 6 月から寄生が確認された。夏季に猛暑日が続いたため、栽培期間を通じて発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した。	梅雨時期の降雨が少なく、栽培期間を通して高温乾燥が続いたことから、発生が助長された。ほ場周辺からの侵入が多い。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	巡回調査では 6 月から寄生を確認した。発生割合は平年並に推移した。	他害虫との同時防除が実施され、発生は抑えられた。	防除指針に採用されている薬剤を中心にローテーション散布が行われている。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査では 6 月から寄生を確認した。発生ほ場割合は平年並に推移した（図 3-135）。	6 月下旬から 8 月下旬にかけて高温乾燥が続き、発生が助長されたが、生産者による適期防除によって発生が抑えられた。	防除指針に採用されている薬剤を中心にローテーションで散布されている。
	ワタヘリクロノメイガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査では 7 月から寄生を確認した。発生ほ場割合は平年並に推移した。	近年、露地ほ場では少発傾向が続いている。	本種を対象とした防除はほとんど行われていない。
イチゴ（2024 秋作～2025 春作）	土壌病害（炭疽病、萎黄病、萎凋病）	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	育苗床からの持ち込み及び定植直後から発生が確認された。10、11 月の発生ほ場割合は平年よりやや高かったが、12 月以降は平年並に推移した（図 3-136）。	親株の高温条件下の管理、育苗中の灌水作業による水の跳ね上がりで発生が広がったと考えられる。しかし、生産者による罹病株の速やかな除去による適正な対応により、被害軽減につながった。	前年発生ほ場では土壌消毒や、育苗時の底面吸水等を実施している。発病株は随時抜き取り処分している。
	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	果実被害は 2 月から確認した。発生ほ場割合は平年並に推移した（図 3-137）。	適期防除により、被害発生が抑えられた。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	発生ほ場割合は栽培期間を通して平年並に推移した。果実被害は 12 月から確認された。	適期防除の実施により、被害発生が抑えられた。また、UV-B ランプの導入が進んでいる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。一部で UV-B ランプ導入による防除が行われている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
イチゴ(2024秋作～2025春作)	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	定植直後から寄生を確認し、発生ほ場割合は平年並に推移した（図3-138）。	苗からの持ち込みによる発生が見られた。適期防除により寄生密度を抑えられた。	定植時の粒剤施用及び発生時に薬剤散布が行われている。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	主要寄生種はナミハダニだった。発生ほ場割合は平年並に推移した（図3-139）。	苗からの持ち込みによる発生が見られた。適期防除により寄生密度を抑えられた。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。ミヤコカブリダニ、チリカブリダニによる生物的防除導入ほ場が多くなっている。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	主要寄生種はヒラズハナアザミウマとミカンキイロアザミウマだった。花での寄生は2月から確認された。発生ほ場割合は3月にやや高かったが、その後平年並に推移した（図3-140）。	春季に発生量が増加しており、ハウス開放に伴い成虫が飛来していると考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。
	コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	定植直後から寄生を確認した。発生ほ場割合は平年並に推移した（図3-141）。	苗からの持ち込み、秋季の飛来により初期発生が確認されたが、その後は適切な防除により発生は抑制されたと考えられる。一部ですす病が発生しているほ場が見られた。	調査ほ場の約4割でラノーテープが導入されており、薬剤防除も適切に行われた。
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや多	巡回調査では、10月から寄生を確認した。8月下旬の誘殺数の急増に伴い、10月の寄生度はやや高かった。発生ほ場割合も平年よりやや高く推移した（図3-142）。	苗からの持ち込みにより定植直後から寄生が確認された。幼虫の齢期が進むと薬剤が効きづらくなるため、防除時期を逸した場合にも発生が助長される。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
アスパラガス	褐斑病	例年：並 前年：並	例年：多 前年：やや多	巡回調査では、8月に発生が確認され、発生ほ場割合は例年より高かった。	8月以降の高温によって、発病が助長されたと推察される。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	茎枯病	例年：並 前年：並	例年：並 前年：並	巡回調査で発生は確認されなかった（図3-143）。	適期防除及び施設化が進んでいることで、発病が抑制されていると推察される。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
アスパラガス	斑点病	例年：並 前年：並	例年：並 前年：並	巡回調査で発生は確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	アザミウマ類	例年：並 前年：並	例年：並 前年：並	巡回調査では 6 月から寄生を確認した。発生ほ場割合は例年並に推移した（図 3-144）。	ほ場周辺からの侵入によるものと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	ハダニ類	例年：並 前年：並	例年：多 前年：多	巡回調査では、8 月からカンザワハダニの寄生が確認された。発生ほ場割合は例年より高く推移した。	7 月下旬に降雨が少なく、平均気温が高い日が続いたことにより発生が助長された。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
夏秋ナス	うどんこ病	例年：並 前年：並	例年：並 前年：やや少	巡回調査では 9 月に発生を確認した（図3-145）。一部ほ場で発病程度の高いほ場を確認した。	草勢が低下した生育後半期の高温乾燥により、発生が助長されたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	すすかび病	例年：並 前年：並	例年：並 前年：並	巡回調査では 8 月から発生を確認した。発生ほ場割合は例年並に推移した（図 3-146）。	適期防除が実施されたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	灰色かび病	例年：やや早 前年：やや早	例年：やや少 前年：少	巡回調査では 6 月から発生を確認した（図 3-147）。	適期防除が実施されたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	半身萎凋病	例年：並 前年：並	例年：やや少 前年：やや少	巡回調査で発生は確認されなかった（図 3-148）。	耐病性品種の作付けにより発生が抑えられている。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	アザミウマ類	例年：並 前年：並	例年：多 前年：多	巡回調査では 6 月から寄生を確認した。発生ほ場割合は例年より高く推移した（図 3-149）。	適期防除の実施により発生が抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	アブラムシ類	例年：並 前年：並	例年：やや多 前年：やや多	巡回調査では 6 月から寄生を確認した（図3-150）。定植直後から寄生を確認しており、6、7 月の発生ほ場割合は例年より高かったが、その後例年並に推移した。	梅雨時期の降雨が少なく、栽培期間を通して高温乾燥が続いたことから、発生が助長された。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	タバコガ類	例年：並 前年：やや遅	例年：やや多 前年：並	巡回調査では 8 月から被害が確認され、発生ほ場割合は例年より高く推移した。	春先からの高温による影響で多発したものと推察される。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	ハダニ類	例年：並 前年：並	例年：並 前年：並	巡回調査では 6 月から寄生を確認した（図 3-151）。	夏季の高温乾燥により、発生が助長されたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
夏秋ピーマン	うどんこ病	例年：並 前年：並	例年：並 前年：並	巡回調査で発生は確認されなかった(図 3-152)。	適期防除の実施により、発生が抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	疫病	例年：並 前年：並	例年：並 前年：並	巡回調査で発生は確認されなかった。	適期防除が実施されたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	炭疽病	例年：並 前年：並	例年：やや少 前年：並	巡回調査で発生は確認されなかった(図 3-153)。	適期防除が実施されたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	斑点病	例年：並 前年：並	例年：並 前年：並	巡回調査では 8 月から発生を確認した(図 3-154)。	適期防除の実施により、被害が抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	モザイク病	例年：並 前年：並	例年：やや多 前年：並	巡回調査では 6 月から発生を確認した。発生ほ場割合は 8 月が例年より高かったが、その後例年並に推移した（図3-155)。	定植時の粒剤処理が徹底されており、媒介虫であるアブラムシ類の発生が抑えられ、発生が抑えられた。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	アブラムシ類	例年：並 前年：並	例年：並 前年：並	巡回調査では 6 月から寄生を確認した(図 3-156)。	定植時の粒剤施用や適期薬剤散布により、その後の発生推移を抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	タバコガ類	例年：並 前年：遅	例年：やや多 前年：並	巡回調査では、8 月から被害を確認した。発生ほ場割合は例年よりやや高く推移した。	春先からの高温による影響で多発したものと推察される。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	ハスモンヨトウ	例年：並 前年：並	例年：並 前年：やや多	巡回調査では 9 月に寄生を確認した。	適期防除の実施により、発生が抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
秋冬ネギ	黒斑病	例年：並 前年：並	例年：並 前年：やや少	巡回調査では 7 月から発生が確認された。	適期防除の実施により、被害が抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	さび病	例年：並 前年：並	例年：やや少 前年：並	巡回調査では 7 月から発生を確認した(図 3-157)。	適期防除の実施により、発生が抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
秋冬ネギ	葉枯病	例年：並 前年：並	例年：やや多 前年：並	巡回調査では 6 月から発生を確認した（図 3-158）。	梅雨期の降雨や、さび病病斑部に二次的に感染し、発生したと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	べと病	例年：並 前年：並	例年：やや少 前年：やや少	巡回調査では 6 月から発生を確認した。発生ほ場割合は例年よりやや低く推移した（図 3-159）。	適期防除の実施により、被害が抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	アザミウマ類	例年：並 前年：並	例年：並 前年：並	巡回調査では 6 月から寄生を確認しており、ほぼ全てのほ場で被害程度は高く推移した（図 3-160）。	夏季高温が続いたため、発生が増加したと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	アブラムシ類	例年：並 前年：やや早	例年：やや多 前年：やや多	巡回調査では 6 月から寄生を確認した。6 月の発生ほ場割合は例年より高かったが、その後例年並に推移した（図 3-161）。	定植時の粒剤施用や適期薬剤散布によりその後の発生推移を抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	ネギコガ	例年：並 前年：並	例年：並 前年：並	巡回調査では 8 月から発生が確認された（図 3-162）。	適期防除の実施により、発生が抑えられたと考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	ネギハモグリバエ	例年：並 前年：並	例年：やや多 前年：並	巡回調査では 6 月から寄生を確認した。発生ほ場割合は例年よりやや高く推移した（図 3-163）。	夏季高温が続いたことが要因として考えられる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
	ヨトウガ類	例年：並 前年：やや遅	例年：やや多 前年：並	巡回調査では 8 月から寄生を確認した。発生ほ場割合は例年並に推移した（図 3-164）。	春先からの高温による影響で多発したものと推察される。	防除指針に採用されている薬剤を中心に防除が行われている。
キ　ク	白さび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	巡回調査では 5 月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した（図 3-165）。	定植直後の発生は、苗床からの持ち込みによると考えられる。また、一部のほ場及び品種で特に被害程度が高まる傾向が見られる。	防除指針に採用されている薬剤を中心に予防主体で定期的に薬剤散布されている。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査では 5 月から寄生を確認した。栽培期間を通して、発生ほ場割合は、平年並に推移した（図 3-166）。	適期防除の実施により、被害が抑えられたと考えられる。一部、クロゲハナアザミウマが優占しているほ場では、葉が強く加害される傾向がある。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	巡回調査では 5 月から寄生を確認した。発生ほ場割合は平年並に推移した（図 3-167）。	春先から高温が続き、有翅虫の飛来が早まった。育苗期の薬剤処理や定植時の粒剤施用が行われており、被害発生は抑えられた。	定植時の粒剤施用及び発生時に薬剤散布が行われている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
キ　ク	オオタバコガ	平年：やや早 前年：やや早	平年：並 前年：やや多	6 月上旬から被害を確認した。発生ほ場割合は 7 月に平年よりやや高かったが、8 月は平年並であった（図 3-168）。フェロモントラップによる誘殺は平年より早い 7 月に平年より多く確認された。	融雪の遅れによる越冬世代の発生時期が遅くなったことから、作物の生育初期に越冬世代の発生頭数のピークがあたり、早期の被害につながったものと推察される。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや多	主要寄生種はナミハダニで、5 月から寄生を確認した。発生ほ場割合は平年より高く推移した（図 3-169）。	適期防除により、甚大な被害を回避したと推察される。	防除指針に採用されている薬剤を中心にローテーションで散布されている。
	ハモグリバエ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	巡回調査では 5 月から寄生を確認した。発生ほ場割合は平年並に推移した（図 3-170）。	適期防除の実施により、被害発生が抑えられた。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。
リンドウ	葉枯病	平年：やや早 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	巡回調査では 5 月から発生を確認した。発生ほ場割合は平年よりやや高く、発病度も高く推移した（図 3-171）。	夏季の高温多湿により、発生が助長されたと考えられる。また、ほ場に残された罹病葉残さから感染が拡大したと推察される。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。
	褐斑病	平年：早 前年：早	平年：多 前年：多	巡回調査では 6 月に発生を確認した。発生ほ場割合は平年より高く推移した（図 3-172）。	夏季の高温多湿により、発生が助長されたと考えられる。また、ほ場に残された罹病葉残さから感染が拡大したと推察される。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。
	花腐菌核病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	発生ほ場割合は平年並に推移した。	適期防除の実施により、被害発生が抑えられた。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。
	黒斑病	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：やや少 前年：やや少	巡回調査では 8 月から発生を確認した。8 月の発生ほ場割合は平年並であった（図 3-173）。	適期防除の実施により、被害発生が抑えられた。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	発生ほ場割合は平年並に推移した。	適期防除の実施により、被害発生が抑えられた。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。
	ハダニ類	平年：並 前年：やや早	平年：やや多 前年：多	主要寄生種はカンザワハダニで、5 月から寄生を確認した。発生ほ場割合は栽培期間を通じて平年並に推移した（図 3-174）。	高温で推移した 7、8 月を中心に発生ほ場割合が高く、寄生密度が高いほ場が確認された。しかし、降雨によりほ場内の湿度が高かったため、発生量が抑えられた。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。
	リンドウホソハマキ	平年：やや遅 前年：並	平年：やや多 前年：並	本種による芯折れ被害は 6 月から確認した。発生ほ場割合は平年並であった（図 3-175）。	春先からの高温により発生時期が早まった。また、暖冬により越冬数量が多くなり、被害が拡大したと推察される。	防除指針に採用されている薬剤を中心に散布されている。

※バレイショ、カンショ、ダイコン、ホウレンソウに関しては、病害虫防除員（農業者）による調査を実施した。

ア　夏秋トマト

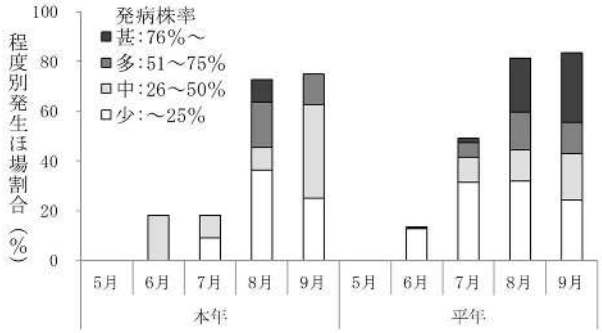


図 3-121 灰色かび病の発生状況

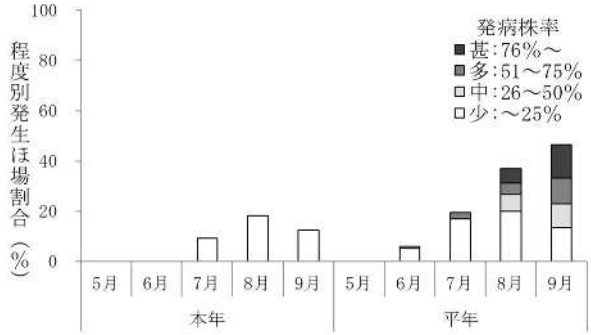


図 3-122 葉かび病の発生状況

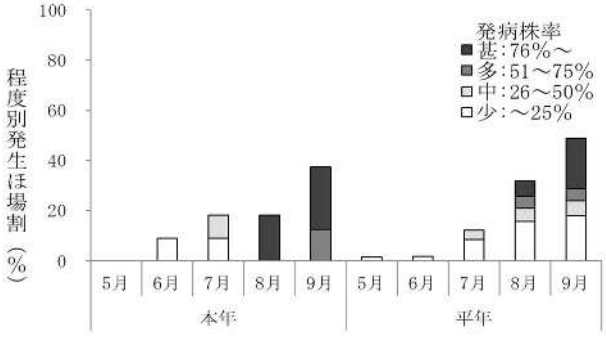


図 3-123 すすかび病の発生状況

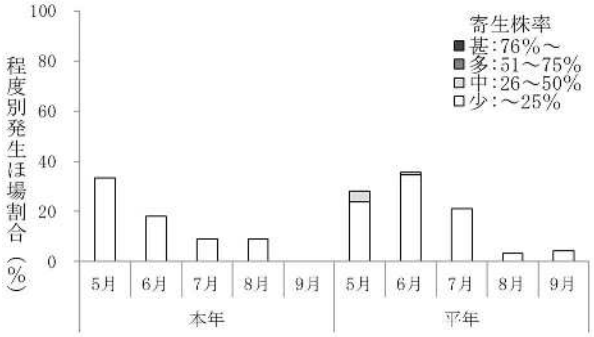


図 3-124 アブラムシ類の発生状況

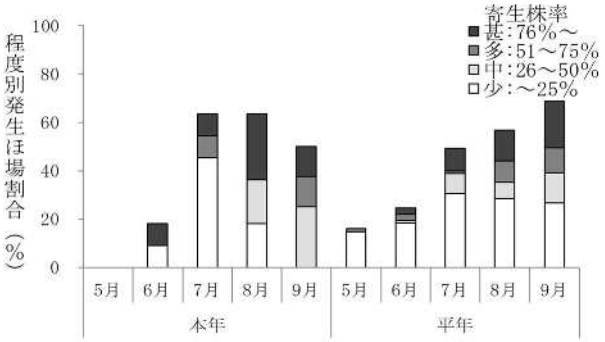


図 3-125 コナジラミ類の発生状況

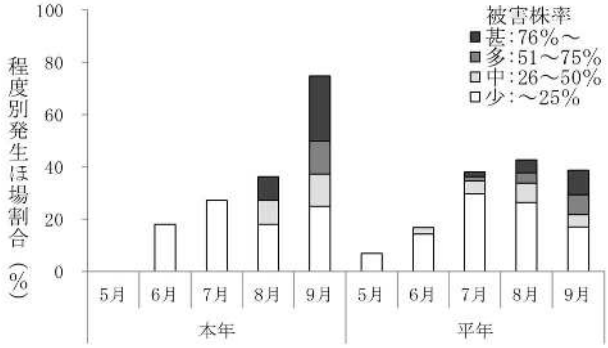


図 3-126 ハモグリバエ類の発生状況

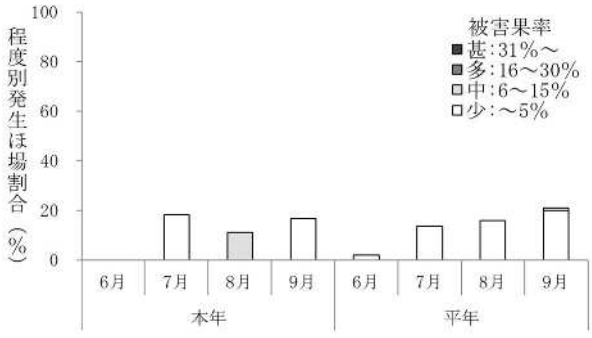


図 3-127 オオタバコガの発生状況

イ　夏秋キュウリ

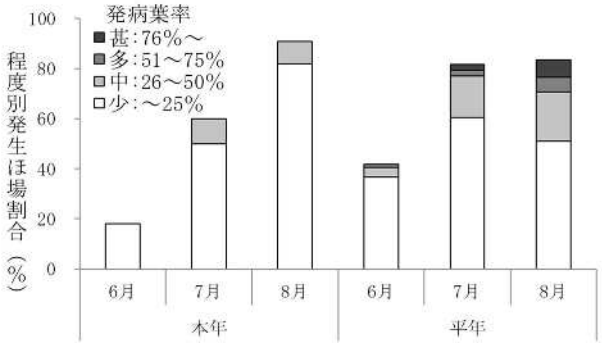


図 3-128 べと病の発生状況

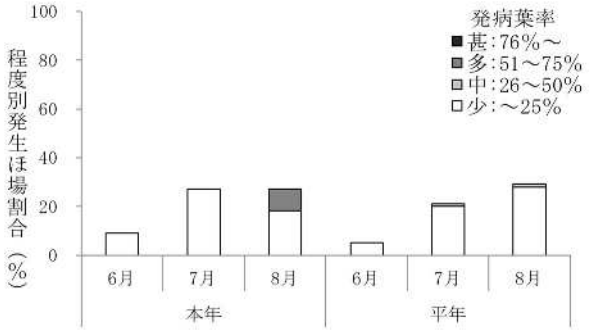


図 3-129 うどんこ病の発生状況

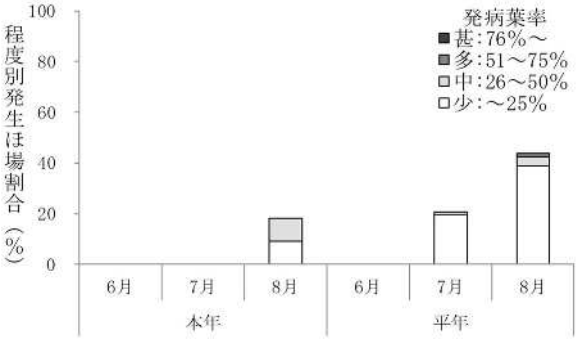


図 3-130 褐斑病の発生状況

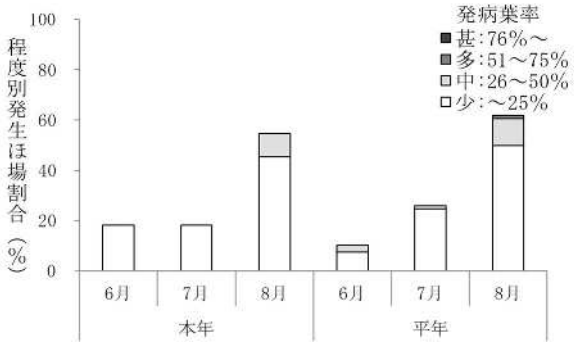


図 3-131 炭疽病の発生状況

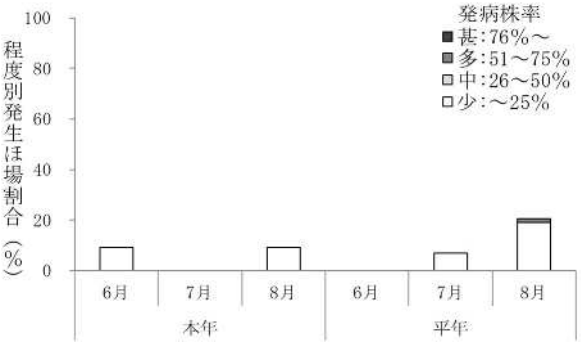


図 3-132 つる枯病の発生状況

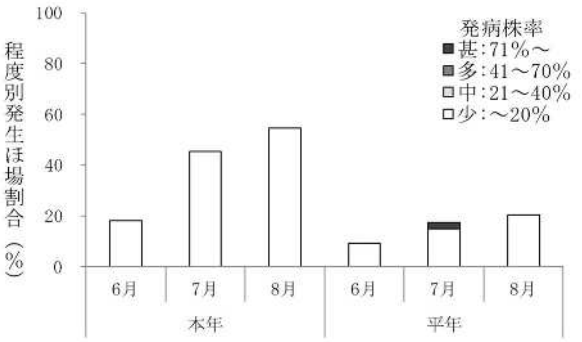


図 3-133 モザイク病の発生状況

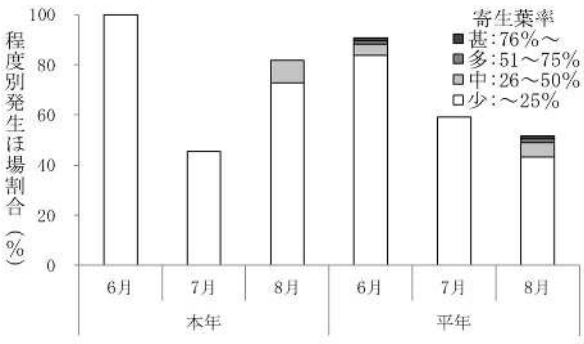


図 3-134 アブラムシ類の発生状況

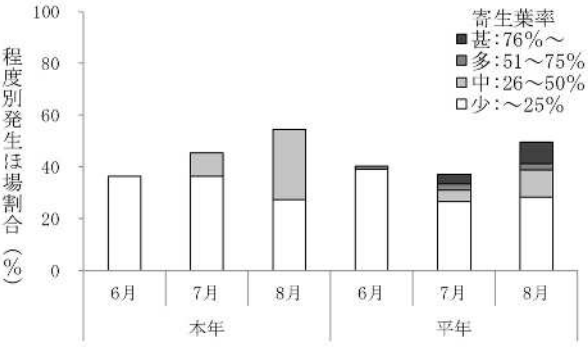


図 3-135 ハダニ類の発生状況

ウ　イチゴ　※本年（2024 年 10 月～2025 年 5 月）

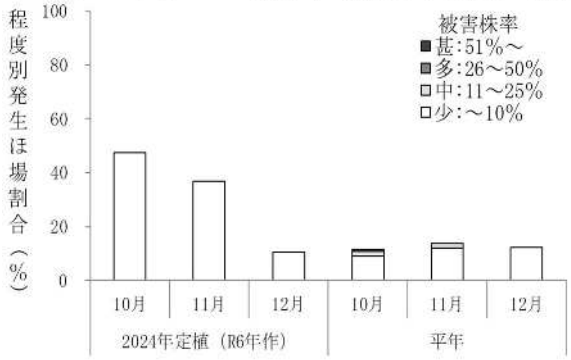


図 3-136 土壌病害（炭疽病、萎黄病、萎凋病）の発生状況

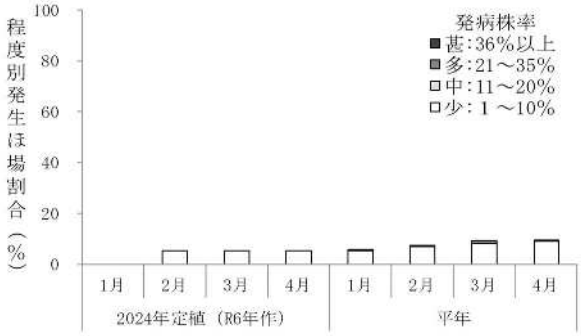


図 3-137 灰色かび病の発生状況

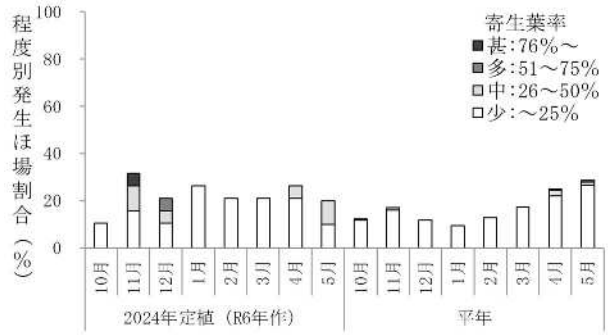


図 3-138 アブラムシ類の発生状況

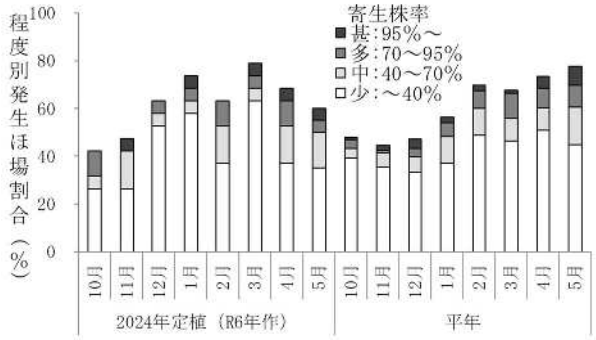


図 3-139 ハダニ類の発生状況

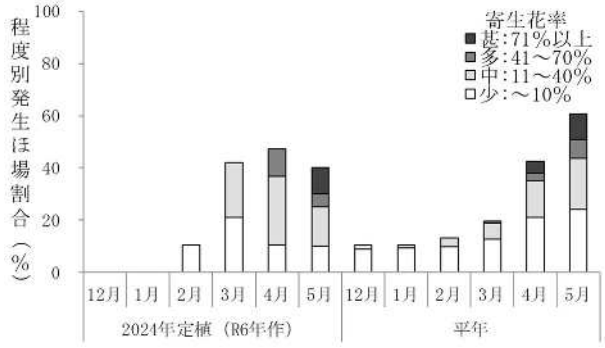


図 3-140 アザミウマ類の発生状況

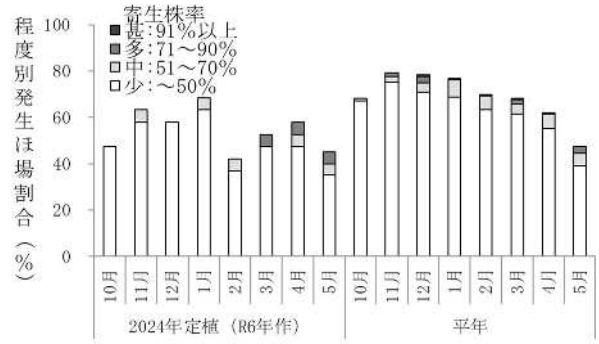


図 3-141 コナジラミ類の発生状況

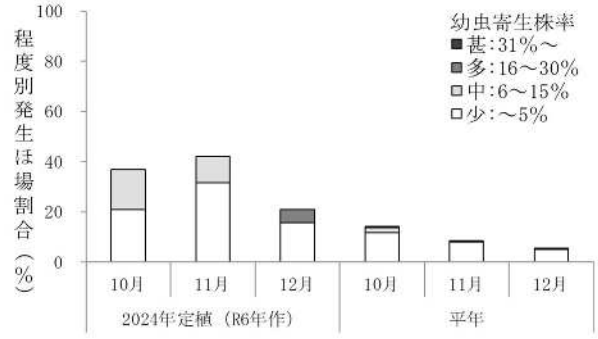


図 3-142 ハスモンヨトウの発生状況

エ　アスパラガス

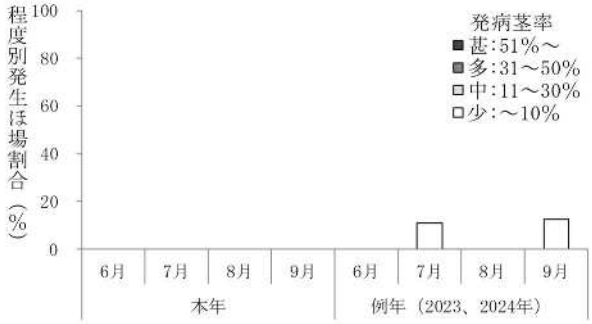


図 3-143 茎枯病の発生状況

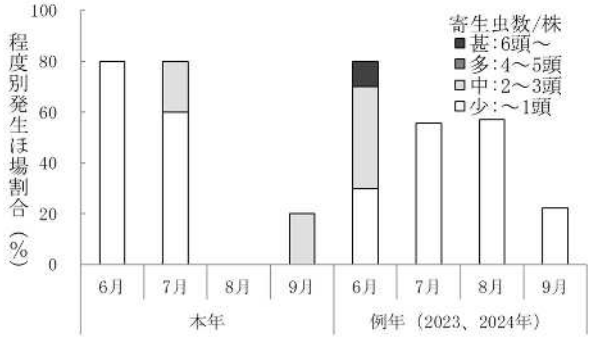


図 3-144 アザミウマ類の発生状況

オ　夏秋ナス

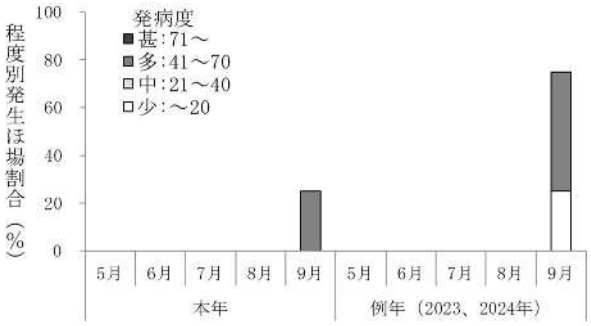


図 3-145 うどんこ病の発生状況

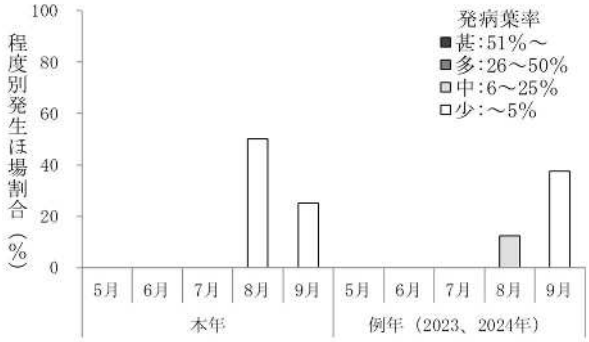


図 3-146 すすかび病の発生状況

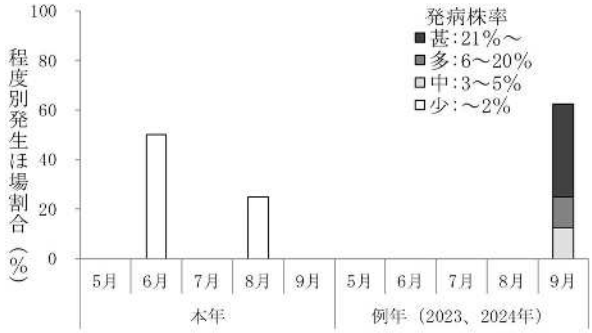


図 3-147 灰色かび病の発生状況

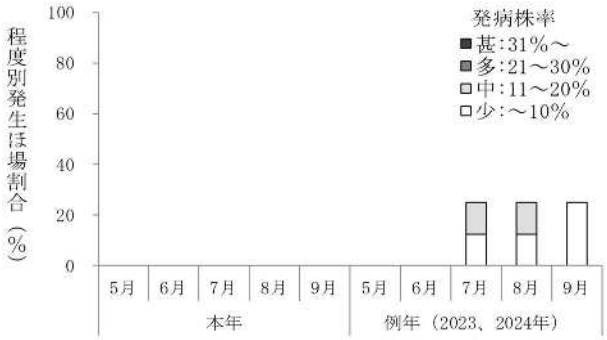


図 3-148 半身萎凋病の発生状況

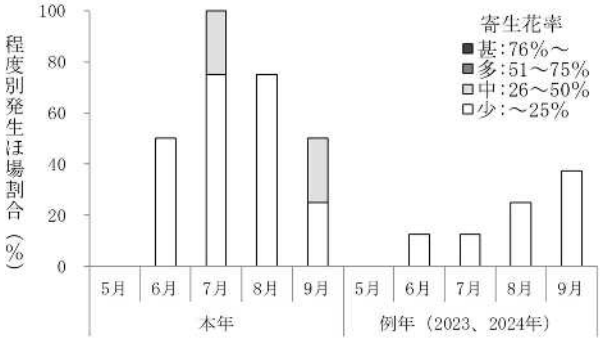


図 3-149 アザミウマ類の発生状況

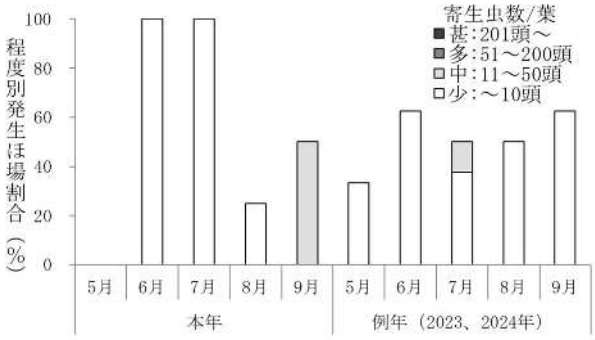


図 3-150 アブラムシ類の発生状況

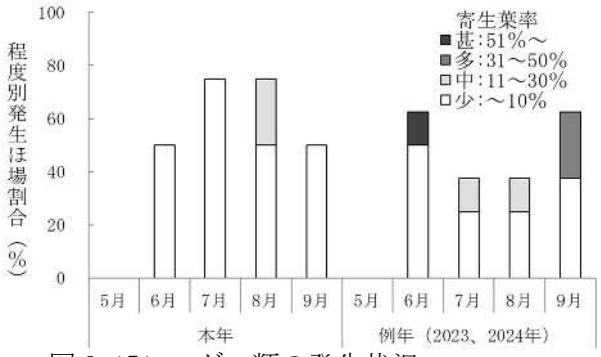


図 3-151 ハダニ類の発生状況

カ　夏秋ピーマン



図 3-152 うどんこ病の発生状況



図 3-153 炭疽病の発生状況

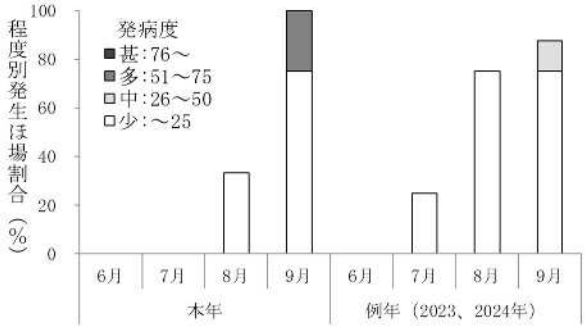


図 3-154 斑点病の発生状況

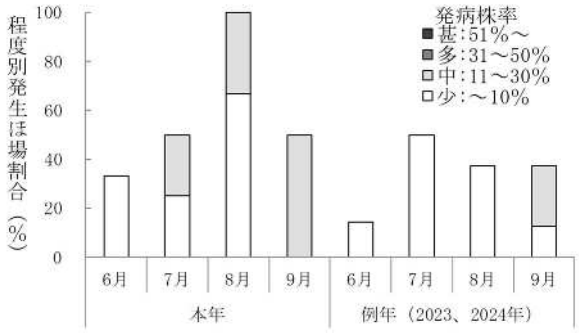


図 3-155 モザイク病の発生状況

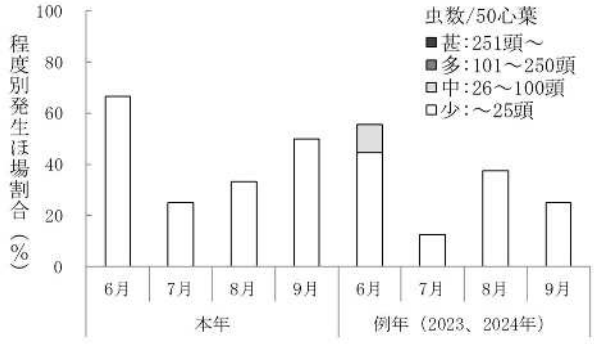


図 3-156 アブラムシ類の発生状況

キ　秋冬ネギ

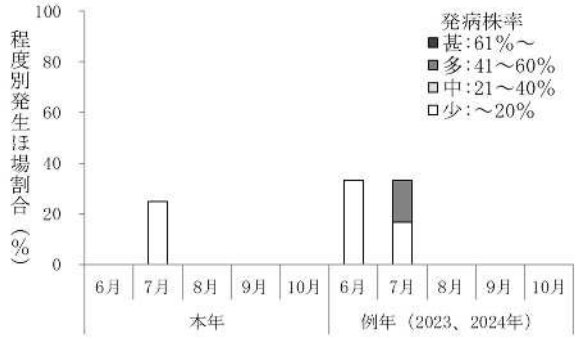


図 3-157 さび病の発生状況

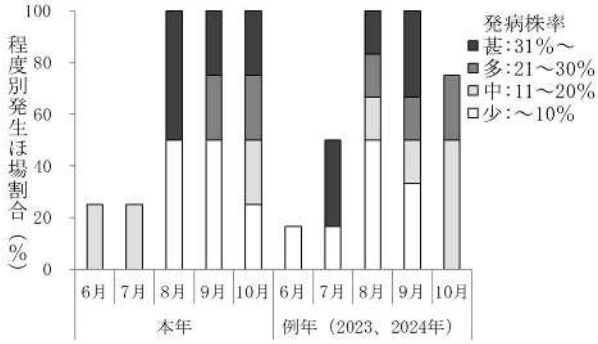


図 3-158 葉枯病の発生状況

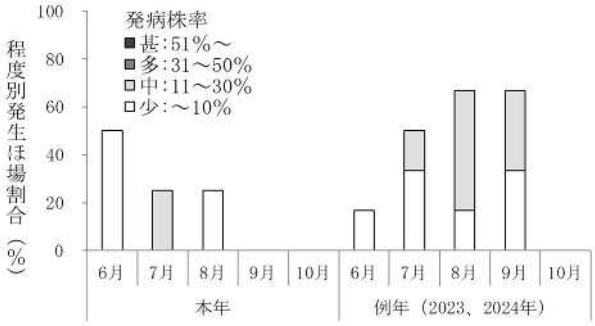


図 3-159 べと病の発生状況

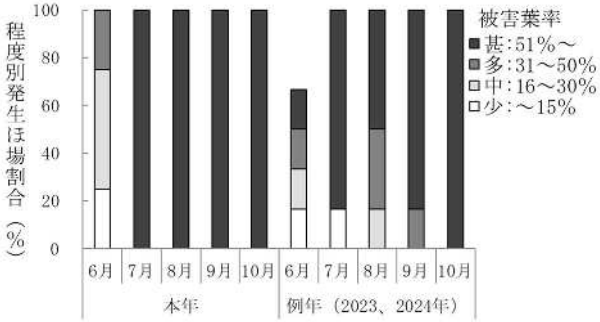


図 3-160 アザミウマ類の発生状況

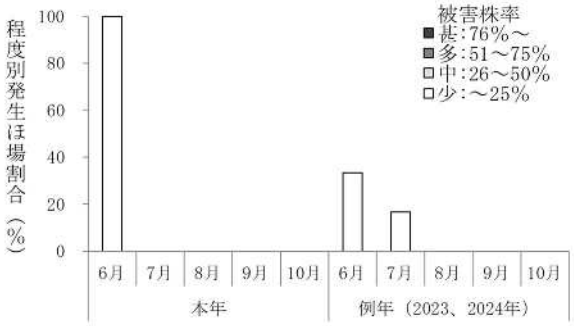


図 3-161 アブラムシ類の発生状況

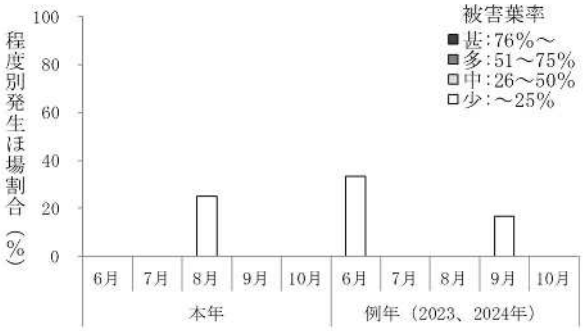


図 3-162 ネギコガの発生状況

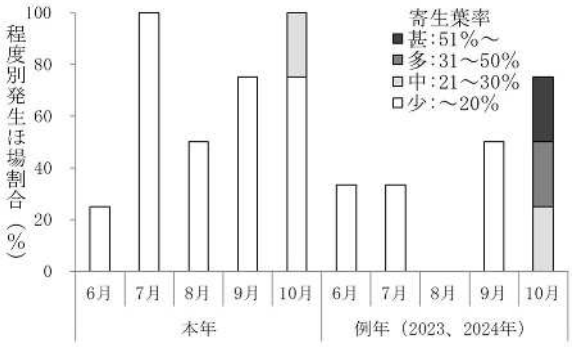


図 3-163 ネギハモグリバエの発生状況

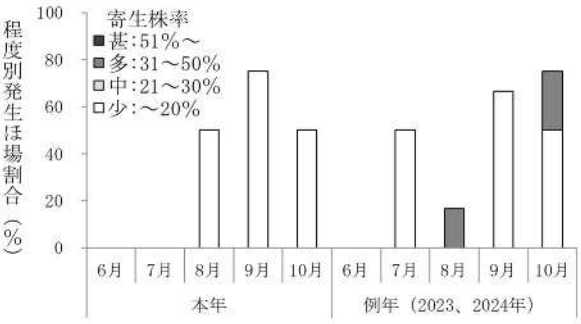


図 3-164 ヨトウガの発生状況

ク　キク

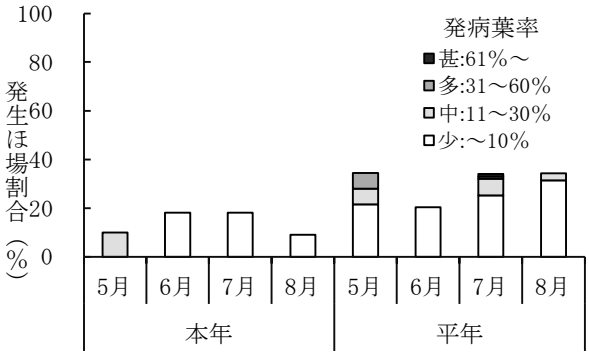


図 3-165 白さび病の発生状況

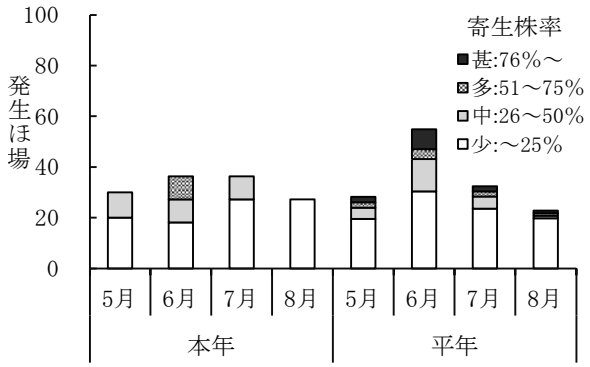


図 3-166 アザミウマ類の発生状況

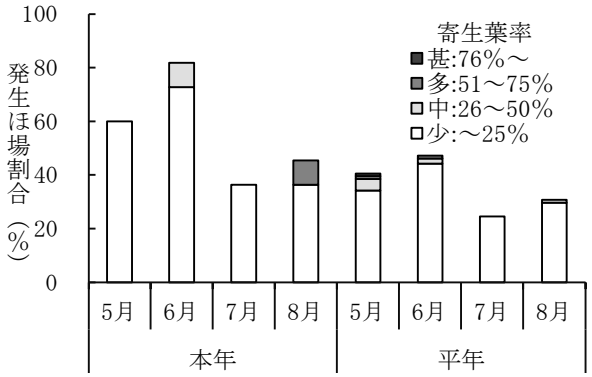


図 3-167 アブラムシ類の発生状況

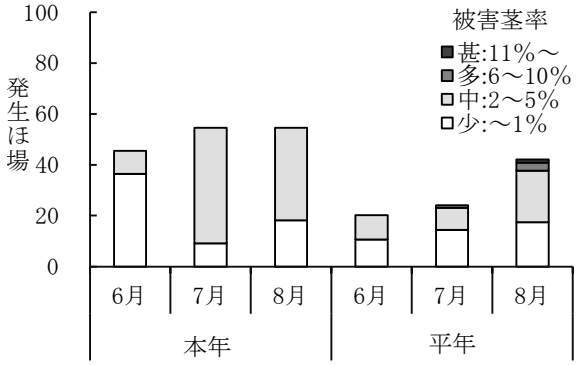


図 3-168 オオタバコガの発生状況

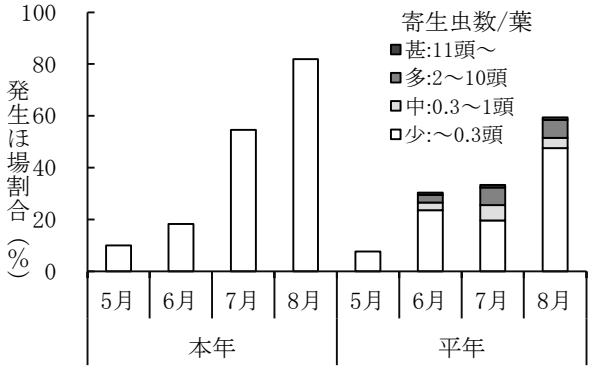


図 3-169 ハダニ類の発生状況

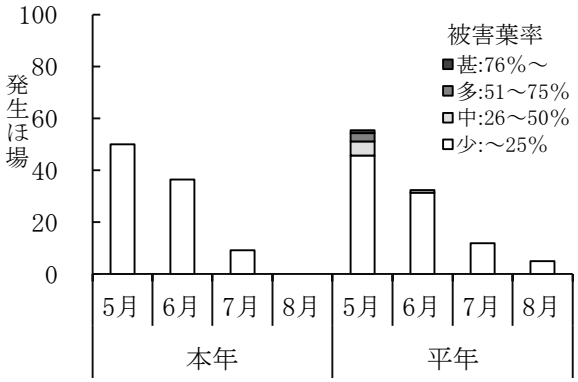


図 3-170 ハモグリバエ類の発生状況

ケ　リンドウ

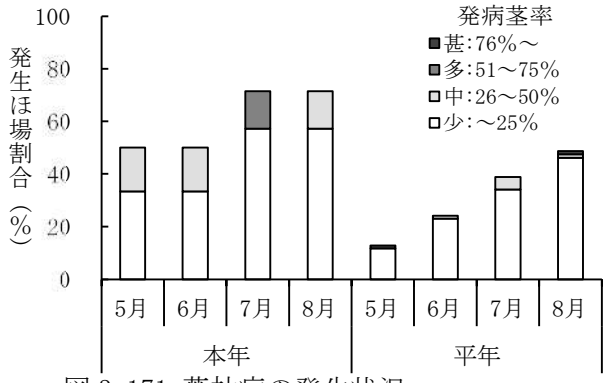


図 3-171 葉枯病の発生状況

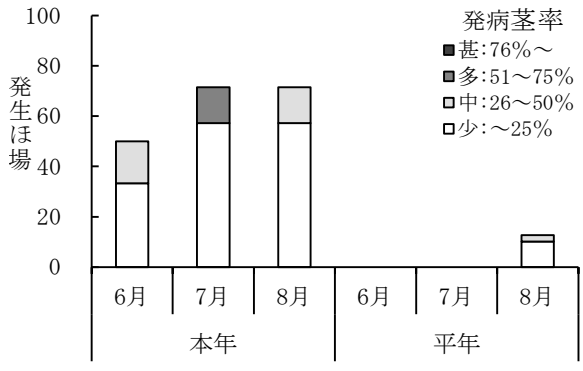


図 3-172 褐斑病の発生状況

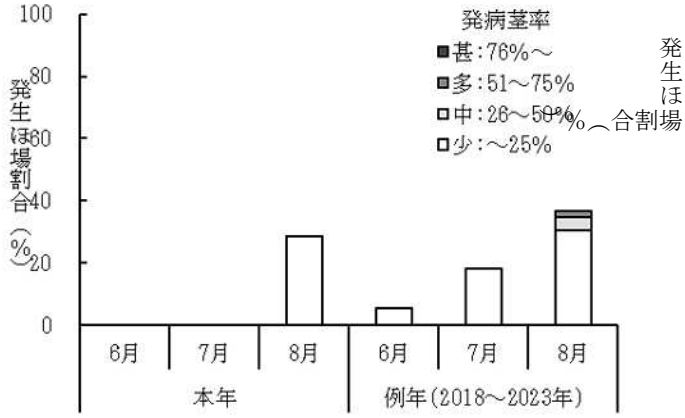


図 3-173 黒斑病の発生状況

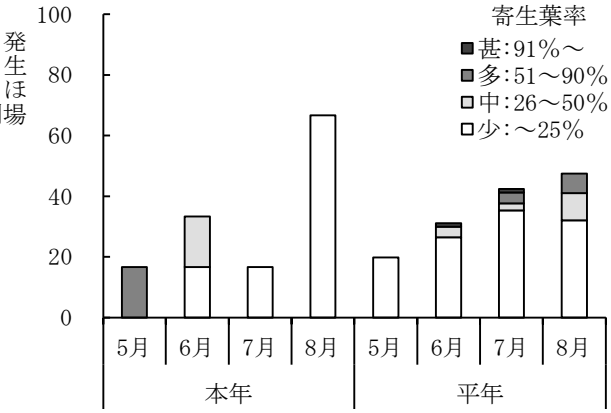


図 3-174 ハダニ類の発生状況

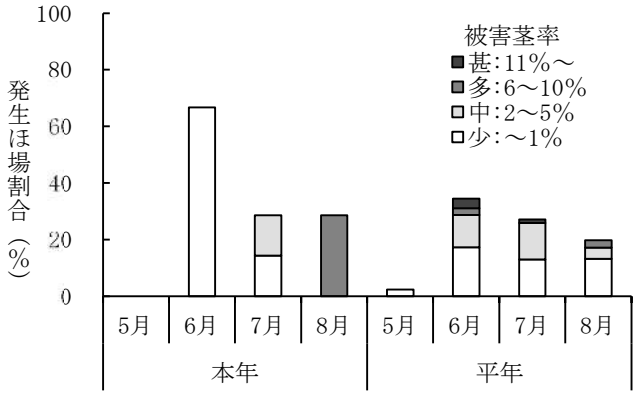


図 3-175 リンドウホソハマキの発生状況

5　発生面積及び防除面積

農作物名	栽培面積(ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					防除面積(ha)		発生量
			少	中	多	甚	計	実	延	
水稲	68,000	苗立枯病	160	15	0	0	175	31,016	37,198	やや少
		もみ枯細菌病	34	0	0	0	34	21,978	41,115	平年並
		苗立枯細菌病	19	0	0	0	19	21,767	32,377	平年並
		ばか苗病	307	84	5	0	396	20,760	20,760	平年並
		葉いもち	798	172	30	5	1,005	60,882	62,453	やや少
		穂いもち	2,076	433	81	0	2,590	14,475	17,836	やや少
		紋枯病	13,641	5,445	1,030	9	20,125	4,294	4,294	やや多
		白葉枯病	0	0	0	0	−	18,933	18,933	平年並
		稲こうじ病	48	9	0	0	57	5,805	5,805	やや少
		ごま葉枯病	1,483	188	11	0	1,683	19,793	25,218	平年並
		縞葉枯病	1	0	0	0	1	54,638	73,002	平年並
		黄化萎縮病	10	0	0	0	10	0	0	平年並
		イネミズゾウムシ	5,058	1,652	0	0	6,710	39,777	39,777	やや多
		イネドロオイムシ	463	86	0	0	549	39,777	39,777	やや多
		イネヒメハモグリバエ(イネミギワバエ)	21	0	0	0	21	28,402	28,402	やや少
		ニカメイガⅠ	0	0	0	0	−	30,054	30,054	平年並
		ニカメイガⅡ	22	0	0	0	22	2,624	2,624	やや少
		フタオビコヤガ	5	0	0	0	5	30,109	30,109	やや少
		イチモンジセセリ(イネツトムシ)	294	0	0	0	294	22,234	22,234	やや少
		コブノメイガ	109	0	0	0	109	11,077	11,077	やや少
		ヒメトビウンカ	871	470	146	0	1,487	54,638	73,002	やや少
		セジロウンカ	749	0	0	0	749	37,730	56,094	やや少
		トビイロウンカ	0	0	0	0	−	37,421	55,785	平年並
		ツマグロヨコバイ	5,461	670	0	0	6,131	48,203	58,044	平年並
		イナゴ類	5,223	0	0	0	5,223	25,669	25,669	やや少
		斑点米カメムシ類	5,285	1,533	319	9	7,146	23,236	41,610	平年並
ムギ類	531	雪腐病類	14	0	0	0	14	10	10	やや多
		さび病類	0	0	0	0	−	93	165	平年並
		うどんこ病	0	0	0	0	−	154	256	平年並
		黒穂病類	0	0	0	0	−	93	93	平年並
		赤かび病	31	0	0	0	31	154	270	やや少
ダイズ	1,490	立枯性病害	16	7	0	0	23	1,068	1,068	やや多
		べと病	142	19	0	0	161	145	145	やや多
		紫斑病	213	0	0	0	213	978	1,577	やや多
		アブラムシ類	20	0	0	0	20	999	1,556	やや少
		吸実性カメムシ類	658	157	0	0	815	1,532	2,793	やや多
		フタスジヒメハムシ	164	99	11	16	290	1,435	2,320	平年並
		ウコンノメイガ	85	0	0	0	85	1,114	1,114	平年並
		ハスモンヨトウ	45	0	0	0	45	1,184	1,184	やや多
		シロイチモジマダラメイガ	90	0	0	0	90	367	367	やや少
		マメシンクイガ	221	71	17	0	309	1,187	1,861	やや少
		マメヒメサヤムシガ	32	0	0	0	32	174	174	平年並
		ダイズサヤタマバエ	42	0	0	0	42	1,407	1,407	平年並
リンゴ	1,170	斑点落葉病	808	29	3	0	840	1,147	14,370	平年並
		黒星病	9	1	0	0	10	1,147	8,494	やや少
		うどんこ病	87	0	0	0	87	1,147	2,410	平年並
		輪紋病	224	52	0	0	276	1,098	6,147	やや多
		褐斑病	500	129	27	0	656	1,147	13,230	平年並
		炭疽病	78	0	0	0	78	1,098	4,061	やや多
		すす点病	42	22	0	0	64	1,098	5,085	やや多
		すす斑病	54	0	0	0	54	1,098	5,085	やや多
		腐らん病	167	59	0	0	226	702	1,755	平年並
		ハマキムシ類	90	1	0	0	91	1,147	5,621	平年並
		モモシンクイガ	65	0	0	0	65	1,098	5,065	平年並

農作物名	栽培面積(ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					防除面積(ha)		発生量
			少	中	多	甚	計	実	延	
リンゴ		ナシヒメシンクイ	20	0	0	0	20	1,098	5,188	平年並
		スモモヒメシンクイ	36	37	0	0	73	1,098	4,202	やや多
		キンモンホソガ	610	0	0	0	610	1,147	4,825	やや多
		ギンモンハモグリガ	63	5	0	0	68	1,147	1,376	少
		アブラムシ類	651	0	0	0	651	1,147	2,303	平年並
		ヒメボクトウ	64	30	4	0	98	176	176	少
		ハダニ類	639	212	105	0	956	1,147	3,566	多
モモ	1,730	せん孔細菌病	68	18	14	5	105	1,695	18,511	少
		灰星病	122	4	0	0	126	1,463	12,089	平年並
		ホモプシス腐敗病	44	2	0	0	46	1,463	8,778	平年並
		ハマキムシ類	35	0	0	0	35	1,644	5,429	平年並
		ナシヒメシンクイ	32	0	0	0	32	1,463	6,720	平年並
		モモシンクイガ	25	0	0	0	25	1,463	5,943	平年並
		モモノゴマダラノメイガ	23	0	0	0	23	1,463	5,623	平年並
		モモハモグリガ	370	0	70	0	440	1,644	7,527	やや多
		コスカシバ	219	16	0	0	235	1,038	1,730	やや少
		アブラムシ類	216	2	0	0	218	1,644	4,283	平年並
		カイガラムシ類	51	0	0	0	51	1,232	1,743	平年並
		ハダニ類	956	458	96	1	1,511	1,557	2,528	多
ナシ	765	黒星病	212	1	0	0	213	712	11,777	少
		輪紋病	34	0	0	0	34	691	3,671	やや少
		ハマキムシ類	56	0	0	0	56	712	2,293	平年並
		ナシヒメシンクイ	57	0	0	0	57	712	4,588	平年並
		モモシンクイガ	14	0	0	0	14	712	4,806	平年並
		アブラムシ類	143	46	17	0	206	727	3,169	やや少
		カイガラムシ類	33	3	1	0	37	364	2,545	少
		ヒメボクトウ	34	5	1	0	40	38	38	平年並
		ハダニ類	515	241	0	0	756	727	2,525	多
		ニセナシサビダニ	4	32	31	31	98	383	1,148	やや少
カキ	944	炭疽病	4	0	0	0	4	317	317	平年並
		円星落葉病	295	167	69	94	625	330	1,022	やや少
		ハマキムシ類	4	0	0	0	4	45	45	平年並
		カキノヘタムシガ	5	0	0	0	5	272	544	平年並
		チャノキイロアザミウマ	69	5	1	1	76	317	698	やや少
		カキクダアザミウマ	85	22	3	0	110	317	906	やや少
		フジコナカイガラムシ	6	0	0	0	6	272	589	平年並
果樹共通	4,748	カメムシ類	684	61	17	2	764	1,832	12,405	やや多
夏秋トマト	288	疫病	34	0	0	0	34	70	280	平年並
		萎凋病	20	0	0	0	20	35	35	平年並
		半身萎凋病	12	0	0	0	12	35	35	平年並
		葉かび病	30	6	0	0	36	250	1,500	やや少
		すすかび病	10	10	30	58	108	200	1,000	平年並
		灰色かび病	72	108	36	0	216	220	880	平年並
		かいよう病	28	3	1	0	32	50	100	平年並
		青枯病	30	7	1	1	39	35	35	平年並
		黄化えそ病(TSWV)	1	0	0	0	1	0	0	平年並
		アブラムシ類	90	6	0	0	96	300	600	平年並
		コナジラミ類	27	62	18	57	164	190	475	平年並
		アザミウマ類	32	0	0	0	32	150	450	やや少
		ハモグリバエ類	72	36	36	50	194	150	600	やや多
		オオタバコガ	26	16	0	0	42	150	600	やや多
		ハスモンヨトウ	18	0	0	0	18	25	25	多

農作物名	栽培面積(ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					防除面積(ha)		発生量
			少	中	多	甚	計	実	延	
夏秋キュウリ	559	べと病	300	60	25	1	386	300	2,700	平年並
		黒星病	34	0	0	0	34	150	300	やや少
		うどんこ病	102	51	0	0	153	300	3,000	平年並
		炭疽病	254	51	0	0	305	350	4,500	平年並
		褐斑病	80	55	10	0	145	350	3,500	やや少
		つる枯病	80	10	0	0	90	300	450	やや少
		斑点細菌病	29	0	0	0	29	120	240	平年並
		モザイク病	245	50	9	0	304	0	0	やや多
		アブラムシ類	500	30	5	0	535	490	2,450	平年並
		コナジラミ類	153	0	0	0	153	300	600	やや少
		アザミウマ類	250	150	90	45	535	325	650	やや多
		ワタヘリクロノメイガ	51	0	0	0	51	50	75	平年並
		ハダニ類	150	150	4	0	304	320	800	平年並
イチゴ	98	炭疽病	35	5	0	0	40	70	70	やや多
		萎黄病	5	1	0	0	6	70	70	平年並
		萎凋病	2	0	0	0	2	70	70	平年並
		うどんこ病	20	10	0	0	30	98	882	平年並
		灰色かび病	18	0	0	0	18	98	294	平年並
		アブラムシ類	15	10	1	4	30	98	294	平年並
		コナジラミ類	57	5	0	0	62	80	160	平年並
		アザミウマ類	10	15	5	10	40	50	150	やや少
		ハスモンヨトウ	21	15	2	1	39	70	140	多
		ハダニ類	34	15	5	5	59	98	784	平年並
キク	86	白さび病	16	1	0	0	17	86	516	やや少
		アブラムシ類	63	8	2	0	73	86	688	やや多
		アザミウマ類	16	8	8	0	32	86	860	平年並
		ハモグリバエ類	40	2	1	0	43	86	258	平年並
		オオタバコガ	16	31	3	0	50	86	602	平年並
		ハダニ類	16	39	8	0	63	86	688	多
リンドウ	22	葉枯病	17	3	1	1	22	22	44	やや多
		褐斑病	6	1	0	0	7	22	44	やや多
		花腐菌核病	1	0	0	0	1	16	32	平年並
		アザミウマ類	12	0	0	0	12	16	32	平年並
		リンドウホソハマキ	16	1	0	0	17	22	66	平年並
		ハダニ類	13	3	1	1	18	22	44	やや多

6　病害虫診断同定

（1） 依頼元及び依頼作物

2025 年度の依頼件数は 87 件であった。依頼元は農林事務所農業振興普及部・農業普及所が 53 件で、農家等からの直接依頼が 33 件、センター内が１件であった（表 3-8）。

依頼された作物は、野菜が 65 件、花きが 12 件、果樹が 8 件、作物２件であった（図 3-176）。主に、診断依頼の多い品目別ではキュウリ 26 件、トマトが 15 件、イチゴが 6 件であった。

（2）診断同定の結果

診断同定の結果、病害 44 件、虫害 31 件、その他 12 件であった（表 3-9）。病害では、ウイルス病の診断依頼が多く、主にキュウリの CMV、WMV、CCYV 等が多かった。虫害では、トマトキバガ成虫の診断依頼が多かった。

表 3-8　病害虫診断同定依頼元別依頼件数

依　　頼　　元	件　数
農業振興普及部・農業普及所	53
農　業　協　同　組　合	0
農　　業　　者	33
セ　ン　タ　ー　内	1
そ　　の　　他	0
合　　計	87

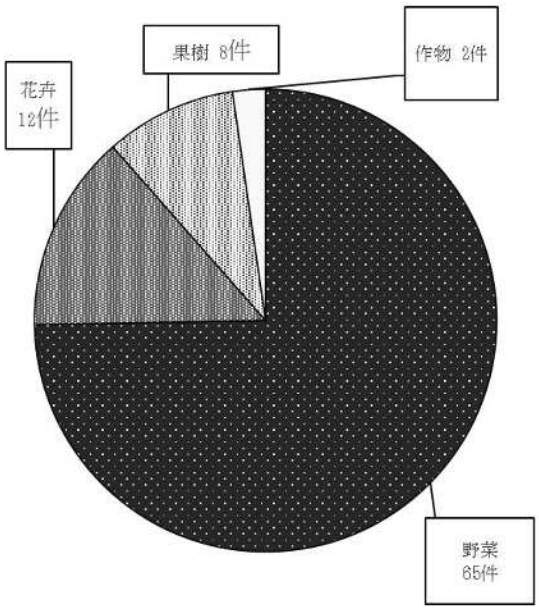


図 3-176　診断同定依頼作物内訳

表 3-9　病害虫診断同定結果

原　　因	件数	主な種類（カッコ内は件数）
病害	44	
ウイルス病（ウイロイド）	(27)	CMV(11)、WMV (9) 、キュウリ退緑黄化病(4)　他(3)
糸状菌	(16)	ネギ白色疫病(1)、キク黒さび病(1)、ブドウ晩腐病(1)　他(13)
細菌	(1)	イネもみ枯細菌病(1)
虫害	31	
昆虫類	(31)	トマトキバガ(9)、ホコリダニ類、シクラメンホコリダニ(4)、他(18)
その他	12	
原因不明	(12)	病害虫が原因ではないと思われるもの(13)
計	87	

7　鳥獣類による農作物の被害状況

福島県における 2024 年度の野生鳥獣による農作物の被害金額は、前年度と比べ約 807 万円増の１億 5,063 万円（前年度比 105.7%）となった（調査対象期間：2024 年 4 月～2025 年 3 月）。

表 3-10　鳥類による被害状況

種　類	農作物名	被害面積 (ha)	被害量 (ｔ)	被害金額 (万円)
スズメ	稲	0.00	0.01	0.1
	計	0.00	0.01	0.1
カラス	稲	0.22	1.26	25.8
	豆類	0.30	0.38	6.3
	果樹	2.83	49.22	1,897.1
	野菜	0.28	6.26	202.1
	いも類	0.00	0.07	0.6
	計	3.63	57.18	2,131.9
カモ	稲	0.24	1.28	26.2
	計	0.24	1.28	26.2
ムクドリ	稲	0.01	0.05	1.1
	果樹	1.88	33.30	1,158.0
	野菜	0.00	0.01	0.9
	計	1.89	33.36	1,160.0
ヒヨドリ	稲	0.01	0.05	1.1
	果樹	2.56	46.72	1,370.9
	野菜	0.02	0.21	13.6
	計	2.59	46.98	1,385.6
キジ	野菜	0.05	0.26	6.3
	計	0.05	0.26	6.3
サギ	稲	0.21	1.11	22.8
	計	0.21	1.11	22.8
その他鳥類	稲	0.00	0.02	0.5
	果樹	0.09	1.66	46.0
	野菜	0.04	0.35	10.9
	計	0.13	2.03	57.4
鳥類計		8.74	142.21	4,790.3

注：「被害量」は四捨五入しているため合計が一致しない場合がある。

表 3-11　獣類による被害状況

種　類	農作物名	被害面積 (ha)	被害量 (ｔ)	被害金額 (万円)
ネズミ	野菜	0.11	0.86	18.3
	いも類	0.00	0.04	0.4
	計	0.11	0.91	18.7
ウサギ	その他	0.20	0.00	39.4
	計	0.20	0.00	39.4
クマ	稲	0.36	2.05	42.1
	雑穀	0.62	0.33	8.1
	果樹	0.33	4.64	192.5
	野菜	0.26	3.42	99.2
	いも類	0.01	0.09	0.7
	計	1.58	10.53	342.6
イノシシ	稲	27.64	149.32	3,066.0
	麦類	0.75	1.73	9.2
	豆類	1.08	1.36	24.3
	雑穀	9.16	4.94	122.5
	果樹	0.21	2.28	105.7
	飼料作物	4.46	125.93	227.2
	野菜	8.30	104.77	1,339.7
	いも類	3.60	61.05	574.7
	その他	0.33	2.70	270.6
	計	55.53	454.08	5,739.9
モグラ	野菜	0.02	0.24	15.4
	計	0.02	0.24	15.4
サル	稲	1.33	7.05	138.0
	麦類	3.31	7.61	40.5
	豆類	0.36	0.46	8.2
	雑穀	0.29	0.16	3.9
	果樹	2.35	30.63	1,201.5
	飼料作物	1.42	10.20	18.0
	野菜	1.75	31.62	902.0
	いも類	0.36	5.94	61.2
	計	11.17	93.66	2,373.3
シカ	稲	2.03	11.14	228.2
	豆類	0.45	0.58	9.6
	雑穀	3.83	2.06	51.1
	果樹	0.18	3.44	74.0
	野菜	0.08	1.97	18.2
	その他	0.23	0.00	44.3
	計	6.80	19.18	425.4

注：「被害量」は四捨五入しているため合計が一致しない場合がある。

種　類	農作物名	被害面積 (ha)	被害量 (ｔ)	被害金額 (万円)
カモシカ	野菜	0.00	0.11	2.2
	いも類	0.00	0.04	0.4
	計	0.00	0.16	2.6
タヌキ	果樹	0.02	0.04	1.8
	野菜	0.22	1.66	31.7
	計	0.24	1.69	33.5
ハクビシン	稲	0.03	0.20	4.4
	豆類	0.22	0.27	4.5
	果樹	0.66	9.80	566.3
	飼料作物	0.20	9.03	12.6
	野菜	2.74	20.89	626.7
	いも類	0.03	0.52	4.3
	計	3.88	40.71	1,218.8
アライグマ	果樹	0.05	0.12	15.2
	野菜	0.02	0.13	2.8
	計	0.07	0.25	18.0
その他 獣類	果樹	0.04	0.78	27.8
	野菜	0.01	0.44	17.3
	計	0.05	1.22	45.1
獣類計		79.65	622.63	10,272.7

注：「被害量」は四捨五入しているため合計が一致しない場合がある。

表 3-12　鳥獣類による被害合計

種　類	農作物名	被害面積 (ha)	被害量 (ｔ)	被害金額 (万円)
鳥獣計	稲	32.08	173.54	3,556.3
	麦類	4.06	9.34	49.7
	豆類	2.41	3.05	52.9
	雑穀	13.90	7.49	185.6
	果樹	11.20	182.63	6,656.8
	飼料作物	6.08	145.16	257.8
	野菜	13.90	173.20	3,307.3
	いも類	4.00	67.75	642.3
	その他	0.76	2.70	354.3
鳥獣合計		88.39	764.84	15,063.0

注：「被害量」は四捨五入しているため合計が一致しない場合がある。

第４　病害虫防除指導の実施状況

１　農薬取締業務及び農薬安全使用指導

（１） 農薬中毒事故の発生

2025 年度、医療機関から県に報告があった農薬中毒事故は 0 件であった。

（２） 農薬危被害防止指導

農薬危被害防止月間（2025 年 6 月 10 日～9 月 10 日）を中心に、農薬販売者への立入検査を 241 件実施し、適正な販売管理の指導と危被害防止の啓発を行った。

（３） 農薬管理指導士の育成

農薬の安全な取扱い及び使用について農薬使用者へ的確な助言を行う「農薬管理指導士」を育成するために、農薬販売者（試験日現在、満 20 歳以上であり、毒物劇物取扱責任者の資格を有し、販売経験が概ね 2 年以上の者）に対して、農薬取締法等関係法令と農薬の安全かつ適正な使用等について指導した（担当した研修及び試験問題の内容は、農薬関係法令、農薬の安全使用及び危被害防止について）。

農薬管理指導士認定研修・試験の実績については下記のとおり。

時　　期　2025 年 11 月 25 日（火）～26 日（水）
場　　所　福島県農業総合センター
新規受講者　　10 名
合 格 者 数　　10 名（合格率 100%）
農薬管理指導士総数　308 名（2025 年 3 月 31 日現在）

（４） 農薬適正使用アドバイザーの育成

農薬使用者等に対し適正な農薬使用について助言する「農薬適正使用アドバイザー」を育成するために、農薬適正使用の指導的立場にある農業者等（試験日現在、満 18 歳以上であり、県内に在住または在勤の者）に対して、農薬取締法と農薬の安全かつ適正な使用等について指導した（担当した研修及び試験問題の内容は、農薬一般及び農薬の安全、適正使用について）。

農薬適正使用アドバイザー認定・試験の実績については下記のとおり。

時　　期　2025 年 11 月 25 日（火）（中通り会場）
　　2025 年 12 月 2 日（木）（浜通り会場）
場　　所　福島県農業総合センター（中通り会場）
　　福島県環境創造センター環境放射線センター（浜通り会場）
新規受講者　55 名
合 格 者 数　45 名（合格率 82%）
農薬適正使用アドバイザー総数　730 名（2025 年 3 月 31 日現在）

（５）農薬適正・安全使用指導

ア　有害動植物防除及び農薬安全使用等の支援・指導状況

各種会議への出席、ホームページへの掲載、講習会等での講義や立入検査等により、農薬の安全使用・危被害防止等について指導・助言を行った。具体的活動内容は表 4- 1 のとおり。

表 4- 1　農薬安全使用等に関する活動

項目	時期	内容	対象者
農薬の適正使用及び農薬飛散防止対策の推進	6 月～8 月	各地方農薬適正使用推進会議（県北、県中、会津、南会津、相双、いわき）における助言指導	農林事務所、市町村、農業協同組合等
農薬販売者立入検査による指導	4 月～3 月	農薬販売者立入検査時に、農薬の基礎知識や法令、農薬の適正管理と使用等について指導	農薬販売者
無人航空機の危被害防止及び病害虫等の防除対策	4 月～3 月	無人航空機の農薬適正使用確認、危被害・事故等防止に関する指導、散布実施計画・実績報告とりまとめ	農林事務所、実施主体、市町村、農業協同組合、農業共済組合、農業者、散布業者
農作物病害虫防除指針変更情報の提供	4 月～3 月	安全使用情報(使用制限のかかるもの)、毎月の登録変更、失効情報の確認	病害虫防除所ホームページに掲載
農薬適正使用、危被害防止等に関する情報提供	4 月～3 月 6 月～9 月 5 月～3 月	農薬安全・適正使用について 農薬危被害防止運動月間の周知 無人航空機の安全対策の徹底と事故情報（2025 年度）について	病害虫防除所ホームページに掲載
地方版病害虫防除暦作成指導	12 月	果樹病害虫防除暦検討会（会津）	農薬使用者、市町村、関係機関職員、農薬販売者
会議・研修会等における講師対応等	7 月 1,3 日 11 月 25,26 日 11 月 25,26 日 12 月 2 日	農薬危害防止講習会 農薬管理指導士認定・更新研修 農薬適正使用ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ認定・更新研修 農薬適正使用ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ認定・更新研修（浜通り）	受講者 250 名 受講者　26 名（更新含む） 受講者　93 名（更新含む） 受講者　34 名（更新含む）

（6）農薬販売者の届出及び指導

ア　農薬販売者の届出

（ア）届出の状況

2025 年度の届出状況は表 4- 2 のとおりであった。内訳は新規届が 36 件、廃止届が 25 件（廃止された販売所 30 か所）、変更届が 23 件（変更内容 159 件）で、農薬販売者総数は 1,211 件であった。届出理由で多かったのは、新規届では薬店の増設、廃止届では業務見直しに伴う販売中止や廃業、変更届では届出者氏名や住所の変更であった。

（イ）販売者台帳の整備

届出に基づき、販売者台帳を更新し、関連する電子ファイルや台帳を整備した。併せて、立入検査で確認した指導状況・毒劇物販売業登録状況等の情報を更新した。

表 4- 2　2025 年度農薬販売届

		農薬卸商	農薬卸・小売商	農薬小売商	内訳						計
					農業協同組合	薬局・薬店	種苗店	肥料店	ホームセンター	他	
販売者総数　＊1		44	73	1,094	131	397	41	114	131	398	1,211
新規届		4		32		16	2	2	1	15	36
変更届		3	3	153	89	9		2	12	47	159
変更内容 ＊2	届出者住所			2				1		1	2
	届出者氏名	2	3	141	88	9		1	9	39	146
	販売所住所			4					2	2	4
	販売所名称法人名	1		6	1				1	5	7
	卸・小売の別										0
廃止届			1	29	2	10	3	5	1	9	30

※１　販売者総数は年度末(3 月 31 日)の件数

※２　１つの変更届、廃止届で複数の変更内容、廃止有り

イ　農薬販売者の立入検査

（ア） 立入検査の状況

農薬取締法第 29 条に基づき県内の農薬販売者（店舗）の立入検査を実施した。実施件数は販売者総数の約 2 割に当たる 241 件で、このうち県保健福祉事務所・保健所との合同が 53 件、当所単独が 188 件であった（表 4- 3）。検査においては、帳簿の記載・備付や農薬の陳列・保管等を重点的に確認するとともに、「農薬販売の手引き」を配付して農薬取締法及び関連法令を遵守した適正な販売・管理を指導した。

（イ） 問題点及び指導状況

検査において是正を求めた事柄で多かったのは、注意指導票の交付では帳簿の記載・備付・保管と届出に関すること(表 4- 3）、口頭指導では農薬登録のない除草剤の表示の不備であった。

表 4- 3　2025 年度農薬販売者立入検査と指導結果(注意指導票の交付)

年度	立入検査延べ数	違反者実数	違反事項別件数					
			販売の制限、禁止 法第 18 条の１項 (ｱ)	虚偽宣伝等の禁止 法第 21 条の２項 (ｲ)	販売所の届出 法第 17 条 (ｳ)	帳簿の備付、記載、保管 法第 20 条 (ｴ)	違反件数合計(延べ) (ｱ+ｲ+ｳ+ｴ)	左のうち改善確認済件数
2025 年	241	19	0	0	3	16	19	19

（7）農薬流通量調査

福島県農作物病害虫防除指針に掲載された農薬を中心に、農薬卸売業者（全国農業協同組合福島県本部を含む）、卸小売業者及びホームセンター計 33 事業者からの報告（2025 農薬年度（2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日）の販売数量）に基づいて取りまとめた（表 4- 4）。

表 4- 4　流通品目数と流通量

分　類	流通品目数		流通量(t, kl)	
	2025 農薬年度	2024 農薬年度	2025 農薬年度	2024 農薬年度
殺菌剤	260	282	598	647
殺虫剤	309	326	1,288	1,297
殺虫殺菌剤	163	173	817	814
除草剤	466	538	2,474	2,390
その他	131	137	4,275	4,693
合　計	1,329	1,456	9,452	9,841

※一般社団法人日本植物防疫協会が運営しているホームページ「ＪＰＰ-ＮＥＴ」に基づき、「殺菌植調剤」や「殺虫殺菌除草剤」等を「その他」に分類した。

※小数点第一位を四捨五入しているため合計が合わない場合がある。

（8）ゴルフ場の農薬安全使用指導

福島県ゴルフ場農薬安全使用指導要綱に基づき、ゴルフ場における農薬適正使用及び環境保全等を目的として農薬使用実績調査と立入検査を実施した。2026 年 2 月 24 日のゴルフ場農薬安全使用管理者講習会では、ゴルフ場での農薬安全使用に関する各報告について説明した。

ア　農薬使用実績調査

2024 年度の農薬使用実績について県内 35 か所のゴルフ場から報告を求めて取りまとめた。これに基づき農薬成分ごとの投下量を算出し、薬剤耐性菌、抵抗性害虫等の発生抑制や排出水等の水質測定の参考とするため、上位 30 成分について示した（表 4- 5）。

表 4- 5 ゴルフ場で投下量の多い農薬成分　（単位：kg）

農薬成分名	種類	投下量	農薬成分名	種類	投下量
アシュラム	除草剤	1,884	ヘキサコナゾール	殺菌剤	214
ＴＰＮ	殺菌剤	1,110	トリクロピル	除草剤	170
Ｓ－メトラクロール	除草剤	737	クロチアニジン	殺虫剤	155
ＭＣＰＰ	除草剤	561	ホセチル	殺菌剤	141
トルクロホスメチル	殺菌剤	458	ピロキサスルホン	除草剤	125
チウラム	殺菌剤	447	プロジアミン	除草剤	124
プロピザミド	除草剤	396	グリホサート	除草剤	121
プロピネブ	殺菌剤	346	チフルザミド	殺菌剤	117
アゾキシストロビン	殺菌剤	321	エトベンザニド	除草剤	115
ＭＣＰＡ	除草剤	299	ピリブチカルブ	除草剤	103
ポリオキシエチレンドデシルエーテル	展着剤	291	ＭＤＢＡ	除草剤	99
			チオジカルブ	殺虫剤	91
ペンシクロン	殺菌剤	280	イプロジオン	殺菌剤	90
フェノキサスルホン	除草剤	279	ポリオキシエチレンメチルポリシロキサン	展着剤	89
ジラム	殺菌剤	243			
有機銅	殺菌剤	225	フルキサピロキサド	殺菌剤	77

イ　ゴルフ場の農薬使用状況に関する立入検査

ゴルフ場から報告のあった農薬使用実績を参考にして、2025 年 10 月、12 月に 7 か所のゴルフ場へ立入検査を行い、農薬の使用状況、保管・管理状況等について指導した。

2　農林水産航空事業

（1） 無人ヘリコプターによる空中散布

ア　全体の実施面積

「農薬の空中散布における福島県無人航空機安全ガイドライン（令和 2 年 4 月 1 日施行)」に基づき、実施主体に対して、無人ヘリコプターによる農薬の空中散布の実績報告を求めた。2025 年の県内の実施面積は延べ 6,565.4ha となり、前年比 88.6%となった（表 4- 6）。

イ　水稲における実施面積

2025 年の水稲における実施面積は、6,377.2ha となり、前年比 93.6%となった(表 4-7)。

ウ　大豆における実施面積

2025 年の大豆における実施面積は、178.2ha となり、前年比 39.4%となった（表 4- 8）。

表 4- 6　農林事務所別作物別実施面積（単位：ha)

農林事務所	水稲	大豆	小麦	その他（松）	合計	市町村数
県北	596.1	10.0			606.1	3
県中	902.7			10.0	912.7	4
県南	2,199.4	79.4			2,278.7	6
会津	1,659.3	88.9			1,748.2	8
南会津	24.3				24.3	3
相双	409.3				409.3	4
いわき	586.0				586.0	1
全体	6,377.2	178.2		10.0	6,565.4	29

※空欄は本年度の散布実績がない項目である。
※その他は松くい虫防除である。
※小数第 2 位を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

表 4- 7　水稲における散布面積の内訳（単位：ha）

農林事務所	殺菌剤	殺虫剤	殺菌殺虫剤	混用	除草剤	全体	市町村数
県北		436.0	107.2	52.9		596.1	3
県中	19.2	113.3	748.6		21.6	902.7	4
県南		383.0	1,816.4			2,199.4	6
会津		660.9	496.6	492.5	9.4	1,659.3	8
南会津			24.3			24.3	3
相双		393.3	16.0			409.3	4
いわき	38.0	40.0	508.0			586.0	1
全体	57.2	2,026.5	3,717.1	545.4	31.0	6,377.2	29

※空欄は本年度の散布実績がない項目である。

※小数第 2 位を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

表 4- 8　大豆における散布面積の内訳（単位：ha）

農林事務所	殺菌剤	殺虫剤	殺菌殺虫剤	混用	全体	市町村数
県北		5.0	5.0		10.0	1
県中						
県南		39.5		39.9	79.4	2
会津			88.9		88.9	2
南会津						
相双						
いわき						
全体		44.5	93.9	39.9	178.2	5

※空欄は本年度の散布実績がない項目である。

※小数第 2 位を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

（2）無人マルチローターによる空中散布（散布計画）

ア　全体の散布計画面積

2025 年に提出のあった殺虫剤･殺虫殺菌剤等の散布計画延べ面積は 9,119.1ha となり、前年比 145.2％となった（表 4- 9）。これは、本年の無人ヘリコプターによる実施面積の 138.9%で、初めて無人マルチローターの空中散布（散布計画）が無人ヘリコプターの空中散布を上回った。

表4- 9　農林事務所別作物別計画面積（単位：ha）

農林事務所	水稲	大豆	野菜	果樹	全体	市町村数
県北	821.6	7.8	1.0	0.0	830.4	7
県中	2,507.4	49.2			2556.6	11
県南	1,352.4	94.2			1446.6	9
会津	1,880.9	42.6			1923.5	10
南会津	748.2	10.0			758.2	3
相双	959.4	216.1	6.8		1182.3	11
いわき	421.5				421.5	1
全体	8,691.5	419.9	7.8	0.0	**9,119.1**	52

※空欄は本年度の散布計画の提出がなかった項目である。
※小数第2位を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

イ　水稲における散布計画面積

2025年の水稲における散布計画面積は、8,691.5haとなり、前年比147.2%となった。

ウ　大豆における散布計画面積

2025年の大豆における散布計画面積は、419.9haとなり、前年比113.2%となった。

（3）指導事項の概要

ア　農薬適正使用について

「農薬の空中散布における福島県無人航空機安全ガイドライン（令和2年4月1日施行）」に基づき、実施主体への空中散布実施計画・実績報告提出を求める際に農薬適正使用等を周知した。また、各マルチロータースクールや各マルチローター販売店に、同ガイドラインに基づく殺虫剤散布計画提出の周知依頼文書及び農薬適正使用等の周知文書を送付した。

イ　事故防止について

「産業用無人ヘリコプターマニュアル」や「産業用マルチローターマニュアル」、「無人航空機による農薬等の空中散布における安全対策について」等へのリンクをホームページに掲載して、事故への注意喚起・事故情報の周知を行った。また、航空法に基づく事故対応についても実施主体へ通知した。これらのこともあり、2025年も農薬事故の発生はなかった。

第５ 研究成果等

１ 調査研究

課題一覧

課題番号	ページ	作物	調査研究課題
（１）	99	作物	斑点米カメムシ類の発生状況の年次間変動の把握
（２）	106	作物	福島県におけるイネカメムシの発生と被害状況の把握
（３）	108	果樹	モモにおける２種のシロカイガラムシの県内における発生実態調査
（４）	111	果樹	ウメシロカイガラムシの第１世代の発生予測の精度と年間の発生回数の検証
（５）	113	果樹	リンゴにおけるナシマルカイガラムシ成虫の発生消長と「カイガラなび（仮称）」を用いた発生予測
（６）	117	野菜	トマトキバガの発生状況調査
（７）	121	野菜	福島県の夏秋露地きゅうりのウイルス病優占種調査
（８）	123	野菜	資材消毒の有無によるトマト褐色輪紋病菌の胞子量及び発病の傾向
（９）	126	野菜	ハスモンヨトウの発生状況の解析

－－
課 題 番 号：（１）
実施課題名：斑点米カメムシ類の発生状況の年次間変動の把握
－－

１．目的

斑点米カメムシ類の食害による斑点米は、米の品質に大きく影響する。そのため、過去のすくい取りデータの整理、データベースの作成を行い、各斑点米カメムシ類の年次間変動の把握を行い、今後の防除対策に資する。

２．方法

斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、大型カメムシ類）等の、過去のすくい取りデータ、予察灯データ、玄米品質調査データをデータベース化し、地域別年次間変動、誘殺数の推移、食害による斑点米率の推移を解析する。

３．結果の概要

（１）すくい取りデータ

6 月下旬の畦畔すくい取り調査では、2010 年から 2014 年にかけて県全体でアカスジカスミカメのすくい取り数が増加した（図 1、図 2、図 3）。クモヘリカメムシについては、7 月下旬の畦畔すくい取り調査において、中通りで 2016 年、浜通りで 2014 年から発生程度及び発生ほ場割合が増加していった。会津では、これまでに発生は確認されていない（図 4、図 5）。6 月下旬の畦畔すくい取り調査の結果を踏まえ、2013 年～2017 年、2020 年、2024 年に注意報が発表された（表 1）。

（２）予察灯データ

アカスジカスミカメムシの誘殺数が 2010 年から急増し、誘殺数のピークは、多くの年で年４回であった。合計誘殺数が多かった 2011 年は、6 月中旬、7 月上旬、8 月上中旬、9 月中旬の誘殺数が多かった。2025 年は 6 月上旬、6 月下旬～7 月上旬、9 月上旬の誘殺数が多かった（表２）。

アカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数のピークは、7 月上旬に見られ、9 月上旬まで誘殺が続いた。合計誘殺数が多かった 2001 年は 6 月下旬～7 月上旬、8 月下旬の誘殺数が多かった。アカスジカスミカメの誘殺数が多かった 2011 年は 6 月下旬～7 月上旬、8 月上旬～中旬の誘殺数が多かった（表 3）。

（３）玄米品質調査データ

中通りでは、カスミカメムシ類による斑点米混入率が 2011 年で約 0.2%と高く、2016 年から 2018 年、2022 年から 2024 年に 0.1%を超えている。大型カメムシ類では、2011 年から 2016 年までは 0.1%未満であったが、2017 年から斑点米混入率が増加傾向である。浜通りでは、2019 年から大型カメムシ類の斑点米混入率が 0.1%を超える年が続いている。会津ではカスミカメムシ類による斑点米混入率が 0.1%を超える年が 2012 年、2015 年、2020 年、2023 年に発生し、それ以外の年は 0.1%以下である（図 6、図 7）。斑点米カメムシ類による斑点米混入率では、2018 年頃から県全体で 0.1%を超える年が見えるようになり、中通り、浜通りで 2023 年、会津で 2020 年が最も高かった（図 8）。

（具体的データ）次ページ

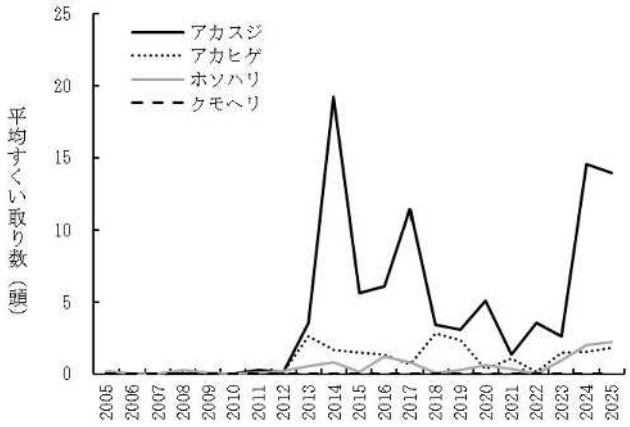


図１　畦畔すくい取り調査におけるすくい取り数の推移（中通り、６月下旬）

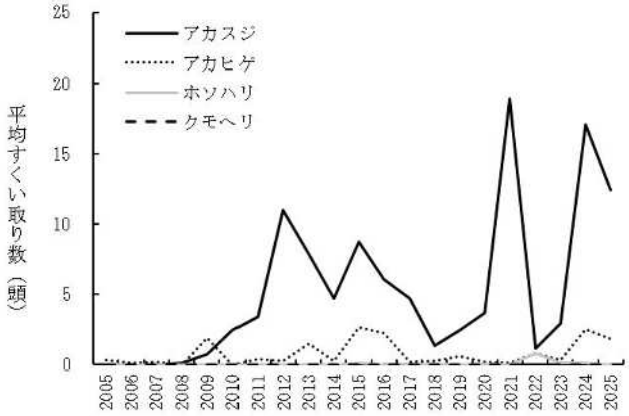


図２　畦畔すくい取り調査におけるすくい取り数の推移（会津、６月下旬）

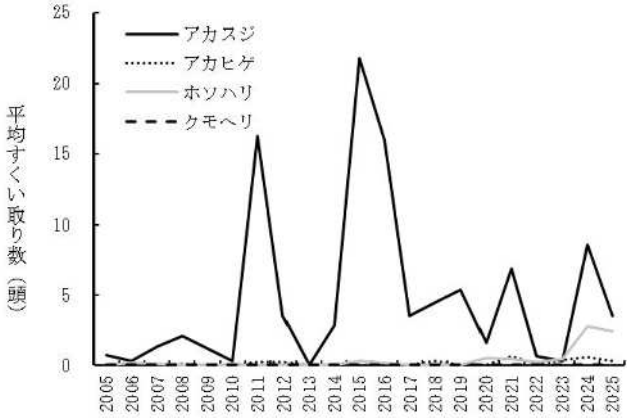


図３　畦畔すくい取り調査におけるすくい取り数の推移（浜通り、６月下旬）

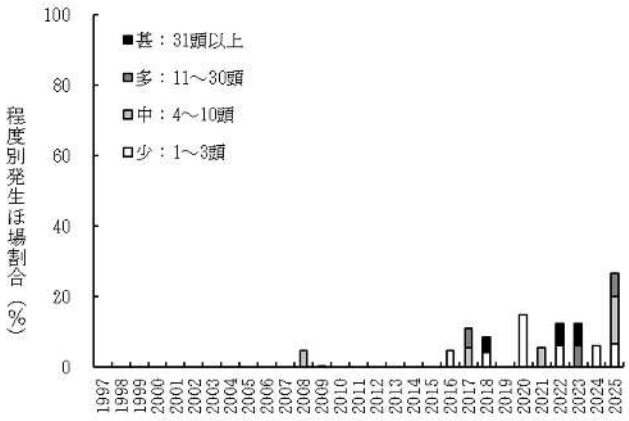


図４　畦畔すくい取り調査におけるクモヘリカメムシの程度別発生ほ場割合の推移（中通り、７月下旬）

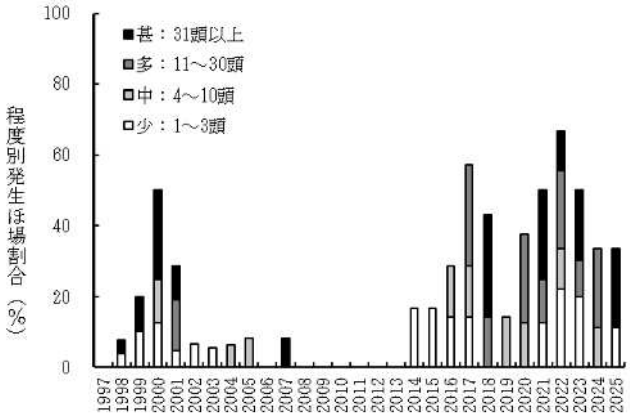


図５　畦畔すくい取り調査におけるクモヘリカメムシの程度別発生ほ場割合の推移（浜通り、７月下旬）

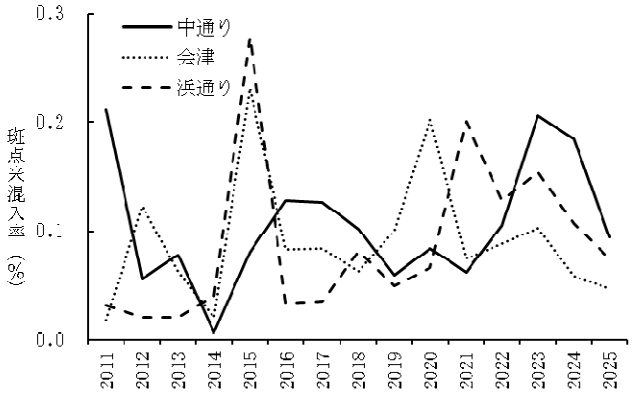


図６　カスミカメムシ類による斑点米混入率の推移

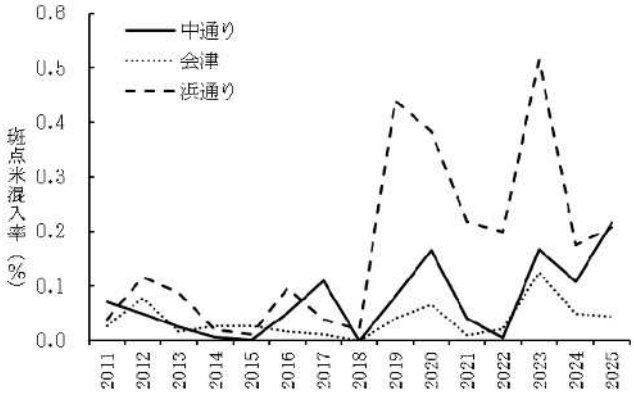


図７　大型カメムシ類による斑点米混入率の推移

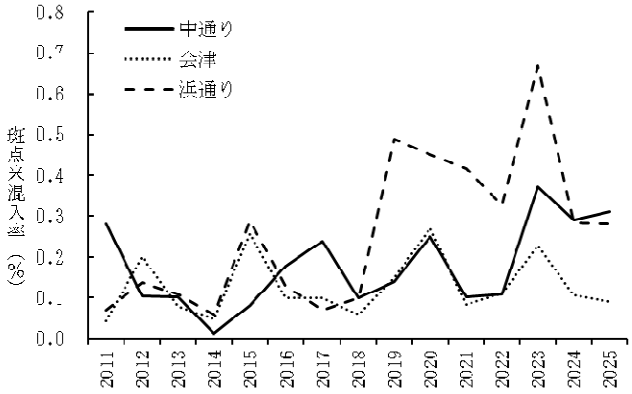


図８　斑点米カメムシ類による斑点米混入率の推移（カスミカメムシ類＋大型カメムシ類）

表１過去の注意報（斑点米カメムシ類）の公表状況

年度	発表日	根拠とした調査場所・時期						対象種
		６月下旬	７月上旬	７月下旬	８月上旬	８月下旬	９月上旬	
2025	7/16		○畦畔					アカスジ、アカヒゲ
2024	7/10	○畦畔	○畦畔					アカスジ、（アカヒゲ、ホソハリ、クモヘリ平年並）
2023	8/1			○畦畔				アカスジ、アカヒゲ、ホソハリ、クモヘリ（中通り南部、浜通り全域）
2020	7/16	○畦畔						アカスジ、ホソハリ、アカヒゲ
2018	7/19		○畦畔					アカスジ、クモヘリ（いわき）
2017	6/29	○畦畔						斑点米カメムシ類
2016	6/29	○畦畔						斑点米カメムシ類
2015	6/30	○畦畔						斑点米カメムシ類
2014	6/30	○畦畔						アカスジ
2013	6/28	○畦畔						アカスジ、アカヒゲ
2012	8/10				○畦畔			会津のみ、アカヒゲ、アカスジ
2011	7/14		○畦畔					アカヒゲ、アカスジ
2010	8/12				○水田			アカヒゲ、アカスジ
2008	8/1			○雑草地				浜通り地方のみ、アカスジ

表２予察灯におけるアカスジカスミカメの誘殺数の推移（会津地域研究所）

月	半旬	06 H18	07 H19	08 H20	09 H21	10 H22	11 H23	12 H24	13 H25	14 H26	15 H27	16 H28	17 H29	18 H30	19 R1	20 R2	21 R3	22 R4	23 R5	24 R6	25 R7
5	1	こ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	2	れ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	以	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	5	に	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	0	0	2	0	1	0	0	0	0
	6	調	0	0	0	0	0	0	0	2	17	3	0	3	8	0	0	0	0	4	0
6	1	査	0	0	0	0	3	1	10	4	14	1	0	1	1	6	3	0	0	1	6
	2	な	0	0	0	0	28	4	2	21	1	4	2	6	4	11	5	0	0	0	16
	3	し	0	0	0	0	8	0	25	3	6	3	0	0	2	18	7	2	0	10	7
	4		0	0	0	0	62	16	18	10	0	1	2	3	1	3	1	0	0	3	30
	5		0	0	0	2	84	2	24	4	1	0	4	3	3	1	0	17	2	3	66
	6		0	0	0	0	36	9	2	5	0	5	9	6	9	8	2	283	27	14	64
7	1		0	0	0	0	70	6	5	10	18	21	2	15	7	2	10	0	11	5	41
	2		0	0	0	4	257	25	14	4	4	14	18	8	1	10	15	136	24	1	10
	3		1	0	1	0	33	33	10	13	4	9	27	12	11	6	2	16	0	3	1
	4		−	0	−	4	21	6	1	0	11	12	1	10	8	2	2	20	1	2	2
	5		0	0	−	0	19	9	1	1	2	4	1	3	11	2	1	21	0	0	7
	6		0	0	0	0	0	4	0	0	8	8	0	1	2	0	2	4	2	5	0
8	1		0	0	1	0	23	0	1	3	11	4	0	10	3	0	1	6	0	8	0
	2		0	0	0	2	6	3	6	6	14	5	0	2	4	3	3	10	0	2	0
	3		2	0	0	0	4	1	0	4	19	0	0	9	4	21	0	25	4	8	0
	4		1	0	0	2	10	4	0	16	14	1	0	2	3	25	4	4	14	17	1
	5		1	0	0	3	12	20	0	11	3	9	13	2	8	17	3	6	22	46	0
	6		0	0	0	3	7	18	1	6	2	5	1	4	10	13	0	7	14	12	4
9	1		0	0	0	21	3	29	1	4	0	15	0	3	4	18	0	6	5	9	1
	2		−	0	0	31	18	29	1	0	0	7	0	2	31	55	0	11	4	3	13
	3		−	0	0	24	64	34	0	0	1	7	0	5	0	2	0	3	2	70	6
	4		−	0	0	12	34	71	0	1	3	1	0	8	0	5	4	0	1	12	4
	5		−	0	0	0	2	3	0	1	0	1	0	4	0	2	0	−	1	7	0
	6		−	0	0	5	4	20	0	0	0	1	0	0	0	0	2	−	0	4	0
	計	0	5	0	2	113	808	347	122	129	155	147	80	122	137	230	68	577	134	250	279

表３予察灯におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数の推移（会津地域研究所）

月	半旬	95 H7	96 H8	97 H9	98 H10	99 H11	00 H12	01 H13	02 H14	03 H15	04 H16	05 H17	06 H18	07 H19	08 H20	09 H21	10 H22	11 H23	12 H24	13 H25	14 H26	15 H27	16 H28	17 H29	18 H30	19 R1	20 R2	21 R3	22 R4	23 R5	24 R6	25 R7
5	1	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	1	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	3	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1	0	0	0	0	0	0	1	2
	4	0	0	4	32	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	3	0	0	1	0	1	6	2
	5	0	1	0	1	0	0	5	0	0	24	0	1	0	0	2	0	0	2	0	0	8	4	7	0	1	0	2	0	0	0	26
	6	5	5	0	1	0	19	0	0	0	7	0	0	2	2	1	1	25	4	21	6	45	3	5	1	17	0	0	0	0	3	3
6	1	0	1	0	0	7	1	0	1	0	12	1	1	3	0	3	0	15	6	8	5	4	1	0	1	0	2	1	0	0	0	3
	2	2	2	0	0	0	9	0	6	0	6	2	1	2	0	2	8	9	6	1	6	0	1	0	3	0	1	1	0	2	1	5
	3	0	1	0	0	0	3	0	23	0	12	1	1	3	0	0	12	3	0	7	0	37	16	0	1	0	6	1	0	0	37	0
	4	0	0	5	35	0	7	58	28	22	15	7	3	5	25	26	17	19	6	11	14	80	20	0	4	7	1	1	3	0	63	34
	5	7	0	279	180	0	29	120	12	20	433	36	12	11	35	53	4	113	1	310	56	170	41	14	33	73	60	3	1	0	90	243
	6	74	10	313	421	30	290	316	312	86	308	124	51	56	100	162	61	422	180	203	142	10	129	118	204	268	84	92	14	4	186	139
7	1	115	34	329	718	97	300	1311	624	99	343	100	62	31	484	54	230	494	164	329	244	354	195	95	207	124	49	78	0	1	95	347
	2	105	42	192	109	15	107	397	734	107	352	151	393	35	398	96	56	676	311	263	106	90	46	458	97	18	46	48	24	7	45	160
	3	140	63	125	5	114	182	422	72	110	102	108	41	63	269	41	37	168	384	55	78	443	88	186	144	141	3	5	4	0	19	51
	4	79	90	22	25	21	10	55	35	89	65	36	15	−	95	−	79	117	37	21	5	262	41	8	298	75	10	73	1	0	7	77
	5	4	39	82	104	63	29	144	18	55	33	7	2	45	129	−	31	104	33	8	4	130	88	4	75	67	4	53	6	0	4	98
	6	15	277	64	105	41	10	84	3	68	9	3	5	108	13	1	25	2	13	3	8	216	135	1	54	59	1	26	0	0	13	53
8	1	48	58	17	7	11	2	8	1	168	12	8	8	110	37	2	26	110	5	0	44	134	74	2	32	22	1	16	0	0	64	22
	2	98	36	20	3	34	2	26	0	36	6	3	7	20	5	1	34	87	1	0	36	75	58	0	5	8	3	5	3	0	33	3
	3	45	114	13	1	13	1	36	0	14	4	2	1	56	5	0	23	45	0	1	32	80	3	0	17	4	20	3	4	7	29	2
	4	26	106	6	2	10	1	20	1	19	3	0	38	14	1	0	13	76	4	2	48	61	9	0	10	12	21	0	1	12	94	15
	5	30	84	11	1	12	0	37	2	30	2	1	2	15	6	0	28	36	6	2	35	85	39	4	12	61	12	5	9	6	37	22
	6	6	53	33	1	16	33	103	2	45	11	4	43	35	3	4	26	47	21	4	15	27	9	3	51	30	26	5	4	6	35	12
9	1	21	23	14	0	11	14	26	3	37	9	5	3	7	10	0	82	14	29	1	10	11	18	3	19	5	19	0	6	18	22	3
	2	2	23	6	0	29	39	6	1	109	3	7	3	−	6	0	53	11	32	0	11	0	14	2	14	14	24	0	5	9	7	7
	3	7	22	−	1	64	34	25	0	21	6	0	1	−	2	1	19	16	8	0	0	2	4	0	13	2	3	0	6	7	56	13
	4	0	25	8	0	29	23	10	1	16	1	1	3	−	0	1	3	5	34	0	1	3	1	0	9	0	4	0	1	0	4	5
	5	0	1	0	0	11	5	0	0	−	6	1		−	0	0	0	0	1	0	4	1	1	0	7	1	1	0	−	1	4	0
	6	0	−	0	0	6	4	0	0	−	−	0		−	0	0	4	2	4	0	0	1	0	0	0	0	1	2	−	0	9	0
	計	829	1110	1543	1752	634	1158	3214	1880	1151	1787	608	698	621	1625	450	872	2617	1293	1250	910	2339	1040	910	1314	1009	402	421	92	81	966	1347

４．結果の要約

6 月下旬の畦畔すくい取り調査から、2010 年から 2014 年にアカスジカスミカメが県全体ですくい取られ、その後も発生が見られるようになった。クモヘリカメムシについては、７月下旬の畦畔すくい取り調査から、中通り、浜通りで 2016 年、2014 年から発生程度及び発生ほ場割合が増加した。また、予察灯においては、アカスジカスミカメの誘殺数のピークは、年４回、アカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数のピークは、７月上旬であり、9 月上旬まで誘殺が続いた。斑点米カメムシ類による斑点米混入率では、2018 年頃から 0.1%を超える年が多くなった。

－－
課 題 番 号：（２）
実施課題名：福島県におけるイネカメムシの発生と被害状況の把握
－－

１　目的

2023 年にいわき市の水田 1 か所でイネカメムシが確認され、2024 年は浜通り、県南地方でも確認され生息地域が拡大している。本年度も県内全域で調査を行い、本種の分布域を把握するとともに、発生ほ場の被害状況を調査する。

２　方法

（１）生息状況の調査

ア　本田 20 回すくいとり調査によるすくい取り（7 月下旬から 9 月上旬）

イ　白色粘着トラップによる誘殺数調査　県内 10 か所

（２）被害状況の調査

ア　斑点米混入率

ほ場 1 か所あたり 25 株を刈り取り、脱穀、もみすり後、玄米試料 500g あたりの玄米基部の斑点米数を計数し、斑点米混入率を算出した。

イ　不稔状況

成熟期にほ場 1 か所あたり 20 穂（1 株あたり 1 穂）採取し、目視により不稔籾を計数し、不稔籾率を算出した。

３　結果の概要

（１）イネカメムシ成虫確認地点

すくい取り、白色粘着トラップ、通報による 2024 年の成虫の確認地点は県南、浜通り南部であった(図 1)が、2025 年はすくい取り、白色粘着トラップで浜通り南部、通報により浜通り北部で成虫の存在を確認した（図 1）。中通り及び会津での発生は確認できなかった（図 1）。なお通報による確認は、通報者の持ち込み個体及び通報者が撮影した成虫の画像により判断した。

（２）被害状況

ア　斑点米混入率

本田内で成虫又は幼虫が確認された地点の斑点米混入率（全部）は、0.10～1.32％となった(表１)。うちイネ子実の基部に被害を受けた斑点米混入率は 0～0.37％となり、うち楢葉町の１ほ場のみ高かった（表 1）。

なお、県内全域の巡回調査において、イネ基部被害の斑点米混入率は低く（図 2）、基部を好んで加害するイネカメムシによる被害は限定的であると考えられた。

イ　不稔籾率

成虫及び幼虫が確認された地点における不稔籾率は、6.1～27.1％となった（表 1）広野町及びいわき市 2 は 27.1％、18.7％と高かったが、採取日が早くイネが未熟だったため値が高くなったと考えられた（表 1）。それ以外の地域は 6.1～10.8％であった（表 1）。

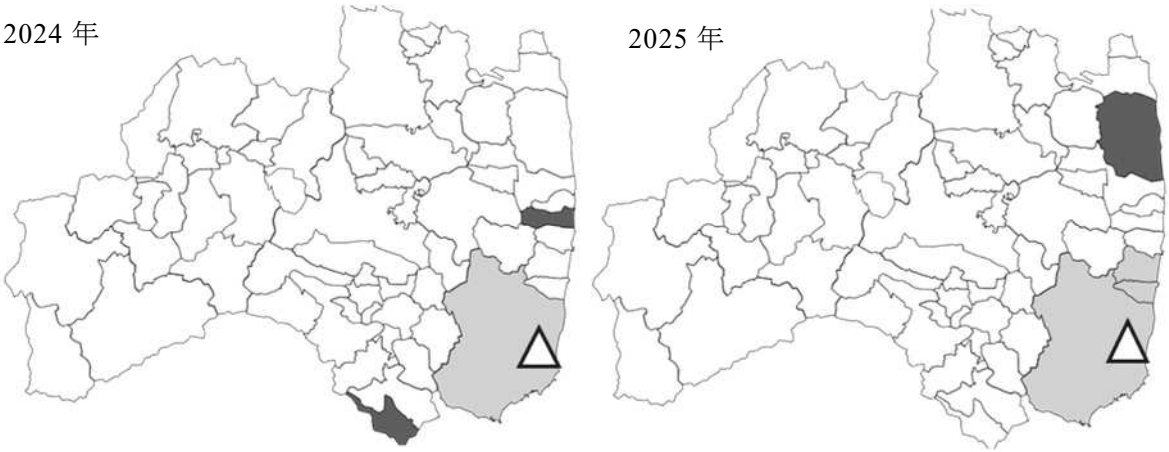


図１　イネカメムシ確認地点(市町村)

すくい取りで成虫及び幼虫を確認した市町村
通報（成虫又は画像）により成虫を確認した市町村
白色粘着トラップで誘殺を確認した市町村

表１　イネカメムシの発生状況と斑点米被害の状況

調査地点	すくい取り数（20回振り）の推移						カメムシ防除の有無	斑点米混入率％※2		不稔籾率％	備考
	イネカメムシ				イネカメムシ以外（7月下旬～9月上旬）			全部	うち基部		
	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬	ホソハリカメムシ	クモヘリカメムシ					
楢葉町1	0(0)※1	0(0)	0(0)	2(0)	0(0)	13(2)	無	0.38	0.04	7.0	9/25採取
楢葉町２	-	-	0(3)	-	0(0)	0(9)	無	1.32	0.37	7.5	9/25採取
広野町	5(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	5(0)	有	0.05	0.02	27.1	9/4採取
いわき市1	21(0)	0(0)	0(0)	1(0)	1(0)	0(0)	有	0.10	0	6.1	9/25採取
いわき市2	-	1(9)	1(0)	2(0)	0(0)	0(0)	無	-	-	18.7	9/4採取
いわき市3	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	1(0)	0(58)	有	0.23	0.02	10.8	9/4採取

※1　(　)内の数値は幼虫数　以下同じ

※２　斑点米混入率　全部：斑点米数/調査粒数×100　カスミカメ類と思われる斑点米は除く
基部：基部被害をうけた斑点米数/調査粒数×100

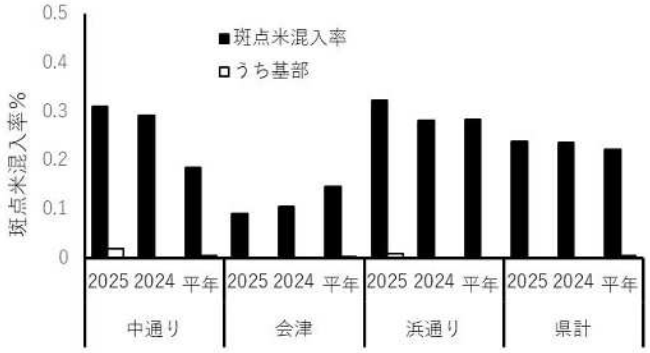


図 2　県内における斑点米混入率と基部被害の発生状況

4　結果の要約

イネカメムシの発生地域は、浜通り北部まで拡大した。県内全域の巡回調査において、イネ基部被害の斑点米混入率は低く、基部を好んで加害するイネカメムシによる被害は限定的であると考えられた。

－－
課 題 番 号：（３）
実施課題名：モモにおける２種のシロカイガラムシの県内における発生実態調査
－－

１．目的

近年、モモにおけるシロカイガラムシ２種（ウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ）の被害が問題となっている。２種の発生時期は異なることから、優占種を把握する必要があり、県北地方では過去に優占種の変動が報告されている。直近では、瀧田ら(2012)において、県北地方の優占種はクワシロカイガラムシと報告されているが、近年の分布状況は不明であったことから、報告がない県中・会津地方を含め、近年の２種の分布を明らかにし、効果的な防除対策に資する。

２．方法

(1)シロカイガラムシの発生状況調査

5月、7月および10月に県内のモモ巡回調査地点（伊達9地点、福島9地点）において、発生予察調査として以下の基準で10側枝における寄生状況を調査した。

※寄生度＝｛（1～10頭の寄生枝数＋3×11～50頭の寄生枝数＋6×51頭以上の寄生枝数）/(6×調査枝数)｝×100

(2)２種の分布調査

2024 年～2025 年に現地のモモほ場（当防除所の予察調査地点を含む）からカイガラムシが寄生したモモ枝を採取した。採取した枝は実験室内で虫体を剥離し、ホイヤー氏液でプレパラートに封入した後、同定を行った。

３．結果

(1)シロカイガラムシの発生状況調査

モモ側枝への寄生ほ場割合は、福島地域では平年よりやや少なく推移し、伊達地域では５月や７月は平年より高く推移し、10 月は平年並に高かった（図 1）。

(2)２種の分布調査

いずれの地方でもウメシロカイガラムシとクワシロカイガラムシが混発していた。発生ほ場割合はいずれの地方でもクワシロカイガラムシの方がウメシロカイガラムシより高いことから、優占種はクワシロカイガラムシであった（表 1～表 3）。いずれの地方も両種の混発ほ場が確認されたが、全てのほ場でどちらかの種が優占していた。

県北地方では、瀧田ら(2012)の報告から優占種の変動はなかった。

(3)防除対策について

県北地方や県中地方では、ウメシロカイガラムシが優占しているほ場が確認されたことから、防除時期はウメシロカイガラムシの発生時期（クワシロカイガラムシよりも約 10 日早い）に合わせた防除を実施することにより、クワシロカイガラムシも同時に防除可能である（2023 年度参考成果参照）。会津ではクワシロカイガラムシに合わせた防除を実施する。

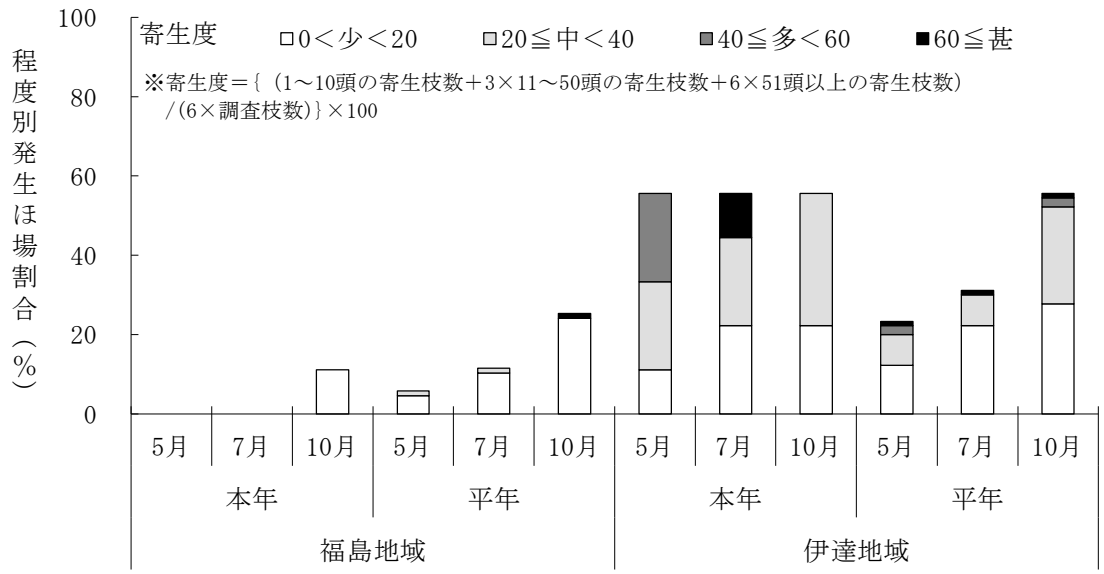


図１　シロカイガラムシ類の側枝における発生状況（2025 年）

表１　県北地方のモモほ場におけるクワシロカイガラムシ属の種構成（2024 年～2025 年）

地点 No.	市町村	採取年	個体数		割合		優占種	
			ウメシロ	クワシロ	ウメシロ	クワシロ	ウメシロ	クワシロ
1	福島市	2024	1	33	2.9	97.1		○
2	福島市	2024	0	25	0	100.0		○
3	福島市	2024	4	46	8.0	92.0		○
4	伊達市	2024	0	45	0	100.0		○
5	伊達市	2025	0	30	0	100.0		○
6	伊達市	2025	0	23	0	100.0		○
7	伊達市	2024	51	0	100	0	○	
8	伊達市	2024	26	2	92.9	7.1	○	
9	伊達市	2024	53	0	100	0	○	
10	国見町	2024	0	50	0	100.0		○
11	国見町	2024	0	50	0	100.0		○
12	国見町	2024	36	6	85.7	14.3	○	
13	桑折町	2024	6	20	23.1	76.9		○
14	桑折町	2024	51	0	100	0	○	
15	桑折町	2025	0	16	0	100.0		○
16	桑折町	2025	0	30	0	100.0		○
17	桑折町	2025	3	26	10.3	89.7		○
						優占種のほ場割合（%）	29.4	70.6

表２　県中地方のモモほ場におけるクワシロカイガラムシ属の種構成（2024 年～2025 年）

地点 No.	市町村	採取年	個体数		割合		優占種	
			ウメシロ	クワシロ	ウメシロ	クワシロ	ウメシロ	クワシロ
1	須賀川市	2024	38	0	100.0	0	○	
2	須賀川市	2025	1	15	6.3	93.8		○
3	鏡石町	2025	0	30	0	100.0		○
4	鏡石町	2025	0	30	0	100.0		○
5	鏡石町	2025	23	0	100.0	0	○	
6	鏡石町	2025	0	30	0.0	100.0		○
					優占種のほ場割合（%）		33.3	66.7

表３　会津地方のモモほ場におけるクワシロカイガラムシ属の種構成（2025 年）

地点 No.	市町村	採取年	個体数		割合		優占種	
			ウメシロ	クワシロ	ウメシロ	クワシロ	ウメシロ	クワシロ
1	会津若松市	2025	1	29	3.3	96.7		○
2	会津若松市	2025	0	30	0	100.0		○
3	会津若松市	2025	0	30	0	100.0		○
4	会津若松市	2025	0	30	0	100.0		○
5	会津若松市	2025	0	30	0	100.0		○
6	会津坂下町	2025	0	24	0	100.0		○
7	会津坂下町	2025	0	29	0	100.0		○
8	会津坂下町	2025	0	30	0	100.0		○
					優占種のほ場割合（%）		0	100

４．結果の要約

モモにおける 2 種のシロカイガラムシの県内での発生実態調査の結果、県北・県中・会津のいずれの地方もクワシロカイガラムシ属の優占種はクワシロカイガラムシであった。

－－
課 題 番 号：（４）
実施課題名：ウメシロカイガラムシの第１世代の発生予測の精度と年間の発生回数の検証
－－

１．目的

近年の春期の温暖化により、ウメシロカイガラムシ及びクワシロカイガラムシの発生ピークが従来より前進している可能性や、秋期の温暖化により世代数が増加している可能性がある。2024 年にウメシロカイガラムシ歩行幼虫の発生消長を調査した結果、第１世代の発生時期も従来より早期化し、年３回の発生が確認された。そこで、2025 年も継続して歩行幼虫の発生消長を調査し、データの蓄積を図る。

さらに、日平均気温を用いた有効積算温度による予測日と第１世代ふ化ピークの実測値はほぼ一致し、予測の適合性が示唆されたことから、日平均気温法の適合性を継続して調査する。

２．方法

(1)ウメシロカイガラムシの発生消長

４月中旬～10 月まで、ウメシロカイガラムシが発生している当センター内のウメ２樹を供試し、１樹当たり枝 10 か所に両面テープを巻き、1 週間おきに交換し、回収したテープに付いた歩行幼虫数を計測した。

(2)ウメシロカイガラムシの発生予測の精度検証

農業総合センター内の気象観測装置（予測 1）または１km メッシュ農業気象データ（予測 2）の日平均気温を用いた有効積算温度による予測日と第１世代幼虫ふ化ピークの実測値の精度検証を行った。予測には福井県（2007）で開発したウメシロカイガラムシの予測法を使用した。

３．結果

(1) ウメシロカイガラムシ第１世代の発生消長

第１世代幼虫は、ふ化開始が５月 7～5 月 13 日、ふ化ピーク（第１世代の累積の歩行幼虫数に対して 50%誘殺された日）は、5 月 19～5 月 27 日であった（図 1）。

(2) ウメシロカイガラムシの発生予測の精度検証

予測１（気象観測装置）では、ふ化開始の推定日（5/12）と実測日（5/7～5/13）はほぼ一致し、ふ化ピークの推定(5/15)と実測(5/19～5/27)についてもほぼ一致した（表１）。昨年の調査においても、ふ化ピークについて、有効積算温度による推定と実測がほぼ一致したことから、本県においても、日平均気温を用いた有効積算温度による推定には適合性があると考えられた。

予測２（メッシュ気象データ）と予測１を比較した結果、推定日と実測日の誤差はふ化開始及びふ化ピークともに１日であり、同等と判断された。

(3) ウメシロカイガラムシの第２世代・第３世代の発生消長

ウメ２樹における第 2 世代幼虫のふ化ピークは、７月 23～７月 30 日であった（図２）。センター内「あかつき」の収穫期間（7/24～8/5、収穫盛 7/31）とふ化ピークが重なったことから、「あかつき」の被害リスクがあったと考えられた。

さらに、従来、当県では５月と８月の年２回発生と考えられていたが、10 月に入り第３世代幼虫の発生が確認され、ふ化ピークは、10 月 2～10 月 8 日であった（図１）。

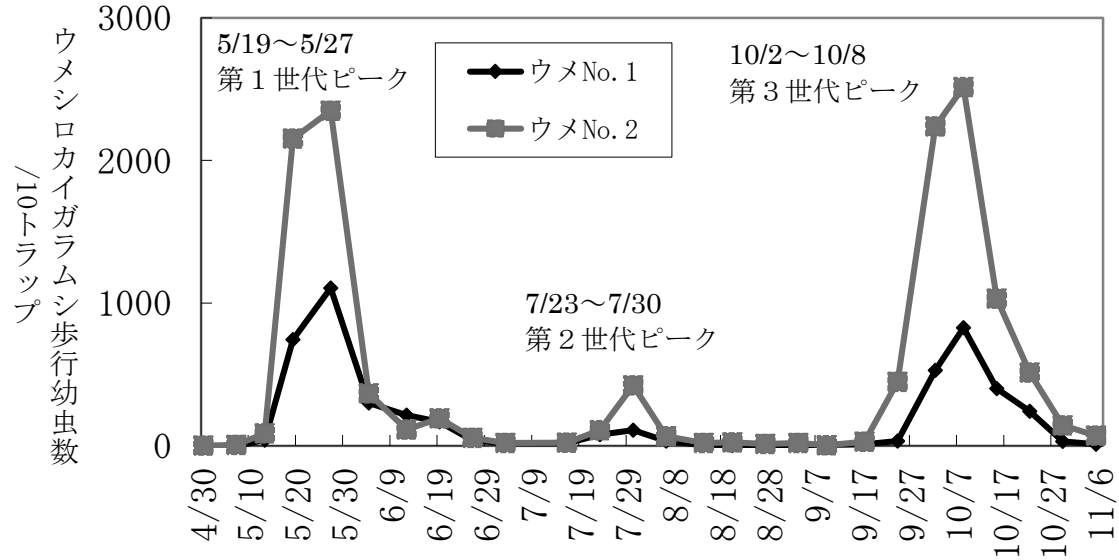


図１　ウメ２樹におけるウメシロカイガラムシの発生消長（郡山市、2025 年）

表１　ウメシロカイガラムシ第１世代幼虫の発生予測（郡山市、2025 年）

予測法	第１世代	
	ふ化開始	ふ化ピーク
予測1(気象観測装置)	5/12	5/15
予測2(メッシュデータ)	5/11	5/14
実測	5/7～5/13	5/19～5/27

1)　予測の計算は農業総合センター内（郡山市高倉）　観測の温度データを使用した。
2)　福井県（2007）　有効積算温度によるウメシロカイガラムシ第 1　世代幼虫のふ化時期の予測，　平成 17 年度 普及に移す技術.
3)　（ ）　内は有効積算温度を示す。起算日は 1/1、計算法は平均法を用いた。

４．結果の要約

農業総合センター内のウメ２樹におけるウメシロカイガラムシ歩行幼虫の発生消長を調査した結果、第１世代のふ化開始は５月 7～5 月 13 日、発生ピークは、5 月 19～５月 27 日であった。

農業総合センター内の気象観測装置の日平均気温を用いた有効積算温度による予測日と第 1 世代ふ化ピークの実測値はほぼ一致し、予測の適合性が示唆された。

従来、当県では５月と８月の年２回発生と考えられていたが、10 月に入り第３世代幼虫の発生が確認された。

［キーワード］　ウメシロカイガラムシ、歩行幼虫、有効積算温度

－－
課 題 番 号 ：（５）
実施課題名：リンゴにおけるナシマルカイガラムシ成虫の発生消長と「カイガラなび（仮称）」を用いた発生予測
－－

１．目的

近年、リンゴでのナシマルカイガラムシの果実被害が問題となっている。

リンゴのナシマルカイガラムシの果実での発生状況については、当県の調査対象としておらず、調査時期等が不明であるため、調査時期等の検討と併せて、県内のリンゴ巡回調査地点での被害の実態把握を行う。

また、本種の防除対策としては、休眠期防除の他に、各世代の幼虫ふ化期に殺虫剤を散布することが効果的である。幼虫ふ化期を把握する方法としては両面テープを用いたトラップの手法があるが、労力がかかるため現地ほ場での実施は困難である。一方、幼虫ふ化期を予測する手法としては、有効積算温度を用いた手法が報告されている。千葉県では、1km メッシュデータを用いてナシマルカイガラムシの発生時期を予測するシステムとして、「カイガラなび（仮称）」が開発され、ニホンナシ園で実用性の検証の結果、防除適期の推定において実用性があるものと示唆されている。

そこで、当県での「カイガラなび（仮称）」を用いたナシマルカイガラムシの発生予測とフェロモントラップを用いた実測の精度検証を行い、今後の発生予察情報の作成に資する。

２．方法

(1)リンゴ果実被害

6～11 月に県内の発生予察調査地点（31 ほ場）において、300 果での被害の有無を調査した。フェロモントラップ調査については、以下のとおり実施した。

(2)フェロモントラップ調査とカイガラなびによる発生予測

ア 調査場所・時期：福島市飯坂町湯野地区リンゴほ場(2025 年 4 月 23 日～)
伊達市保原町二井田地区リンゴほ場(2025 年 4 月 23 日～)
須賀川市浜尾地区リンゴほ場(2025 年 4 月 1 日～)
会津坂下町牛川地区リンゴほ場(2025 年 5 月 21 日～)

イ 調査方法

ナシマルカイガラムシ用フェロモントラップ（サンケイ化学製）を誘引源として、粘着板（7.6cm×25.4cm）を１枚、１週間毎に回収し、誘殺されたナシマルカイガラムシ雄成虫を実体顕微鏡下で計数した。なお、誘引源は約１か月毎に交換した。発生ピークは当該世代の累積誘殺数に対して 50%誘殺日とした。

ウ カイガラなびを用いた発生予測

1km メッシュ農業気象データを用い、カイガラなびにより各世代成虫の発生ピークを予測した。

エ その他

ナシマルカイガラムシの発育パラメータは、新井（2007b; 2009）及び石川（2011）を適用した。防除は殺菌剤、殺虫剤ともに地域慣行で実施した。

３．結果の概要

(1)リンゴ果実被害調査

中通り地方では 6 月から被害果が確認された。県北地方では、6 月から 9 月にかけて発生ほ場割合が減少傾向となり、これは、仕上げ摘果によるものと考えられたが、10 月には再び増加し、甚発生のほ場が確認された（図 1）。県中・県南地方では、調査期間を通して発生ほ場割合が高く、特に 7 月や 10 月が高かった。会津地方は 10～11 月に被害が確認されたが、少発生であった。被害調査は、6～11 月の長期間に実施した方が良いと考えられた。

(2)福島市におけるナシマルカイガラムシ雄成虫の発生消長と予測日の適合性

各世代の雄成虫の発生消長は図 2 のとおりとなり、年 3 回の発生であった。

各世代の成虫発生のピークの予測と実測の比較を行った結果、越冬世代と第 2 世代は

概ね一致したが、第１世代は５日以上の誤差があった（表 1、表 2）。

(3) 伊達市におけるナシマルカイガラムシ雄成虫の発生消長と予測日の適合性

各世代の雄成虫の発生消長は図３のとおりとなり、年２回の発生であったが、福島市の消長から、伊達市においもて年３回の発生と考えられた。

各世代の成虫発生のピークの予測と実測の比較を行った結果、第１世代は概ね一致したが、第２世代は５日以上の誤差があった（表１，表２）。

(4) ４地点間における各世代の発生ピークの時期の比較

４地点間における各世代の発生ピークの時期を比較すると、越冬世代は福島市（湯野地区）と須賀川市で同時期となった（図 4、表 3）。第１世代は福島市、伊達市は同時期となり、須賀川市は７日程度、会津坂下町は 10 日程度遅かった。第２世代は伊達市と比較して福島市、須賀川市は７日程度遅く、会津坂下町はさらに１週間程度遅かった。4 地点で差が認められたため、防除時期は各地方で判断する必要があると考えられた。

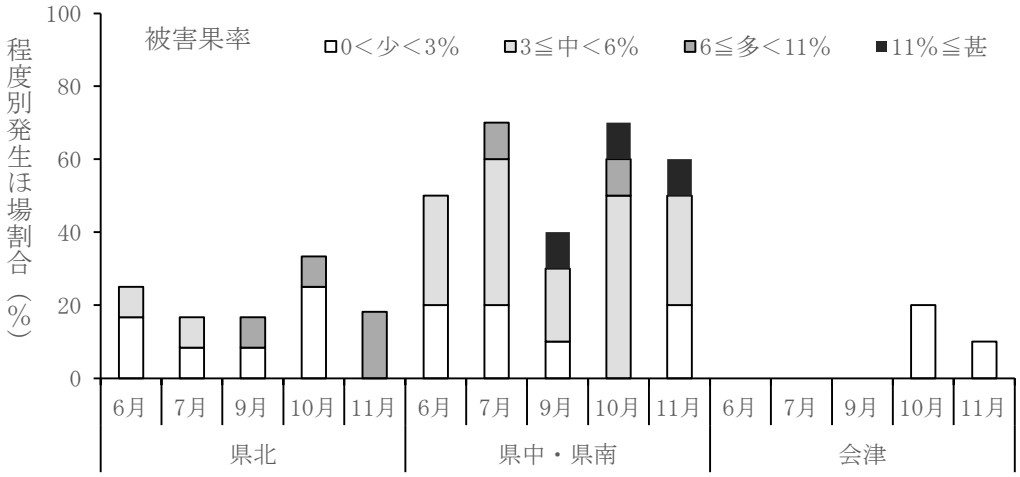


図１　リンゴ果実におけるナシマルカイガラムシの被害発生状況

※６～７月は中下旬、９月は中旬、10～11 月は上旬に調査した。

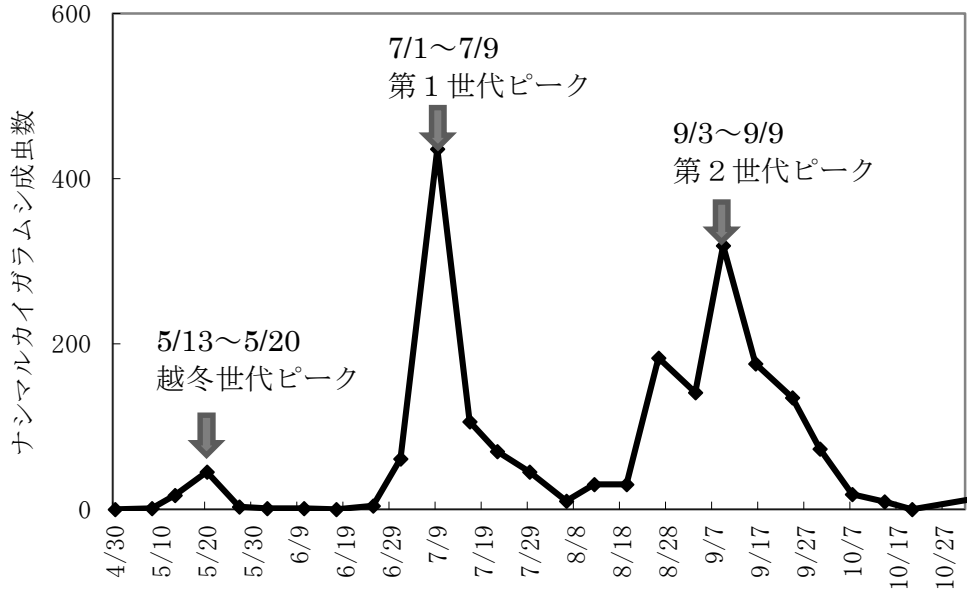


図２　ナシマルカイガラムシ雄成虫の発生消長（2025 年、福島市）

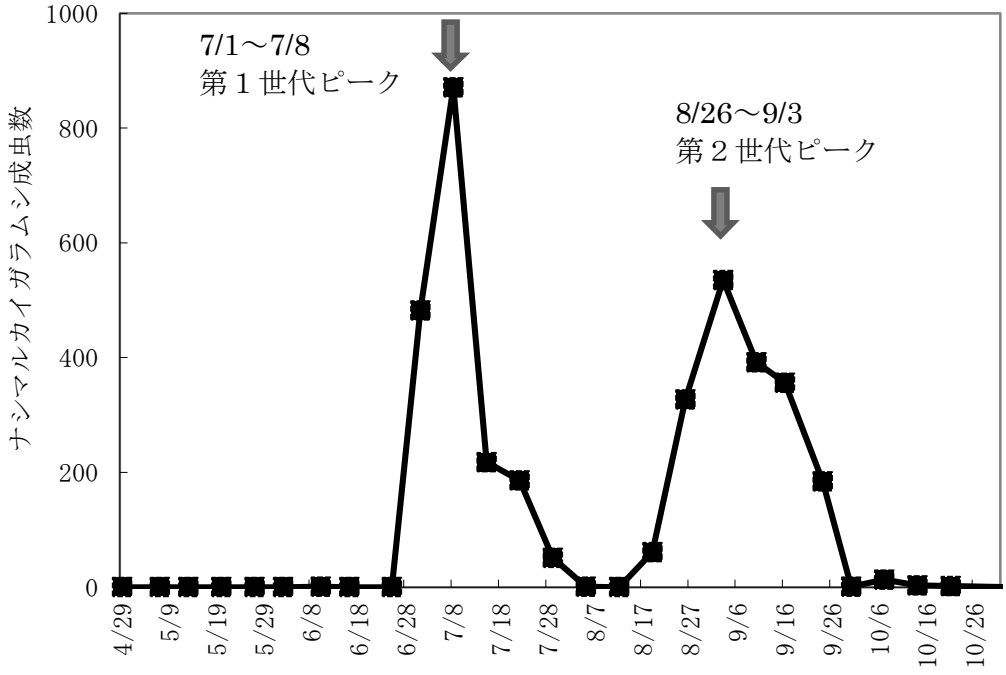


図３　ナシマルカイガラムシ雄成虫の発生消長（2025 年、伊達市）

表１ ナシマルカイガラムシ越冬・第１世代成虫の発生予測日と実測日の適合性

調査地点	越冬世代成虫				第１世代成虫			
	発生ピーク（予測）	発生ピーク（実測）	予測と実測の差		発生ピーク（予測）	発生ピーク（実測）	予測と実測の差	
福島市飯坂町湯野	5/13	5/13～5/20	-7～0日	○	7/16	7/1～7/9	+7～+15	×
伊達市保原町二井田	4/27	ND	?	?	7/4	7/1～7/8	-4～+3	○
２地点の日数差	16	-			12	0～1		

※予測日は 1km メッシュ農業気象データを用い、カイガラなび（仮称）により予測した。
※○は予測日と実測日が５日以内の差、×は６日以上の差を示す。

表２ ナシマルカイガラムシ第２世代の発生予測日と実測日の適合性

調査地点	第２世代成虫			
	発生ピーク（予測）	発生ピーク（実測）	予測と実測の差	
福島市飯坂町湯野	8/29	9/3～9/9	-11～-5	○
伊達市保原町二井田	8/13	8/26～9/3	-21～-13	×
２地点の日数差	16	6～8		

※予測日は 1km メッシュ農業気象データを用い、カイガラなび（仮称）により予測した。
※○は予測日と実測日が５日以内の差、×は６日以上の差を示す。

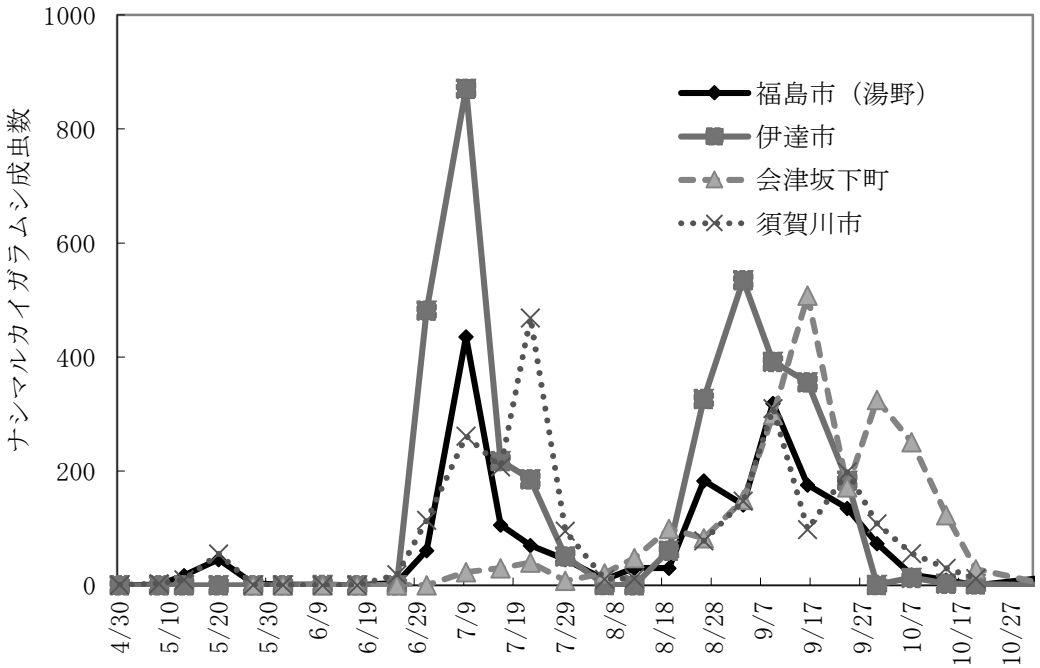


図４　フェロモントラップによるナシマルカイガラムシ雄成虫の発生消長（2025 年）

表３　フェロモントラップによる４地点のナシマルカイガラムシ雄成虫の発生ピーク

調査地点	越冬世代	第１世代	第２世代
福島市飯坂町湯野	5/13～5/20	7/1～7/9	9/3～9/9
伊達市保原町仁井田	ND	7/1～7/8	8/26～9/3
須賀川市	5/12～5/19	7/7～7/14	9/1～9/8
会津坂下町	ND	7/10～7/18	9/11～9/19

４．結果の要約

県内におけるリンゴ果実被害の調査の結果、県北地方や県中地方では 6～11 月に長期間被害が確認された。当県での「カイガラなび（仮称）」を用いたナシマルカイガラムシの発生予測とフェロモントラップを用いた実測の精度検証を行った結果、精度が不十分と考えられた。県北・県中・会津地方では成虫の発生時期に地域差が認められた。

－－
課 題 番 号：（６）
実施課題名：トマトキバガの発生状況調査
－－

１．目的

トマトキバガは、2023 年度に県内初確認され、2024 年度には、会津地方において発生量増加及び被害地域の拡大が確認された。2025 年 3 月下旬には、新たに南相馬市の周年栽培のトマトハウス内で本種による葉の食害が確認されている。

今後、これまで本種による被害が確認されていないトマト産地への被害拡大が懸念される。そのため、夏秋トマトの巡回調査地点での発生状況を調査するとともに、これまで調査の行われていない周年栽培での冬季の発生状況について調査する。

２．方法

(1)試験場所

ア　巡回調査：県内 11 ほ場（田村市、矢吹町、中島村、浅川町、白河市２ほ場、喜多方市、猪苗代町、南会津町 3 ほ場）

イ　各農林事務所より発生報告のあったほ場の調査：9 地点（川俣町、二本松市、田村市、白河市、会津若松市、喜多方市 2 地点、南相馬市 2 ほ場、いわき市 2 ほ場）

ウ　フェロモントラップ調査：夏秋雨よけ栽培 2 地点（猪苗代町、南会津町）
周年栽培 2 地点（南相馬市、いわき市）

(2)耕種概要

ア 調査期間

（ア）巡回調査（夏秋雨よけ栽培）：2025 年 5～9 月

（イ）各農林事務所より発生報告のあったほ場の調査：2025 年 4～9 月

（ウ）フェロモントラップ調査：夏秋雨よけ栽培：2025 年 5～10 月
周年栽培：2026 年 2～4 月

イ 調査品目：トマト

（4）調査項目

ア 巡回調査、各農林事務所より報告のあったほ場の調査

（ア）被害株率：１ほ場 25 株調査

（イ）被害葉率：１ほ場 25 株、100 葉調査（１株あたり４複葉）

（ウ）寄生虫数：１ほ場 25 株調査

イ　フェロモントラップ調査：フェロモントラップを設置し、半旬毎に誘殺数を調査する。

３．結果の概要

(1)ほ場での被害調査(2025 年度巡回調査ほ場)

巡回調査ほ場 11 地点で、5～9 月の毎月中下旬頃に被害状況を調査した結果、5～7 月は発生が確認されず、8 月に 11 ほ場中 1 ほ場、9 月に 8 ほ場中 4 ほ場で葉への被害が確認された。調査期間を通して、果実被害は確認されなかった（表１）。

(2)ほ場での被害調査(各農林事務所より被害発生の報告があったほ場)

各農林事務所より、トマトキバガの発生について報告のあったほ場 9 地点を調査した結果、冬春トマトの長期どり栽培で、2025 年 3 月頃から本種による被害が確認された。夏秋トマト栽培では、定植直後の 5 月中旬頃から本種による被害が確認された(表 2)。

(3)2023 年度以降の発生状況の経過

過去のほ場での被害発生の初確認日は､2023 年度が夏秋雨よけ栽培で 9 月 21 日、2024 年度が 8 月頃となっており、本年の初確認日は周年栽培で 3 月、夏秋雨よけ栽培で 5 月と過去 2 年間と比べかなり早いことが分かった（表 2、3）。また、発生地域についても、2023 年度は 7 市町村、2024 年度は 9 市町村、2025 年度は 15 市町村と年々拡大し、県内 7 方部（県北、県中、県南、会津、南会津、相双、いわき）全てで発生が確認された（図 1）。

(4)フェロモントラップによる飛来状況調査

猪苗代町 1 地点、南会津町 1 地点で、5～10 月にフェロモントラップによる誘殺数を調査した結果、猪苗代町では 6 月 2 半旬に初誘殺され、2024 年度より 25 日早く誘殺が確認された（図 2）。南会津町では 5 月 6 半旬に初誘殺され、2024 年度より 55 日早く誘殺が確認された（図 3）。

誘殺数は 9 月上旬から 10 月中下旬にかけて増加し、いずれの地点も誘殺数のピークは 10 月中旬となった。ピーク時の誘殺数は、猪苗代町で 1 半旬当たり 140 頭となり、2024 年度のピーク時の 1.7 倍となった。南会津町では 1 半旬当たり 312 頭となり、2024 年度のピーク時の 13.6 倍となった。

南相馬市 1 地点、いわき市 1 地点で、2026 年 2 月から設置しているフェロモントラップでは、3 月上旬時点で誘殺は確認されていない。

表 1　巡回調査でのトマトキバガ発生状況（2025 年度）

調査地点	5月			6月			7月			8月			9月			防虫ネット
	被害株率(%)	被害葉率(%)	寄生虫数/葉(頭)	被害株率(%)	被害葉率(%)	寄生虫数/葉(頭)	被害株率(%)	被害葉率(%)	寄生虫数/葉(頭)	被害株率(%)	被害葉率(%)	寄生虫数/葉(頭)	被害株率(%)	被害葉率(%)	寄生虫数/葉(頭)	
田村市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	8	0	12	3	0	無
矢吹町	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	無
中島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	有
浅川町				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	無
白河市①	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－	－	－	無
白河市②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－	－	－	有
喜多方市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	88	37	2	無
猪苗代町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	有
南会津町①	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－	－	－	有
南会津町②	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	10	0	有
南会津町③	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	12	0	有

表 2　各農林事務所から報告のあったほ場でのトマトキバガ発生状況（2025 年度）

調査地点	作型	調査日	初確認日	被害葉率(%)	寄生虫数/葉(頭)	被害果率(%)	防虫ネット
南相馬市①	抑制長期どり栽培	4月23日	3月31日	0	0.00	0	有
南相馬市②		4月23日	3月31日	1	0.00	0	有
いわき市①		5月1日	3月上中旬	16	0.01	2	有
いわき市②		5月1日	3月上中旬	17	0.07	3	有
喜多方市①	夏秋雨よけ栽培	5月27日	5月22日	2	0.00	0	－
喜多方市②	夏秋雨よけ栽培	5月27日	5月22日	2	0	0	－
白河市	夏秋雨よけ栽培	5月28日	－	44	0.11	3	有
二本松市	夏秋雨よけ栽培	6月13日	5月中旬	55	0.06	4	無
会津若松市	夏秋雨よけ栽培	6月16日	5月下旬	4	0.03	0	－
田村市	夏秋雨よけ栽培	9月24日	8月20日	81	0.10	5	有（目合い5㎜）
川俣町	夏秋雨よけ栽培	9月30日	9月24日	15	0.02	0	有（目合い0.4㎜）

※初確認日は生産者への聞き取りを基に記載。

表３　トマトキバガ発生状況調査（2023 年度）

調査地点	調査日	調査ほ場数	発生ほ場数	寄生虫数/株（頭）	備考
郡山市湖南	8月28日	6	0	0	
猪苗代町	9月5日	7	0	0	
喜多方市	9月20日	3	0	0	
田村市	9月21日	15	2	0.17	2/15棟で幼虫の寄生確認（1棟当たり600株調査）
猪苗代町	9月29日	7	0	0	
郡山市湖南	9月29日	6	0	0	
南会津町	10月17日	14	0	0	
浅川町	10月19日	2	0	0	
田村市	10月19日	6	0	0	ほ場付近で成虫の誘殺確認
中島村	10月19日	5	0	0	
猪苗代町	10月20日	7	0	0	ほ場付近で成虫の誘殺確認
喜多方市	10月20日	2	0	0	ほ場付近で成虫の誘殺確認
郡山市湖南	10月20日	6	0	0	
いわき市	11月28日	3	0	0	
南相馬市	11月30日	1	0	0	
新地町	12月1日	1	0	0	

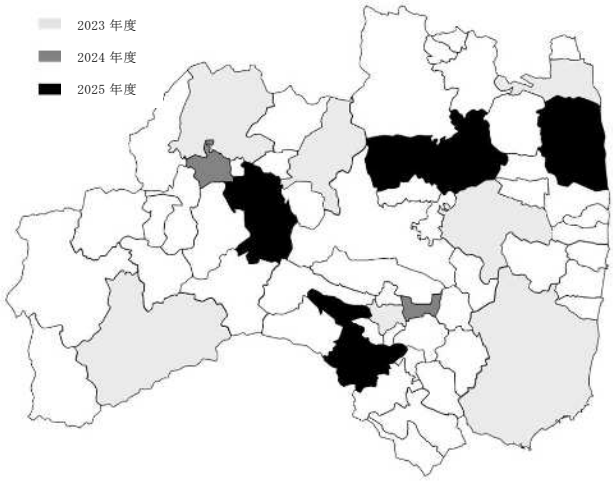


図１　トマトキバガの発生確認地域
※フェロモントラップによる誘殺及びほ場での被害を含む。

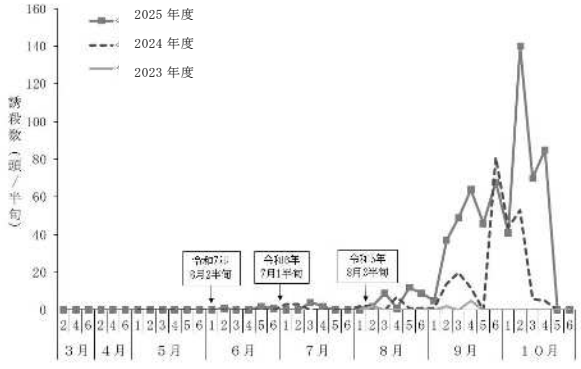


図２　フェロモントラップによる誘殺数
（猪苗代町）
※時期は各年の初誘殺時期を示す

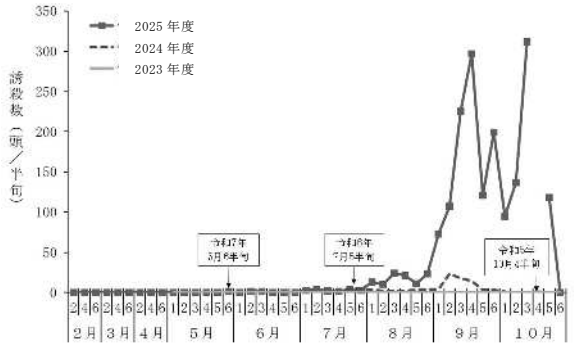
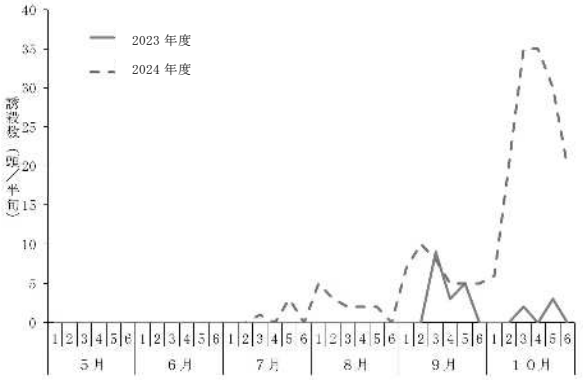
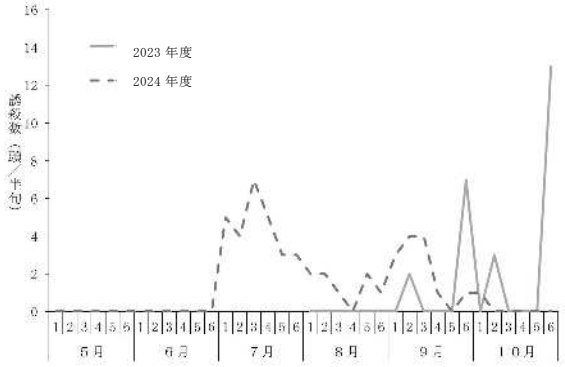


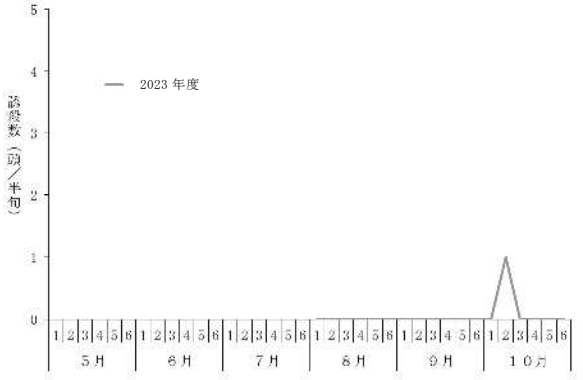
図３　フェロモントラップによる誘殺数
（南会津町）
※時期は各年の初誘殺時期を示す
※2025 年 10 月５半旬はデータ欠損



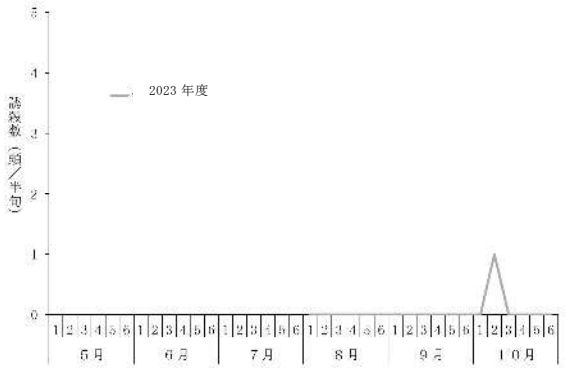
（参考1）フェロモントラップによる誘殺数
（田村市）



（参考2）フェロモントラップによる誘殺数
（喜多方市）



（参考3）フェロモントラップによる誘殺数
（矢吹町）



（参考4）フェロモントラップによる誘殺数
（相馬市）

4．結果の要約

トマトキバガのほ場での被害状況及びフェロモントラップによる誘殺状況を調査した結果、本年度は2023年度、2024年度と比較し、発生時期の早まり、発生量の増加が確認された。また、発生地域は、初確認された2023年度から、年々拡大しており、本年度には県内全方部での発生が確認され、本県での被害の増加が確認された。

－－
課 題 番 号：（７）
実施課題名：福島県の夏秋露地きゅうりのウイルス優占種調査
－－

１．目的

県内の夏秋露地きゅうりでは、主にアブラムシ類が媒介するウイルス病が発生し、葉のモザイク症状や急性萎凋症状により、収量低下の要因となっている。

ウイルス病対策のため、3 種混合ワクチン苗（CMV、WMV、ZYMV）等の導入が進んでいるが、本県で発生している主なウイルスの種類については明確になっていない。

そのため、県内の露地きゅうりのほ場において、特にウイルス病の症状が甚だしいほ場からサンプルを採取し、本県におけるきゅうりのウイルスの優占種を調査し、ワクチン苗の導入を検討するための参考データとする。

２．方法

(1)試験場所

県内夏秋露地きゅうりほ場 12 ほ場

（地域）	（ほ場数）
伊達	2
安達	2
須賀川	3
県南	2
会津坂下	1
喜多方	2

(2)対象ウイルス及び使用プライマー

対象ウイルス	プライマー名	増幅サイズ
CMV	CM4F CM4R	539bp
ZYMV	ZY4F ZY4R	410bp
PRSV	PRSV-F PR-1360R	330bp
WMV	WM4F WM4R	283bp
MYSV	MY4F MY4R	888bp
BPYV	Cu4F Cu4R	1144bp
KGMMV	KG-4801F KG-5263R	463bp

(2)耕種概要

ア　栽培期間：5 月下旬～10 月下旬頃

イ　調査期間：9 月下旬～10 月下旬頃

(3)調査項目及び方法

ア　サンプルの採取及び調整；

露地きゅうりほ場のうち、2025 年度にウイルス病と思われるモザイク症状や黄斑症状が著しく発生したほ場から 2 株ずつ採取し、ディープフリーザー（-80℃）で保管した。調整は、10mM Tris-HCl を用いて、サンプル葉を 100

倍希釈としてすりつぶし、粗汁液をテンプレートとして使用した。

イ　7種類のウイルスの検出；

TAKARA社のOneStepRT-PCR Kit Ver.2を用いて、PCRを実施した。PCR終了後は、アガロースゲル1.5%（Sigma-aldrich社製、A6877）を使用し、電気泳動を行った後、エチジウムブロマイドにより染色し、紫外線照射下でDNA増幅を観察した。

ウ　各ほ場における聞き取り調査；

各農林事務所担当者より、各ほ場における栽培期間のウイルス病及び媒介虫の発生状況を聞き取った。

エ　露地きゅうりモザイク病の解析；

約20か年分の過去の予察調査データから解析したモザイク病やウイルス媒介昆虫の発生状況の関連を解析した。

オ　過去の診断依頼のまとめ；

過去の診断依頼データから、近年増加傾向にある種類のウイルスについて、傾向を解析した。

３．結果の概要

(1)県内12ほ場から採取したサンプルについてPCRを実施した結果、 全てのほ場からCMV及びWMVが検出された（検出率100%）。次にZYMVが多く、調査ほ場の66.7%から検出され、BPMVは須賀川市岩淵1ほ場のみで検出された。PRSV、KGMMV、MYSVについてはいずれのほ場でも検出されなかった（表1）。

(2)各農林事務所からの聞き取り調査の結果、ワクチン苗導入ほ場では、急性萎凋症状及びモザイク症状は軽減されたとの意見が挙げられた。

（具体的データ）

表1　きゅうりのウイルス検出結果と栽培期間中の発生様相

採取場所	品種	ワクチン			ウイルスの検出							ウイルス病発生様相・発生時期			
	（穂木）	CMV	WMV	ZYMV	CMV	WMV	ZYMV	BPYV	PRSV	KGMMV	MYSV	葉（モザイク症状）	株（萎れ）	果実（斑点）	左記の症状発生時期
伊達市梁川町	なついろ				＋	＋	＋	－	－	－	－	多	多	多	7／29に現地確認した際、萎れ症状が30株程度確認、ウイルス症状あり。
二本松市油井	なついろ				＋	＋	－	－	－	－	－				
二本松市小浜	夏もよう				＋	＋	－	－	－	－	－	少	無	少	9月中旬から症状目立ってきた。苗の時点で葉に症状が見られる株があった。葉は、生長点付近の新葉の葉脈が透過（黄化）し、症状が出た葉脈付近の葉がまだら状に退緑・黄化。果実は、葉に症状が発生した株と同一株に、くぼみ状の奇形。萎凋・枯死は見られず後半まで生育している。ほ場に点在して発生し、症状の出た株の隣接株への拡大は見られない（汁液伝染力が弱い？）。
須賀川市吉美根	蒼夏142				＋	＋	＋	－	－	－	－	中	多	多	8/中からモザイク症状発生、９月には全体的に広がり果実への病斑も確認された。
須賀川市岩淵	なついろ				＋	＋	＋	＋	－	－	－	中	多	多	6/上からモザイク症状発生、7月には広がるとともに、萎凋症状も多く確認された。
会津美里町	なついろ				＋	＋	＋	－	－	－	－	多	多	多	7月上旬頃から症状が発生
喜多方市熊倉	夏映				＋	＋	－	－	－	－	－	多	少	少	7月上旬から症状が発生。
西会津町	なつめく			○	＋	＋	＋	－	－	－	－	多	少	多	8/下から症状が発生し、拡大した。
泉崎村踏瀬	Vサマー	○	○		＋	＋	＋	－	－	－	－	少（5%）	不明	多	7月頃からモザイク症状及び果実のまだら果が発生。感染は連続的ではなくスポット的に発生。 感染した株の生長点の葉は、全てモザイク症状を呈す。葉のモザイク症状は、初め葉脈に沿って色が抜け、次第に葉脈に関係なく葉全体がモザイクを呈す。
泉崎村大田川	なついろ	○	○		＋	＋	＋	－	－	－	－	少（5%）	不明	多	※　踏瀬ほ場と同じ
ウイルス検出率（%）					100	100	70.0	10.0	0	0	0				

※ 表中の＋:ウイルス検出、－:ウイルス未検出、ウイルス検出率は全10サンプル中の百分率とした。

※ ワクチン苗を使用しているサンプルについて、種類に○がついている。

※ 濃い網掛けは弱毒ウイルスによる検出の可能性を表す。

４．結果の要約

今回は、いずれのほ場からもCMV及びWMVが検出された。重複感染が多く、著しい萎凋症状等については当該ウイルス感染による可能性があると示唆された。CMV及びWMVの2種混合ワクチンについては、今後も検討する必要がある。

－－
課 題 番 号 ：（８）
実施課題名：資材消毒の有無によるトマト褐色輪紋病菌の胞子量及び発病の傾向
－－

１．目的

南会津地域は、夏秋トマトの産地であり、県内の夏秋作生産量の大きな割合を占めている。2024 年度は、断続的な降雨及び高温等の発病好適条件が続いた影響から、トマト褐色輪紋病が多く発生し、急激な病徴の進展による枯死から早期栽培終了となるほ場が散見された。

現在、トマト褐色輪紋病対策として資材消毒の実施が行われているが、その実態については明らかとなっていないため、アンケート調査を通じて、現状の把握を行う必要がある。

また、消毒後の資材に付着した胞子量や栽培期間中の発病程度の傾向は確認されていないため、調査を実施する。

２．方法

(1)試験場所

南会津町南郷地域のトマトハウス 7 ほ場

(2)耕種概要

ア　品種： 桃太郎みなみ

イ　定植： 5 月末～6 月上旬頃

(3)調査方法

ア　アンケート調査　南郷トマト部会員 100 名を対象に、トマト褐色輪紋病の発生状況や資材の消毒に関する内容を聞き取りした。

イ　現地調査

（ア）ほ場選定　アで聞き取った内容を基に、トマト褐色輪紋病の発生が多く確認された生産者の中で、資材消毒をした生産者、資材消毒をしていない生産者をそれぞれ 3 名程度選別し、ほ場の選定を行った。

（イ）栽培期間中　各生産者のハウス 2 棟から 25 株 100 葉を調査し、発病葉率、発病株率を算出した。

（ウ）栽培終了後　（イ）で調査したハウスの 6 か所（ハウスサイド、中央）からいぼ竹支柱、マルチにセロハンテープを張り付け、顕微鏡にて 10㎜×10㎜の範囲に付着した *Corynespora cassiicola* の胞子数を計測した。

３．結果の概要

(1)　生産者アンケートの結果、回収率は 21%（21 名/100 名）であった。うち、トマト褐色輪紋病がほ場で発生している割合は、85.7%（18 名/21 名）となった。発生していると回答した 10 名が 2024 年作から発生が見られるようになった。発生部位は主に葉の発生が殆どであるが、一部果実やがく片に発生したというほ場も確認された。褐色輪紋病を含めたかいよう病等の病害対策のため、ケミクロンＧによる支柱やハサミの消毒を実施する生産者が多いことが判明した（データ省略）。

(2)　栽培期間中の発生状況調査の結果、資材消毒未実施のほ場は資材消毒を実施したほ場に比べて、発病株率、発病葉率ともに高い傾向があった。

しかし、ほ場によってその程度にばらつきが大きく、資材消毒による病害の抑制効果については判然としなかった（表 3）。

(3)　栽培終了後の胞子採取調査の結果、ほ場によってばらつきが大きいため、栽培前の資材消毒の有無による胞子の資材付着の影響は不明であった。しかし、マルチは、い

ぼ竹支柱よりも胞子が多く残りやすい傾向があり、そのまま使用すると次作の伝染源となる可能性が高いと推察される（表 4）。

(4) 今回の調査ほ場の散布実績を比較した結果、発病株率が 30%以上となるほ場では、発病株率 30%未満のほ場と比べて、定植から 1 回目の予防散布までの日数が、空いている傾向が認められた（表 5）。

（具体的データ）

表 1　栽培期間中の発生状況調査

ほ場		6月9日		6月27日		7月8日		7月28日		8月8日		8月25日		9月10日		9月25日		10月9日		栽培期間平均	
	栽培前の資材消毒	発病葉率	発病株率	発病葉率	発病株率	発病葉率	発病株率	発病葉率	発病株率	発病葉率	発病株率	発病葉率	発病株率	発病葉率	発病株率	発病葉率	発病株率	発病葉率	発病株率	発病葉率	発病株率
南会津町鴇巣①	未	0	0	12	40	3	12	4	14	2.5	10	10	32	24	60	74.5	100	62	90	21.3	39.8
南会津町鴇巣②	未	0	0	0	0	0	0	2.5	10	4.5	18	19	48	24.5	66	56.5	96	74	100	20.1	37.6
南会津町大新田①	未	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	5.5	20	21	48	43.5	84	60	94	16.3	30.8
南会津町鴇巣③	実施	0	0	0	0	0	0	2.5	10	1	4	2	8	5	20	5.5	14	12	36	3.1	10.2
南会津町大新田②	実施	0	0	0	0	0	0	0	0	0.5	2	0	0	3.5	12	53.5	96	51.5	92	12.1	22.4
南会津町大新田③	実施	0	0	0	0	1.5	6	1.5	6	3	8	2	8	17.5	42	47	82	56.5	96	14.3	27.6
南会津町大新田④	実施	-	-	10	28	11	28	2	8	1	4	22	68	31	68	77	100	83	100	29.6	50.5

表 2　胞子の採取調査結果（個、n=3）

資材消毒の有無	ほ場（ハウス）	いぼ竹支柱		マルチ	
		サイド	中央	サイド	中央
無	南会津町大新田④	0.7	3.3	7.0	29.0
	南会津町大新田③-1	0.0	0.0	0.0	0.0
	南会津町大新田③-2	0.0	0.0	2.7	2.7
	南会津町大新田②-1	0.0	0.0	4.0	0.0
	南会津町大新田②-2	0.0	0.0	0.3	0.0
	南会津町鴇巣③-1		0.3		1.3
	南会津町鴇巣③-2		0.0		0.7
	平均	0.1	0.5	2.8	4.8
有	南会津町鴇巣①-1	0.7	1.0	9.3	16.0
	南会津町鴇巣①-2	2.0	1.0	3.7	12.3
	南会津町大新田①-1	0.7	2.0	4.0	1.0
	南会津町大新田①-2	0.3	0.3	1.3	3.3
	南会津町鴇巣②-1	0.0	1.3	64.7	18.7
	南会津町鴇巣②-2	1.0	1.0	67.7	16.3
	平均	0.8	1.1	25.1	11.3

※　表中の数字は胞子数（個）を表す。　※南会津町鴇巣③については、栽培様式が他のほ場と異なるため、ハウスサイドの値を欠測とした。

表 3　各生産者の薬剤散布実績

生産者	資材消毒	発病葉率	発病株率	初発生確認日	トマト褐色輪紋病もしくはきゅうり褐斑病に登録のある殺菌剤の散布回数（回）	平均散布間隔（日数）	定植から1回目の散布（日数）	トマト褐色輪紋病に効果のある殺菌剤の定植後初回散布日
A		21.3	39.8	6月27日	7	16.1	36	6月30日
B	なし	20.1	37.6	7月28日	9	13.9	34	6月25日
C		16.3	30.8	8月25日	2	46	68	8月17日
D	あり	29.6	50.5	6月27日	8	14.3	22	6月25日
	平均	21.8	39.6	7月19日	6.5	23	40	7月9日
E		3.1	10.2	7月28日	8	13.9	21	6月10日
F	あり	12.1	22.4	8月8日	10	10.8	18	6月22日
G		14.3	27.6	7月28日	5	21.6	13	6月11日
	平均	9.9	20.1	7月31日	7.7	15	17	6月14日

※ 生産者Dについては、1ハウスのみのデータ、部分的に資材消毒済

【参考】

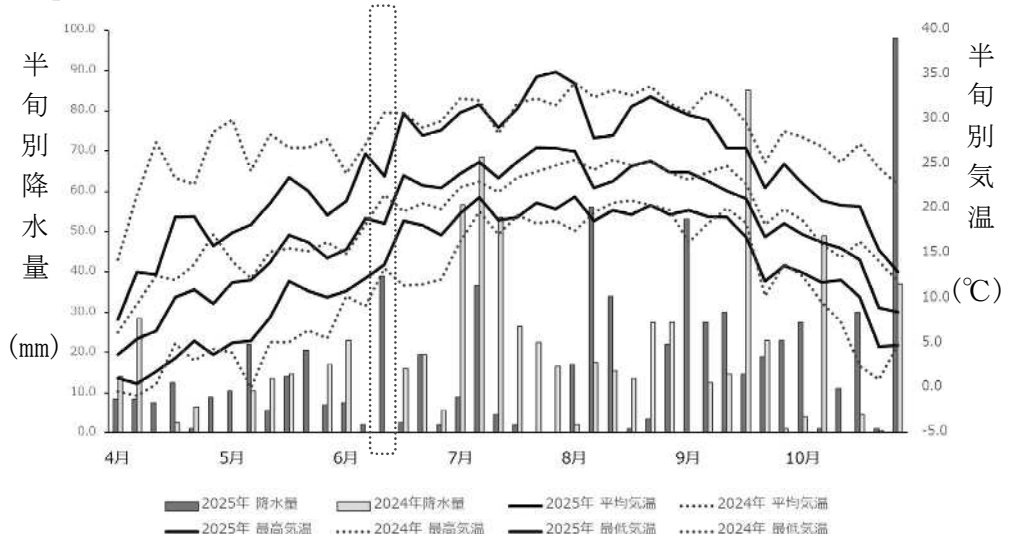


図１　南郷地域の気象経過（半旬別降水量と半旬別気温）

４．結果の要約

今回、栽培開始前に資材消毒を実施したほ場と未消毒のほ場において、栽培期間中のトマト褐色輪紋病の発病状況を確認したが、消毒を実施しているほ場がやや発病葉率、株率ともに低く推移する傾向があった。

また、今年度は、発病好適条件の日平均気温 20℃以上、高湿度条件が定植直後に当たっており、6 月 15 日前後にトマト褐色輪紋病対策の予防散布をしていたほ場では、栽培期間を通して発病葉率、株率がやや低くなる傾向を確認した。

以上のことから、資材消毒による病害抑制効果は判然としなかった。資材消毒による糸状菌胞子の発芽抑制効果等について、今後も検討が必要である。

－－
課 題 番 号 ：（９）
実施課題名：ハスモンヨトウの発生状況の解析
－－

１．目的

本県におけるハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数は、近年増加の傾向が見られている。また、これまで誘殺数が少なかった 5、6 月及び 10 月にも、平年値と比べ誘殺数が多く確認されている。そのため、過去 20 年近くのフェロモントラップデータと巡回調査結果から、本県のハスモンヨトウの発生状況を解析し、発生予察情報の検討材料に資する。

２．方法

(1)調査方法

5～10 月に性フェロモントラップをほ場付近の野外へ設置し、誘殺される成虫数を半旬ごとに計測した。

(2)耕種概要

ア　調査期間：2006～2025 年

イ　調査地点

調査地点	調査品目	調査時期（月）	備考
伊達市	キク	５～10月	
須賀川市	キュウリ	５～10月	2008年から調査開始
鏡石町、泉崎村、中島村	キュウリ	５～10月	2006～2015年:鏡石町 2016年:泉崎村 2017～:中島村
棚倉町	イチゴ	５～10月	
会津若松市	イチゴ	５～10月	
相馬市	イチゴ	５～10月	
いわき市	イチゴ	５～10月	

(3)調査項目

ア　誘殺消長

イ　年次間変動と発生世代数

日本植物防疫協会が運営する「JPP-NET」の有効積算温度シミュレーションにより、フェロモントラップ調査地点に近い６地点（梁川、郡山、白河、若松、相馬、小名浜）のアメダスデータを用いてハスモンヨトウの発生世代数の計算を行った。

ウ　イチゴほ場での被害状況

３．結果の概要

（１）誘殺消長

フェロモントラップ調査の結果、年次間で発生量に違いはあるものの、いずれの年も８月以降に誘殺数が増加した（図 1）。また、2006 年～2025 年のフェロモントラップデータの平均値についても、同様に８月以降に増加している傾向が見られた。

（２）年次間変動と発生世代数

各調査年の誘殺数を比較すると、2023 年に誘殺数が大幅に増加し、以降 2 か年も誘殺数は高い数値で推移した（図 2）。また、注意報は 2020 年、2023～2025 年に発表された。

有効積算温度シミュレーションによる計算の結果、2023 年以前は年間 2～3 世代の発生であったが、2023 年以降は県内複数地点（梁川、相馬、小名浜）で年間 4 世代の発生が算出された（表 1）。2023 年以降のフェロモントラップによる誘殺数の大幅な増加には、高温による発生世代数の増加が関係していると考えられる。

（3）イチゴほ場での被害状況

2006～2025 年の 10 月～翌年 5 月にイチゴ栽培ほ場で、ハスモンヨトウによる被害株率、幼虫の寄生株率を調査した。調査の結果、本種による被害は 10～12 月に確認されていたが、2023～2025 年には 1 月以降も被害の発生が確認された。また、誘殺数量が過去 20 年間で最多であった 2024 年は、ほ場での被害が 3 月まで確認された（図 3）。本種の幼虫の寄生は、2020 年、2023～2025 年には 1 月にも確認された（図 4 データ省略）。

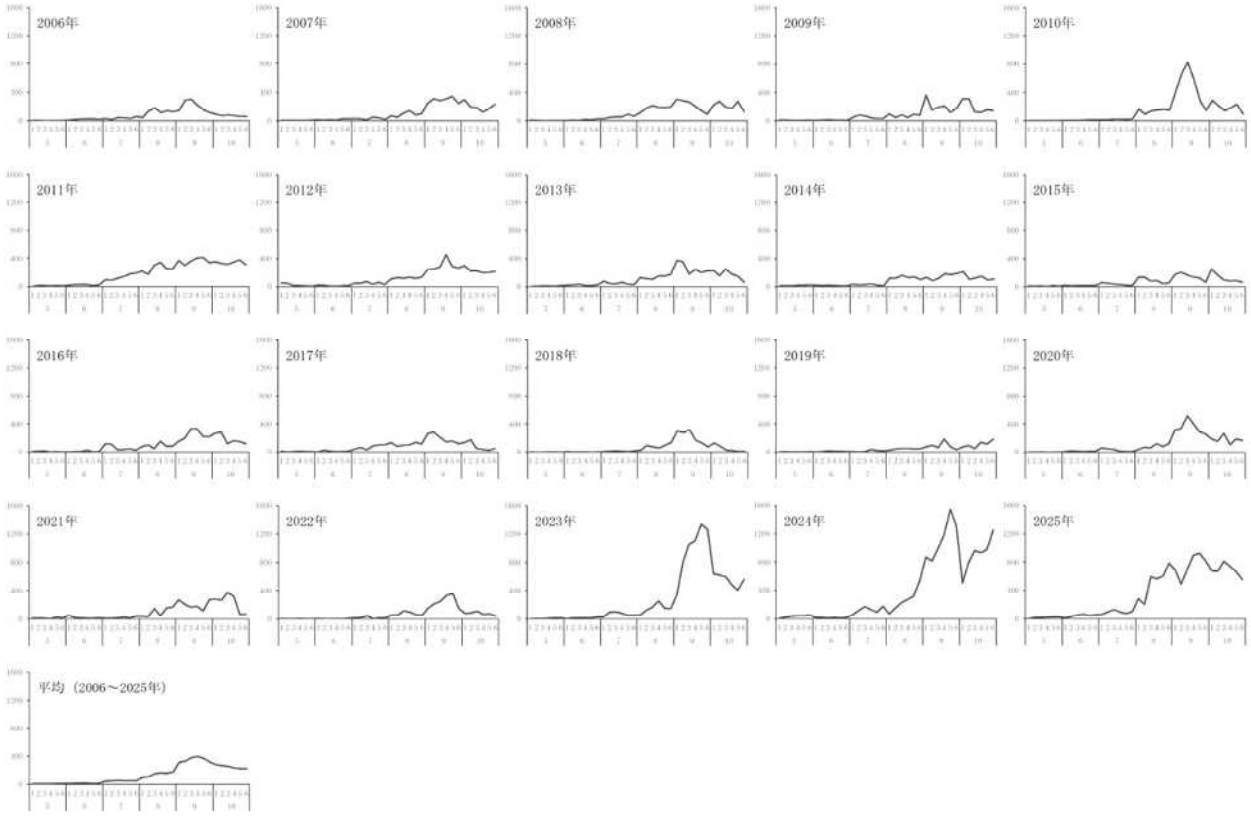


図 1　フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺消長
（福島県内 7 地点の合計、2006～2025 年）
※縦軸は半旬毎の誘殺数を示す

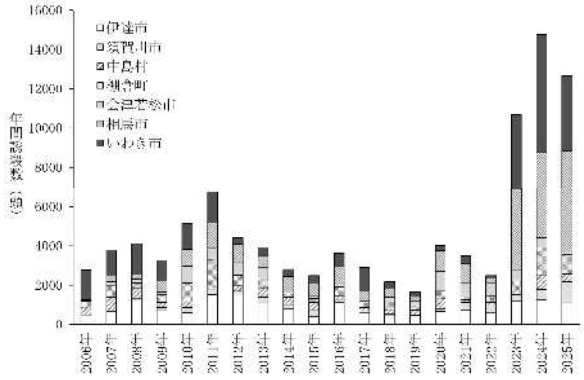


図２ ハスモンヨトウの誘殺数の年次間変動

表１　有効積算温度シミュレーションによる発生世代数の変化

	2021年			2022年			2023年			2024年			2025年		
	梁川	相馬	小名浜	梁川	相馬	小名浜	梁川	相馬	小名浜	梁川	相馬	小名浜	梁川	相馬	小名浜
第1世代	7月9日	7月3日	6月30日	7月26日	7月5日	7月2日	7月3日	7月3日	6月29日	6月25日	7月3日	6月27日	6月25日	6月30日	6月30日
第2世代	8月10日	8月9日	8月6日	8月29日	8月11日	8月8日	8月4日	8月4日	8月2日	7月29日	8月5日	7月31日	7月26日	8月2日	8月4日
第3世代	9月24日	9月23日	9月15日	10月22日	9月20日	9月14日	9月2日	9月3日	9月2日	8月27日	9月7日	8月31日	8月26日	9月3日	9月5日
第4世代							10月19日	10月24日	10月11日	10月5日	11月2日	10月8日	10月5日	10月27日	10月19日

※起算日は各年の初誘殺日とした。

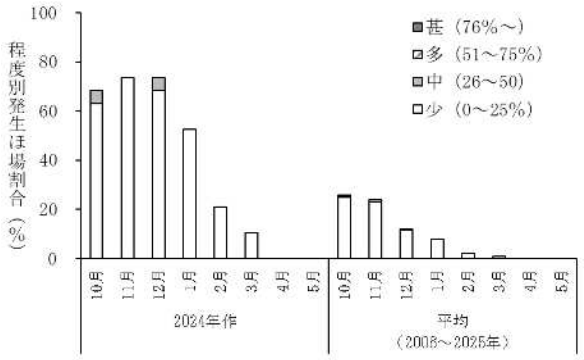


図３ ハスモンヨトウの発生状況（被害株率）

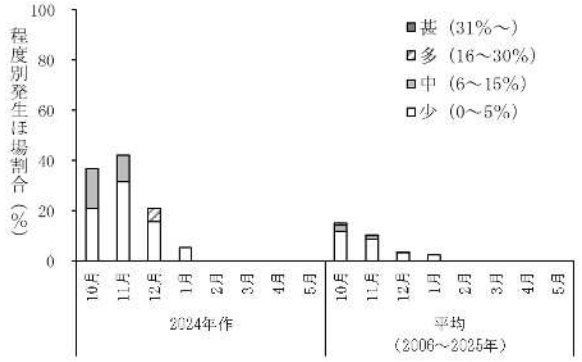


図４　ハスモンヨトウの発生状況（寄生株率）

４．結果の要約

フェロモントラップデータから、2023 年以降、本県におけるハスモンヨトウの誘殺数が大幅に増加していることが分かった。また、ほ場での被害も 2023～2025 年にかけて発生時期が長期化しており、合計誘殺頭数が過去最多であった 2024 年には被害が 3 月まで確認された。

また、有効積算温度による発生世代数のシミュレーションでは、2023 年以降に県内複数地点で発生世代数が増えており、近年の誘殺数の増加は、高温による世代数の増加が関係していると考えられた。

2　成果の公表

（1）　研究会等発表

氏　　名	題　　名	研究会名等	発表年月
藤田剛輝	福島県のリンゴ園におけるナシマルカイガラムシの発生状況とフェロモントラップを用いた発生消長の把握	第 29 回農林害虫防除研究会東京大会	2025 年 9 月
藤田剛輝	福島県における気候変動による果樹カイガラムシ類およびカメムシ類の発生の影響	令和 7 年度落葉果樹研究会	2026 年 1 月
藤田剛輝	福島県における 2024 年および 2025 年のツヤアオカメムシの発生の特徴	第 79 回北日本病害虫研究発表会（ポスター発表）	2026 年 2 月
藤田剛輝・鈴木友也	福島県のモモに寄生するクワシロカイガラムシ属の優占種と有効積算温度に基づくウメシロカイガラムシのふ化幼虫発生期の推定	関東東山病害虫研究会　第 18 回研究発表会	2026 年 2 月
藤田剛輝	福島県におけるナシマルカイガラムシの有効積算温度に基づく発生回数および発生時期の推定	日本農業気象学会 2026 年全国大会（ポスター発表）	2026 年 3 月

（2）　研究会誌等投稿

著　　者	題　　名	発表誌名等	発表年月
藤田剛輝	ナシ黒星病の「幸水」果実感染に対する QoI 剤の防除効果と梅雨期の強化防除体系の検証	北日本病害虫研究会報	2025 年 12 月

2026 年 11 月発行

発行者　福島県病害虫防除所

〒963-0531
福島県郡山市日和田町高倉字下中道 116 番地
（福島県農業総合センター安全農業推進部）

電　話　　024-958-1707～1709
ＦＡＸ　　024-958-1727
e-mail　　boujyo@pref.fukushima.lg.jp
　　yosatsu@pref.fukushima.lg.jp
　　nougyou.anzen@pref.fukushima.lg.jp
ホームページ　https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/